

岐阜県文化財保護センター

調査報告書 第138集

番 場 遺 跡

2016

岐阜県文化財保護センター

番 ^{ばん} 場 ^ば 遺 ^い 跡 ^{じき}

2016

岐阜県文化財保護センター



B地点 (AG9 ~ AG13 グリッド) 近景 (南西から)



出土遺物集合写真



線刻が描かれた木製品（246）



線刻（246）

序

本巣市は市域北部の山岳地帯から複数の河川が南流し、南部の肥沃な耕地へ清らかな水が流れ込み、古来より様々な自然・文化・産業の営みのある町です。

このたび、岐阜県県土整備部岐阜土木事務所による公共社会資本整備総合交付金事業に伴い、本巣市南部に所在する番場遺跡の発掘調査を実施しました。発掘調査では、縄文時代晚期から江戸時代までの遺構を検出し、土器や石器、木製品など多数の遺物が出土しました。特に古墳時代前期の遺構として、竪穴建物や掘立柱建物、柵、方形周溝墓、溝状遺構などを検出し、推定幅約6.0mの溝状遺構からは底部に穿孔のあるS字状口縁台付甕や、線刻が描かれた木製品などが出土しました。今回の発掘区から東北東に約300m離れた場所には、全長63mの前方後円墳である宗慶大塚古墳（県史跡）が位置します。今回検出した遺構と宗慶大塚古墳は同一の微高地の縁辺部にあり、古墳時代前期を始めとして、縄文時代晚期から江戸時代にかけ、この付近一帯に人々の営みがあったことがわかりました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、御理解と御協力をいただきました、関係諸機関並びに関係者各位、本巣市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成28年12月

岐阜県文化財保護センター

所長 羽田 能崇

例　言

- 1 本書は、岐阜県本巣市軽海に所在する番場遺跡（岐阜県遺跡番号 21218-11269）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、公共社会資本整備総合交付金事業に伴うもので、岐阜県県土整備部岐阜土木事務所から岐阜県教育委員会が依頼を受けた。発掘作業及び整理等作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3 八賀晋三重大学名誉教授の指導のもとに、発掘作業は平成 26 年度に、整理等作業は平成 27 年度に実施した。
- 4 発掘作業及び整理等作業の担当は、本書第 1 章第 2 節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆・編集は小野木学が行った。
- 6 発掘作業における現場管理、掘削、測量、景観写真撮影などの支援業務と、出土遺物の洗浄・注記作業、整理等作業における作業管理、出土遺物の整理作業、挿図・写真図版作成などの支援業務は、株式会社ユニオンに委託して行った。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 8 花粉、プラント・オパール、土塊付着融着物の各分析は株式会社パレオ・ラボ、樹種同定分析は株式会社文化財サービスに委託して行い、その結果は第 4 章に掲載した。
- 9 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・五十音順）
赤塚次郎、石黒立人、恩田知美、佐々木由香、鈴木元、高木宏和、樋上昇、堀木真美子、宮腰健司、山田真靖、渡邊博人、本巣市教育委員会
- 10 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第VII系を使用する。
- 11 土層及び土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2007『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 12 調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目 次

卷頭図版

序

例言

目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	3
第2章 遺跡の環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	10
第3章 調査の成果	14
第1節 基本層序	14
第2節 遺構・遺物の概要	16
第3節 弥生時代以前の遺構・遺物	20
第4節 古墳時代の遺構・遺物	26
第5節 古代以降の遺構・遺物	93
第6節 遺物包含層出土遺物	99
遺構一覧表	101
遺物観察表	107
発掘区全域図分割図	122
第4章 自然科学分析	133
第1節 分析の概要	133
第2節 花粉分析とプラント・オバール分析	135
第3節 樹種同定	142
第4節 土塊付着融着物の成分分析	150
第5章 総括	152
第1節 古墳時代前期の様相	152
第2節 土地利用の変遷	159
引用・参考文献	163
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

図 1 遺跡位置図	1	図 43 SK106 遺物実測図	42
図 2 試掘・確認調査坑、本発掘調査範囲位置図	2	図 44 SL1 遺構図	43
図 3 グリッド設定図	3	図 45 SK2 遺構図	44
図 4 発掘区周辺地形図（昭和 40 年）	7	図 46 SK2 遺物実測図	44
図 5 発掘区周辺地形図（平成 18 年）	7	図 47 SK100 遺構図	45
図 6 発掘区周辺の小字名	8	図 48 SK100 遺物実測図	45
図 7 遺跡周辺の地形分類図	8	図 49 SK103 遺構図	45
図 8 発掘区周辺等高線図	9	図 50 SK103 遺物実測図	46
図 9 番場遺跡内における 過去の調査地点と今回の発掘区	11	図 51 SK104 遺構図	46
図 10 周辺遺跡位置図	13	図 52 SK104 遺物実測図	46
図 11 基本層序模式図	15	図 53 SK185 遺構図	47
図 12 木製品実測図の凡例	19	図 54 SK185 遺物実測図	47
図 13 弥生時代以前の主な遺構位置図	20	図 55 SK237 遺構図	48
図 14 SK159 遺構図	20	図 56 SK237 遺物実測図	48
図 15 SK159 遺物実測図	21	図 57 SP4 遺構図	48
図 16 SK241 遺構図	21	図 58 SP4 遺物実測図	48
図 17 SK241 遺物実測図	21	図 59 SD2 遺構図	49
図 18 SD4 遺構図	22	図 60 SD2 遺物実測図	49
図 19 SD4 遺物実測図	22	図 61 SD3 遺構図	51
図 20 SD6 遺構図	23	図 62 SD3 遺物実測図	52
図 21 SD6 遺物実測図	23	図 63 SD10~12 遺構図	53
図 22 NR1 遺構図	24	図 64 SD10・12 遺物実測図	54
図 23 NR1 遺物実測図	25	図 65 SD15 遺構図	54
図 24 古墳時代の主な遺構位置図	26	図 66 SD17 遺構図 (1)	56
図 25 SII 遺構図	27	図 67 SD17 遺構図 (2)	57
図 26 SII 遺物実測図	27	図 68 SD17 遺構図 (3)	58
図 27 SII 遺構図 (1)	28	図 69 SD17 遺構図 (4)	59
図 28 SII 遺構図 (2)	29	図 70 SD17 遺構図 (5)	60
図 29 SB1・2 遺構図 (1)	30	図 71 SD17 遺構図 (6)	61
図 30 SB1・2 遺構図 (2)	31	図 72 SD17 遺構図 (7)	63
図 31 SB1・2 遺物実測図	31	図 73 SD17 (1~3 層) 遺物実測図	64
図 32 SB3 遺物実測図	32	図 74 SD17 (4~15 層) 遺物実測図 (1)	65
図 33 SB3 遺構図 (1)	33	図 75 SD17 (4~15 層) 遺物実測図 (2)	67
図 34 SB3 遺構図 (2)	34	図 76 SD17 (4~15 層) 遺物実測図 (3)	69
図 35 SA2 遺構図	35	図 77 SD17 (4~15 層) 遺物実測図 (4)	70
図 36 SA2 遺物実測図	35	図 78 SD17 (4~15 層) 遺物実測図 (5)	71
図 37 柱穴・土坑群実測図	36	図 79 SD17 (4~15 層) 遺物実測図 (6)	73
図 38 SP21 遺物実測図	37	図 80 SD17 (16~30 層) 遺物実測図 (1)	74
図 39 SZ1 遺構図 (1)	38	図 81 SD17 (16~30 層) 遺物実測図 (2)	75
図 40 SZ1 遺構図 (2)	39	図 82 SD17 (16~30 層) 遺物実測図 (3)	77
図 41 SZ1 遺物実測図	40	図 83 線刻の詳細	78
図 42 SK106 遺構図	41	図 84 SD17 (16~30 層) 遺物実測図 (4)	79
		図 85 SD17 (16~30 层) 遺物実測図 (5)	80

図 86 SD17 (16~30層) 遺物実測図 (6)	81
図 87 SD17 (16~30層) 遺物実測図 (7)	83
図 88 SD17 (16~30層) 遺物実測図 (8)	84
図 89 SD19 遺構図	84
図 90 SD20 遺構図	85
図 91 SD21 遺構図	86
図 92 SD21 遺物実測図	86
図 93 SD22 遺物実測図	86
図 94 SD22・23 遺構図	87
図 95 SD25~27 遺構図	88
図 96 SD25 遺物実測図	89
図 97 SD27 遺物実測図 (1)	90
図 98 SD27 遺物実測図 (2)	91
図 99 古代以降の主な遺構位置図	93
図 100 SAI 遺構図	94
図 101 SK98 遺構図	94
図 102 SK98 遺物実測図	94
図 103 土坑列 (1)	95
図 104 土坑列 (2)	96
図 105 SK122・149 遺物実測図	97
図 106 SD14 遺構図	97
図 107 SD14 遺物実測図	98
図 108 SD18 遺構図	98
図 109 SD18 遺物実測図	98
図 110 包含層遺物実測図 (1)	99
図 111 包含層遺物実測図 (2)	100
図 112 発掘区全域図 割付図	122
図 113 発掘区全域図 分割図 (1)	123
図 114 発掘区全域図 分割図 (2)	124
図 115 発掘区全域図 分割図 (3)	125
図 116 発掘区全域図 分割図 (4)	126
図 117 発掘区全域図 分割図 (5)	127
図 118 発掘区全域図 分割図 (6)	128
図 119 発掘区全域図 分割図 (7)	129
図 120 発掘区全域図 分割図 (8)	130
図 121 発掘区全域図 分割図 (9)	131
図 122 発掘区全域図 分割図 (10)	132
図 123 SD17 分析試料採取位置	138
図 124 花粉分布図	138
図 125 植物珪酸体分布図	138
図 126 木材組織図	142
図 127 土塊付着物の分析結果	151
図 128 よおよそ廻間II式~松河戸I式併行期における各遺跡の土器組成	153
図 129 底部穿孔S字型	154
図 130 北部九州型直柄鍬	156
図 131 各時期の主な遺構位置図	159
図 132 古墳時代前期の主な遺構の主軸方位	160
図 133 番場遺跡の弥生時代終末期から古墳時代前期の様相	161

表目次

表1 試掘・確認調査結果	2
表2 周辺遺跡一覧表	11
表3 檢出遺構一覧表	16
表4 出土遺物一覧表	17
表5 石器類一覧表	18
表6 木製品一覧表	19
表7 SD17出土上S字型層別点数	82
表8 壁穴建物一覧表	101
表9 壁穴建物付属遺構一覧表	101
表10 挖立柱建物一覧表	101
表11 挖立柱建物付属遺構一覧表	101
表12 樽一覧表	101
表13 櫛付属遺構一覧表	101
表14 墓一覧表	102
表15 焼土一覧表	102
表16 土坑一覧表 (1)	102
表17 土坑一覧表 (2)	103
表18 土坑一覧表 (3)	104
表19 土坑一覧表 (4)	105
表20 柱穴一覧表	105
表21 溝状遺構一覧表	106
表22 自然地盤一覧表	106
表23 土器類觀察表 (1)	107
表24 土器類觀察表 (2)	108
表25 土器類觀察表 (3)	109
表26 土器類觀察表 (4)	110
表27 土器類觀察表 (5)	111
表28 土器類觀察表 (6)	112
表29 土器類觀察表 (7)	113
表30 土器類觀察表 (8)	114
表31 土器類觀察表 (9)	115
表32 土器類觀察表 (10)	116
表33 土器類觀察表 (11)	117
表34 土器類觀察表 (12)	118

表 35 土器類観察表 (13)	119	表 46 融着物付着土塊観察表.....	121
表 36 打製石器観察表.....	120	表 47 分析試料一覧表.....	135
表 37 磨製石器観察表.....	120	表 48 産出花粉胞子一覧表.....	136
表 38 MF観察表.....	120	表 49 試料1 g当たりのプラント・オバール個数.....	137
表 39 呵石観察表.....	120	表 50 樹種同定結果一覧表.....	146
表 40 砥石観察表.....	120	表 51 XRF分析による半定量値.....	150
表 41 桂石製品観察表.....	120	表 52 EDS分析結果.....	150
表 42 勾玉観察表.....	120	表 53 SD17とそれ以外の遺構の古墳時代前期の土器組成.....	152
表 43 剥片観察表.....	120	表 54 底部穿孔S字甕一覧表.....	155
表 44 木製品観察表.....	121	表 55 クワ科の花粉点数.....	157
表 45 金属製品観察表.....	121		

挿入写真目次

写真1 発掘区周辺空中写真	9	写真8 産出した花粉化石 (2)	141
写真2 29 小穿孔	40	写真9 掲載遺物の顕微鏡写真 (1)	146
写真3 32 接合状況	43	写真10 掲載遺物の顕微鏡写真 (2)	147
写真4 35 台形打引き状況	43	写真11 掲載遺物の顕微鏡写真 (3)	148
写真5 SD17 出土貝殻・桃核	62	写真12 掲載遺物の顕微鏡写真 (4)	149
写真6 215 接合痕	76	写真13 発掘区と宗慶大塚古墳の位置関係	161
写真7 産出した花粉化石 (1)	140		

写真図版目次

巻頭図版

- 図版1 B地点 (AG9～AG13 グリッド) 近景
 図版2 出土遺物集合写真
 線刻が描かれた木製品 (246)
 線刻 (246)

- 図版11 古墳時代の遺構 (7)
 図版12 古墳時代の遺構 (8)
 図版13 古墳時代の遺構 (9)
 図版14 古墳時代の遺構 (10)
 図版15 古墳時代の遺構 (11)
 図版16 古代以降の遺構

巻末図版

- 図版1 発掘区近景 (1)
 図版2 発掘区近景 (2)
 図版3 発掘区近景 (3)、弥生時代以前の遺構 (1)
 図版4 弥生時代以前の遺構 (2)
 図版5 古墳時代の遺構 (1)
 図版6 古墳時代の遺構 (2)
 図版7 古墳時代の遺構 (3)
 図版8 古墳時代の遺構 (4)
 図版9 古墳時代の遺構 (5)
 図版10 古墳時代の遺構 (6)

- 図版17 出土遺物 (1)
 図版18 出土遺物 (2)
 図版19 出土遺物 (3)
 図版20 出土遺物 (4)
 図版21 出土遺物 (5)
 図版22 出土遺物 (6)
 図版23 出土遺物 (7)
 図版24 出土遺物 (8)
 図版25 出土遺物 (9)
 図版26 出土遺物 (10)

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

番場遺跡は南北約1,200m、東西約700mの範囲に広がる遺跡であり¹⁾、本巣市輕海、十四条、下真桑、宗慶地内に位置する（図1）。当遺跡の東端には、墳丘全長63mの前方後円墳である宗慶大塚古墳（県史跡）が所在し、同古墳から西南西約300mの地点に今回の発掘区が位置する。

今回の発掘調査は、平成26年度公共社会資本整備総合交付金事業（県道岐阜関ケ原線拡幅工事）に伴う調査である。県道岐阜関ケ原線は、岐阜市から不破郡関ケ原町までを結ぶ全長28.4432kmの道路である。近年、岐阜市と西濃地域を結ぶ幹線道路として重点的に整備が進められており、東海環状自動車道西回り区間への接続道路ともなるため、4車線化の工事が進んでいる。この事業に伴う番場遺跡の試掘・確認調査は、岐阜県県土整備部岐阜土木事務所（以下、「岐阜土木事務所」という。）からの依頼により平成25年度に岐阜県教育委員会が実施した。試掘調査坑は番場遺跡の範囲内及びそ

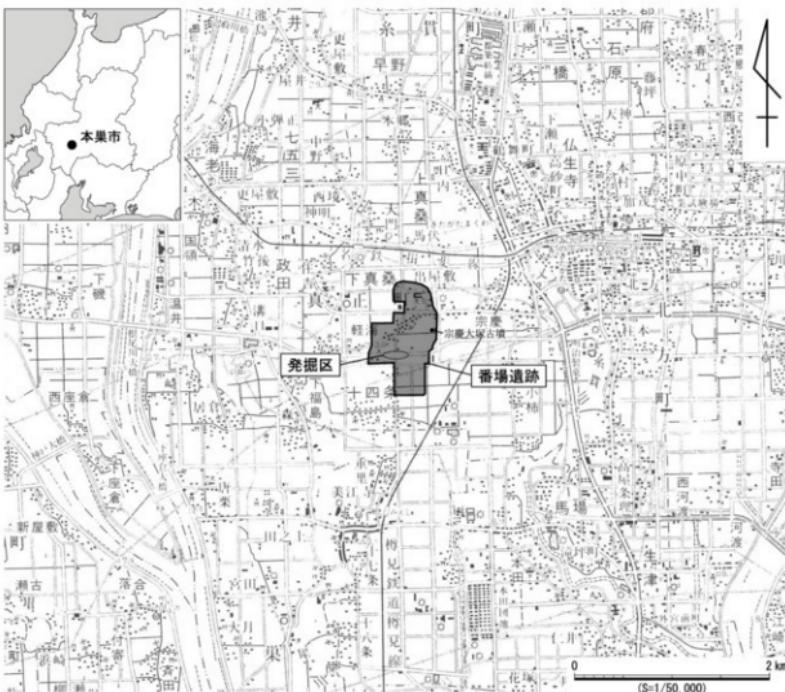


図1 遺跡位置図（平成8年国土地理院発行5万分の1地形図「大垣」）



第2節 調査の方法と経過

1 調査の方法

発掘作業は、平成26年度に1,679m²を実施した。発掘区は交差点を挟んで3箇所に分かれており、交差点北東側をA地点、同南西側をB地点、同南東側をC地点と呼称し、実施した。また、発掘作業期間内において、発掘区の一部が店舗出入口や農道として利用されていた。そして、それらの機能を継続しながら発掘作業を行ったため、B地点とC地点はそれぞれ3回に分けて遺構完掘後の発掘区の全景写真を撮影した。

発掘区には世界測地系座標をもとに100m×100mの大グリッドを設定し、西側をA、東側をBとした。そして、大グリッド内に5m×5mの小グリッドを設定し、北から南へA～I、西から東へ1～20とした(図3)。そのため、B地点北西端のグリッドはAF1、C地点南東端のグリッドはBG13となる。

表土掘削は重機を用いて、遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削はスコップ、草刈り鎌、移植ゴテなどを用いて人力で行った。遺構掘削は原則として半截して土層を確認し、必要な記録を作成した後に完掘したが、堅穴建物や大型土坑などは四分法を採用した。また、遺構基盤層と遺構埋土の識別が困難な場合は、必要最低限のサブトレーナーを設定し、両者の識別を明確にした上で遺構埋土を掘削した。なお、B地点とC地点の一部は発掘区壁面からの漏水が著しいため、発掘区周縁に排水溝を掘削して、排水ポンプを用いて排水を行いつつ作業を実施した。

遺物包含層掘削及び遺構検出時に出土した遺物は、原則として層位、グリッド単位で取り上げた。また、遺構出土遺物は半截前後で取り上げ方法を変えた。すなわち、半截前は検出面から約5cm下までをa、約5～10cm下をb、というように遺構内を概ね5cm単位の人工層位として取り上げ、半截後は分層した層位ごとに取り上げた。また、堅穴建物や溝などは、土層観察用畔部分を分層した層位で、それ以外を人工層位で取り上げた。なお、遺構の時期や性格を言及できる遺物は出土位置を測定し、1個体が潰れて出土した場合や複数個体がまとまって出土した場合は、出土状況図を作成してか

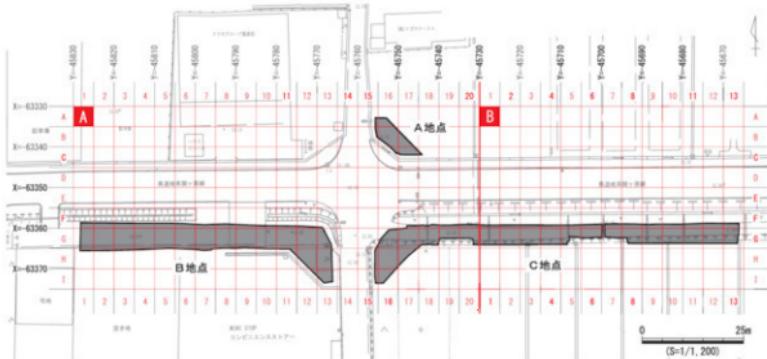


図3 グリッド設定図

4 第1章 調査の経過

ら出土位置を測定し、取り上げた。

遺構番号は、原則として検出順に通番を付し、「S001」というようにSと3桁の数字で表記した。この番号は二次整理作業時に遺構種別ごとに振り替えたが、今後の資料活用時に支障を来さぬよう、本書の遺構一覧表（表8～22）に「調査番号」として記載した。

遺構等の実測作業は、原則として平面図はデジタル測量にて、断面図は手測り測量にて、それぞれ実施した。図面の縮尺は20分の1を基本としつつ、実測対象に応じて適切な縮尺を選択した。

写真撮影は、35mmフィルムカメラ（リバーサルフィルム、モノクロフィルム）、6×4.5cm版フィルムカメラ（リバーサルフィルム、モノクロフィルム）、デジタルカメラを使用した。また、各地点の完掘後に全景撮影を実施した。

自然科学分析は、SD17埋土の花粉分析と出土木製品の樹種同定、SD27出土土塊付着融着物の成分分析を行った。花粉分析試料は発掘作業担当者が分層した層位を基準に現地で採取し、後に分析担当者が発掘区壁面で採取層位の確認を行った。出土木製品の樹種同定と土塊付着融着物の成分分析は、それぞれの実測図や写真撮影などの記録を作成した後に実施した。

2 調査の経過

発掘調査日誌から抜粋して、週ごとの調査経過を以下に記載する。

第1週（6/18～6/20） 重機によるB地点（AG1～AG5グリッド）の表土掘削開始（6/18）。作業員によるB地点（AG1～AG5グリッド）の遺物包含層掘削開始（6/20）。

第2週（6/23～6/27） SD3検出（6/23）。本巣市ボランティアガイド9名見学（6/26）。本巣市文化財審議委員7名見学（6/27）。

第3週（6/30～7/4） 重機によるC地点（AI15～AG18グリッド）の表土掘削開始（7/1）。SD3から勾玉出土（7/1）。

第4週（7/7～7/11） SD3底面にて棒状の木材が出土（7/11）。

第5週（7/14～7/18） B地点（AG1～AG5グリッド）の全景撮影実施（7/14）。作業員によるC地点（AI15～AG18グリッド）の遺物包含層掘削開始（7/14）。

第6週（7/22～7/25） C地点（AI15～AG18グリッド）の全景撮影実施（7/25）。重機によるB地点（AG5～AG9、AG12～AG13グリッド）の表土掘削開始（7/25）。

第7週（7/28～8/1） 作業員によるB地点（AG5～AG9、AG12～AG13グリッド）の遺物包含層掘削開始（7/28）。

第8週（8/4～8/8） 土貴野小学校他教諭14名現場研修実施（8/5）。

第9週（8/11～8/15） 夏期休業。

第10週（8/18～8/22） SD17から土師器壺片がまとめて出土（8/20）。

第11週（8/25～8/29） 重複する3条の溝（SD10～12）完掘（8/29）。

第12週（9/1～9/5） 八賀晋氏（三重大学名誉教授）²⁾現地指導（9/4）。

第13週（9/8～9/12） B地点（AG5～AG9グリッド）の全景撮影実施（9/11）。

第14週（9/16～9/19） 重機によるA地点の表土掘削開始（9/16）。作業員によるA地点の遺物包含層掘削開始（9/17）。重機によるB地点（AG9～AG12グリッド）の表土掘削開始（9/19）。

第15週（9/22～9/26） 作業員によるB地点（AG9～AG12グリッド）の遺物包含層掘削開始（9/22）。

第16週（9/29～10/3） SK106から凝灰岩製の砥石が出土（10/1）。

第17週（10/6～10/10） SI1-P2からS字状口縁台付甕1個体が潰れて出土（10/7）。

第18週（10/14～10/17） SD17からS字状口縁台付甕1個体が潰れて出土（10/15）。SD14からS字状口縁台付甕や壺片などがまとまって出土（10/17）。

第19週（10/20～10/24） 赤塚次郎氏（愛知県埋蔵文化財センター）現地指導（10/21）。高木宏和氏（美濃市教育委員会）現地指導（10/22）。SD17から編み物出土（10/23）。A地点の全景撮影実施（10/23）。

第20週（10/27～10/31） SD17から貝殻がまとまって出土（10/27）。B地点（AG9～AG13グリッド）の全景撮影実施（10/29）。

第21週（11/4～11/7） 重機によるC地点（BG7～BG13グリッド）の表土掘削開始（11/4）。作業員によるC地点（BG7～BG13グリッド）の遺物包含層掘削開始（11/5）。SD25から縄文土器片がまとまって出土（11/8）。

第22週（11/10～11/14） SD27から有孔磨製石鏃出土（11/10）。C地点（BG7～BG13グリッド）の全景撮影実施（11/11）。重機によるC地点（AG18～BG6グリッド）の表土掘削開始（11/14）。

第23週（11/17～11/21） 作業員によるC地点（AG18～BG6グリッド）の遺物包含層掘削開始（11/17）。SB3総柱建物検出（11/19）。

第24週（11/25～11/28） 八賀晋氏（三重大学名誉教授）現地指導（11/27）。C地点（AG18～BG6グリッド）の全景撮影実施（11/28）。掘削作業すべて終了（11/28）。

第25週（12/1～12/5） 発掘区埋戻し作業終了（12/5）。

出土遺物の洗浄や注記等の一次整理作業は平成26年度に、遺物実測や挿図作成等の整理等作業は平成27年度に、それぞれ当センター三田洞整理所にて実施した。整理等作業時には、平成27年4月27日に石黒立人氏（愛知県埋蔵文化財センター）に弧帯文が描かれた木製品に関する指導を、平成28年1月14日に石黒立人氏に弥生土器と石器に関する指導を、同年1月15日に赤塚次郎氏（NPO法人 古代灘波の里・文化遺産ネットワーク）に土師器に関する指導を受けた。なお、SD17埋土の花粉分析を平成26年度に、出土木製品の樹種同定及び保存処理、出土金属製品の保存処理、土塊付着物の成分分析を平成27年度に実施した。

3 調査体制

発掘調査及び整理等作業の体制は、以下のとおりである。

センター所長 宮田敏光（平成26・27年度）

総務課長 二宮 隆（平成26・27年度）

調査課長 成瀬正勝（平成26・27年度）

調査担当係長 春日井恒（平成26年度）、吉田 靖（平成27年度）

担当調査職員 小野木学（平成26・27年度）

注

1) 岐阜県教育委員会2007『改訂版 岐阜県遺跡地図』を参考とした。また、遺跡地図刊行後の改訂については、本巣市教育委員会に確認した。

2) 指導を受けた方の所属は、指導時の所属を記した。

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

当遺跡が所在する本巣市は濃尾平野の北部に位置し、条里地割が広く展開していた地域として著名である。当遺跡周辺も、昭和40年代に実施された圃場整備事業前までは条里地割が認められ（図4・8・写真1）、今回報告する発掘区は水田や果樹園として利用されていた（図4）。しかし、圃場整備後は道路と用排水路が整然と整備され、県道本庄・北方線沿いや宗慶大塚古墳周辺の宅地化が進んでいる（図5）。また、発掘区は旧「輕海村」に位置し、その小字名は、A地点が「下四ツ辻」、B地点が「道下」、C地点が「石井」である（図6）。発掘区の周辺において、B地点のように「道」名が付く小字は「石田大道下」、「石田中道下」、「輕海境道上」、「輕海境道下」、「巢道」がある。また、宗慶大塚古墳が所在する場所の小字名は「石田中道下」であるが、その南側が「大塚前」、その南西側に「胴塚」、「千束」、宗慶大塚古墳の北西側には「安塚」があり、「道」地名とともに「ツカ」地名が目立つ。

発掘区は、根尾川によって形成された標高12～13mの扇状地末端部に位置する。発掘区周辺の米軍撮影の空中写真（写真1）を見ると、発掘区周辺から宗慶大塚古墳、さらにその北側にむかって色調の薄い土地が広がっており、この一帯が扇状地と谷底平野・はん濫平野の境となる（図7）。この扇状地内には旧河道が網の目のように展開しており、扇端部から下流方向へは、自然堤防と後背湿地の卓越する地域へと漸移している。なお、発掘区から南約100mの地点では昭和40年代までガマと呼ばれる湧水が自然湧出していた。発掘区周辺の等高線は、扇状地末端の地形に沿うようにおよそ南西から北東方向に向かって延びている（図8）。また、発掘区東側約650mには戸泉川、西約250mには赤瀬川、西約700～900mには犀川と五六川が南流している。このうち、五六川と赤瀬川は犀川の支流であり、発掘区の南南西約550mで合流している。これらの川から耕地へ用水が延びているが、昭和40年測量図（図8）をみると、用水は基本的に犀川や五六川、赤瀬川から東流若しくは南流しており、西流するものは軽海西城周辺を除いてほとんどない。しかし、これらの用水は、図8の範囲内では戸泉川に流れ込むものが1条のみであり、その他の用水はすべて南流している。つまり、戸泉川以東の地域は戸泉川からの給水が主体であり、図8内における犀川から戸泉川までの一带は、図8左上にある犀川からの分流点（図8-A）からの給水が主な水源といえる。

なお、発掘区の西側を流れる赤瀬川は、次のような口頭伝承がある¹⁾。永禄4年（1561）、織田信長と斎藤龍興が軽海の地で激しく戦い、傷つき倒れる者が折り重なり、流れる血は真っ赤になって川をなした。それ故に赤血川と呼ばれ、それが訛って赤瀬川となった。この戦いは「軽海合戦」と呼称され、織田勢が西軽海に、斎藤勢が東軽海に陣を置いたとされている。軽海地内には、軽海西城と軽海東城があったとされている。軽海西城は五六川の東側に位置し（図8）、現在も土塁が遺存しているが、軽海東城は発掘区の北西側の字「砦前」付近とされており（図6）、詳細な位置は確定していない。しかし、圃場整備前には字「砦前」から「巢道」にかけて一辺約110mのL字状の高まりが認められ（図8-B）、それが赤瀬川を挟んで軽海西城の対岸に位置していることから、何らかの関連性が指摘できるかもしれない。



図4 発掘区周辺地形図（昭和40年）（国土地理院発行 1:2,500 國土地基図VII-MC18-2 網掛け範囲：発掘区）



図5 発掘区周辺地形図（平成18年）（本巣市役所管内図 1/2500 網掛け範囲：発掘区）



図6 発掘区周辺の小字名（国土地理院発行 1:2,500 國土基本図VII-MC18-2 網掛け範囲：発掘区）

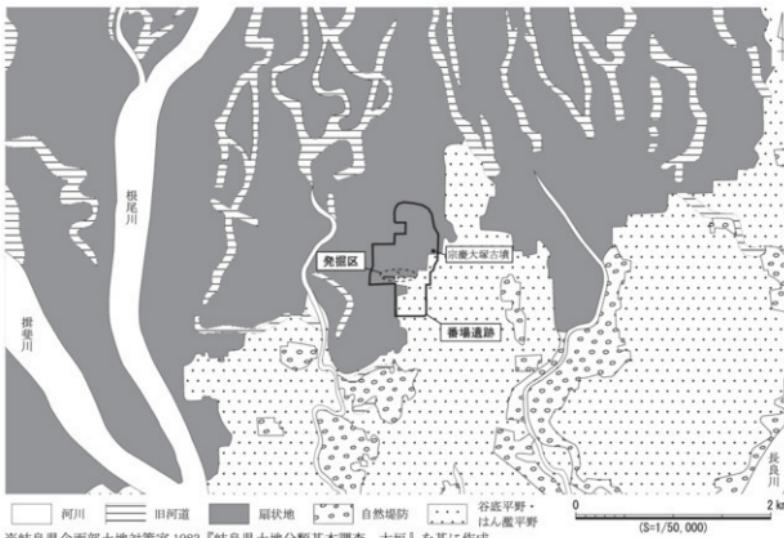


図7 遺跡周辺の地形分類図



写真1 発掘区周辺空中写真（昭和23年（1948）米軍撮影 縮尺約1/10,000 USA-R1186-146 破線内：発掘区）

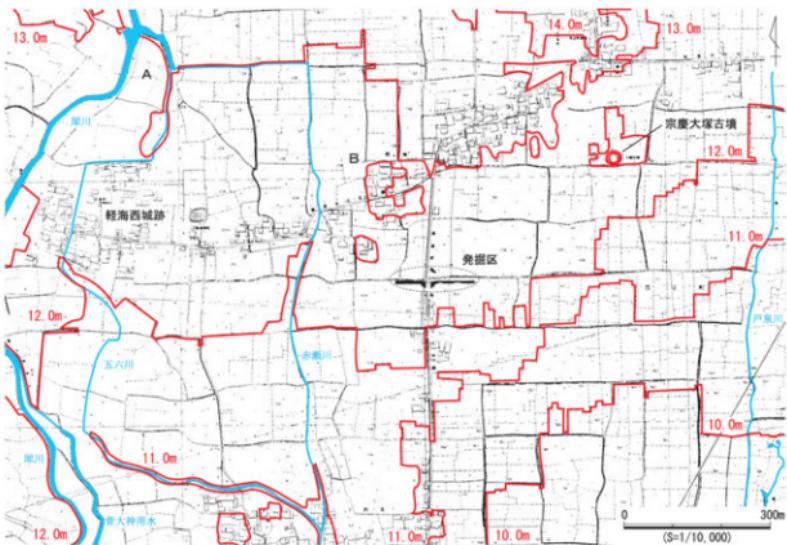


図8 発掘区周辺等高線図

（昭和40年測量図（国土地理院発行1:2,500 國土基本図N7-MC18-1, 18-2）の等高線と河川を再トレース）

第2節 歴史的環境

当遺跡周辺には数多くの遺跡が分布しており、その中には発掘調査によって遺跡の性格が明らかとなつたものもある。本節ではそれらの概要を時代順に記す²⁾が、本巣市教育委員会（以下、「市教委」という。）が平成19～23年度に実施した詳細遺跡分布調査では、当遺跡周辺において須恵器と灰釉陶器、中世陶磁器が多量に採集された遺跡が目立つことから、ここでは時期区分を「古代」、「中世」、「近世」と分けず、「古代以降」として取り扱う。なお、本文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、表2、図10と一致する。

旧石器時代 当遺跡周辺では確認されていない。

縄文時代 席田郡府遺跡（8）で縄文時代の石器が採集されているが、詳細は不明である。

弥生時代 席田郡府遺跡、高塚遺跡（9）、十四条土器田遺跡（23）で弥生土器が採集されているが、詳細は不明である。

古墳時代 番場遺跡（1）では、市教委や岐阜県教育委員会（以下、「県教委」という。）による試掘・確認調査等が実施されている（調査箇所の詳細については図9参照）。平成18年度には市教委が宗慶大塚古墳から北約150mの地点（図9-A）の試掘・確認調査と立会調査を行い、竪穴建物9軒や土坑6基などを検出し、遺構内から弥生時代終末期から古墳時代前期の土器や須恵器などが出土した。また、同年度に行われた宗慶大塚古墳から北西約50mの地点（図9-C）の立会調査では土坑内からバレス壺1個体分の体部片が出土し、同西約100mの地点（図9-D）の立会調査では、土坑内から弥生時代終末期から古墳時代前期の高杯3個体、長頸壺1個体、甕2個体が出土した。平成21年度には市教委が宗慶大塚古墳から北約50mの地点（図9-B）の本発掘調査を実施し、竪穴建物1軒や土坑を検出し、弥生時代終末期から古墳時代前期の土器や須恵器などが出土した。平成27年度には県教委が本報告の発掘区の南側（図9-E）の試掘・確認調査を実施し、溝などを検出し、古墳時代前期の土器や須恵器などが出土した。宗慶大塚古墳（2）は県指定史跡であり、昭和63年に真正町教育委員会により測量調査と範囲確認調査が行われた。墳丘全長63mの前方後円墳であり、周溝から弥生時代終末期から古墳時代前期の土器が出土した。八ツ又大正寺遺跡（21）では、平成21年に市教委が試掘・確認調査と立会調査を実施し、古墳時代前期の土器片を含む土坑や竪穴状遺構を検出した。

古代以降 席田郡府遺跡内には、『日本三代実録』中に仁和3年（887）に火災で国分寺・国分尼寺が焼失した際に、一時期国分尼寺の機能を移した寺院に比定される席田廃寺跡と、『続日本紀』中に和銅8年（715）に本巣郡から分かれて建郡され、新羅系の渡来人を入植させたとある席田郡府推定地がある。詳細遺跡分布調査では、多量の須恵器や中世陶磁器、古代瓦、中世瓦などが採集されている。高塚遺跡では、須恵器、灰釉陶器とともに山茶碗が多量に採集されている。また、高塚遺跡の南側には本巣市指定史跡である東山道跡（10）があり、高塚遺跡西側の旧糸貫川左岸の河川敷沿いに南仙道上、東仙道上、北仙道上などの「仙道」地名が残る。法嘆寺遺跡（11）では須恵器、灰釉陶器、山茶碗などが採集され、遺跡内には岐阜県重要文化財である「法嘆寺觀音堂」と「法嘆寺護摩堂」がある。教念寺遺跡（14）では、須恵器、灰釉陶器、山茶碗等の中世陶器が多量に採集され、市教委が平成20・21年度に実施した試掘・確認調査では幅約2mの溝を検出し、底面から近世陶器が出土した。

表2 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代
1	番場遺跡	散布地	弥生～近世
2	宗慶大塚古墳	古墳	古墳
3	八居城跡	城館跡	古代～中世
4	寺敷塚	その他の墓	古代～中世
5	花ノ木城遺跡	散布地	弥生～中世
6	三橋東郷古遺跡	散布地	古墳～古代
7	席田廃寺跡	社寺跡	古代
8	席田郡府遺跡	散布地	繩文～近世
9	高塚遺跡	散布地	弥生～近世
10	東山道跡	その他の遺跡	古代
11	法勝寺遺跡	散布地	弥生～近世
12	旦内薬師寺遺跡	散布地	古代～近世
13	旦内諸木前遺跡	散布地	弥生～近世
14	教念寺遺跡	散布地	繩文～近世
15	大門塚	その他の墓	中世
16	馬伏遺跡	散布地	弥生～近世
17	山伏塚	その他の墓	中世

番号	遺跡名	種別	時代
18	政田街道上遺跡	散布地	弥生～近世
19	大門前遺跡	散布地	弥生～近世
20	長塚	その他の墓	中世
21	八ツ又大正寺遺跡	散布地	弥生～近世
22	輕海西城跡	城館跡	弥生～近世
23	十四条土器田遺跡	散布地	弥生～近世
24	輕海塚	その他の墓	古墳～中世
25	十四塚塚	その他の墓	中世
26	十四塚菩提坊遺跡	散布地	弥生～近世
27	桑里遺跡	その他の遺跡	古代
28	小柿城跡	城館跡	中世
29	本田代官所跡	城館跡	近世
30	美江寺里塚跡	その他の遺跡	近世
31	美江寺城跡	城館跡	中世
32	十七塚城跡	城館跡	中世
33	本田城跡	城館跡	中世
34	中山道	その他の遺跡	中世～近世

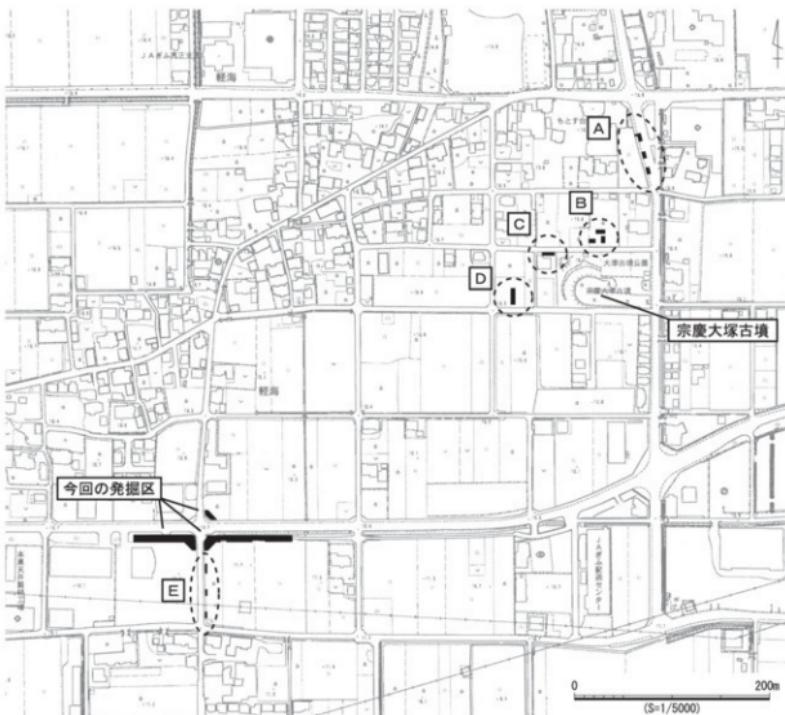


図9 番場遺跡内における過去の調査地点と今回の発掘区（本巣市役所管内図 1/2500）

また、円面硯や転用硯なども出土している。政田仙道上遺跡（18）の北側には仙道上、仙道下などの「仙道」地名が残り、東山道跡（10）が推定されている。政田仙道上遺跡では須恵器や中世陶磁器が採集され、遺跡南側に位置する光明寺では、昭和初期の民家改築の際に地下約2m下から多数の五輪塔とともに室町時代初期の作とされる前卓が出土した。十四条土器田遺跡では、多量の須恵器の他に、綠釉陶器や転用硯などが採集されている。なお、昭和40年代の圃場整備事業前までは、当遺跡周辺に条里型地割が広域に残っており（図8・写真1）、十四条地区と重里地区との境に残る小溝が条里遺跡（27）として本巣市指定文化財となっている。一方、当遺跡周辺には中世以降の城館跡も多い。八居城跡（3）の築城時期は明らかではないが、高さ約1.2mの土壘と、幅約1mの堀跡が遺存している。輕海西城跡（22）も築城時期が明らかでないものの、加留美長勝の草創で、以後は稻葉氏数代の居城であったとされる。天正18年（1590）以後に廃城となり、現在では長さ約5m、高さ約1mの土壘が認められる。なお、『新撰美濃志』によると、番場遺跡の西端付近に加留美長勝、朝倉高清、稻葉通高、安藤守宗の居城である輕海東城が存在していたとされており、本章第1節で記したとおり、輕海字砦前付近がその候補地と考えられている。近世の遺跡は、番場遺跡から南側に点在している。中山道（34）は、犀川に沿って北進し、美江寺城跡の西側で東に折れて東進する。本田代官所跡（29）は寛文10年（1670）から幕府派遣の代官が駐在したとされている。

このように、弥生時代以前の様相は不明な点が多いものの、古墳時代の遺構は番場遺跡や宗慶大塚古墳周辺、八ツ又大正寺遺跡など、番場遺跡から東側の地域で検出されている。そして、これらは、いずれも扇状地末端付近に位置している点が共通している（図7）。古代の遺跡は番場遺跡周辺から北側に多く、特に番場遺跡、席田郡府遺跡、高塚遺跡、法瑛寺遺跡、教念寺遺跡、政田仙道上遺跡、十四条土器田遺跡などで多くの遺物が採集されている。その中でも古代瓦や綠釉陶器、円面硯、転用硯など、官衙や寺院で出土例が多い遺物が採集されていることは、当地域の一つの特徴といえる。一方、古代の遺物が多く採集された遺跡では中世の遺物も多く、中世には当遺跡周辺に真桑荘と国衙領の輕海郷が存在していた。また、八居城跡などの城跡も幾つか存在しており、永禄4年（1561）の輕海合戦では、斎藤道三に仕えた稻葉一鉄の叔父である稻葉常通（稻葉又右衛門）が戦死している。常通の墓は東軽海の畠中にあって、三尺余りの盛土がされ、松の大木があったとされている³⁾。このような盛土を伴う塚は、大門塚（15）、長塚（20）、輕海塚（24）、十四条塚（25）など番場遺跡の北側から西側にかけて点在しており、いずれも中世頃に造営されたと推定されている。

注

1) 真正町1975『真正町史 通史編』

2) 各遺跡の記述は、以下の文献を参考とした。

岐阜県教育委員会 2002『岐阜県中世城館跡総合調査報告書 第1集（西濃地区・本巣郡）』

真正町1975『真正町史 通史編』

真正町教育委員会 1988『宗慶大塚古墳集濠範囲確認調査概報』

本巣市教育委員会 2011『本巣市埋蔵文化財試掘・確認調査報告書—平成18年度～21年度—』

本巣市教育委員会 2012『本巣市詳細遺跡分布調査報告書』

なお、表2の遺跡名、種別、時代と、図10の遺跡位置、範囲は、岐阜県教育委員会2007『改訂版 岐阜県 遺跡地図』を参考とした。また、遺跡地図刊行後の改訂については、本巣市教育委員会に確認した。

3) 真正町1975『真正町史 通史編』

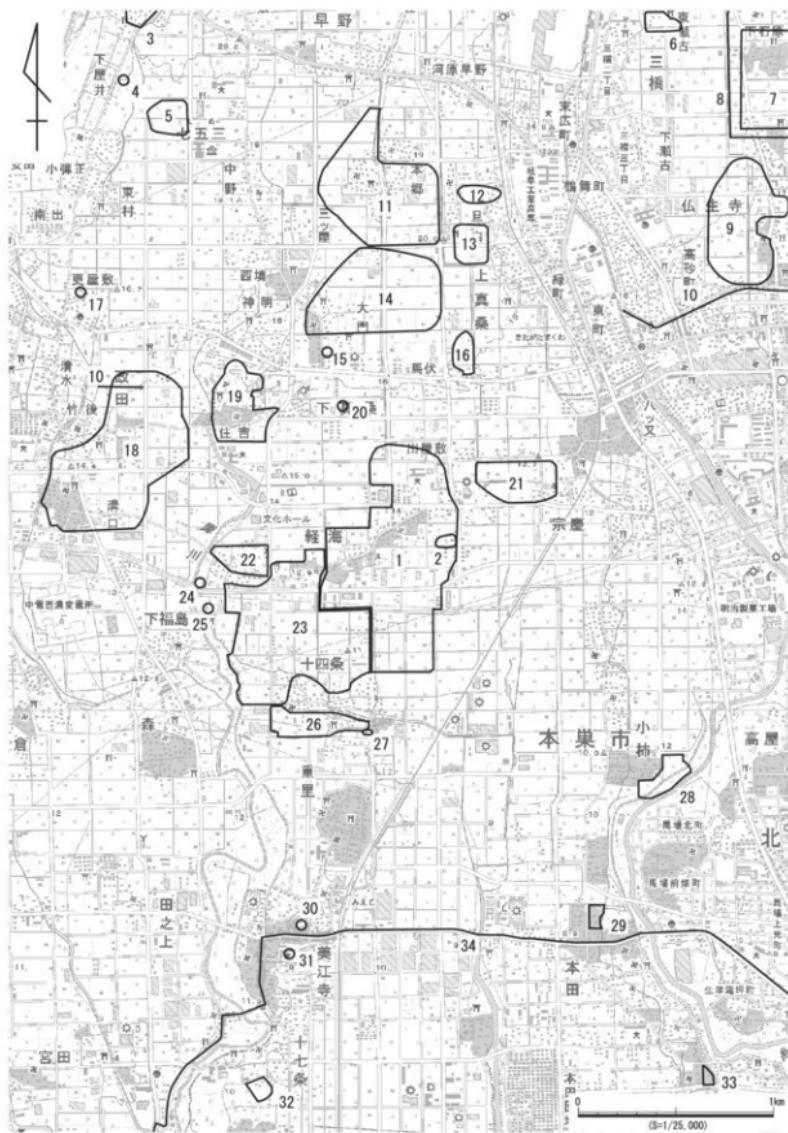


図 10 周辺遺跡位置図
(平成 22 年国土地理院発行 1:25,000 地形図「岐阜西部」、「北方」)

第3章 調査の成果

第1節 基本層序

基本層序は、以下のとおりⅠ層からⅣ層に分層した（図11）。

Ⅰ層 表土

Ⅰa層 10YR4/2 灰黄褐色土

B・C地点全域で確認した。層厚は約0.2m～0.6mである。長さ30cm以下の角礫やコンクリート片を多く含む、昭和40年代以降の盛土である。

Ⅰb層 7.5Y4/1 灰色土～2.5Y4/2 暗灰黄色土

発掘区全域で確認した。層厚は約0.05m～0.3mである。Ⅰa層が認められないA地点において、厚い堆積を確認した。旧耕作土と考えられ、土師器片や陶磁器片をわずかに含む。

Ⅰc層 5Y4/1 灰色土～2.5Y4/2 暗灰黄色土

C地点東側を除く発掘区全域で確認した。層厚は約0.05m～0.1mである。旧耕作土下の堆積層であり、水田の底土と考えられる。

Ⅱ層 遺物包含層 2.5Y3/1 黒褐色土～5Y3/1 オリーブ黒色土

発掘区全域で確認した。層厚は約0.05m～0.1mである。C地点東側ではⅡ層上面に鉄斑が帯状に認められた。土師器片を多く含む。

Ⅲ層 遺物包含層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土

C地点東側のみで確認した。層厚は約0.05m～0.1mである。土師器片をわずかに含む。

Ⅳ層 基盤層

Ⅳa層 2.5Y6/2 灰色土

C地点東端を除く発掘区全域で確認し、C地点東端以外ではⅣa層上面を遺構確認面とした。層厚は約0.1m～0.3mであり、無遺物層である。

Ⅳb層 2.5Y6/2 灰色～2.5Y5/2 暗灰黄色シルト

SD3やSD17、SD27、SZ1周溝などの壁面において、Ⅳa層下で確認した。また、C地点東端ではⅢ層下で確認し、Ⅳb層上面を遺構確認面とした。層厚は約0.1m～0.2mであり、無遺物層である。

調査前の発掘区の平均標高はA地点が12.60m、B地点が12.96m、C地点が12.33mであり、Ⅰa層が厚く堆積しているB地点が最も高い。遺構確認面は遺物包含層であるⅡ層（若しくはⅢ層）下であるが、B・C地点の一部ではⅠ層下で遺構確認面を検出した箇所もある。また、遺構確認面の平均標高はA地点が12.00m、B地点が11.82m、C地点が11.65mであり、Ⅳa層が確認できなかつたC地点東端の遺構確認面の平均標高は11.41mである。遺構確認面は後世に上部が削平されている可能性があるものの、およそ発掘区の旧地形は北西から南東に向かって緩やかに下降していた状況が看取でき、C地点東端の遺構確認面がⅣa層からⅣb層へと変化することは、この付近の地形が扇状地末端部から谷底平野・はん疊平野へと変化すること（図7）に対応しているといえる。

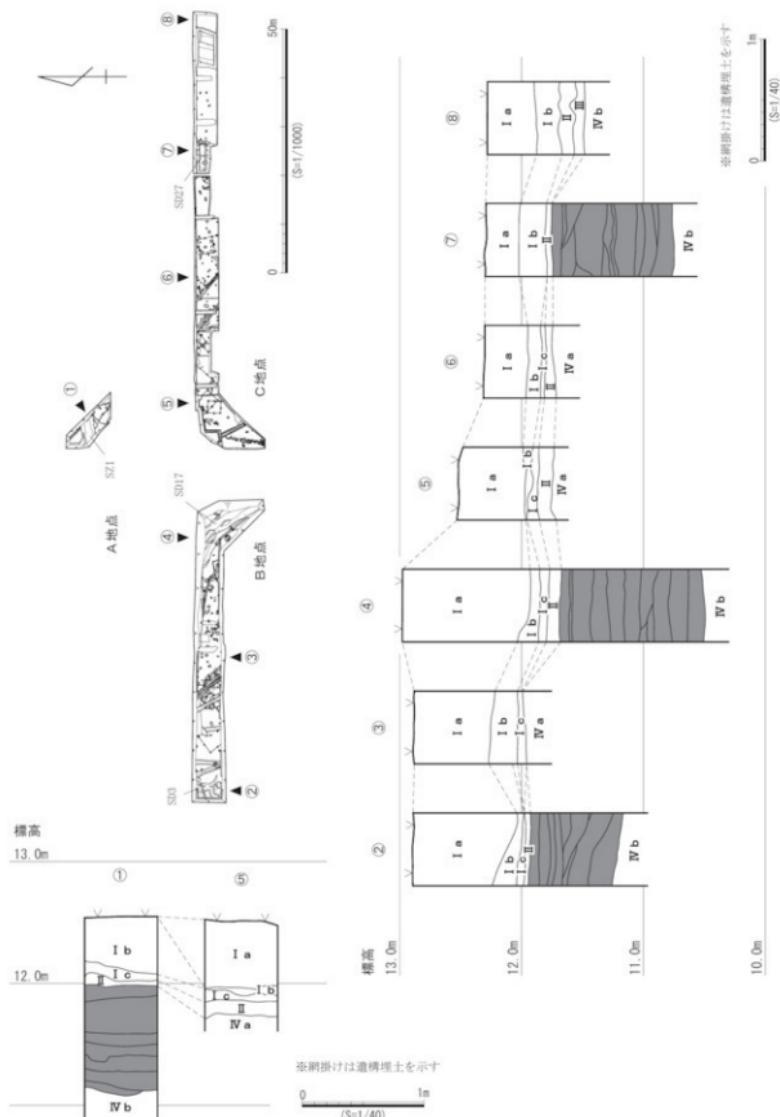


図11 基本層序模式図

第2節 遺構・遺物の概要

1 遺構概要

(1) 概要

今回の調査では、縄文時代晚期から中近世に及ぶ多数の遺構を検出した。検出した遺構数は表3のとおりであり、古墳時代前期の遺構が多い。遺構の時期決定は、出土遺物や遺構の重複関係、埋土の類似性などから判断したものの、時期不明とした遺構も多い。また、出土遺物が複数の時代にまたがる場合は原則として新しい時期を選択したが、出土状況や出土量も判断材料とした。

本報告書では、これらの遺構のうち、遺跡の性格を反映する竪穴建物や掘立柱建物、柵、墓は、すべての遺構を報告した。溝状遺構や土坑などは検出数が多いため、区画施設のように遺跡の性格を検討する上で重要な遺構や、一括性の高い遺物が出土した遺構、出土例の少ない遺物が出土した遺構などを抽出して報告した。なお、各遺構の説明文の「遺物出土状況」に記載した出土点数は、接合前の破片数を示す。また、遺構埋土の土層注記で「灰黄色ブロックを○%含む」と記載してある場合の「灰黄色ブロック」とは、基本層序の基盤層であるIV a層のブロック土を示す。

表3 検出遺構一覧表

時代	SI	SI 付属	SB	SB 付属	SA	SA 付属	SZ	SL	SK	SP	SD	NR	合計
縄文時代（晚期）										1		1	2
弥生時代										1		2	3
古墳時代	2	13	3	21	1	2	1	1	144	20	20		228
古代以降					1	4			49	6	4		64
不明									52	4	1		57
合計	2	13	3	21	2	6	1	1	247	30	27	1	354

(2) 遺構略号

遺構の略号は以下のとおりである。

S A - 柵、S B - 建物（竪穴建物を除く）、S D - 溝状遺構、S I - 竪穴建物、S K - 土坑、

S P - 柱穴、S Z - 墓、P - 竪穴建物内柱穴・土坑、掘立柱建物柱穴、柵柱穴

このうち、直線的に並んだ複数の柱穴によって構成される遺構は柵（S A）とし、規則的に並んだ複数の柱穴を2列以上向かい合って確認した遺構を建物（S B）とした。また、柱穴（S P）は柵、建物、竪穴建物を構成しない、単独で存在する柱穴を示す。なお、建物などに付属する遺構は、「SB1-P3」のように付属する遺構を先頭に記し、遺構の種別（P・炉・壁際溝）と種別ごとに通し番号を付与した。

(3) 遺構一覧表

各遺構の位置や規模などの基礎的情報は、それぞれ種別ごとに作成した遺構一覧表に示した。遺構種別により一覧表の項目は異なるが、共通する項目の内容は次のとおりである。

検出面 基本層序の層位名を使用し、遺物包含層（II・III層）掘削後にIV a層上面で検出した遺構は「IV a上」とした。しかし、表土（I層）直下に遺物包含層が存在せず、基盤層上で遺構を検出した場合は、「I基」（I層基底面検出）と表記した。

平面形 以下のとおり、形状（A～F）と、長軸長と短軸長の比（1～5）で表記した。

A - 円形、B - 不整円形、C - 方形、D - 不整形、E - 不定形、F - 不明

1 - 1.2未満、2 - 1.5未満、3 - 2.0未満、4 - 2.0以上、5 - 不明

埋土 以下のとおり、堆積状況をアルファベットで表記し、分層した層位数を数字で表記した。

A－埋土が単一層、B－ほぼ水平な堆積、C－中央がU字状に凹むような堆積、

D－凹みが片寄った堆積、E－ブロック状に土層が入り込む堆積、

F－最上層が掘り込んだ状態となるもの、G－柱痕跡状の土層があるもの、H－その他

断面形 以下のとおり、形状（A～F）と、上面での短軸長と深さの比（1～6）で表記した。

A－半円形、B－方形、C－三角形、D－台形、E－二段の掘り込み、F－その他

1－0.3未満、2－0.7未満、3－1.1未満、4－1.5未満、5－1.5以上、6－不明

規模 () は残存長を示す。

切り合い関係 「新>古」の関係を示す。

出土遺物 以下のとおり、記号化して表記した。

J－縄文土器、D－弥生土器、H－土師器・土製品、P－須恵器、K－灰釉陶器、Y－山茶碗、

T－山茶碗以外の中近世陶磁器、S－石器類、W－木製品、I－金属製品、A－貝殻片、

N－種子類

2 遺物概要

(1) 概要

今回の調査では、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、中近世陶磁器などの土器類と、石器類、木製品、金属製品、その他（貝殻片等）が出土した。その出土数は表4のとおりであり、古墳時代前期の土師器が最も多い¹⁾。本報告書では、これらの遺物のうち、遺構の性格や時期などを検討する上で必要な遺物や、遺跡の性格を端的に示す遺物、分類別の代表的な遺物を中心に抽出して報告した。

以下、各遺物の概要を記す。

表4 出土遺物一覧表

大別	種別	接合前 破片数 (点)	接合後 片数 (点)	接合後 破片数 割合	質量 (g)	質量 割合	口縁部 残存率 (x/12)	口縁部 残存率 割合
土器類	縄文土器	439	395	2.7%	11,516.4	11.0%	10.5	1.1%
	弥生土器	108	63	0.4%	332.0	0.3%	11.4	1.2%
	土師器	15,709	13,855	94.0%	87,770.7	84.1%	885.8	90.7%
	須恵器	143	130	0.9%	1,302.2	1.2%	31.0	3.2%
	灰釉陶器	41	40	0.3%	290.6	0.3%	4.0	0.4%
	中近世陶磁器	252	243	1.7%	3,259.9	3.1%	32.9	3.4%
	小計	16,692	14,726	100.0%	104,471.8	100.0%	975.6	100.0%
	石器類	37	37	—	16,195.7	—	—	—
	木製品	71	71	—	—	—	—	—
	金属製品	2	2	—	14.8	—	—	—
	その他（貝殻片等）	53	53	—	—	—	—	—
	合計	16,855	14,889	—	—	—	—	—

①土器類

出土した土器類の種別ごとの点数は表4のとおりであり、土師器が最も多い。このうち、縄文土器の大半はNR1から出土した。また、土師器は発掘区全域から出土したが、特にSD17の出土点数が全体の約3分の1を占める。

土器類の年代観や器種分類は既存の研究に従つた²⁾。また、本章第3節以降では、パレススタイル

壺は「パレス壺」、く字状口縁台付甕は「く字甕」、有段口縁台付甕は「有段口縁甕」、S字状口縁台付甕は「S字甕」と略記し、S字甕の細分類は廻間遺跡の分類に従った³⁾。なお、弥生土器と土師器は赤塚次郎氏（NPO法人 古代灘波の里・文化遺産ネットワーク）と石黒立人氏（愛知県埋蔵文化財センター）から指導をいただいた。

②石器類

出土した石器類の器種と石材は表5のとおりであり、砂岩若しくは花崗せん縁岩製の叩石と、チャート製の剥片が目立つ。遺構別にみると土師器と同様にSD17からの出土が多く、特に叩石と砥石はSD17から15点出土しており、両者の出土数は全体の約7割を占めている。また、剥片はいずれもC地点からの出土であり、滑石製勾玉はSD3から出土した。なお、MFは剥片の縁辺に微細な剥離痕が確認できる剥片である。鋭い縁辺を刃部として使用した結果、刃こぼれ状の微細な剥離痕が生じたものと、偶発的に生じたものがあり、これらを明確に区別することができなかったため、両者を合わせてMFとした。なお、石器類の石材鑑定は三島誠（岐阜県文化財保護センター）が行い、石材不明とした1点は安山岩若しくはチャートである。

表5 石器類一覧表

器種	打製 石鍬	磨製 石鍬	MF	剥片	叩石	砥石	軽石 製品	勾玉	不明	総計
サムカイト				1						1
流紋岩					3	2				5
花崗せん縁岩					6	1				7
砂岩					7	2				9
凝灰岩質砂岩									1	1
凝灰岩						1				1
泥岩		1								1
チャート	1		2	6						9
軽石							1			1
滑石								1		1
不明				1						1
総計	1	1	3	7	16	6	1	1	1	37

③木製品

出土した木製品の器種・分類別の点数は表6のとおりであり、棒材が目立つ。その出土位置は大半がSD17であり、他にSD3、SD27、SP21から出土した。実測図を掲載した木製品はいずれも樹種同定を行い、その結果を第4章に記載した。また、実測図に示した炭化範囲、樹皮残存範囲、欠損範囲の凡例は図12のとおりである。なお、木製品は樋上昇氏（愛知県埋蔵文化財センター）と石黒立人氏から指導をいただいた。

④金属製品

今回出土した金属製品は、鉛玉と煙管雁頭の2点のみである。いずれも遺物包含層（II層）から出土した。

⑤その他の出土遺物

その他の遺物として、土塊付着融着物1点、貝殻片31点、種子21点が出土した。土塊付着融着物はSD27から、貝殻片はSD17から、種子はSD17とSD27から、それぞれ出土した。なお、土塊付着融着物は成分分析を行い、その結果を第4章に記した。また、貝殻片と種子は説田健一氏（岐阜県博物館）と久保貴志氏（黒部市吉田科学館）から指導をいただき、SD17とSD27の説明文中に指導結果を

表6 木製品一覧表

区分	器種	分類	点数
器具	木材加工工具	横斧柄	1
		小計3点	
		作業台	1
		櫈	1
	起耕・整地具	二又鋤	1
		多又鋤	1
	編物・織機関連具	木鍊	2
		小計3点	
		編組製品	1
	容器	脚付樽	1
部材		小計2点	
	建築部材	柱根	1
加工材・残材	小計2点	小計2点	1
		垂木か	1
	板材		14
	棒材		42
加工材・残材	残材		2
	樹皮材		1
	合計		71

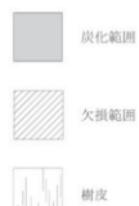


図12 木製品実測図の凡例

記載した。

(2) 遺物観察表

本報告書に掲載した遺物の観察表は、それぞれ種別ごとに作成した。種別により一覧表の項目は異なるが、共通する項目の内容は次のとおりである。

出土位置 複数の地区（グリッド）や遺構から出土した遺物が接合した場合は、すべての出土位置を表記した。

出土層位 表土と遺物包含層から出土した場合は、基本層位名（I a・I b・I c・II・III）を表記した。また、遺構出土の場合、土層分層前は埋土を深さ約5cmごとに区切り、上層から順に「a・b・c・」の順に表記し、土層分層後はその土層番号（1・2・3・）を表記した。なお、複数の土層から出土した遺物が接合した場合は、すべての層位を表記した。

大きさ () は復元長を示す。なお、土鍊は口径の欄に長さ、底径の欄に直径を示した。

器面調整 磨滅等により不明な場合は、「不明」と記載した。また、ナデ調整は、皮・布等を用いたものは「横ナデ」とし、「指ナデ」や「ヘラナデ」は「縦方向の指ナデ」というようにナデの方向を示した。

胎土 含有物は肉眼観察による。

注

1) 口縫部残存率の計測は以下の文献を参考とし、12分の1未満の破片は12分の1に切り上げ、12分の1以上の破片は小数点以下第1位まで計測した。

宇野隆夫1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集、国立歴史民俗博物館

2) 出土遺物の年代観や器種分類は、以下の文献を参考とした。

武末純一・石川日出志2003「総説 弥生早期から中期の土器」『考古資料大観 第1巻 弥生・古墳時代 土器I』小学館

赤坂次郎2002「總説 土器様式の偏差と古墳文化」『考古資料大観 第2巻 弥生・古墳時代 土器II』小学館

早野浩二2003「東海・中部地方の土器」『考古資料大観 第3巻 弥生・古墳時代 土器III』小学館

斎藤孝正1995「猿投、美濃、美濃須賀編年と他編年対比表」『須恵器集成図録 第3巻 東日本I』雄山閣

愛知県史編纂委員会2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 潮戸系』

3) 財團法人愛知県埋蔵文化財センター1990『胞間遺跡』

第3節 弥生時代以前の遺構・遺物

弥生時代以前の遺構として、土坑2基、溝状遺構2条、自然流路1条について報告する。なお、自然流路(NR1)は遺物が廃棄された旧地形の窪みである。流水堆積は認められなかったが、旧地形の窪みの成因は縄文時代晚期以前の旧流路である可能性が考えられるため、ここでは自然流路の一部として報告する。

1 土坑

SK159(図14・15)

検出状況 C地点 AG17グリッド、IVa層上面で検出し、本遺構上面の遺物包含層(Ⅱ層)中には土器が多数含まれていた。なお、平面形は不明瞭であった。

規模・形状 北側はわずかに排水溝に切られており、長軸長0.80m、残存短軸長0.52m、深さ0.05mで、不整楕円形を呈する。底面は中央西側と北東側が楕円形状に窪んでおり、壁面の傾斜は緩やかである。

埋土 単層であり、炭化土と基盤層であるIVa層のブロック土を多く含む人形堆積である。

遺物出土状況 弥生土器90点が出土し、底部は欠落しているもの

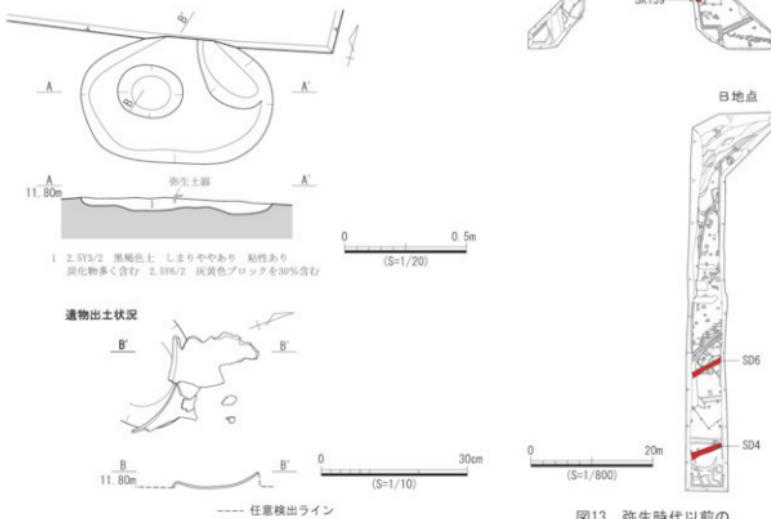


図14 SK159 遺構図

図13 弥生時代以前の
主な遺構位置図

の、甕1個体分に復元できた。なお、弥生土器は口縁部が南西方向に向いて、横位で出土した。

出土遺物 1は甕である。口縁端部に外傾面を有し、深い刻みが認められる。体部外面は横から斜め方向のタタキ後、縦方向のハケ調整が施され、タタキ痕がわずかに残る。

時期 出土遺物の時期から、弥生時代中期と考えられる。

SK241(図16・17)

検出状況 C地点BG8グリッド、IVa層上面で検出した。検出面において土器片がわずかに見えており、その周辺に炭化物が散在していた。なお、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.39m、短軸長0.29m、深さ0.06mで、楕円形を呈する。壁面の傾斜は緩やかであり、底面南側がわずかに楕円形状に窪む。

埋土 2層に分層した。いずれの層も基盤層であるIVa層のブロック土を含み、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 弥生土器38点、石器類1点が出土した。多くの破片が縦位や斜位で出土し、横位の破片は確認できなかったことから、混入の可能性もある。そのうち、1点を図示した。

出土遺物 2は甕である。器壁が厚く、体部外面に斜め方向の貝殻条痕が施される。

時期 出土遺物の時期から、弥生時代前期以降と考えられる。



図16 SK241 遺構図

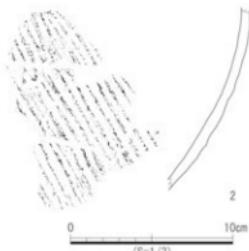


図17 SK241 遺物実測図

2 溝状遺構

SD4(図18・19)

検出状況 B地点AG2グリッド、SD3掘削後にIVa層上面で検出した。SD3埋土がSD4上面を覆い、SK6とSK8に切られる。平面形は明瞭であった。

規模・形状 幅1.15m、深さ0.24mであり、北西から南東方向に向かって直線的に延びている。底面は丸みを帯び、壁面の傾斜は緩やかであるが、南東端は東壁面に狭い平坦面を有し、下端幅が狭くなる。底面標高は南側が高く、北側が低い。

埋土 3層に分層した。西側に下降する堆積であり、2層はシルトである。2層より上位は自然堆積と考えられるものの、3層に含まれるブロック土が壁面崩落土か否かの判断ができず、3層の堆積要

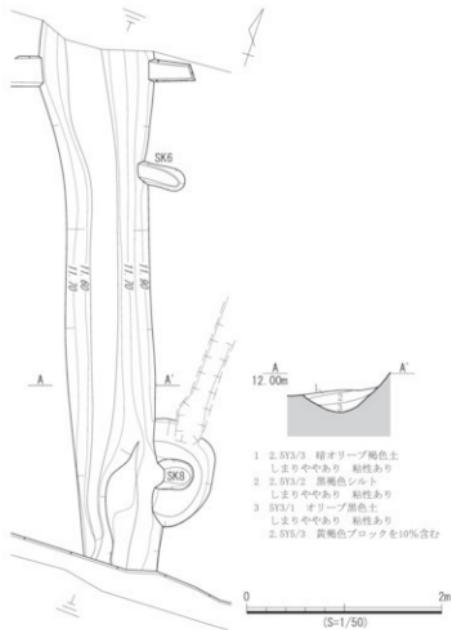


図18 SD4 遺構図



図19 SD4 遺物実測図

因は不明である。

遺物出土状況 弥生土器6点、土師器6点が出土しており、層位の内訳はa層から弥生土器2点、土師器2点、2~3層から弥生土器4点、土師器4点が出土した。本遺構は古墳時代前期のSD3に切られることから、当該期の土器は混入の可能性が高い。出土遺物のうち、1点を図示した。

出土遺物 3は弥生土器壺である。口縁端部に外傾面を有し、刺突文が認められる。

時期 出土遺物は弥生時代中期と古墳時代前期の土器が混在するものの、本遺構は古墳時代前期のSD3に切られ、弥生時代中期のSD6と埋土や溝の方向が類似することから、弥生時代中期と考えられる。

SD6（図20・21）

検出状況 B地点AG5グリッド、IV a層上面で検出した。SK16、SK17、SK19、SK34など複数の遺構に切られているが、平面形は明瞭であった。

規模・形状 幅0.94m、深さ0.50mであり、北西から南東方向に向かって直線的に延びている。底面は東側が深く、壁面の傾斜は急で、特に東壁面の下方は垂直に近い。底面標高は南側が高く、北側が低い。

埋土 7層に分層した。シルト主体の埋土であり、自然堆積と考えられる。全体的に東側に下降する堆積であるが、微砂が帶状に堆積するような流水堆積は認められなかった。

遺物出土状況 弥生土器1点、土師器8点が出土した。弥生土器（4）は検出面から約0.15m掘削し

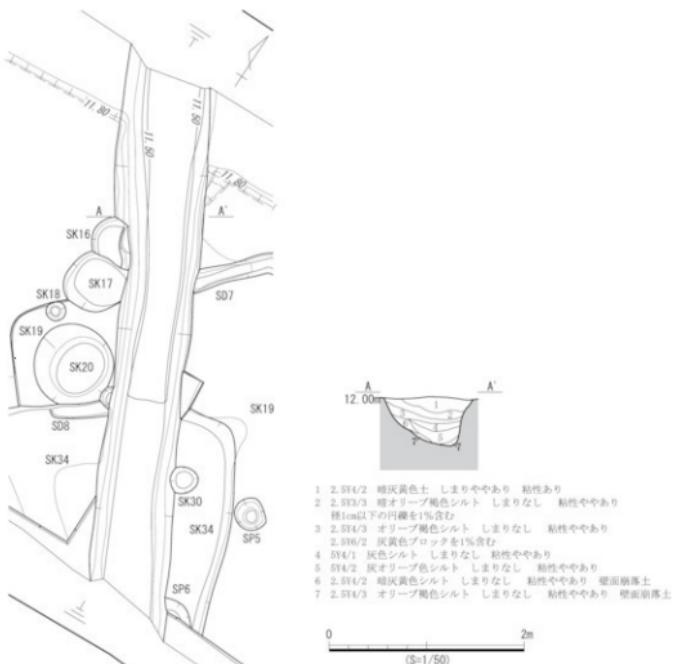


図20 SD6 遺構図

た時点で、内面を上にして横位で出土した。また、土師器片は1層若しくはa層のみから散在して出土したため、上部遺構の造成時に伴う混入の可能性が高い。これらのうち1点を図示した。

出土遺物 4は弥生土器甕である。口縁端部に刻みを有し、体部外面は斜め方向のハケ調整後、横方向のハケ調整が施される。

時期 埋土中程から出土した土器（4）の年代から弥生時代中期には掘削されていた可能性があり、古墳時代前期に埋没したと考えられる。

3 自然流路

NR1（図22・23）

検出状況 C地点BG11～BG13グリッドにおいて検出した。NR1を検出した場所の基盤層は、NR1の西側がIVa層、同東側がIVb層であり、NR1を境に基盤層が異なる。当遺跡の試掘・確認調査でもNR1以東では河川堆積と考えられる砂礫層を確認していることから、NR1から東側に旧流路が存在し

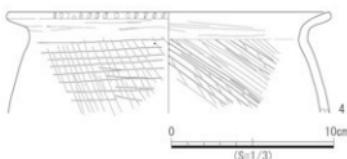
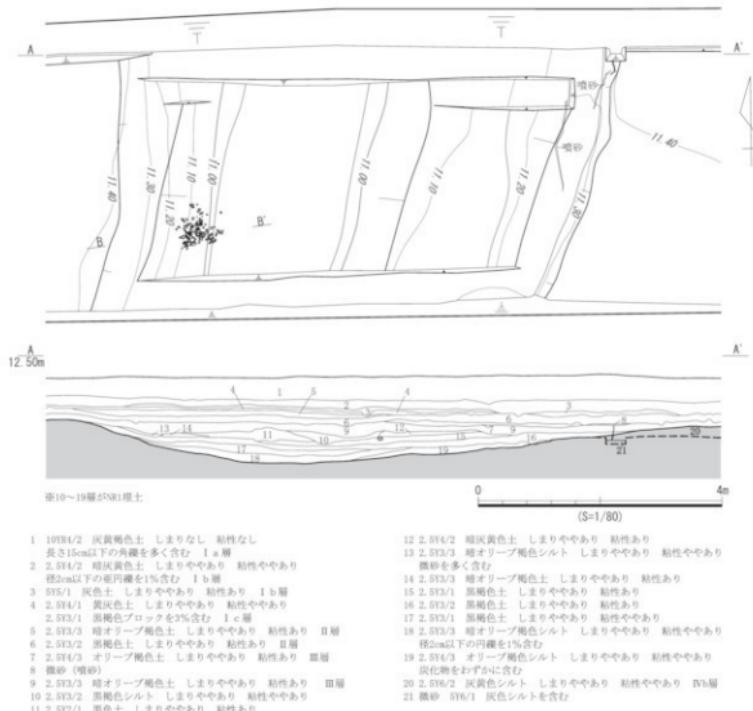


図21 SD6 遺物実測図



遺物出土状況図 (A-A' 17~18層内)

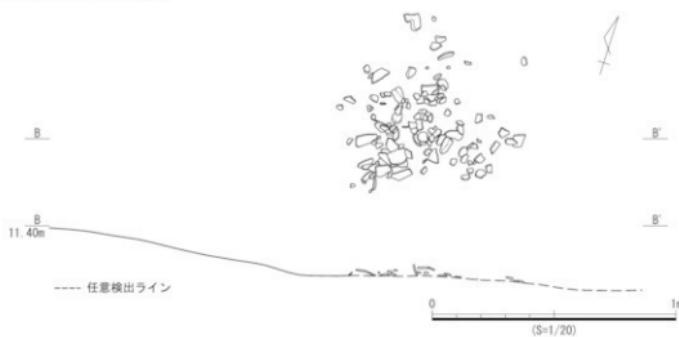


図 22 NR1 遺構図

ていたか、NR1付近で扇状地から谷底平野へと地形が変化している可能性が指摘できる。なお、遺構の平面形は不明瞭であった。

規模・形状 幅7.75m、深さ0.49mであり、およそ西北西から南南東方向に向かって帯状に延びている。底面は中央西寄りが最も深いものの、全体的に浅く窪み、壁面の傾斜は緩やかである。そのため、溝状遺構ではなく、浅い溝状の窪地と認識した。

埋土 10層に分層した。全体的にシルトや粘性の高い土が、水平若しくは中央に向かって緩やかに窪むような堆積であり、自然堆積と考えられる。しかし、埋土上層(図22-10~14層)は下層(同15~19層)よりも細かく分層でき、土師器の小片を含むことから、人為的に改変されている可能性がある。なお、溝底面東側で微砂が南北方向に筋状に認められ、発掘区北壁面で確認したところ、IVb層直下の微砂(同21層)が基本層序のII層(同6層)直下まではほぼ垂直に延びていた。そのため、埴砂と判断したが、その発生時期については不明である。

遺物出土状況 繩文土器408点、土師器119点、石器類3点が出土した。繩文土器は17~18層にかけてまとまって出土し、大半の破片は横位で出土したが、斜位や縦位の破片も認められた(図22下)。

また、土師器はいずれも遺構検出面直下で散在して出土し、小片が多い。そのうち、4点を図示した。

出土遺物 5~8は繩文土器であり、5~7が深鉢、8が変容壺である。5・6は口縁端部に外傾面を有し、刻みが認められる。5は頸部と体部との境に段を有し、口頸部外面は横方向の貝殻条痕、体部外面上方は横方向のケズリ、同中程は斜め方向のケズリが施される。7は底部片であり、底部外面周縁が接地する。8は口縁部と頸部外面に素文突帯を貼り付け、横ナデ調整が施される。また、素文突帯以下に横方向の貝殻条痕が施される。

時期 出土遺物から、繩文時代晚期には窪地として存在しており、古墳時代前期以降に埋没したと考えられる。

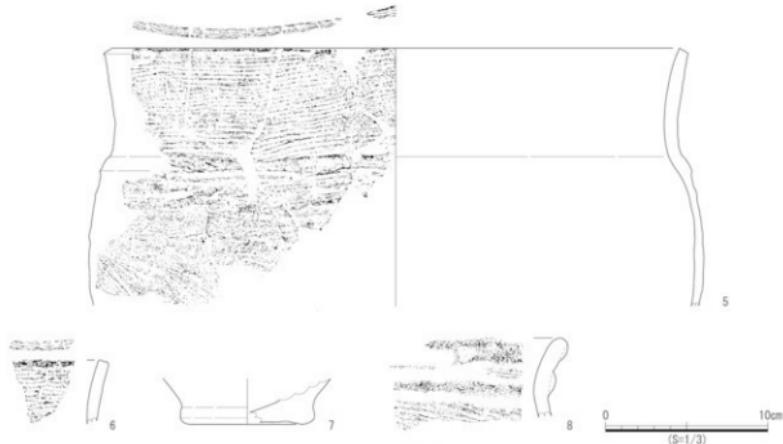


図23 NR1遺物実測図

第4節 古墳時代の遺構・遺物

古墳時代前期の遺構として、竪穴建物2軒、掘立柱建物3棟、柵1列、方形周溝墓1基、焼土1基、土坑7基、柱穴1基、溝状遺構15条について、以下に報告する。

1 竪穴建物

SI1 (図25・26)

検出状況 B地点AG10～AG11グリッド、Ic層基底面で検出した。この付近は遺物包含層であるII層とIII層が認められず、Ic層直下にIVa層があり、その上面で壁際溝とP1、P2を検出した。いずれも平面形は明瞭であり、壁際溝1はSD12とSI2-壁際溝2を切る。本遺構は主柱穴（P1）と壁際溝の位置関係がSI2と類似するため、竪穴建物と認定した。

規模・形状 壁際溝1の方位がN=81°-Eの方形を呈する竪穴建物であるが、大半が発掘区外に位置するため規模は不明である。

埋土 Ic層基底面で壁際溝1を検出したため、床面までの堆積土は削平されていると考えられる。貼床土は約0.01～0.02m残存しており、基盤層であるIVa層のブロック土を含む。

床面 土坑・柱穴2基、壁際溝を検出した。P1は東側の壁際溝から約0.6m離れており、SI2の主柱穴とほぼ同じ平面的な位置関係にあることから主柱穴と考えられる。P2は本遺構に所属するか否かの判断が難しいものの、壁際溝1がP2の北側まで直線的に延びていることと、壁際溝1と同様にSI2-壁際溝2を切ることから、本遺構に属すると考えた。P2は残存長軸長0.85m、深さ0.22mの土坑であり、底面からわずかに上位でS字甕が横位で出土した。壁際溝は東辺と北辺で確認したが、北辺西端は収束している。

床下 掘方底面で遺構は確認できなかった。

遺物出土状況 貼床土から土師器1点、P2から土師器111点が出土した。P2の土師器片は、S字甕1個体に復元できた。

出土遺物 9はS字甕である。台部外面には斜め方向のハケメが逆三角形状に連続して残り、体部外面は斜め方向のハケ調整後、横方向のハケ調整が施され、体部下半のハケメは2段に分かれている。口縁部は外側に大きく張り出し、頸部と体部の境に一條の沈線が廻る。なお、体部から口縁部外面に煤が付着しているが、体部内面に炭化物は付着していない。

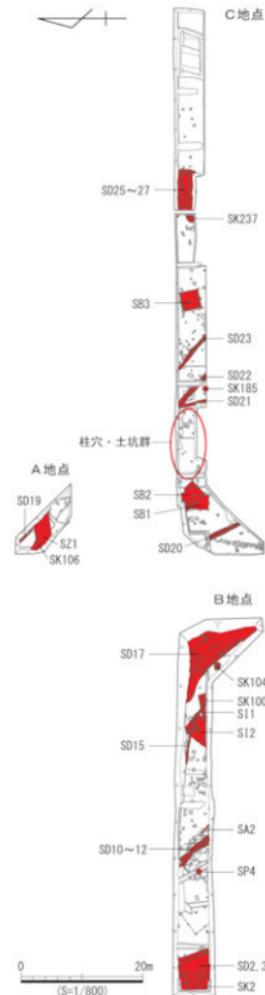


図24 古墳時代の主な遺構位置図

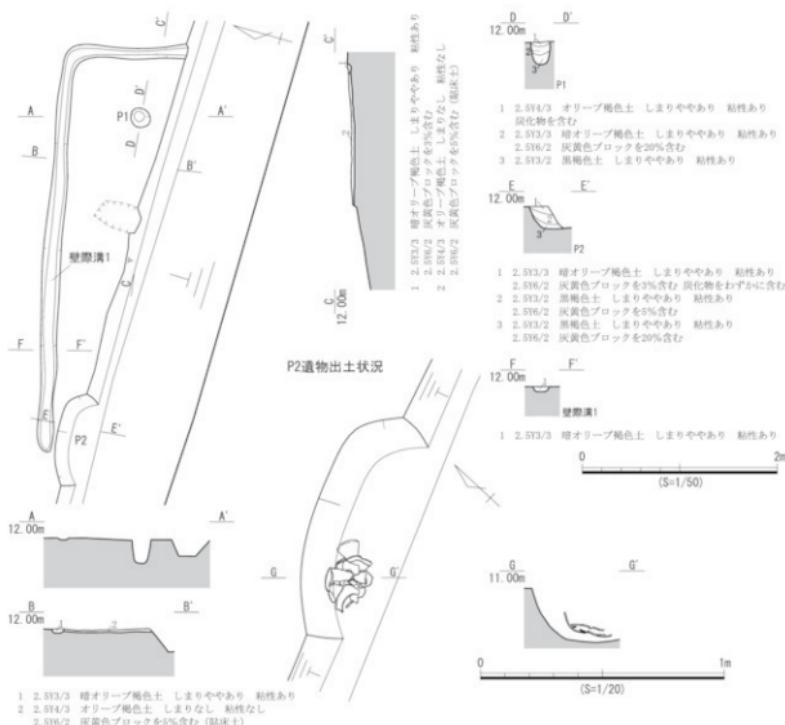


図 25 SI1 遺構図

時期 P2 底面出土遺物の時期から、古墳時代前期と考えられる。

SI2 (図 27・28)

検出状況 B地点 AG9～AG10グリッド、IV a層上面で検出した。II層掘削後に壁際溝や土坑、柱穴を検出し、P6、P9、P10の平面形は不明瞭であったが、他の遺構は明瞭であった。なお、壁際溝2はSI1-壁際溝1とSI1-P2、SK99に切られ、SD15を切る。本遺構は明確な炉は確認できていないが、主柱穴3基と壁際溝を検出したため、竪穴建物と認定した。

規模・形状 P1とP3を結ぶラインの方位がN-36°-Eの方位を呈する竪穴建物であるが、西側と南側の壁際溝が検出できなかつたため、その規模は不明である。

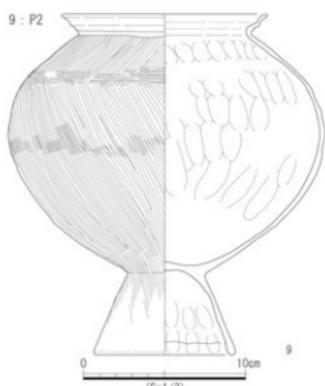


図 26 SI1 遺物実測図

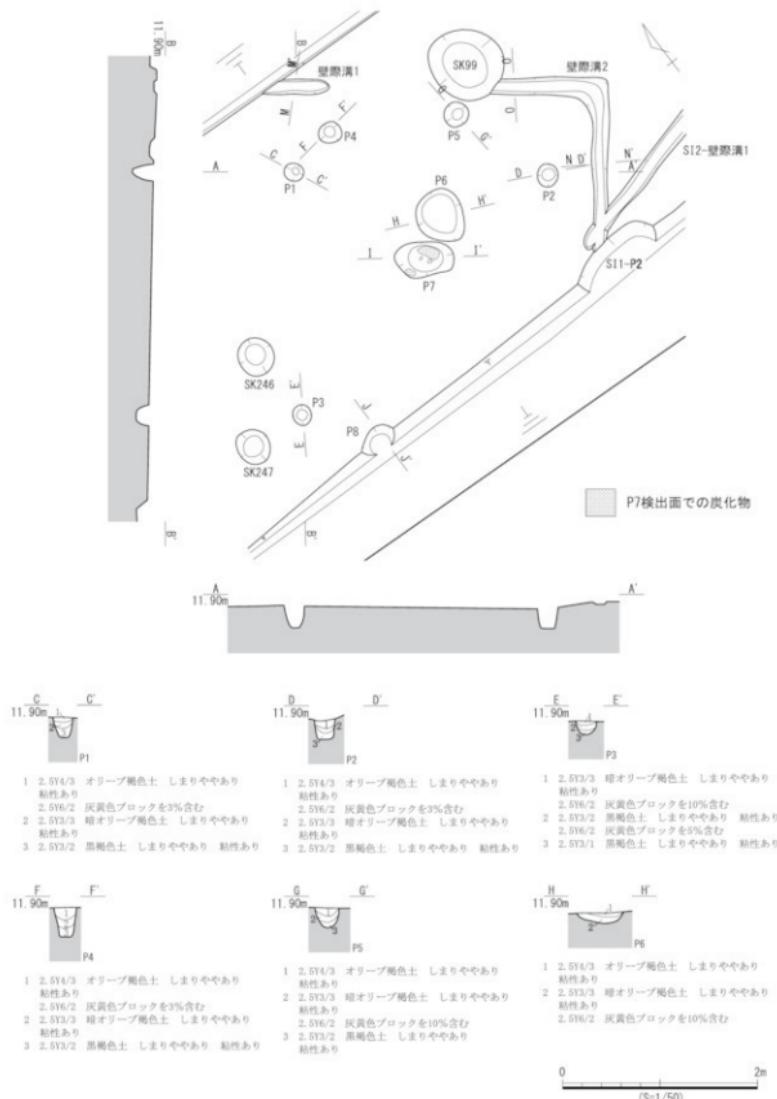


図 27 S12 遺構図 (1)



図28 SI2 遺構図(2)

埋土 II層掘削後に壁際溝や土坑、柱穴を検出したため、床面までの堆積土は削平されていると考えられる。また、貼床土は確認できなかった。

床面 土坑・柱穴8基、壁際溝を検出した。このうち、P1～P3は柱痕跡を確認できなかったが、壁際溝との平面的な位置関係から主柱穴と考えられる。また、P7は検出時に炭化物がまとまって出土したことから地床炉の可能性を検討したが、埋土下層には焼土や炭化物が認められず、底面でも被痕を確認できなかったことから、土坑とした。壁際溝は北東辺と南東辺で確認し、北東辺は中央部分が途切れている。

遺物出土状況 床面のいずれの遺構からも、遺物は出土しなかった。

時期 壁際溝2がSI2の遺構に切られることから、古墳時代前期以前と考えられる。

2 掘立柱建物

SB1 (図29～31)

検出状況 C地点AG17グリッド、IVa層上面で検出した。P1はSB2-P2を切ることから、SB1がSB2より新しい。各柱穴の検出時の平面形はP1、P2、P4、P5、P6、P8は明瞭に確認でき、P3、P7はやや不明瞭であった。

規模・形状 主軸方位がN-4°-Eの掘立柱建物である。平面形は南北にやや長いものの、ほぼ正方形であり、南北2間(2.60m)、東西2間(2.35m)、床面積6.11m²を測る。柱間距離は南北軸が約1.3m、東西軸が約1.2mであり、P2、P4、P7は隅柱間の柱筋からわずかに外側にずれている。

柱穴 8基の柱穴から成る。柱穴の平面形は円形若しくは橢円形で、P1のみ北壁面に平坦面を有する。長軸長は0.33m～0.44mであり、深さはP5が0.11mと浅いものの、他はいずれも0.20m～0.25mである。埋土はP2、P4で柱痕跡を確認し、他は基盤層であるIVa層のブロック土を含む人為堆積である。

遺物出土状況 P1から土師器1点が出土した。1層からの出土であり、小片であるが図示した。

出土遺物 10は壺である。表面の磨滅が著しく、ハケメがわずかに残る。

時期 出土遺物から時期の言及は困難であるが、古墳時代前期以降のSB2より新しいことから、SB2と同様に古墳時代前期以降とする。

SB2 (図29～31)

検出状況 C地点AG17～AG18グリッド、IVa層上面で検出した。P2がSB1-P1に切られることから、

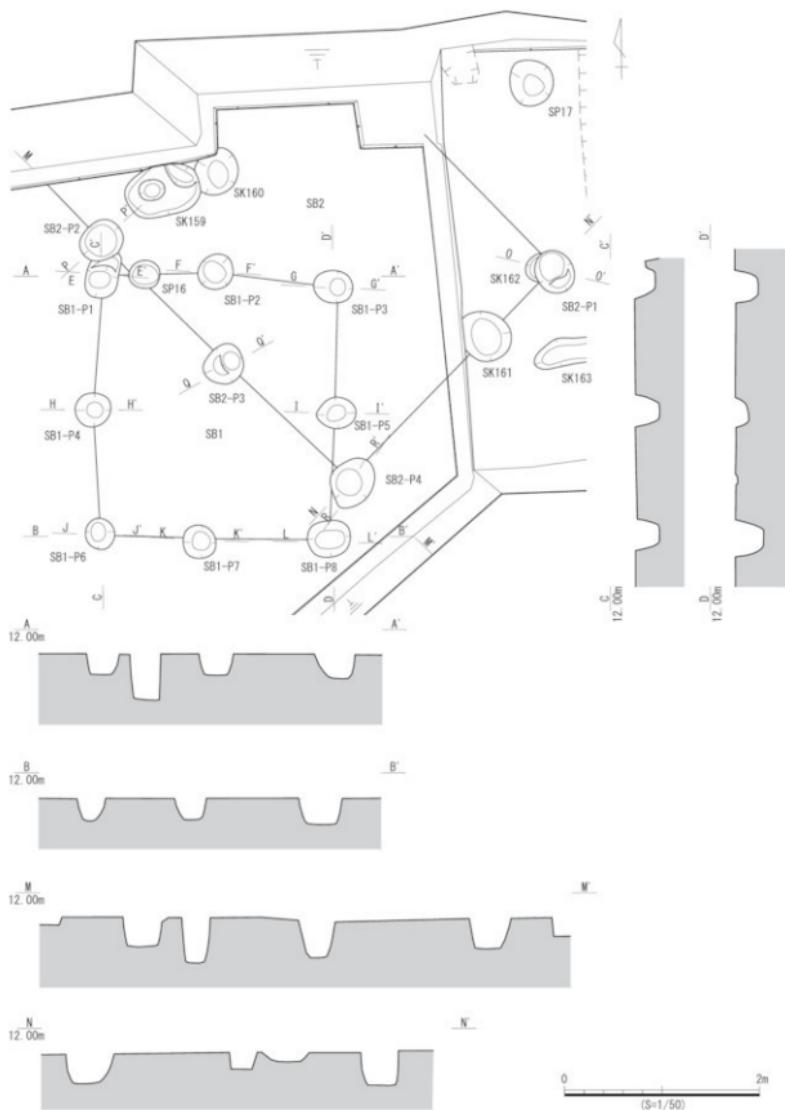


図 29 SB1 + 2 造構図 (1)



図30 SB1・2 遺構図(2)



図31 SB1・2 旗物実測図

SB2はSB1よりも古い。各柱穴の検出時の平面形はP1、P2、P3は明瞭に確認できたが、P4は不明瞭であった。

規模・形状 主軸方位がN-45°-Wの掘立柱建物である。平面形は長方形であり、桁行2間以上(4.30m以上)、梁行1間(3.02m)、床面積13.00m²以上を測る。また、桁行の柱間距離は約1.8mである。

柱穴 4基以上の柱穴から成る。柱穴の平面形は円形若しくは楕円形で、長軸長0.42m~0.56m、深さ0.30m~0.35mである。埋土はP3、P4で柱痕跡を確認し、他は基盤層であるIVa層のブロック土を含む人為堆積である。

遺物出土状況 P2から土師器が1点、P3から土師器が2点、P4から土師器が2点出土した。P2はb層から、P3は柱抜取穴である4層から、P4は柱掘方埋土である4層から、それぞれ出土した。そのうち、2点を図示した。

出土遺物 11・12はS字甕である。いずれも台部片であり、端部の折り返しが明瞭である。

時期 柱穴出土遺物は古墳時代前期の土器であるが、いずれも小片であり、混入の可能性が否定できない。そのため、本遺構の時期は古墳時代前期以降と考えられる。

SB3(図32~34)

検出状況 C地点BF4~BG4グリッド、IVa層上面で検出した。各柱穴の検出時の平面形は、いずれも明瞭であった。

規模・形状 主軸方位がN-11°-Wの総柱建物である。P5は柱筋からずれているため側柱建物の可能性もあるが、柱穴の平面形状や検出時の埋土がP4、P6と類似しているため、総柱建物として報告する。平面形はほぼ正方形であり、南北2間(3.10m)、東西2間(3.10m)、床面積9.61m²を測る。柱間距離は約1.55mである。なお、P1とP4の西側に近接してSK210とSK214が、P9の南側には建物の東辺の柱筋上にSK226とSK227がそれぞれ位置している。これらの土坑とSB3との関連性は不明であるが、図33・34では土坑も含めて土層図を示した。

柱穴 9基の柱穴から成る。柱穴の平面形は隅丸長方形気味であり、長軸長0.43m~0.53m、深さ0.14m~0.38mである。このうち、建物の西辺に位置するP1とP7がやや浅い。埋土は基盤層であるIVa層のブロック土を含む人為堆積である。なお、底面の柱の当たりはP2とP8で確認した。

遺物出土状況 P5を除くすべての柱穴から土師器が出土している。その内訳は、P1が2点、P2が4点、P3が12点、P4が3点、P6が3点、P7が1点、P8が22点、P9が5点である。遺物が10点以上出土したP3とP8は上層から下層まで散在して出土した。しかし、いずれも小片である。そのうち、3点を図示した。

出土遺物 13~15はS字甕である。13はC類、14はB類であり、上段

の屈曲は13が外側に大きく張り出し、14が短い。15は台部片であり、端部の折り返しが明瞭である。

時期 柱穴出土遺物は古墳時代前期の土器であるが、いずれも小片であり、混入の可能性が否定できない。そのため、本遺構の時期は古墳時代前期以降と考えられる。

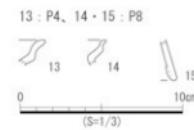


図32 SB3 遺物実測図

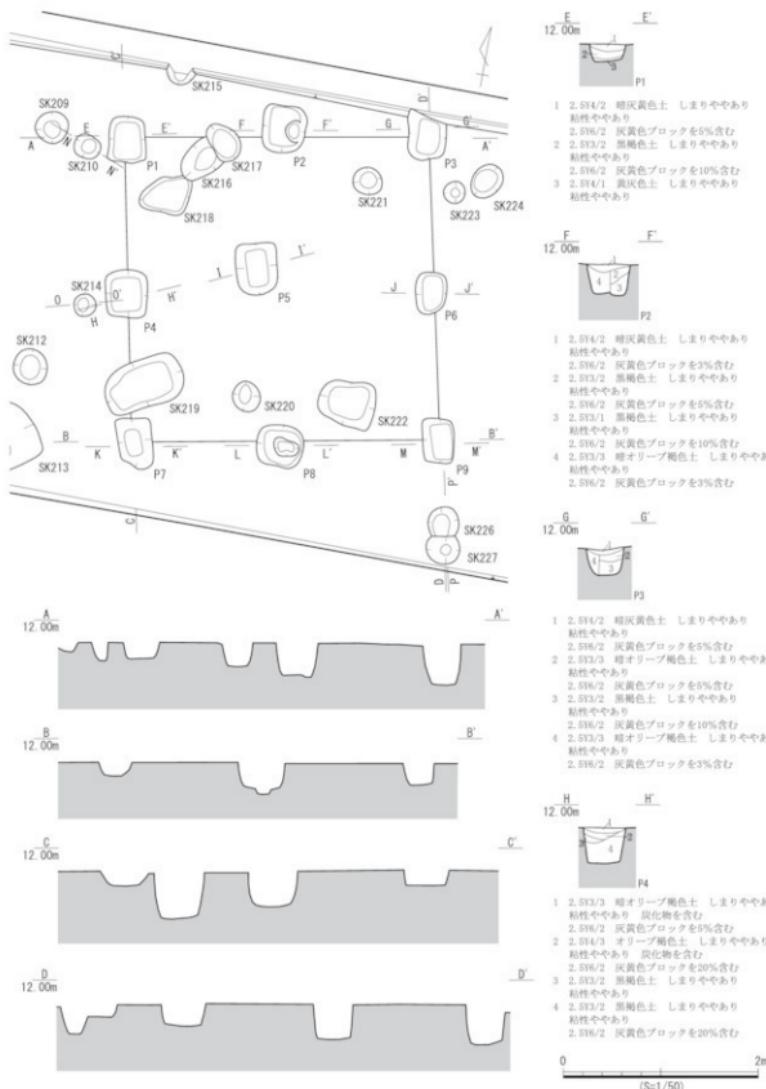


図33 SB3 遺構図（1）

34 第3章 調査の成果



図 34 SB3 遺構図 (2)

3 棚

SA2 (図 35・36)

検出状況 B地点AG6グリッド、IVa層上面で検出した。P1は擾乱溝に切られていたが、各柱穴の平面形は明瞭であった。なお、柱穴2基のみの検出であるが、検出時の埋土や規模が類似し、いずれも柱痕跡を認めたことから、棚として報告する。

規模・形状 P2は発掘区の壁際沿いに位置しており、南側に延びている可能性が高い。棚の方位はN-3°-Eで、柱間距離は1.60mである。なお、P2の西側にはSK58が位置する。SK58は浅い土坑であり、SA2との関係は不明であるが、検出面において焼土をわずかに出土した遺構であるため、図35ではSK58も含めて土層図を示した。

柱穴 2基の柱穴から成る。柱穴の平面形は梢円形であり、長軸長0.50m~0.53m、深さ0.41m~0.48mである。P1とP2は土層断面で柱痕跡を確認したが、P2は柱痕跡が底面まで達していなかった。

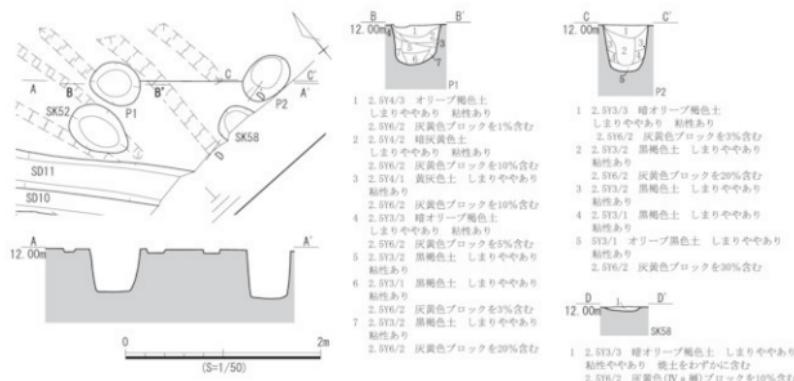


図35 SA2 遺構図



図36 SA2 遺物実測図

遺物出土状況 P1から土師器40点、P2から土師器55点が出土し、そのうち2点を図示した。なお、土層断面では柱痕跡を確認したが、遺物はいずれの遺構も検出面から底面まで散在して土師器片が出土しており、土層を誤認した可能性もある。

出土遺物 16・17はS字型である。いずれもC類であり、16は頸部と体部の境に一条の沈線が廻るが、17には沈線が認められず、体部外縁の横方向のハケ調整が頸部直下まで施される。

時期 柱穴出土遺物は古墳時代前期の土器であるが、いずれも小片であり、混入の可能性が否定できない。そのため、本遺構の時期は古墳時代前期以降と考えられる。

柱穴・土坑群（図37・38）

SB2からSD22の間では、複数の柱穴や土坑を検出した。しかし、発掘区の幅が約2.5m～4.0mと狭いため、検出した柱穴や土坑の性格について確定的なことがいえない状況である。そのため、ここでは柱穴・土坑群として報告し、そのなかで掘立柱建物や柵などを構成する可能性のある遺構や、それらに関連する遺構（図37で遺構番号を付した遺構）について述べる。

検出状況 C地点AG18～BG1グリッド、IVa層上面で検出した。このうち、SK179はSD22の埋土上面で検出し、SP21はSD22の埋土上面掘削後に溝の壁面で検出した。なお、各柱穴の平面形はSP19が不明瞭であったが、それ以外はいずれも明瞭であった。

配置の検討 <SP18・SP19> SP18は長軸長0.40m、深さ0.49m、SP19は長軸長0.46m、深さ0.24mである。両者を結ぶラインはSD22・23にはほぼ平行するものの、両者の深さの差は0.25mであり、一連の遺構ではない可能性が高い。

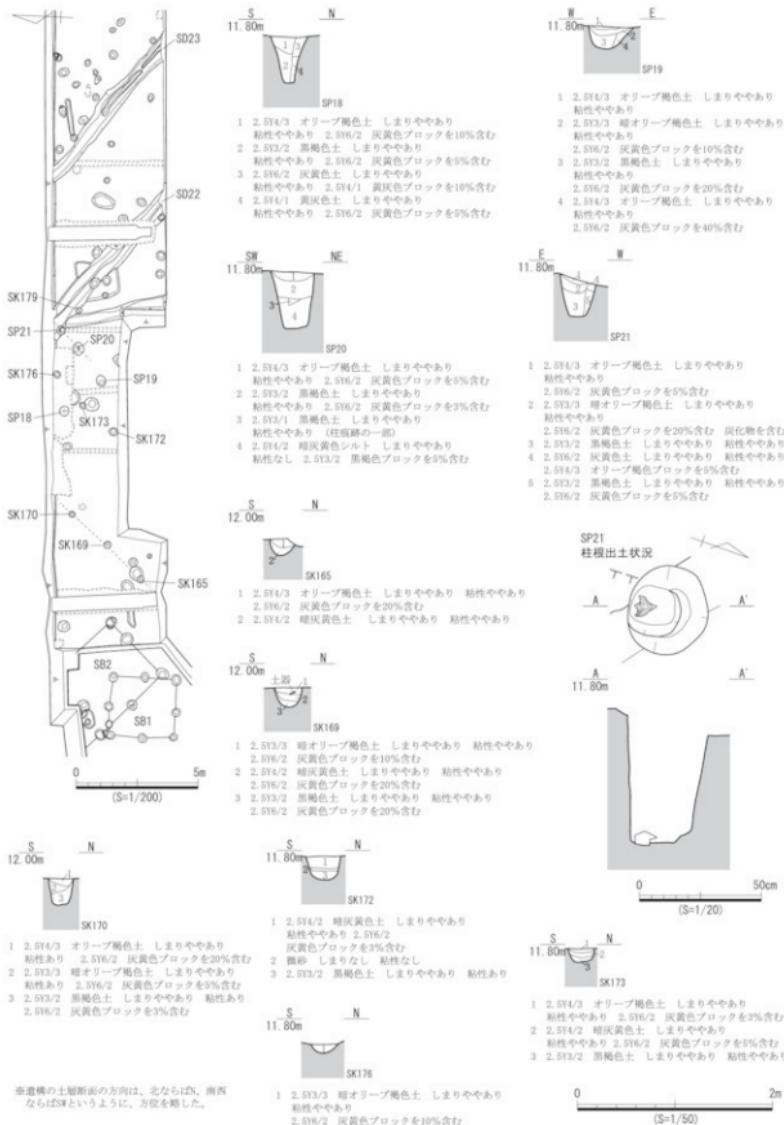


図37 柱穴・土坑群遺構図

古遺構の上層断面の方向は、北ならびに北西、南ならびに南東というように、方位を略した。

<SP20・SP21> SP20は長軸長0.46m、深さ0.59m、SP21は長軸長0.37m、深さ0.53mである。いずれも深く、SP21底面では柱根が残存していたことから、両者は掘立柱建物か柵である可能性が考えられる。柱の当たり間の距離は0.90mであり、柱の当たりを結ぶラインはSD22・23にほぼ直交する。なお、柱の当たりを結ぶラインに直交する位置にSK179があるものの、SK179はSD22埋土上面で検出した遺構であるため、SP21と同時存在ではない。

<SK165・169・170> SK165は長軸長0.28m、深さ0.18m、SK169は長軸長0.30m、深さ0.21m、SK170は長軸長0.26m、深さ0.29mである。SK170がやや深いものの、埋土中に基盤層であるIVa層のブロック土を含み、約1.65m間隔で直線的に並んでいる。また、SB2の南東辺にはほぼ平行し、SD22・23に直交することから、それらに関連する柵である可能性が考えられる。

<SK172・173・176> SK172は長軸長0.37m、深さ0.25m、SK173は長軸長0.28m、深さ0.15m、SK176は長軸長0.30m、深さ0.12mである。いずれも直線的に並んでおり、SD22に直交するものの、SK172の埋土には微砂が水平に堆積しており、他の土坑には認められないため、これらの土坑は一連の遺構ではない可能性が高い。

遺物出土状況 <SP18・SP19> 遺物は出土しなかった。

<SP20・SP21> SP20から土師器2点、SP21から木製品（柱根）1点が出土した。そのうち1点を図示した。

<SK165・169・170> SK169から土師器9点、SK170から土師器6点が出土した。SK169は検出面でS字彫が縦位で出土し、SK170は検出面から底面付近までにおいて散在して出土した。しかし、いずれも小片であり図示していない。

<SK172・173・176> SK172から土師器1点出土した。しかし、小片であり図示していない。

出土遺物 18は柱根である。芯持材であるが、腐食が著しく断面形状や調整等は不明である。

時期 出土遺物は古墳時代前期の土器であるが、いずれも小片であり、混入の可能性が否定できない。しかし、SP20・21とSK165・169・170はSB2やSD22に平行または直交しているため、古墳時代前期以降と考えられる。

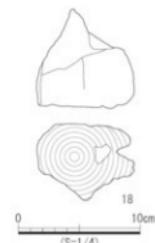


図38 SP21 遺物実測図

4 方形周溝墓

方形周溝墓は1基（SZ1）のみであるが、その周溝内で土坑1基（SK106）を検出したため、ここではSK106も併せて報告する。

SZ1（図39～41）

検出状況 A地点AB16～AB17グリッド、IVa層上面で検出した。西側をSD18に切られており、周溝埋土中においてSK106を検出し、埴丘の盛土掘削後にSD19を検出した。周溝の平面形は、北側が明瞭であったが、南側は不明瞭であった。なお、本遺構の溝から供献土器は出土していないが、溝が方形気味に廻ること、溝が廻る内側に盛土が認められること、溝幅が広くて深いこと、古墳時代前期以前の造営と考えられることなどから、方形周溝墓として報告する。

規模・形状 周溝南辺と盛土を確認したが、遺構の大半は発掘区外に位置する。周溝幅は3.26m、深さは0.94mであり、盛土は約0.25m残存していた。周溝の検出時は、黒褐色土が北西から南東方

向に帯状に延び、そこから北東方向に緩やかに曲がっていたが、周溝底面はほぼ直線的に西から東方に延びている。周溝壁面は崩落によるためかやや凹凸があるものの、その角度は急であり、底面は平坦である。なお、主体部は確認できなかった。

周溝埋土 A-A'で25層 (SK106埋土含む)、B-B'で19層に分層した。埋土は上から順に、およそ褐色土 (図39 A-A' の1~6層) →灰色土 (同14~23層) →黒色土 (同24・25層) である。褐色土を掘削すると、周溝西側に炭化物を含む黒褐色土の広がりを検出し、サブトレーンチを設定して土層を確認したところ、周溝埋土を切るような掘り込みが認められたため、周溝内に掘削された土坑 (SK106) と判断した。周溝の壁面沿いには、基盤層であるIVa層のブロック土を含む壁面崩落土が認められた。また、底面付近の堆積土 (A-A' 24層、B-B' 18層) は粘性が極めて高かった。土層断面 A-A' の14~15層以下は中央が窪む堆積であり、自然堆積と考えられる。一方、土層断面 A-A' の5~6層より上方の土層 (SK106埋没後の土層) には土器の小片が多く含まれ、基盤層であるIVa層のブロック土を全体的に含むことから、人為堆積の可能性が高い。なお、褐色土下にある灰色土は基盤層であるIVa層に類似し、両者の識別が困難であったため、発掘区東壁面にサブトレーンチを掘削して作業を進めた。

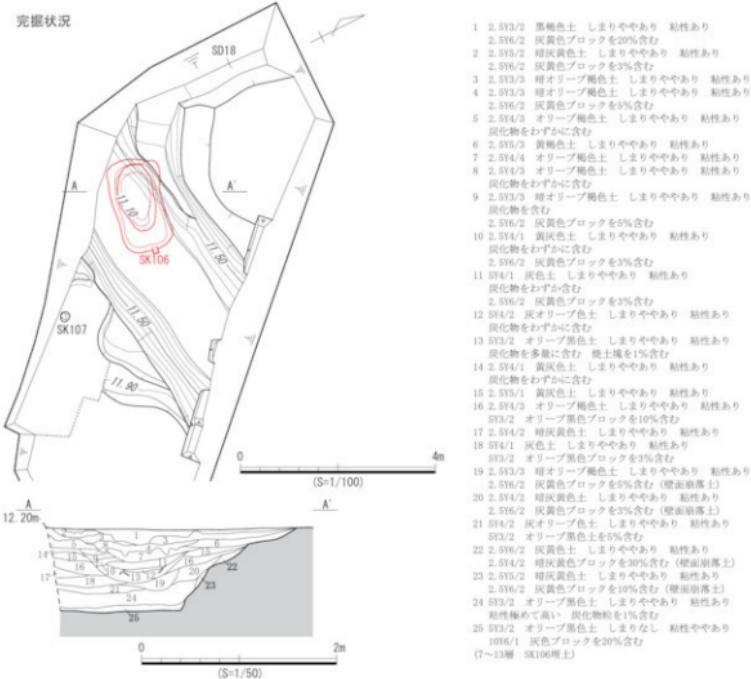
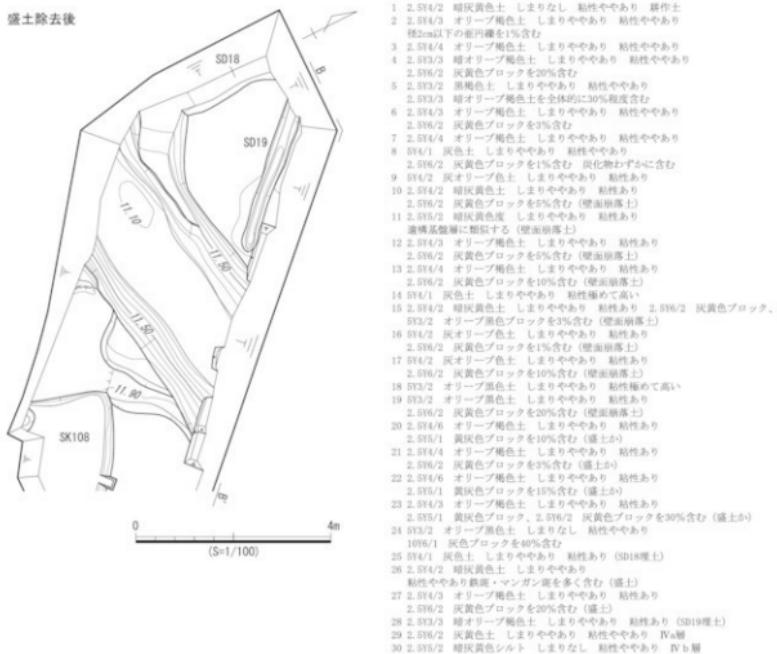


図39 SZ1 遺構図(1)

墳丘盛土 2層(B-B' の26・27層)に分層した。ほぼ水平堆積であり、下層(27層)は基盤層であるIVa層のブロック土を含む。また、図40 B-B' の20~23層も盛土、もしくはその崩落土である可能性が高い。

遺物出土状況 遺物は周溝内からのみ出土し、盛土からは出土していない。周溝内からは繩文土器1点、土器器883点、石器類1点が出土した。土器類は土層断面A-A'の5・6層よりも上層のみで出土し、14・15層以下の出土は皆無であった。また、いずれも小片が多く、周溝の埋没時に混入したと考えられる。石器類1点は周溝底面の南端で円礫が出土したが、使用痕が認められないため図化していない。

盛土除去後



(6~24 S21周溝埋土、26・27 S21墳丘盛土)

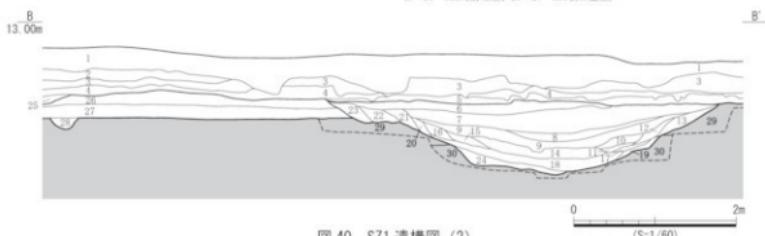


図40 S21遺構図(2)

なお、土師器11点を図化した。

出土遺物 19～21は柳ヶ坪型壺である。19は口縁部内外面にヘラによる羽状文が施され、体部と頸部の境に突帯を有する。20は器壁の厚い口縁部片であるが、磨滅が著しく文様が消滅している。21は底部が突出し、体部内面にハケメが明瞭に残る。22は長頸壺である。体部は球形を呈し、頸部は内湾気味にのびる。23～25はS字甕C類である。23は口縁部上段が上方へのび、頸部と体部の境に一条の沈線が廻らない。24・25は口縁部が外側に屈折し、頸部と体部の境に一条の沈線が廻る。26は布留式甕である。口縁部は内湾し、端部は肥厚し内傾する。27～29は有段高杯である。27は杯部が緩やかに立ち上がるが、28は杯部下方に稜を有する。29は上下に連なる2個一組の焼成前穿孔を3方向に配し、上段の穿孔付近に直径0.3cmの焼成後穿孔が穿たれている（写真2）。

時期 出土遺物から掘削時期の推定は困難であるが、SK106が古墳時代前期の遺構であるため、それ以前の造営と考えられる。

SK106（図42・43）

検出状況 A地点AB16グリッド、SZ1周溝埋土掘削中に検出した。本遺構の埋土と周溝埋土は色調が明らかに異なっており、遺構の北側には炭化物が帶状に認められた。

規模・形状 長軸長1.94m、短軸長1.03m、深さ0.29mであり、やや不整形ではあるが隅丸方形気味の平面形である。壁面の傾斜は緩く、底面は中央から西側にかけて梢円形状に浅く窪む。

埋土 8層に分層した。炭化物や基盤層であるIVa層のブロック土を含む層が目立ち、特に6層は炭化物を多量に含み、焼土粒が散在していた。また、7・8層は黒色土や黒褐色土の混入は認められた

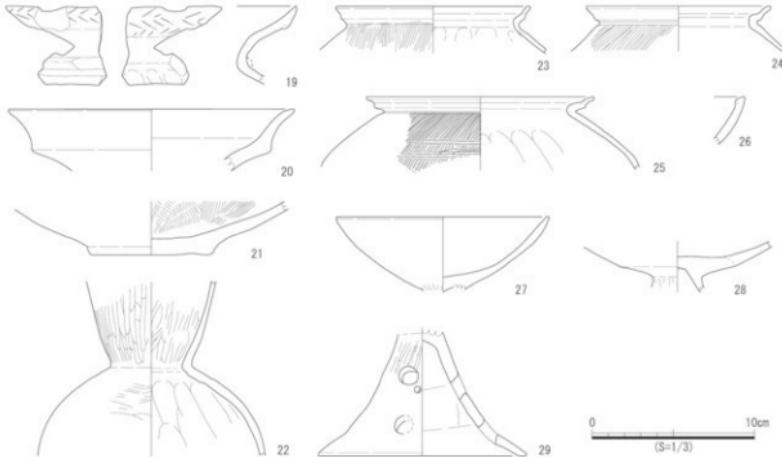


図41 SZ1遺物実測図



写真2 29 小穿孔

ものの炭化物は確認できず、6層とは明らかに異なっていた。いずれの層も人為堆積である。

遺物出土状況 土師器534点、石器類3点が出土した。凝灰岩製砥石(44)は、土坑検出面にて横位で出土した。また、S字甕(34・35)は3層と6層の層界付近にて、大半の破片が内面を上にして出土した。6層からはS字甕の直下から細かく割れた甕(32)の体部破片が散在して出土したが、口縁部の破片は出土しなかった。なお、底面付近からは、横位の高杯脚部(41)や叩石(43)なども出土した。そのうち、15点を図示した。

出土遺物 30～42は土師器、43・44は石器である。30は柳ヶ坪型甕であり、口縁部内外面にクシに

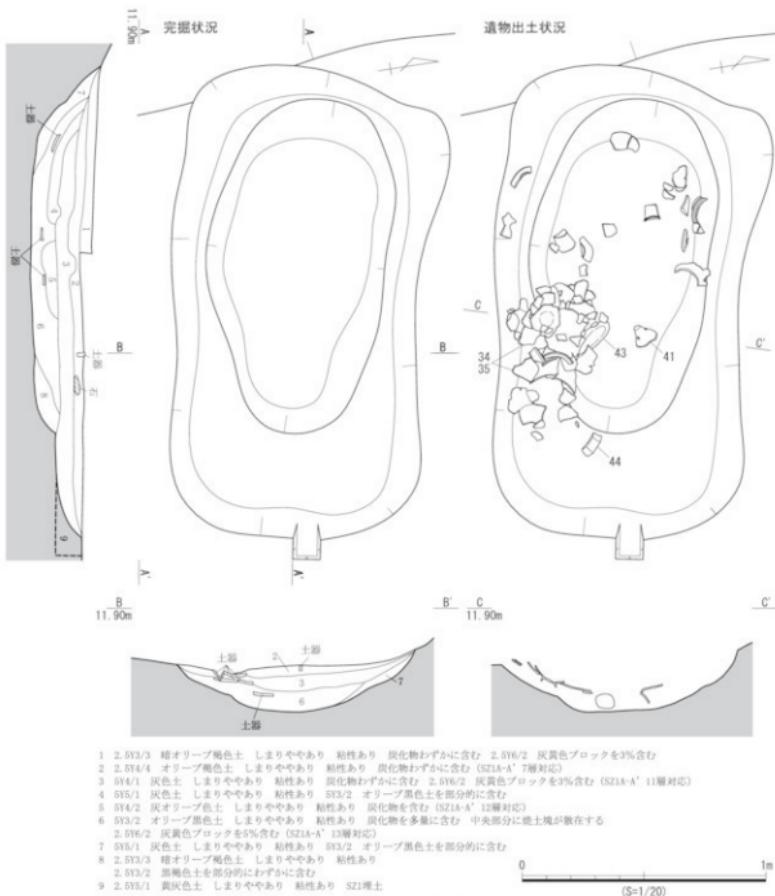


図42 SK106 遺構図

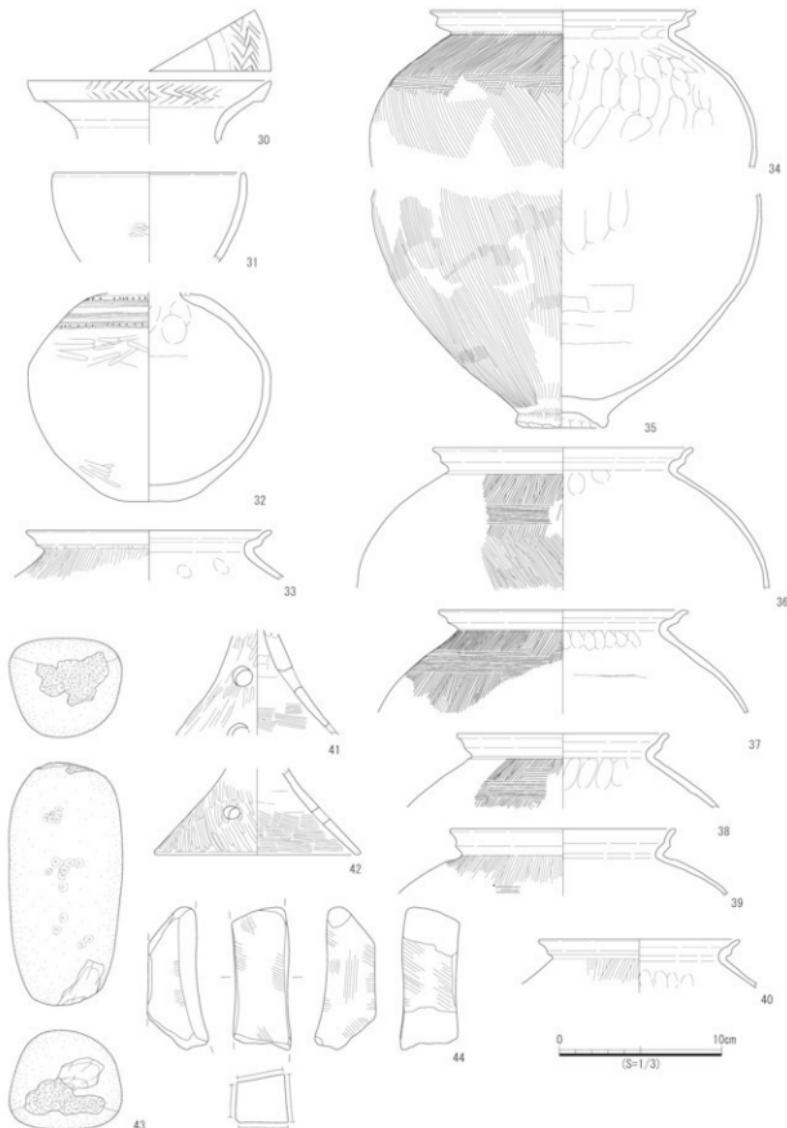


図 43 SK106 遺物実測図

より羽状文が施される。31は中型壺である。口縁部が内湾し、端部を丸く収める。32は壺である。底部は平坦で、体部の最大径は中央よりやや上にある。体部外面上方にはクシによる刺突文が2段に分かれて施され、その間に横線文が施される。細かく割れた破片が



写真3 32接合状況



写真4 35台部打欠き状況

接合したが、体部中程には接合できない範囲が不整形に残り、土器の表面が剥落している（写真3）。33～40はS字甕であり、34と35は同一個体の可能性が高い。33～36はB類である。34は口縁部下段が長く、上段と下段の境に明瞭な稜を有するが、33と36は口縁部下段が短く、33は上段と下段の境の稜が明瞭ではない。35は台部を細かく打ち欠いており、剥離面が磨滅している（写真4）。なお、33～36はいずれも外面に煤が、34・35の内面には炭化物が、それぞれ付着している。37～40はC類である。37・40は口縁部が外側に屈折しているが、38・39は上方へのびている。41・42は有段高杯（又は器台）である。脚部外面のミガキ調整は、41が縦方向、42が斜め方向であり、41は表面が二次的に被熱している。43は叩石である。長楕円形を素材とし、上下面と側面に敲打痕が認められ、上下面是敲打により面が潰されている。44は砥石である。方柱状を呈し、上下面是破損している。砥面は4面認められ、使用により中央部が窪んだ凹面をなす。

時期 出土遺物の時期から、古墳時代前期と考えられる。なお、本遺構から供獻土器と判断できる出土遺物はなかったが、台部を打ち欠いたS字甕や口縁部を除いて接合できた細かく割れた壺、凝灰岩製砥石などの特異な遺物が出土したことや、周溝内に掘削された土坑であること、埋土中に炭化物が多量に含まれることなどから、本遺構は土坑墓の可能性がある。

5 焼土

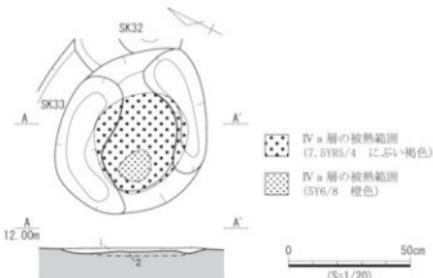
SL1（図44）

検出状況 B地点AG5グリッド、IV a層上面で検出した。本遺構はSK32とSK33を掘削した後に検出した遺構であり、検出時に炭化物が遺

構周縁に沿って認められた。

規模・形状 長軸長0.62m、短軸長0.47m、深さ0.06mであり、不整円形を呈する。埋土を掘削すると中央部がわずかに盛り上がり、長さ約0.4mの楕円形を呈する被熱面を確認した。なお、壁面の傾斜は緩やかである。

埋土 単層であり、基盤層であるIV a層のブロック土を含む人為堆積である。埋土直下の被熱面はおよそ2色に分かれ、南西側の色調（5Y6/8橙色）が濃い。



1 2.5Y3/3 緑オリーブ褐色土、しまりややあり、粘性あり
2.5Y6/2 橙黄色ブロックを3%含む 口縁部に炭化物を含む
2 基盤層 (IV a層) の被熱範囲

図44 SL1 遺構図

遺物出土状況 1層から土師器2点が出土したが、いずれも小片であり図示していない。

時期 本遺構より新しいSK33は古墳時代前期の土師器の小片が20点以上出土しているが、いずれも小片であり、古墳時代前期以降の遺構といえる。そのため、SK33に切られる本遺構はそれ以前と考えられる。

6 土坑

SK2（図45・46）

検出状況 B地点AG1グリッド、SD3の埋土上面で検出した。本遺構とSD3の埋土が類似しており、平面形は不明瞭であった。

規模・形状 西側と南側は発掘区外に位置し、残存長軸長0.58m、残存短軸長0.46m、深さ0.16mである。底面はほぼ平坦であり、壁面の傾斜は急である。

埋土 2層に分層した。いずれも粘性のある土であり、層界にやや凹凸が認められるものの、ほぼ水平に堆積している。土師器1個体分の土器片がまとめて出土したことや、層界に凹凸が認められることから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器が45点出土した。その多くが1層と2層の層界付近から横位で出土しているが、発掘区壁面まで土師器片が入り込んでいたため、発掘区の埋め戻し前に可能な限り採取した。そのうち、2点を図示した。

出土遺物 45・46は宇田型甕であり、同一個体の可能性が高い。台部は器壁が厚く、ハの字状に大きく開く。体部は長胴で丸みを帯び、外面に斜め方向の粗いハケ調整が交差して施される。口縁部は外反し、端部を外側につまみ出す。なお、台部から口縁



図45 SK2 遺構図

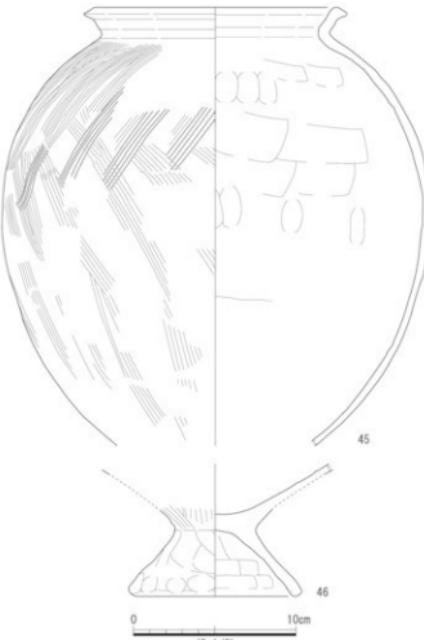


図46 SK2 遺物実測図

部外面に煤が、体部内面下方に炭化物が付着している。

時期 出土遺物の時期から、古墳時代中期と考えられる。

SK100（図47・48）

検出状況 B地点AG11グリッド、SI1の掘方底面で検出した。北東側をSI1-P1に、西側をSD15に切られている。なお、平面形は不明瞭であった。

規模・形状 南側は発掘区外に位置し、残存長軸長0.92m、残存短軸長0.54m、深さ0.24mである。底面は丸みを帯び、そのまま壁面に向かって緩やかに傾斜する。

埋土 4層に分層した。いずれも基盤層であるIVa層のブロック土を含む人為堆積であり、埋土は東から西に向かって傾斜している。

遺物出土状況 底面中央付近で石器2点が斜位で出土した。そのうち1点を図示した。

出土遺物 47は叩石である。長楕円碟を素材とし、下面と側面に敲打痕が認められ、側面の敲打痕は大きく2箇所に分かれている。また、表面が被熱しており、側面の敲打痕は被熱前、下面の敲打痕は被熱後の痕跡である。

時期 古墳時代前期のSI1に切られることから、それ以前と考えられる。

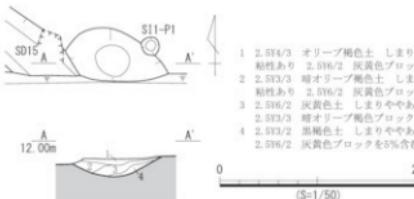


図47 SK100 遺構図

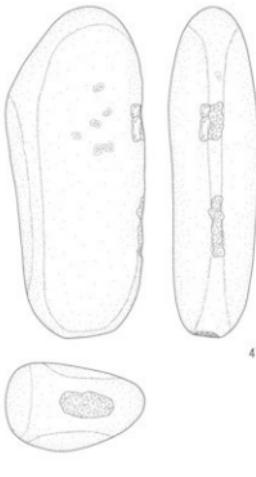


図48 SK100 遺物実測図

SK103（図49・50）

検出状況 B地点AG12グリッド、SD17埋土

掘削中にその壁面で検出した。西側はSD17底面のIVa層上面で、東側はSD17最下層の砂礫層上面で遺構を検出したことから、SD17が掘削されてから間もなくして本遺構が掘削されたと考えられる。なお、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.72m、短軸長0.35m、深さ0.61mであり、楕円形を呈する。壁面の傾斜はほぼ垂直であり、底面は丸みを帯び、

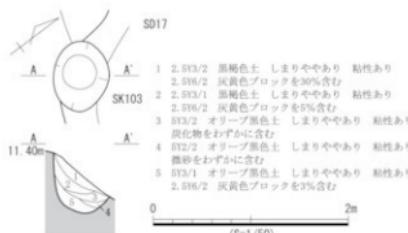


図49 SK103 遺構図

中央北寄りが最も深い。

埋土 5層に分層した。基盤層であるIV a層のブロック土を含む人為堆積であるが、SD17に堆積している砂礫層は認められなかった。

遺物出土状況 土器師9点が出土した。そのうち、S字型台部（48）が底面付近において正位で出土した。このうち、2点を図示した。

出土遺物 48・49はS字型である。48は台部外面に連続する斜め方向のハケメが縦位に残り、体部は打ち欠かれている。49はB類であり、体部外面の横方向のハケ調整が頸部直下まで及んでいる。

時期 SD17が掘削された時期に近いことと出土遺物の時期から、古墳時代前期と考えられる。

SK104（図51・52）

検出状況 B地点AH12グリッド、IV a層上面で検出した。検出時には中央から北側にかけて黒色土が長方形気味に認められ、その周囲に暗褐色土が広がっていた。なお、平面形は不明瞭であった。

規模・形状 南西側はわずかに発掘区外に延び、長軸長1.28m、短軸長1.04m、深さ0.16mであり、全体的には不整円形気味である。壁面は東側と南側に平坦面を有し、底面は北西側が隅丸方形気味に窪む。

埋土 3層に分層した。層界に凹凸が認められ、1・2層は基盤層であるIV a層のブロック土を含む人為堆積である。また、3層は土坑周縁部のみに認められた堆積土である。なお、土層観察では、検

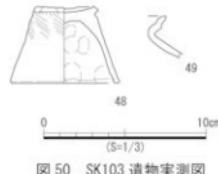


図50 SK103 遺物実測図

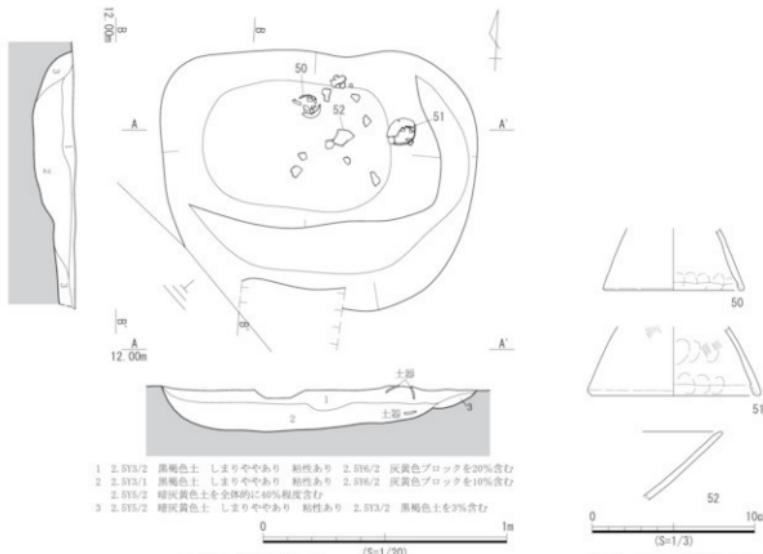


図51 SK104 遺構図

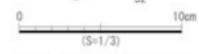


図52 SK104 遺物実測図

出時に認められた黒色土と暗褐色土の差が判然としなかった。

遺物出土状況 土師器 74点が出土した。検出時において土師器片が多く出土し、S字甕の脚部片（50・51）が正位で、有段高杯の杯部片（52）が横位で、それぞれ出土した。これらのうち、3点を図示した。

出土遺物 50・51はS字甕である。いずれも端部の折り返しが明瞭であるが、表面の磨滅が著しい。52は有段高杯である。杯部は器壁が薄く直線的にのり、口縁端部は尖り気味である。

時期 出土遺物の時期から、古墳時代前期と考えられる。なお、本遺構は底面の掘方が方形を呈することと、遺物が長軸の一方向に偏って出土していることなどから、土坑墓の可能性がある。

SK185（図53・54）

検出状況 C地点BG1 グリッド、IV a層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長 0.39m、短軸長 0.36m、深さ 0.28m であり、円形を呈する。底面はほぼ平坦であり、壁面の傾斜は急である。

埋土 3層に分層した。基盤層であるIV a層のブロック土を含む人為堆積であり、2～3層に炭化物が認められた。

遺物出土状況 土師器 21点が出土した。多くの土器が小片であり、散在して出土した。このうち、1点を図示した。

出土遺物 53は壺である。丸みを帯びる肩部の破片であり、外面に2段の横線文とその間にヘラによる波線文が施される。

時期 出土遺物の時期は古墳時代前期であるが、多くは小片であるため混入の可能性が否定できない。そのため、本遺構の時期は古墳時代前期以降とする。

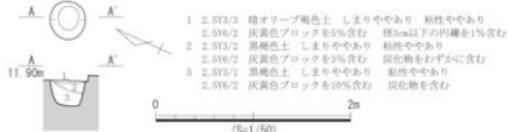


図 53 SK185 遺構図

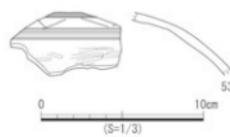


図 54 SK185 遺物実測図

SK237（図55・56）

検出状況 C地点BG6 グリッド、IV a層上面で検出した。東側に現在の水田への給水溝が通過しており、南側は発掘区外に位置する。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 残存長軸長 1.32m、残存短軸長 1.22m、深さ 0.13m であり、円形を呈している。断面形は浅い皿状を呈し、底面は緩やかに窪む。

埋土 2層に分層した。下層に基盤層であるIV a層のブロック土を含むことや、土器の小片が多く出土したことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器 171点が出土した。多くの破片が1層と2層の層界から横位で散在して出土した。このうち、1点を図示した。

出土遺物 54は広口壺である。口縁部は外反し、端部は垂下する。また、体部外面上方に横線文が施される。

時期 出土遺物の時期から、古墳時代前期と考えられる。しかし、遺構が浅く、土器の多くは小片で

あるため、混入の可能性が否定できない。遺構の性格は不明であるが、遺物がまとまって横位で出土した点は他の遺構と比較して特異であるといえる。

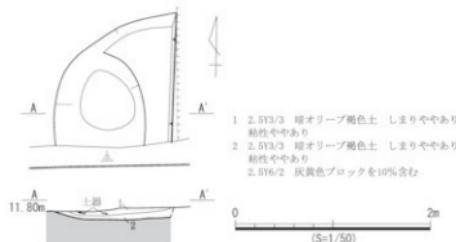


図 55 SK237 遺構図



図 56 SK237 遺物実測図

7 柱穴

SP4 (図 57・58)

検出状況 B地点 AG5 グリッド、IV a 層上面で検出した。平面形は不明瞭であり、柱痕跡部分はやや明るい発色に見えた。

規模・形状 長軸長 0.34m、短軸長 0.27m、深さ 0.30m であり、円形を呈する。壁面はほぼ垂直であり、底面東側に柱の当たりを確認した。

埋土 3層に分層した。1層が柱痕跡、2・3層が柱掘方埋土であり、2・3層は基盤層であるIV a 層のブロック土を多く含む。

遺物出土状況 土師器 7点が出土し、柱の当たりで高杯脚部片 (55) が内面を下にして出土した。このうち、1点を図示した。

出土遺物 55 は有段高杯（又は器台）である。上下に連なる 2 個一組の穿孔を 3 方向に配し、脚裾部はわずかに内湾する。

時期 柱の当たりから出土した遺物の時期から、古墳時代前期以降と考えられる。



図 57 SP4 遺構図

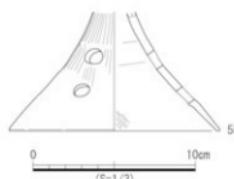


図 58 SP4 遺物実測図

8 溝状遺構

SD2 (図 59・60)

検出状況 B地点 AF2～AG2 グリッド、SD3 上面で検出した。平面形は、西辺が明瞭に確認できたものの、東辺は不明瞭であった。なお、遺構の西壁面の傾斜が急であることや底面が平坦であることなどから溝状遺構と判断したが、SD3 の埋土の一部である可能性もある。

規模・形状 北から南方向にかけて蛇行しており、南北端は発掘区外に延びる。幅1.48m、深さ0.14mであり、底面は平坦で、西側に向かって下降している。壁面の傾斜は西側が急、東側が緩やかであり、底面標高は北側が高く、南側が低い。

埋土 3層に分層した。1層は微砂を含む黒褐色土であり、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器91点が出土した。小片が多く、底部穿孔のあるS字甕(58)は底面中央北寄りで体部内面を上にして出土した。そのうち、4点を図示した。

出土遺物 56は有段口縁甕である。口縁部の器壁が厚く、端部に平坦面を有する。57・58はS字甕で

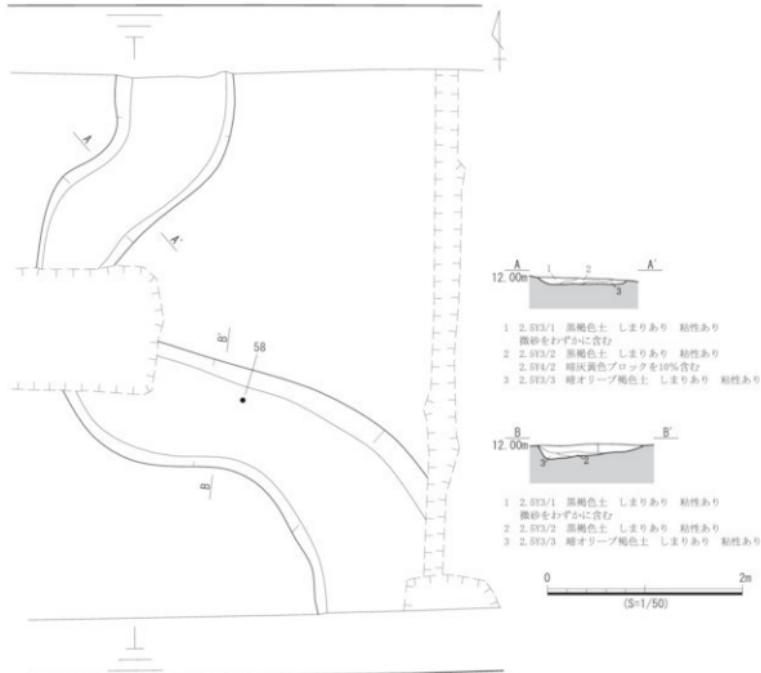


図59 SD2 遺構図

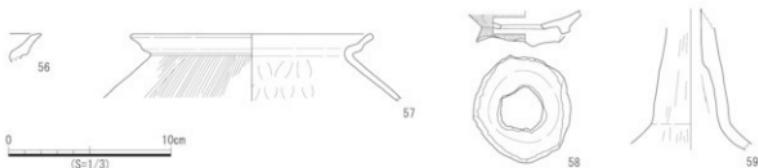


図60 SD2 遺物実測図

ある。57はC類で、頸部と体部の境に一条の沈線が廻る。58は底部に不整形の穿孔があり、台部を打ち欠いている。また、体部外面に煤が付着しているが、穿孔部と台部の打欠き面には煤が付着していない。59は屈折脚高杯である。表面の磨滅が著しいものの、外面に縦方向のヘラナデ調整の痕跡が認められる。

時期 出土遺物の時期から、古墳時代前期末以降と考えられる。

SD3（図61・62）

検出状況 B地点AF1～AG2グリッド、IVa層上面で検出し、SK2やSD2などに切られる。検出面には黒褐色土が全面に広がっており、平面形は明瞭であった。

規模・形状 溝の上端は東辺のみ検出し、他は発掘区外に位置する。溝の残存幅は約6.5m、深さ0.88mであり、発掘区西端を底面中央付近とするならば、溝の復元幅は約13mとなる。東辺の検出ラインは直線的であったが、検出面から約0.1m掘削すると西側に弧状に張り出す広い平坦面があった。平坦面から底面にかけては緩やかに下降し、斜面南側や底面は凹凸が著しい。

埋土 10層に分層した。3層は粗砂を多く含むシルト層であり、浅い落ち込みとして発掘区の北端から南端まで認められたことから、3層堆積時には緩やかな流水があったと考えられる。また、4層は炭化物が帶状に堆積し、5層は全体的に炭化物が含まれており、4・5層が堆積していた頃は草本類が生育した湿地状の環境であったと考えられる。10層にも微砂が堆積していることから、本遺構は流水状態と滞水状態を繰り返しながら埋没したと考えられる。

遺物出土状況 弥生土器1点、土師器851点、石器類9点、木製品20点が出土した。土器類は小片が多く、散在して出土した。そのうち、パレス壺(147)は斜面の凹部にて口縁部を上にして出土した。また、勾玉(36)は西側に弧状に張り出した広い平坦面が下降しはじめる箇所にて横位で出土した。いずれも出土遺物周辺に炭化物集積などの特異な状況は確認できなかった。また、発掘区西端の底面において、溝の下端ラインに平行して長さ147cmと166cmの木材が2点出土した。木材は杭等による固定は認められず、表面の腐食が著しく、加工痕は認められなかった。出土遺物のうち、16点を図示した。

出土遺物 68は弥生土器、60～67・69～74は土師器、75は石製品である。60はパレス壺である。頸部はほぼ直立し、口縁部は有段状を呈する。口縁部内面は内湾するが、表面の磨滅が著しいため文様帶は認められない。口縁部外面には4条の横線文が施され、赤彩がわずかに残る。61は柳ヶ坪型壺である。体部外面上方に横線文が2段に分かれて施され、その間にクシによる波状文が施される。62～66はS字甕である。62・63はB類であり、いずれも口縁部上段と下段の境に明瞭な稜を有する。64・65はC類であり、64は口縁部上段の器壁が薄く、65は口縁端部に平坦面を有する。66は底径10.6cmの大型の台部であり、外面に煤が付着している。67は布留式甕であり、口縁端部が肥厚する。68～70は有段高杯である。68のみ弥生時代後期に属し、杯部内外面に縦方向のミガキ調整が施される。69は口縁部内面が肥厚し、多条沈線文が施され、口縁端部は丸みを帯びる。70は直径1.4cmの穿孔を3方向に有し、今回の調査で出土した他の高杯と比較すると、一回り大きな穿孔といえる。71～74は屈折脚高杯である。71は器壁が薄く、脚柱部下方に爪状の圧痕が残り、脚端部が下方に突出する。72は二次的に被熱しており、土器の表面が層状に剥離している。73は杯底部内面が平坦であり、口縁端部がわずかに外反する。74は楕状の杯部を有し、口縁端部が内傾する。75は勾玉であり、滑石

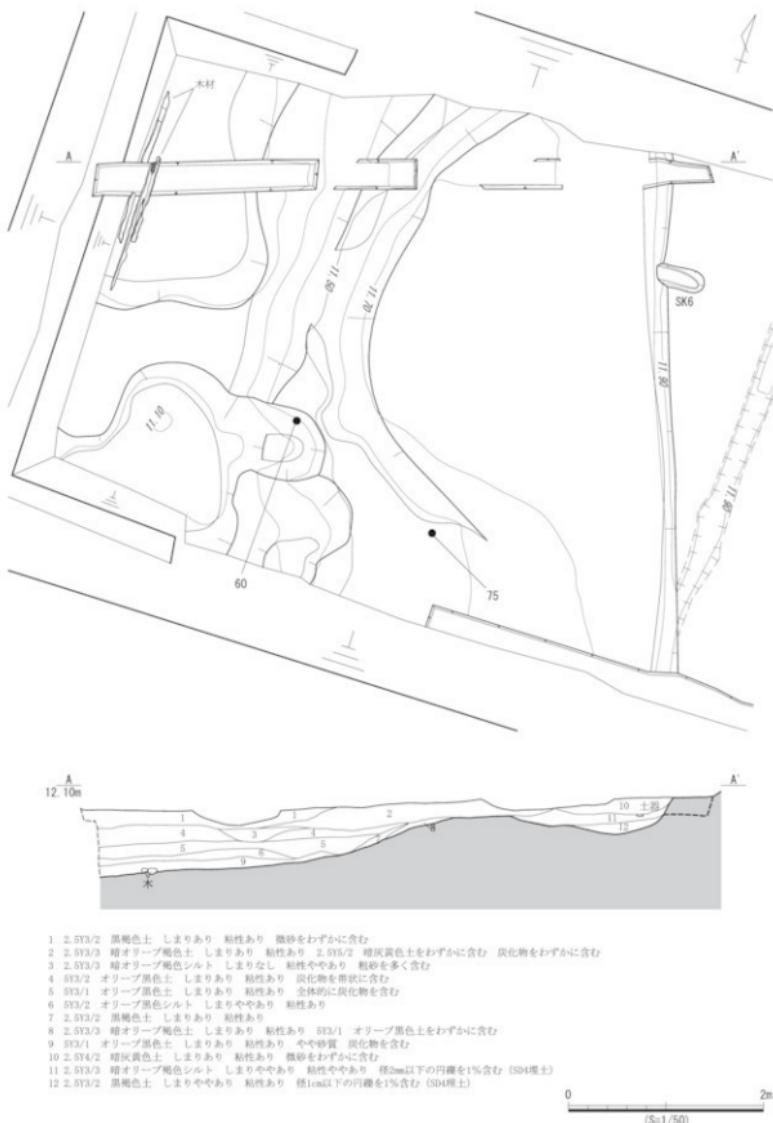


図 61 SD3 遺構図

製で暗緑灰色を呈する。全体形は均整のとれたC字形を呈し、頭部と尾部は丸みを帯びている。表面の研磨は丁寧で、抉り部に成形の際の線状痕が残り、抉り幅は0.7cm、抉りの深さは0.4cmである。穿孔は片面穿孔で、孔径は0.2cmである。

時期 出土遺物の時期から、古墳時代前期には掘削されており、SK2が掘削される古墳時代中期には埋没していたと考えられる。

SD10～12（図63・64）

検出状況 B地点AG5～AG6グリッド、IVa層上面で検出した。3条の溝が重複しており、SD10が最も新しく、SD12が最も古い。SD10とSD11はほぼ平行していたが、埋土が明らかに異なり、北端の掲乱坑の壁面において埋土が切り合っていることを確認したため、別遺構と判断した。また、SD12は3条の溝の中では最も深く、SD10・11の底面でその平面形を確認できた。なお、いずれも平面形は明瞭であり、南北端は発掘区外に延びる。

規模・形状 SD10は幅0.50m、深さ0.12m、SD11は幅0.47m、深さ0.18m、SD12は幅0.58m、

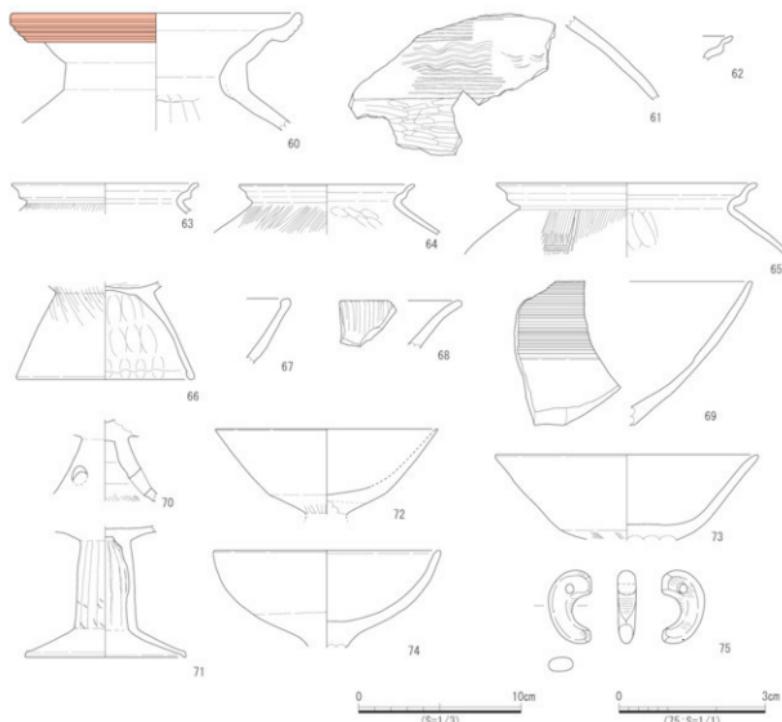


図62 SD3 遺物実測図

深さ 0.45 m である。いずれも北西から南東方向に延びているが、直線的ではなく、緩やかに湾曲している。SD10・11は底面がやや丸みを帯び、壁面の傾斜は急であるが、SD12は底面がほぼ平坦で、下方の壁面はほぼ垂直であり、上方は外側に開く。また、底面はいずれもほぼ平坦であり南北端の標高差がほとんどない。

埋土 SD10・11は3層に、SD12は7~8層に分層した。SD10・11は中央若しくは崖みが偏った堆積であり、SD11は層界に凹凸が認められる。SD12は北側では東からの流入、南側では西からの流入が認められ、最下層は粘性が極めて高いオリーブ黒色土が堆積していた。なお、いずれも基盤層であるIVa層のブロック土を多く含んでおり、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 SD10から土師器32点、SD11から土師器52点、SD12から土師器109点が出土した。いずれも小片が多く、SD10は1層若しくはa層のみから、SD11はすべての埋土から、SD12は7層以外の埋土から、それぞれ散在して出土した。そのうち2点を図示した。

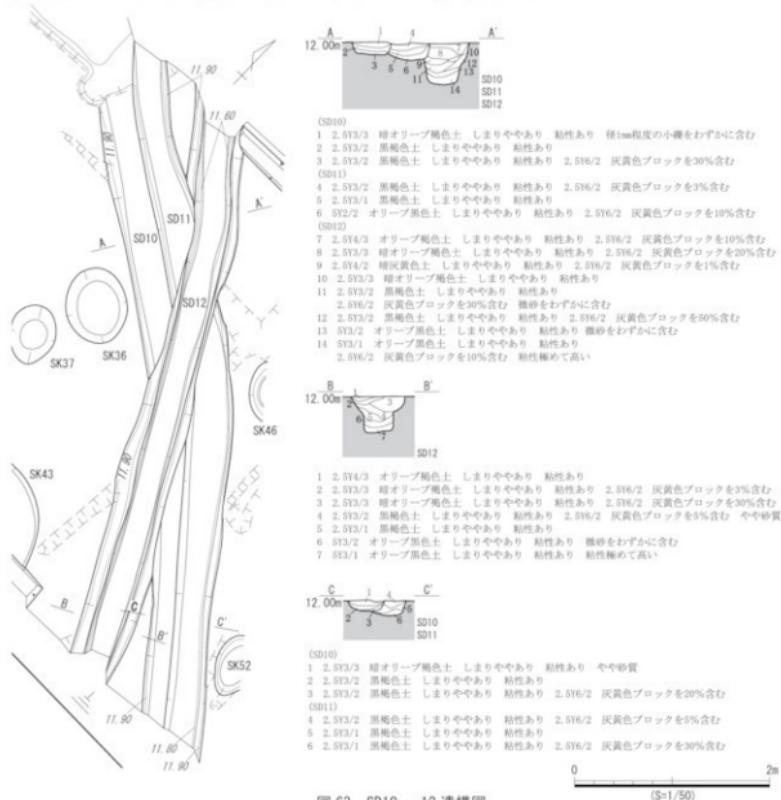


図 63 SD10 ~ 12 遺構図

出土遺物 76は高杯である。残存状態が悪く、有段高杯か屈折脚高杯かの判断ができない。77は柳ヶ坪型壺である。土器の表面が荒れており、文様帶が認められない。

時期 出土遺物の時期は古墳時代前期であるが、多くは小片であり、残存状態も悪いため、混入の可能性が否定できない。そのため、いずれの遺構の時期も古墳時代前期以降とする。

SD15 (図 65)

検出状況 B地点AG8～AG10グリッド、IVa層上面で検出した。南側でS11-壁際溝1、S12-壁際溝2に切られ、北側でSD14に切られる。検出面の埋土はシルトであり、平面形は明瞭であった。

規模・形状 幅0.26m、深さ0.11mであり、西から南東方向に向かって緩やかに湾曲して延びている。断面形は浅い皿状を呈し、底面標高は西側が高く、南東側が低い。

埋土 2～3層に分層した。1・2層はシルトであり、炭化物をわずかに含む。2層には流水堆積を示す筋状の微砂を確認したことから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器1点が出土した。しかし、小片であり図示していない。

時期 S11とS12の壁際溝に切られていることから、古墳時代前期以前と考えられる。

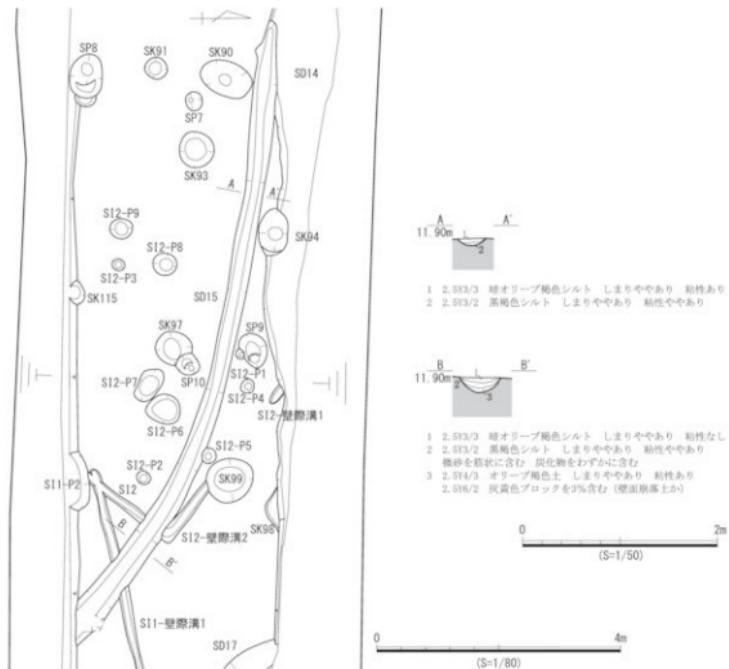


図 65 SD15 遺構図

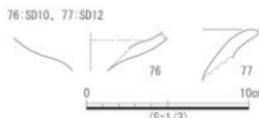


図 64 SD10・12 遺物実測図

SD17（図 66～88）

検出状況 B地点 AG12～AI13グリッド、IV a 層上面で検出した。南北方向に延びる搅乱溝に切られていたが、平面形は明瞭であった。なお、SD17が位置するB地点は、発掘区の都合で4分割して調査を行っており、SD17付近は図66の南北の搅乱溝から東側を先行して調査し、その範囲の掘削が約7割終了した時点で西側の調査を実施した。そのため、溝の土層断面を溝の最大幅であるA-A' ラインで作成することができず、B-B' ラインで作成した。

規模・形状 溝の西辺のみ検出し、他は発掘区外に位置する。溝の残存幅は約5.4m、深さ1.19mであり、溝の復元幅は約6.0mである。溝の底面はおよそ北北西から南南東方向に向かって延びているが、溝の上端ラインは、北端と南端がやや西側に湾曲している。壁面は西壁面中程に幅の狭い平坦面を有し、それより下は急角度で落ち込む。東壁面にも平坦面を有するが、その平坦面は南東側が高く、北西側に向かって緩やかに下降している。底面は中央部分が最も深く、底面標高は中央から北側にかけて深い。

埋土 30層に分層した。1層は検出面のほぼ全域で確認でき、その下部は中央部分が最も低かった。また、2・3層は溝状に埋む土層であり、3層には直径2cm以下の円礫が多く認められた。なお、先行して調査を実施した南北の搅乱溝から東側では確認できなかったが、西側では1層を水平に掘削している途中で幅約1.0mの黒褐色土を帶状に検出した。その延長ラインがB-B' の2・3層部分に相当することから、2・3層をSD17の再掘削痕と判断し、黒褐色土の平面形をSD16とした（図67）。4層から14層までは土器を多く含む埋土であり、特に13・14層は土器の包含量が多く、粘性が極めて高い土であった。また、西壁面沿いの9～11層は基盤層であるIV a 層のブロック土を含み、東壁面沿いの15層も全体的に同様の土が含まれることから、壁面崩落土と判断した。16・17層は灰オリーブ色を呈する。13・14層より上層では黒色～黄灰色を呈していたが、16層になると明るい色調となり、調査中は16・17層上面で面的に掘削深度を揃えた。18層以下では砂礫やシルトの堆積が目立つ。18・20層は粗砂若しくは砂礫であり、その間層である19・21層には植物遺体が認められるところから、流水状態と滯水状態が繰り返されていたと考えられる。また、26・27層は基盤層であるIV b 層に類似するブロック土を含むことから壁面崩落土と考えられ、最下層である30層にはやや粒径の大きな円礫が認められた。

遺物出土状況 繩文土器1点、弥生土器3点、土師器8,570点、須恵器14点、石器類34点、木製品301点、種子19点、貝殻31点が出土した。最も出土点数の多い土師器は、検出面から底面までの壁面崩落土を除く堆積土から出土しており、特に13・14層と18層からの出土が多い。また、須恵器は人工層位のa層のみの出土であり、木製品は1点を除いていずれも16層以下から出土し、種子、貝殻もすべて16層以下の出土である（図68・69）。そのため、以下に1～3層、4～15層、16～30層に分けて記載する。

1～3層 須恵器、土師器、石器類が出土した。須恵器は、平面的にはSD16の西辺に沿う位置から出土している（図68）。82の無台坏は溝状遺構の中央付近でまとまって出土した（図71D-D'）が、内面を上や下に向けた破片や横位や縦位の破片があり、破片の向きは様々であった。土師器は散在して出土し、小片が多い。そのうち、78のS字甕と80・81の屈折脚高杯は溝状遺構の西端で出土した（図71E-E'）。S字甕は口縁部～体部内面を上にして出土し、屈折脚高杯片はS字甕片に接して出土した。

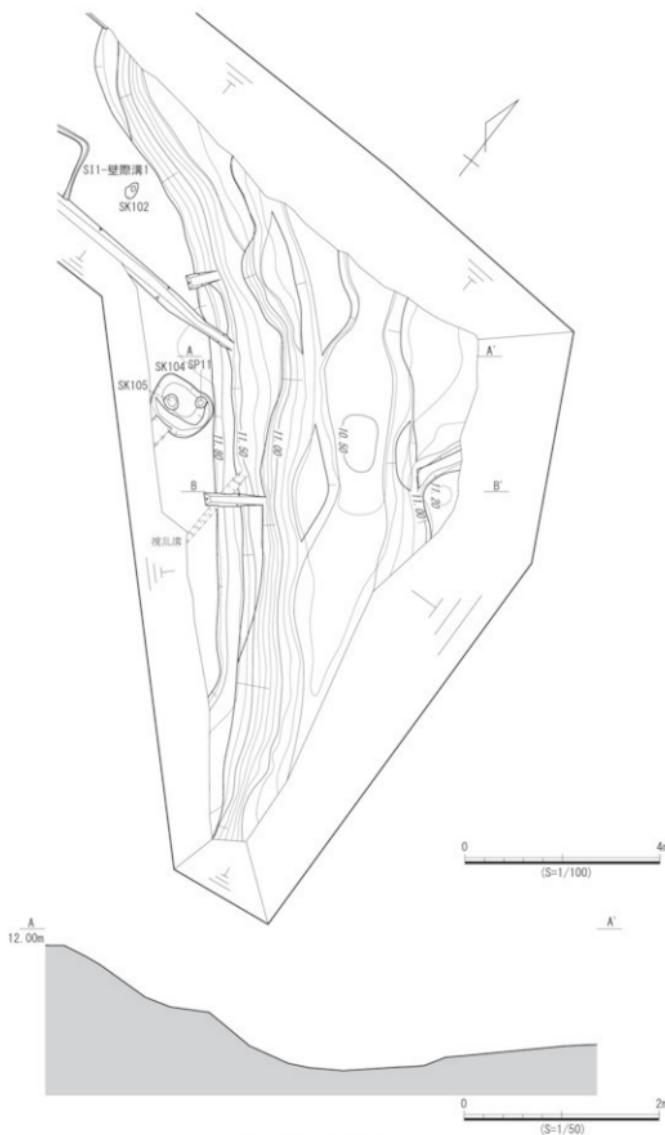
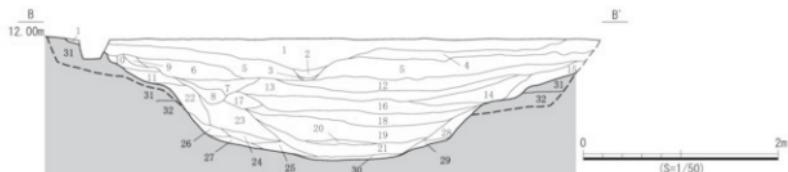


図 66 SD17 遺構図 (1)



- 1 10TR2/3 塗覆色土 しまりややあり 粘性あり 径3cm以下の円礫を5%含む
 2 2.5T3/3 塗オリーブ褐色土 しまりややあり 粘性あり
 3 2.5T3/3 塗オリーブ褐色土 しまりややあり 粘性あり
 4 2.5T3/3 塗オリーブ褐色土 しまりややあり 粘性あり
 5 2.5T3/2 黒褐色土 しまりややあり 粘性あり 径2mm以下の円礫を5%含む
 6 2.5T3/3 塗オリーブ褐色土 しまりややあり 粘性あり
 7 5T4/2 成オリーブ色土 しまりややあり 粘性あり 径2mm以下の円礫を5%含む
 8 5T3/2 オリーブ黒褐色土 しまりややあり 粘性あり
 9 2.5T4/2 墓灰黄色土 しまりややあり 粘性あり
 10 2.5T6/2 灰黃色プロックを3%含む(壁面崩落土)
 11 2.5T4/1 黒褐色土 しまりややあり 粘性あり
 12 2.5T6/2 灰黃色プロックを3%含む(壁面崩落土)
 13 5T2/1 黒色土 しまりややあり 粘性あり 粘性極めて強い
 14 2.5T3/3 塗オリーブ褐色土 しまりややあり 粘性あり
 15 5T4/2 成オリーブ色土 しまりややあり 粘性あり
 2.5T6/2 灰黃色土を全体的に含む(壁面崩落土か)
- 16 5T5/2 淡オリーブ色土 しまりややあり 粘性あり 粘性極めて高い
 17 5T4/2 成オリーブ色シルト しまりなし 粘性ややあり
 18 砂礫土 黒褐色土を3%含む(壁面崩落土)
 19 2.5T3/2 黒褐色土 しまりなし 粘性あり 微砂と植物遺体をわずかに含む
 20 砂礫土 径1mm以下の円礫と砂礫から成る
 21 2.5T3/1 黒褐色土 しまりなし 粘性あり 壊化物と植物遺体を多く含む
 22 2.5T4/1 黃灰色シルト しまりなし 粘性ややあり
 23 5T4/1 暗色シルト しまりなし 粘性ややあり
 24 5T3/2 オリーブ黒色シルト しまりなし 粘性ややあり
 25 5T2/2 オリーブ黑色シルト しまりなし 粘性ややあり
 植物遺体をわずかに含む
 26 5T6/1 暗色シルト 径2mm以下の円礫を3%含む
 27 5T4/1 暗色シルト/プロック状に30%含む(壁面崩落土)
 28 5T4/1 暗色シルト/プロック状に30%含む(壁面崩落土)
 29 5T2/2 オリーブ黑色シルト しまりなし 粘性ややあり
 植物遺体をわずかに含む
 30 砂礫 径3cm以下の円礫と砂礫から成る
 31 2.5T6/2 灰黃色土 しまりややあり 粘性ややあり IVa層
 32 5T7/1 暗色シルト しまりややあり 粘性ややあり IVb層

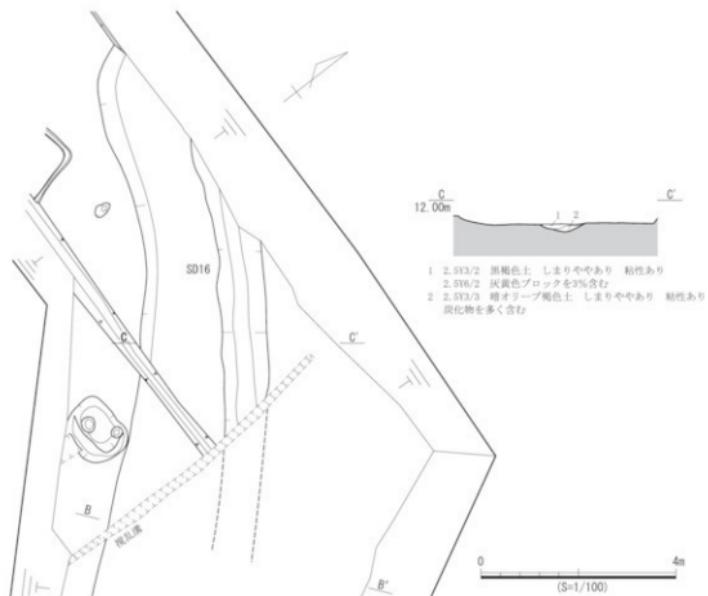


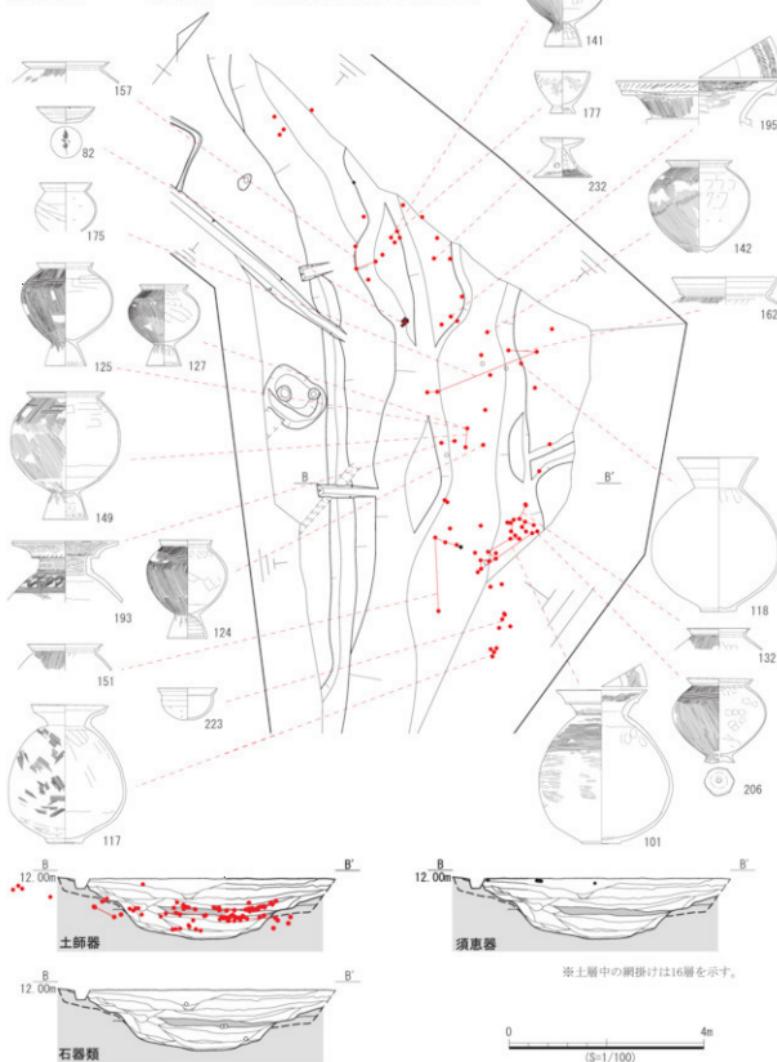
図 67 SD17 遺構図 (2)

土師器・須恵器・石器類出土位置

遺物 S=1/10

— 遺物接合線

- 土師器（座標取上を行った 96 点のドット）
- 須恵器（座標取上を行った 10 点のドット）
- 石器類（座標取上を行った 4 点のドット）



木製品・種子・貝殻出土位置

- 木製品（座標取上を行った 30 点のドット）
- 種子（座標取上を行った 12 点のドット）
- 貝殻（座標取上を行った 30 点のドット）

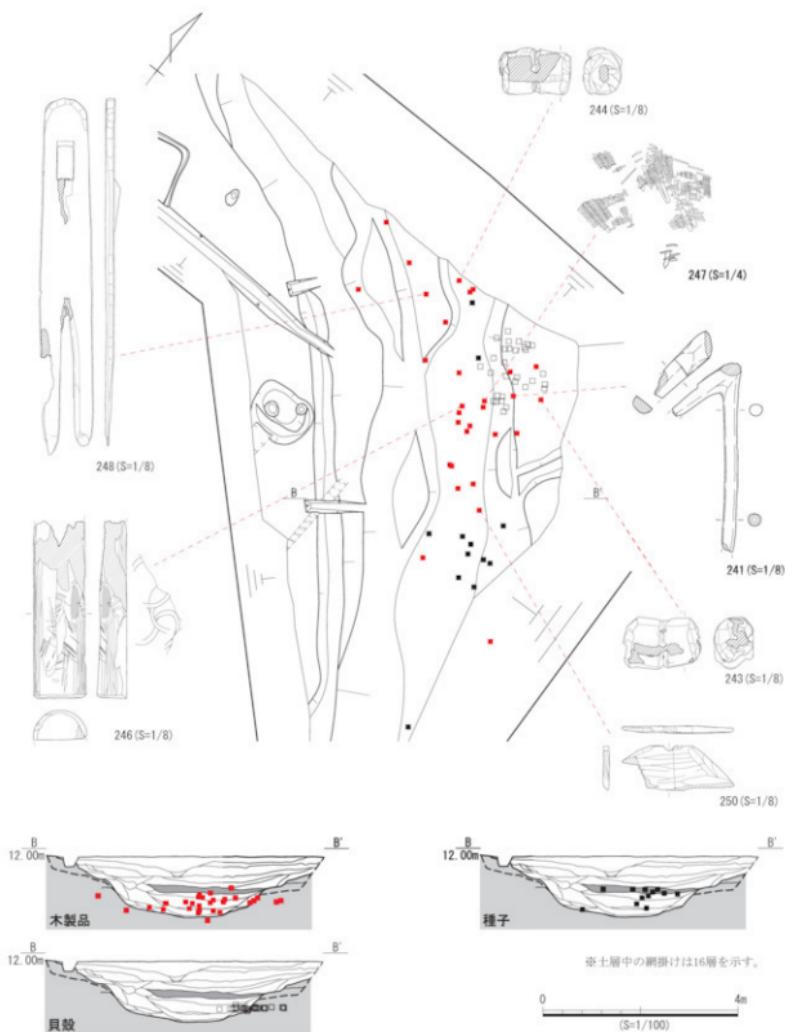


図 69 SD17 遺構図 (4)

石器類はMF(87)と砥石(88)が溝状遺構の中央付近の1層から出土した。

4~15層 繩文土器、土師器、石器類、木製品が出土した。土師器は壁面崩落土以外の堆積土から出土し、13・14層中では1個体の土器が潰れたような状態で複数出土した。101の壺は、溝状遺構の中央付近で底部片が内面を上にして出土し(図71F-F'),その南側に体部片がまとまって出土した。また、他の体部片や口縁部片は東壁面沿いから出土した(図71G-G')。117の壺は、発掘区東壁面沿いで口縁部から底部までが潰れたような状態で出土し(図71H-H'),底部は南東方向を向いていた。130のS字甕は、発掘区東壁面沿いで口縁部から体部がまとまって出土した(図71I-I')が、体部下方から脚部は確認できなかった。141・144・155のS字甕は発掘区北側の西壁沿いでまとまって出土し(図71J-J'),141は口縁部を東に向けて斜位で出土した。124・125・127・133・137・149のS字甕は溝状遺構の中央付近で出土し(図72K-K' L-L'),124・125・127・149の4個体は脚部から口縁部まで接合した。このうち124は口縁部を北側に、127は口縁部を北西側に向けて出土した。また、113の壺は124のS字甕片とともに出土した。118の壺は溝状遺構の中央付近で散在して出土し(図72M-M'),底部から口縁部まで接合した。なお、繩文土器、石器類、木製品の出土数は少なく、繩文土器はh層から、石器類はc層から、木製品はk層からそれぞれ出土した。

16~30層 弥生土器、土師器、石器類、木製品、種子、貝殻が出土した。土師器は壁面崩落土以外の堆積土から出土したが、13・14層中のように1個体の土器が潰れたような状態で出土したものは2箇所のみであり、多くは小片が散在して出土した。206・211のS字甕は発掘区東壁沿いでまとめて出土し(図72N-N'),穿孔のある211は底面内面を上にして出土した。また、その周囲から実測番号191・197・199などの壺片が散在して出土した。199の壺も発掘区東壁沿いで潰れたような状態で

1~15層遺物出土状況図(図71・72)の位置図

16~30層遺物出土状況図(図72)の位置図

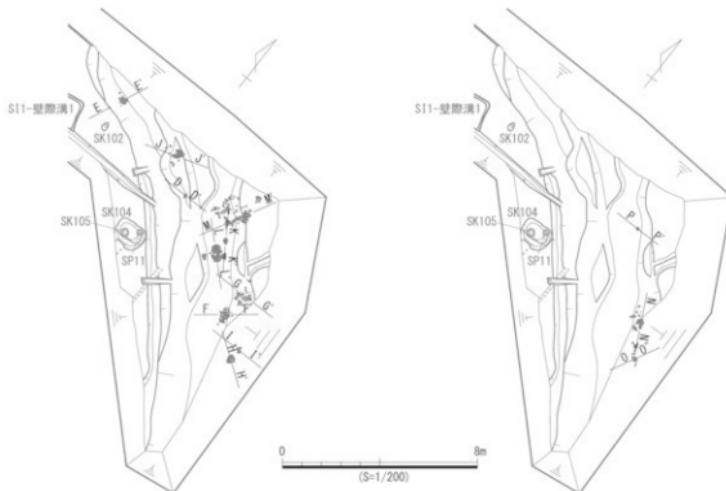
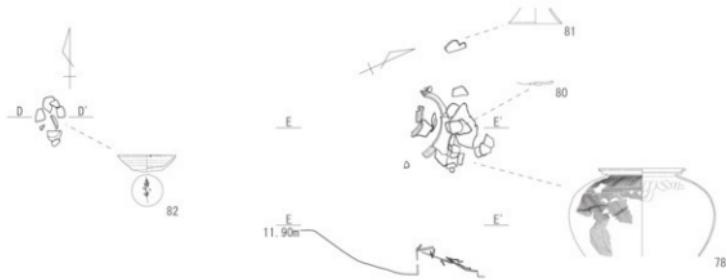


図70 SD17 遺構図(5)

1～3層遺物出土状況図 (D-D' + E-E') —— 任意検出ライン 遺物 : S=1/10



4～15層遺物出土状況図 (F-F' ~ J-J') —— 任意検出ライン

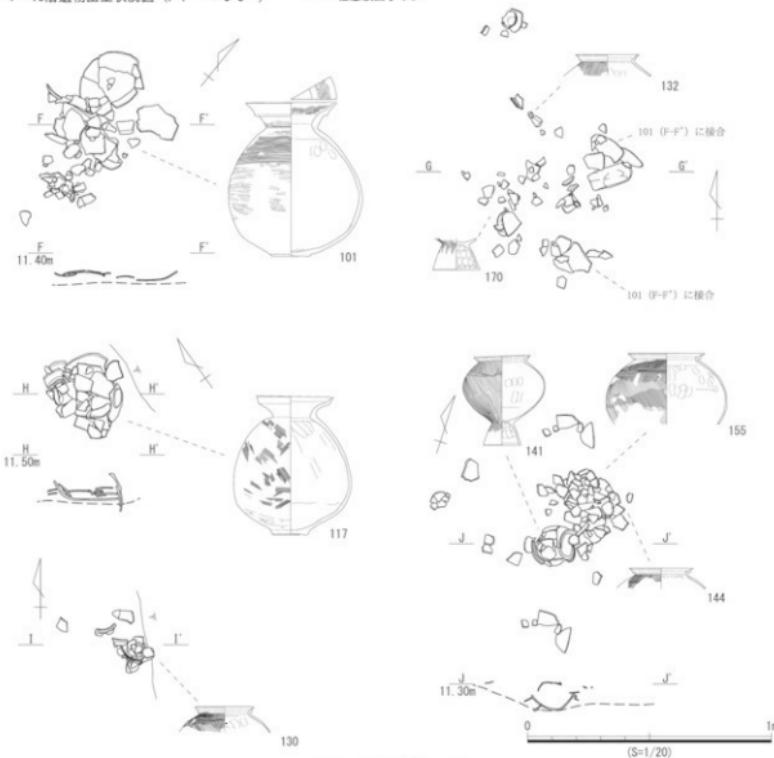


図 71 SD17 遺構図 (6)

(S=1/20)

出土し（図 720-O'）、その東側から弥生土器の壺片（234）が出土した。木製品は、溝状遺構の中央から北側にかけて多く出土した（図 69）。大半が横位で出土しており、貯木施設のように狭い範囲で集中して出土する状況は認められなかった。このうち、北部九州型直柄二又鍤（248）はほぼ完形の土師器小型器台（232）とともに出土し、容器未成品（246）は打割面を上にして出土した。また、形態が類似する木錘（243・244）は約 3 m 離れて出土し、ケビキ線のある板材（250）は底面直上で出土した。編物（247）は 19 層と 20 層の層界付近から出土し（図 72P-P'）、その周囲から貝殻片が出土した（図 69）。編物は長さ約 12 cm、幅約 11 cm の範囲内に残存しており、ござ目編みの様相は観察できるものの遺存状態は悪かった。また、貝殻も遺存状態が悪く、発掘調査で出土した際は白色を呈していた（写真 5）が、次第に酸化し茶色となった。調査時に視認した限りではいずれも同種の貝殻に見え、貝殻のうち形状が判別できる 2 点は「イシガイ」に同定された。石器類は 1 ~ 15 層よりも多く出土したが、木製品数と比較すると少なく、木製品と同様に溝状遺構の中央から北側にかけて出土した。種子は溝状遺構の中央から南側にかけて多く出土し（図 69）、取り上げた 19 点のうち、17 点が桃核、1 点がヒヨウタン、1 点がトチノキに同定された。なお、桃核 17 点のうち 13 点は完形、3 点は部分的に欠損、1 点は破片である（写真 5）。



写真 5 SD17 出土貝殻（左）・桃核（右）

出土遺物 遺物出土状況と同様に、層位ごとに記載する。

1 ~ 3 層 78 ~ 81 は土師器、82 ~ 86 は須恵器、87・88 は石器である。

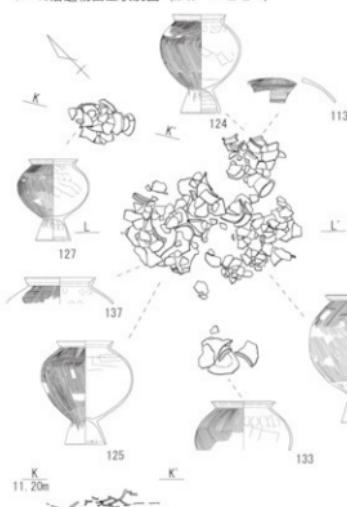
78・79 は S 字甕である。78 は肩部が大きく張り出し、口縁部が外側に屈折する。体部外面に横方向のハケ調整が施されるため C 類に属するが、口縁端部は肥厚し、外傾面を有する。79 は台部片であり、端部の折り返しが明瞭である。80・81 は有段高杯であり、胎土が類似し、出土位置も近接している（図 71E-E'）ことから、同一個体の可能性が高い。80 は杯底部内面が平坦であり、81 は脚裾部がわずかに外反する。

82 は無台杯である。底部外面は回転ヘラ切り調整が施され、体部はやや内湾し、口縁端部を丸く収める。底部外面には「-」のヘラ記号があり、その上から「東田」と墨書される。口縁端部の一箇所には黒褐色の有機物が付着しており、灯明皿としての用途が考えられる。83・84 は蓋である。いずれも外面に自然釉が降灰しており、同一個体の可能性が高い。83 は天井部の器壁が厚く、つまみは扁平であり、84 は口縁端部を丸く収める。85・86 は有台鉢である。85 は底部外面に回転ヘラケズリ調整が施され、高台外縁が接地する。また、いずれも口縁部がわずかに外反し、端部が直截される。

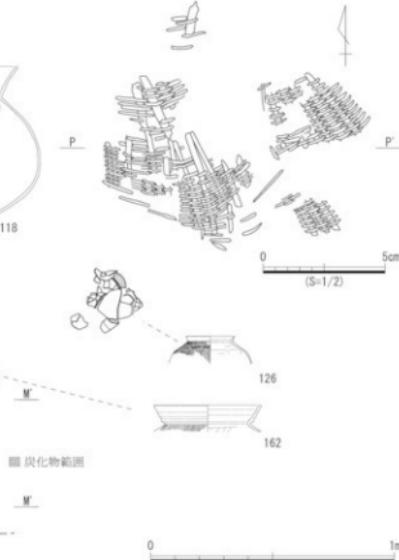
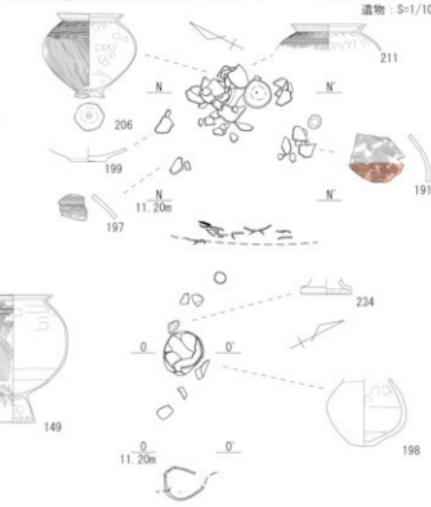
87 は MF である。左側縁に自然面が残り、下端と右側面に微細な剥離痕が認められる。88 は砥石である。円礫の平坦面を砥面として使用しており、現状で重さ 3569.5 g であることから、置き砥石と考えられる。

4 ~ 15 層 89 ~ 189 は土師器、190 は石器である。また、土師器のうち、89 ~ 119 は壺、120 ~ 176 は甕、177 は鉢、178 ~ 187 は高杯、188・189 は器台である。

4~15層遺物出土状況図 (K-K' ~ M-M')



16~30層遺物出土状況図 (N-N' ~ P-P')



■炭化物範囲

図 72 SD17 遺構図 (7)

89～92は広口壺である。89は口縁部中程で屈折し、端部を丸く收める。90は口縁端部に強い横ナデ調整を施し、受口状に仕上げている。91は口縁部が直線的に開き、端部に外傾面を有する。92は緻密な胎土であり、体部外面にクシによる波状文と横線文が施される。93～97はパレス壺である。93は横線文が、94・95は波線文と横線文が、96は波線文が、それぞれクシにより施される。また、波線文に沿って赤彩が帯状に塗布される。97は赤彩による波線文のみが描かれ、クシによる文様は施されていない。98～100は二重口縁壺である。いずれも口縁部上段が強く外反し、98は端部を丸く收め、99・100は端部に面を有し、上端をつまみ上げる。また、98は外面に二段の波状文、内面上段に二段の波状文とその間に横線文、内下面段に波状文が、それぞれクシにより施される。101～

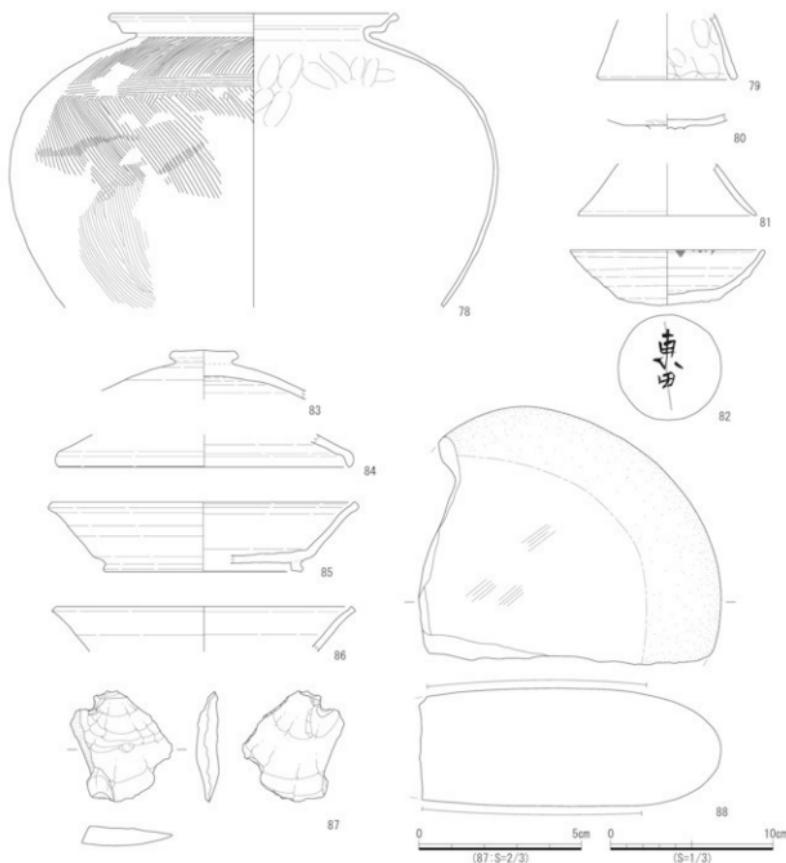


図73 SD17(1～3層) 遺物実測図

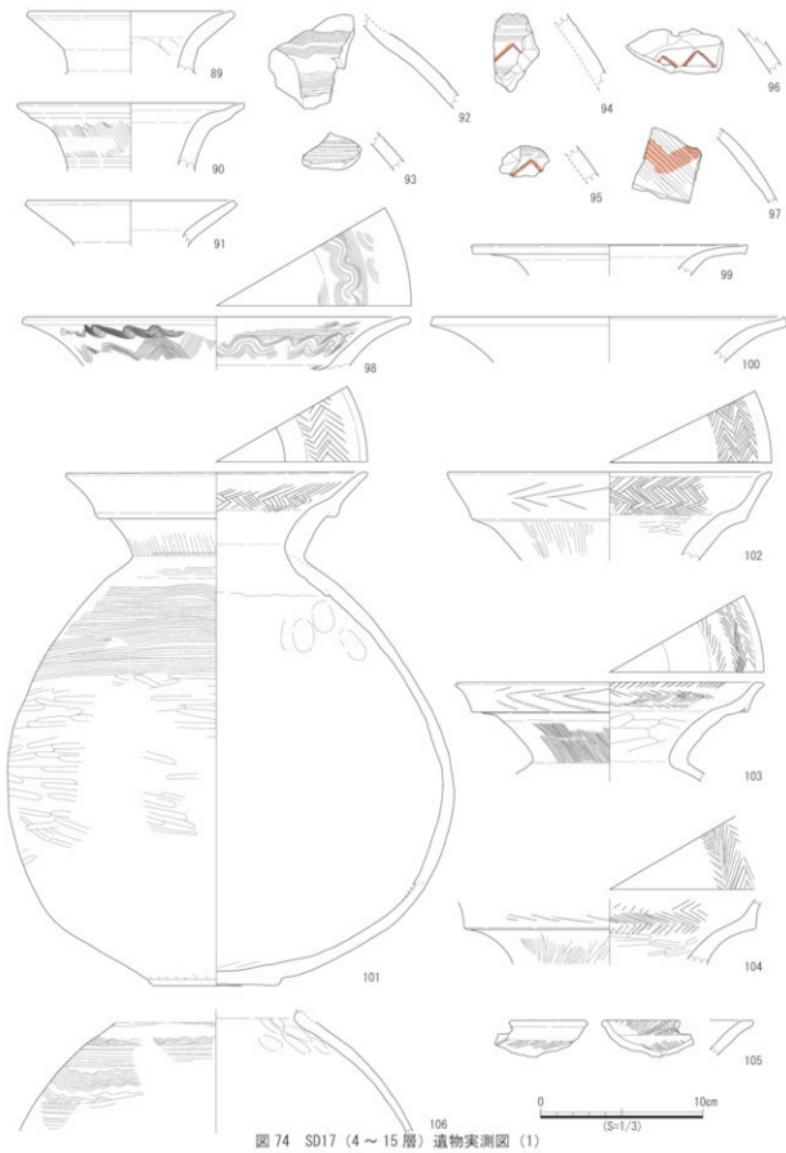


図 74 SD17 (4~15層) 遺物実測図 (1)

0 10cm
(S=1/3)

109は柳ヶ坪型壺である。101は底部が突出した上げ底であり、体部は丸みを帯び、最大径は中央下にある。口縁部内面は緩やかに窪み、外面は上段と下段の境に粘土を貼り付け、端部は内傾面を有する。体部外面にはクシによる横線文3段、波状文2段をそれぞれ交互に施し、波状文はかなり形骸化している。口縁部内面にはクシによる羽状文が施されるが、外面は磨滅が著しく文様帶は確認できない。102～105は、いずれも口縁部内外面にクシによる羽状文が施される。102～104は口縁部内面が窪み、口縁端部は102が内傾面を、103・105が水平面を有する。106～108は体部外面にクシによる波状文と横線文が施され、106は頸部直下に波状文と横線文が2段に分けて施される。109は底部外面周縁が接地し、上げ底である。110～112は壺底部である。いずれも上げ底で、110は底部が突出するものの、111・112は底部の突出が不明瞭である。なお、112の底部外面には木葉痕が認められる。113・114は壺の体部破片であり、同一個体の可能性がある。いずれも頸部直下に放射状のハケ調整が認められ、その下にクシによる2段の横線文と、その間にクシによる羽状文が施される。115は頸部が短く直立し、口縁部が有段状となり、端部直下に強い横ナデ調整が施される。116は緻密な胎土を有する壺の口縁部であり、外面に段を有することから二重口縁壺の可能性がある。117は底部が突出した上げ底であり、体部は歪みが大きく、最大径は中央下にある。口縁部は強く外反し、端部は斜め上方へつまみ上げられる。表面の磨滅が著しいものの、体部外面下方にはヘラケズリ調整、中程から上方にかけてハケ調整が認められる。118・119は畿内系の壺である。118は底部が突出し、外面は平坦で、多くの砂粒が付着している。体部は丸みを帯び、最大径は中央下にある。口縁部は長く、緩やかに外反し、端部は面取り気味に仕上げられる。101・117と比べて器壁が薄く、表面の調整は不明であるものの平滑に仕上げられている。119は118よりも器壁が厚いものの、118と同様に口縁部が長く、緩やかに外反し、端部に水平面を有する。

120は有段口縁壺である。口縁部外面にクシによる刺突文が施され、端部に内傾面を有する。121～173はS字甕である。121～123はB類であり、いずれも口縁部外面に煤が付着している。121は他の2点よりもハケメの間隔が狭く、122は口縁部外面に工具を当てた痕跡が残り、内面にハケメがわずかに認められる。123は口縁部上段が外側に開く。124～160はC類である。124は体部と口縁部境の屈折角度が広く（屈折が弱く）、口縁部上段が直立気味にのびるものである。台部外面に連続する斜め方向のハケメが縦位に残り、体部外面にはおよそ3段に分かれた斜め方向のハケ調整と横方向のハケ調整が施される。体部はやや歪んでおり、実測図右側の最大径部の張り出しが強く、口縁部もやや右下がりである。また、台部から体部外面中程に煤が付着しているものの、内面に炭化物の付着は認められない。125～137は体部と口縁部境の屈折角度が広く（屈折が弱く）、口縁部上段が外傾若しくは外反するものである。125は台部外面に連続する斜め方向のハケメが逆三角形状に残り、体部外面にはおよそ3段に分かれた斜め方向のハケ調整と横方向のハケ調整が施される。また、体部外面下方に煤が、同内面下方に炭化物がそれぞれ付着している。126は口縁部と体部の境の沈線が明瞭であり、体部外面の横方向のハケ調整が高い位置に施される。127は今回の調査で完形に復元できたS字甕のなかでは、最も小型である。台部外面に連続する斜め方向のハケメが縦位に残り、体部外面にはおよそ4段に分かれた斜め方向のハケ調整と横方向のハケ調整が施される。また、体部外面下方に煤が付着し、同内面上方に炭化物がバッチ状に付着している。128は口縁部上段の器壁が薄く、129は口縁部と体部の境の沈線幅が広い。130は口縁部が全周し、体部外面のハケメが口縁部外面ま

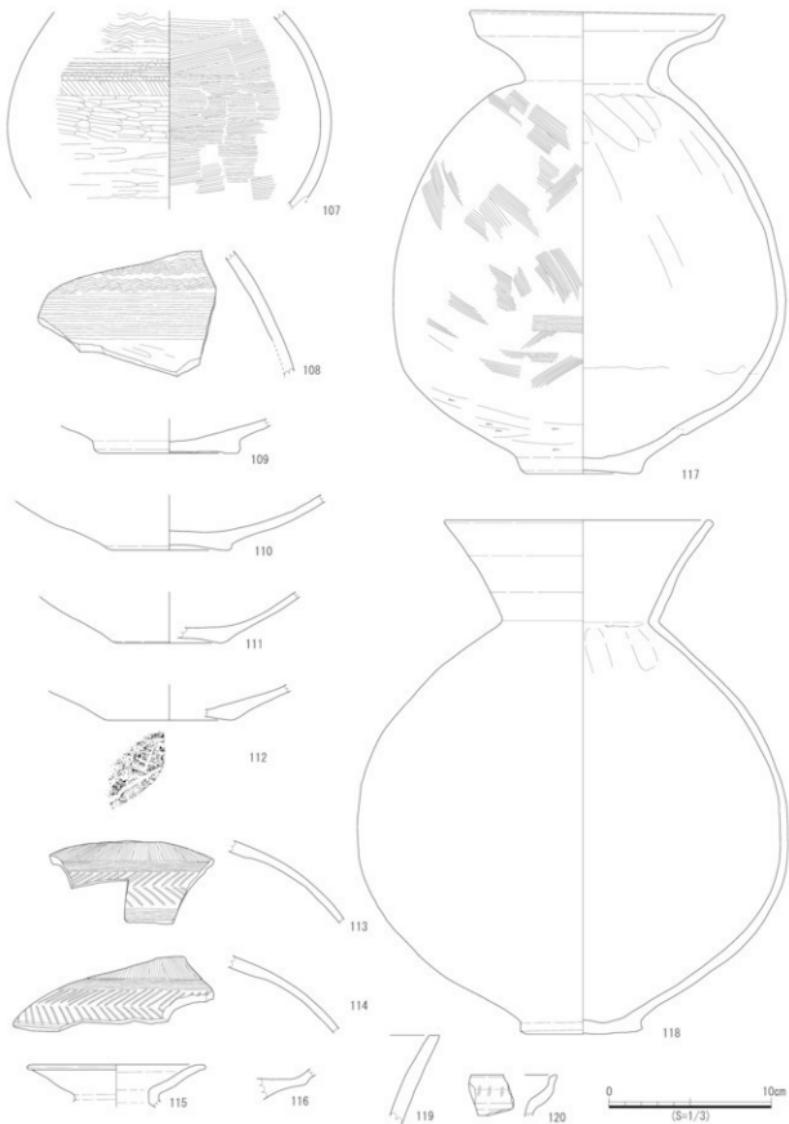


図 75 SD17 (4 ~ 15 層) 遺物実測図 (2)

で及んでいる。131・132は体部外面の横ハケがわずかに確認できる程度であり、133は確認できない。なお、133は体部外面の煤の付着が顕著であり、体部内面中程まで炭化物が付着している。134は口縁部外面の上段と下段の境の稜が明瞭で、135は外面の煤の付着が顕著であり、表面の一部が被熱により剥落している。136・137はいずれも口縁部上段の器壁が厚く、端部に面を有する。138～140は体部と口縁部境の屈折角度が広く（口縁部の屈折が弱く）、口縁部内面の上段と下段の境の稜が不明瞭なものである。いずれも破片が小さいため、体部外面の横方向のハケ調整の有無は不明であるが、138の斜め方向のハケメは粗く、140の斜め方向のハケメは細かい。141～158は体部と口縁部境の屈折角度が狭い（口縁部の屈折が強い）ものである。141は台部外面に連続する斜め方向のハケメが逆三角形状に残り、体部外面にはおよそ4段に分かれた斜め方向のハケ調整が施され、上から1断面と2段目の境に横方向のハケ調整がわずかに施される。また、外面の煤と内面の炭化物の付着は認められない。142は体部外面の煤の付着が著しく、表面が被熱により部分的に剥落している。また、体部内面中程から下方に炭化物が付着している。143は口縁部上段の器壁が厚いが、144は鋭く屈曲しており、体部外面に横方向のハケ調整が認められる。145～147はいずれも口縁部外面まで煤が付着しており、147は体部と口縁部境の屈折が著しい。148は口縁部が全周し、口縁端部に平坦面を有し、体部外面の横ハケの幅が広い。149は台部外面のハケメが連続して縦位に残る。体部中程は張り出しが弱く、下方には粘土の輪積み痕が明瞭に残る。また、体部から口縁部外面に煤が付着しているものの、内面に炭化物の付着は認められない。150は体部と口縁部境の外面調整が不十分で、屈折部の表面に凹凸が残る。151は口縁部上段が長く、端部に明瞭な外傾面を有する。152は口縁部上段が外側に大きく開き、153は口縁端部上面がわずかに窪む。154は口縁部と体部の境の沈線幅が広く、口縁部内面まで炭化物が付着している。155と156は同一固体の可能性が高い。体部の張り出しが強く、外面のハケ調整は4～5段に分けて施される。また、体部外面の煤の付着が著しく、内面下方に炭化物が付着している。157・158は口縁部が大きく外側に開き、157は端部に外傾面を有するが、158は丸く収める。159・160は体部と口縁部境が屈曲するものである。いずれも口縁部と体部の境に沈線が施されず、体部外面の斜めハケは粗い。161・162は山陰系口縁の特徴を有する甕である。161は口縁部全体が強く外傾するが、162は口縁部下段が短く屈折し、上段の傾きは162よりも少ない。163は体部外面に煤が、体部内面全体に炭化物が付着している。164は底部に不整形の穿孔があり、台部を打ち欠いている。また、体部外面に煤が付着しているが、穿孔部と台部の打欠き面には煤が付着していない。165～173は台部が残る資料である。いずれも台部外面に連続する斜め方向のハケメが残り、166は縦位に、それ以外は逆三角形状に残る。また、167～171は底部内外面に多量の砂粒が認められるものの、166、172、173は底部外面に砂粒が認められない。なお、165は体部外面の煤の付着が顕著で、表面の一部が被熱により剥落している。170は台部に長さ0.8cmの石英が含まれており、そこで土器が割れている。174・175は布留型甕である。いずれも口縁部が内湾し、端部に内傾面を有する。175は体部外面に横から斜め方向のヘラナデ調整、体部内面に不定方向のケズリ調整が施される。176は台付甕としたが、胎土中に砂粒が少ないとから、壺や鉢の台部の可能性もある。

177は台付鉢である。台部は低く、体部は内湾気味にのび、口縁端部は内傾気味の面を有する。また、胎土中の砂粒が少なく、体部内外面に斜め方向のミガキ調整が施される。

178～185是有段高杯である。178・179は杯部が直線的であるが、180は内反り気味であり、口縁

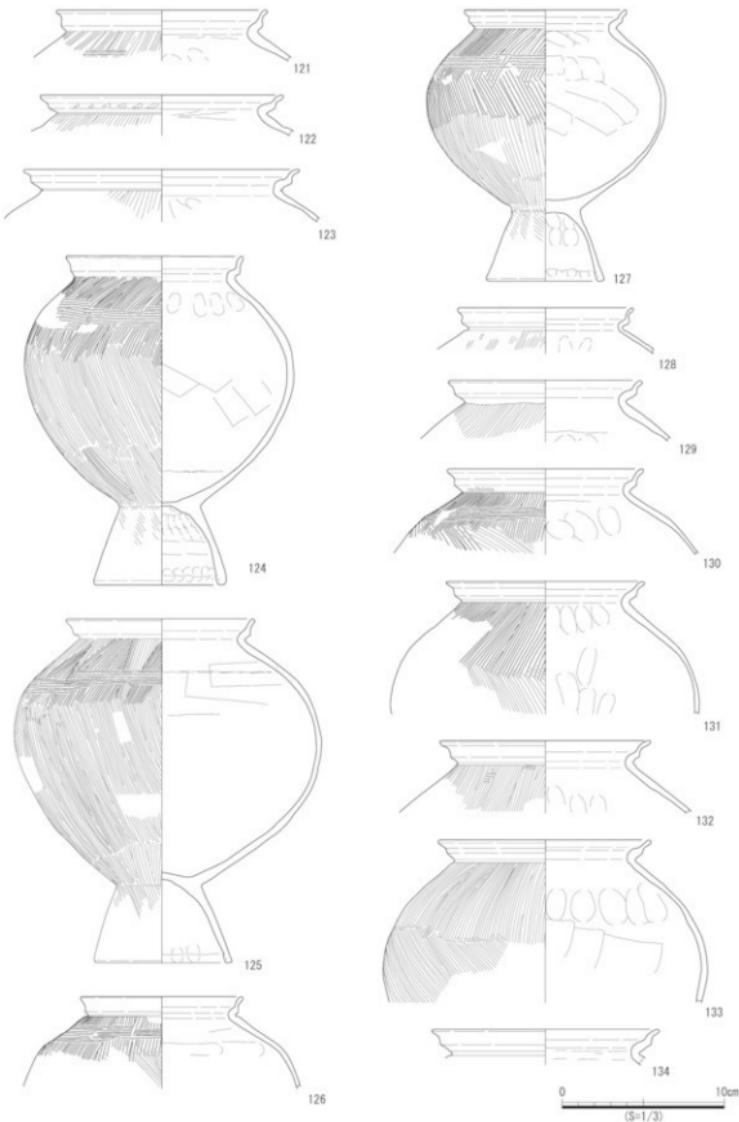


図 76 SD17 (4 ~ 15 層) 遺物実測図 (3)

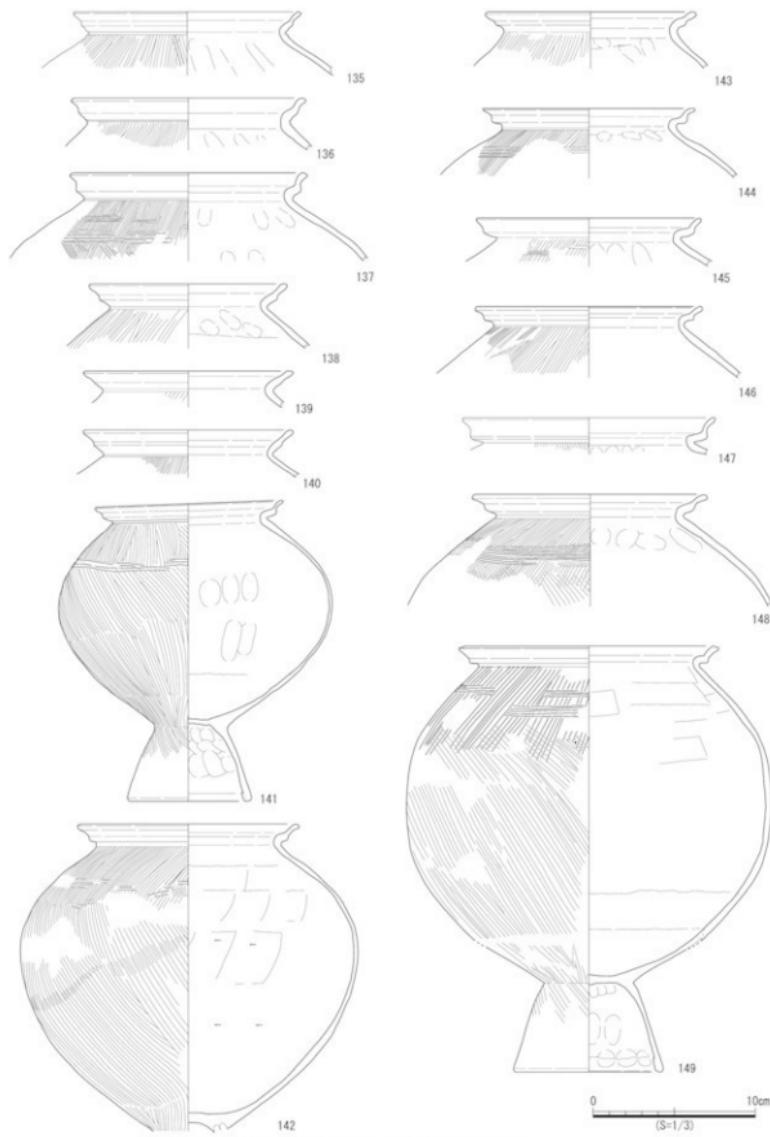


図 77 SD17 (4 ~ 15 層) 遺物実測図 (4)

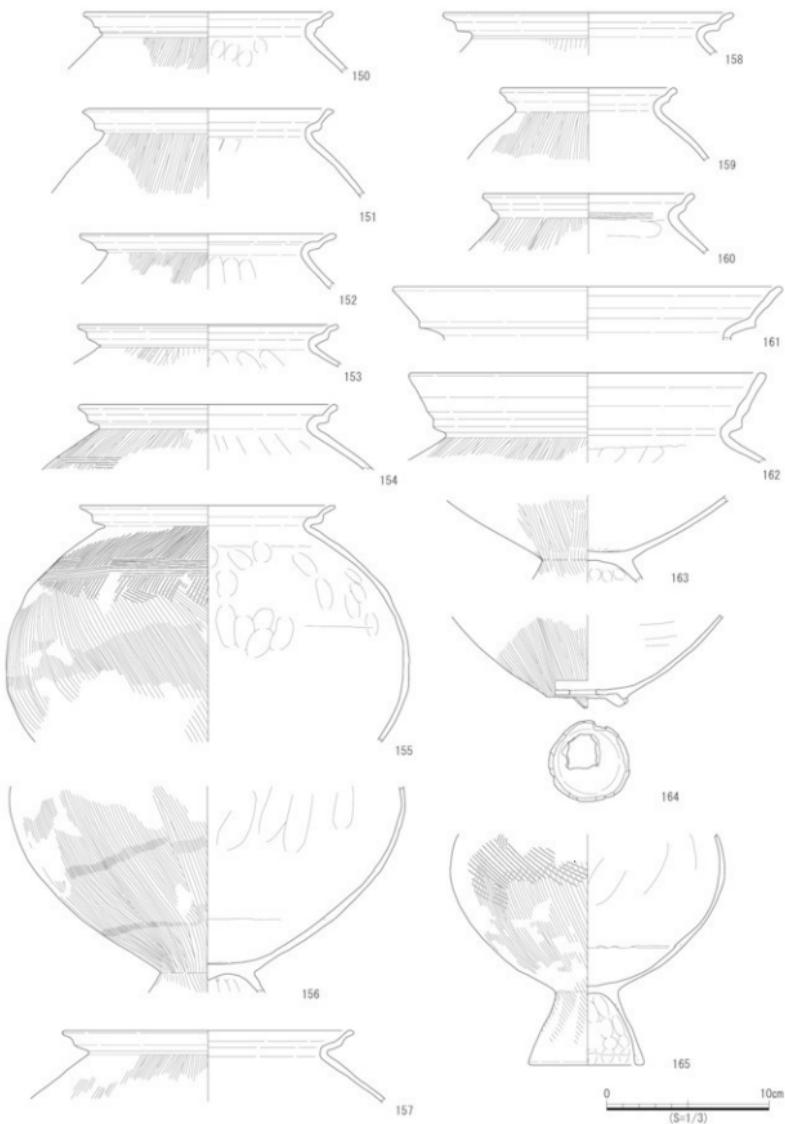


図 78 SD17 (4 ~ 15 層) 遺物実測図 (5)

端部はいずれも丸く収める。また、179・180は杯底部内面と側面の境が明瞭で、内面の底径は179が5.6cm、180が5.1cmである。181は直径1.5cmの穿孔を3方向に配し、今回の調査で出土した他の高杯と比較すると、一回り大きな穿孔といえる。182は穿孔を4方向に配し、脚裾部が大きく開く。今回の調査で出土した高杯のなかでは、穿孔を4方向に配するものは182のみである。183は2孔1組の穿孔を3方向に配し、上段の穿孔が高い位置にある。184は杯底部内面周縁がわずかに窪み、内面の底径は4.5cmである。185は脚部外面に細かい縱方向のミガキ調整が施され、穿孔は復元径で約0.8cmと小さい。186は脚柱部の器壁が厚く、脚裾部は直線的にのびる。脚部に穿孔は施されていないが、胎土が緻密で外面のミガキ調整も丁寧であることから、有段高杯と同時期の高杯と考えられる。187は屈折脚高杯である。胎土中に砂粒が多く、脚部下方で屈折する。

188・189は器台である。いずれも杯部の形態は不明であり、脚部に穿孔を3方向に配する。

190は叩石である。楕円礫を素材とし、上端と下端に敲打痕が認められる。また、下端は面が潰れ、敲打痕周辺が剥離している。

16～30層 191～233は土師器、234・235は弥生土器、236～240は石器、241～270は木製品である。また、土師器のうち、191～204は壺、205～222は甌、223は鉢、224～231は高杯、232は器台、233は手づくね土器である。

191はバレス壺である。体部外面に斜め方向のハケ調整が施され、下方は全面に赤彩が施される。192・193は二重口縁壺である。192は口縁端部がほぼ垂直に面取りされ、内面にクシによる羽状文が施される。193は肩部外面にクシによる2段の横線文と、その間に2段の波状文が施され、頸部と体部の境にクシによる刺突文のある突帯が貼り付けられる。頸部はほぼ直立し、口縁部下段は頸部に対して直角に屈折し、上段は大きく外反する。口縁部上段下端にはクシによる刺突文が施され、口縁端部は上方につまみ上げられる。194～197は柳ヶ坪型壺である。194・195ともに口縁部外面にクシによる羽状文が施され、194・196・197は体部外面にクシによる横線文と波状文が施される。195は口径34.0cmに復元できる大型品であり、口縁部外面に粘土を貼り付け端部を拡張し、口縁部と体部の境に突帯を有する。198は器壁が厚く、体部の歪みが著しい。また、表面はあばた状の窪みが全面に広がり、調整が確認できない。199～202は底部を含む破片である。199は胎土が193の二重口縁壺に類似しており、底部が突出する。200は体部外面に横方向のミガキ調整が施され、底部外面に条痕のような痕跡が残る。201は上げ底で、底部外面周縁の接地幅が広い。体部外面とともにハケ調整が施され、体部外面に粘土の輪積み痕が認められる。202は底部の器壁が厚く、外面はほぼ平坦である。203・204は口縁部が強く外反し、端部が斜め上方へつまみ上げられる壺であり、203は口縁部外面に赤彩が施される。

205はく字甌である。口縁部が短く、端部にクシによる刺突文が施される。206～219はS字甌である。206～208はB類であり、206は底部に直径0.8cmの穿孔があり、台部を打ち欠いている。体部から口縁部外面には全面に煤が付着し、体部内面にもほぼ全面に炭化物や煤が付着しているが、穿孔部と台部の打欠き面には煤が付着していない。207は口縁部上段が鋭く屈曲し、頸部直下に横方向のハケ調整が施される。208は大型品であり、内外面のほぼ全面に煤や炭化物が付着している。207と同様に頸部直下に横方向のハケ調整が施され、横ハケの幅が広い。209～213はC類である。209～211は体部と口縁部境の屈折角度が広く（口縁部の屈折が弱く）、口縁端部を丸く収める。210は211

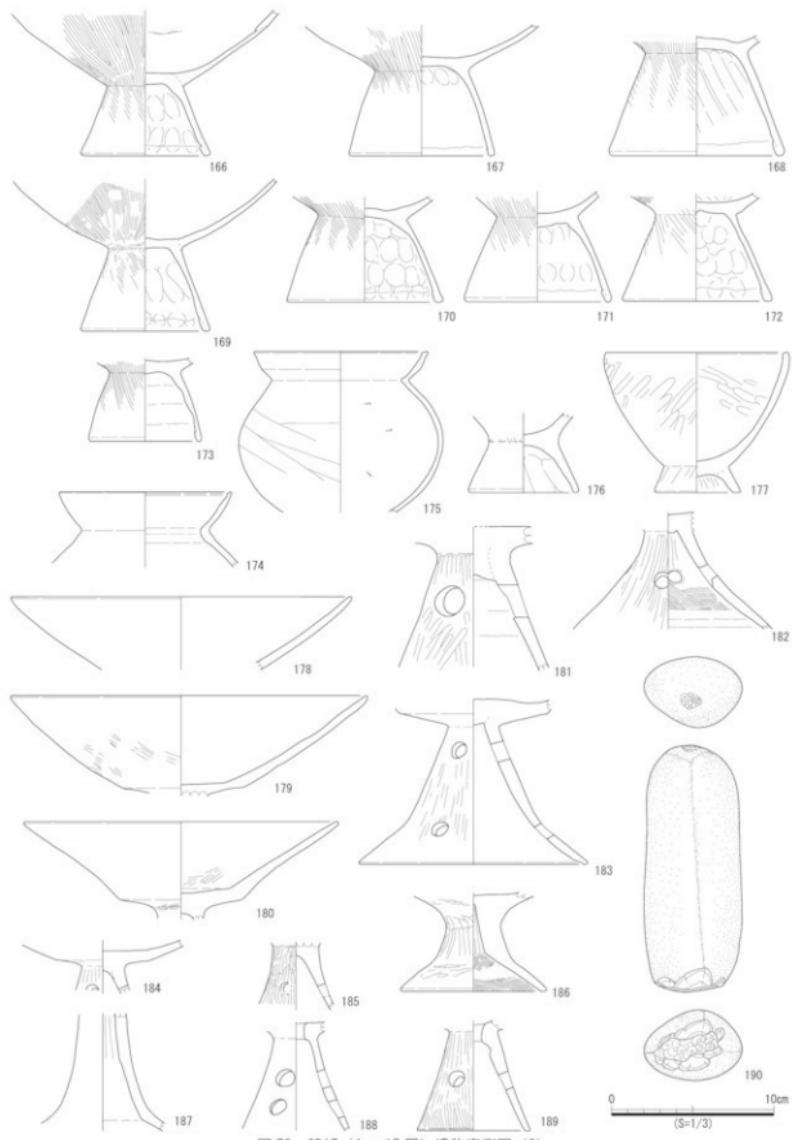


図 79 SD17 (4~15層) 遺物実測図 (6)

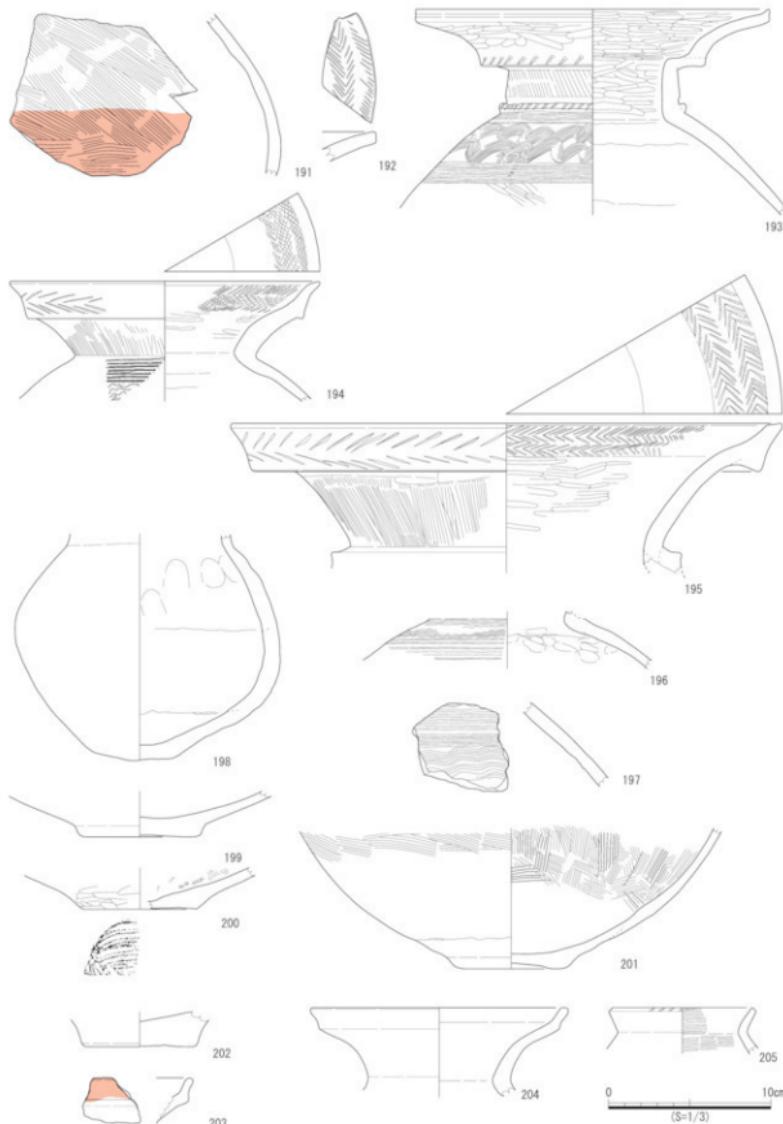


図 80 SD17 (16 ~ 30 層) 遺物実測図 (1)

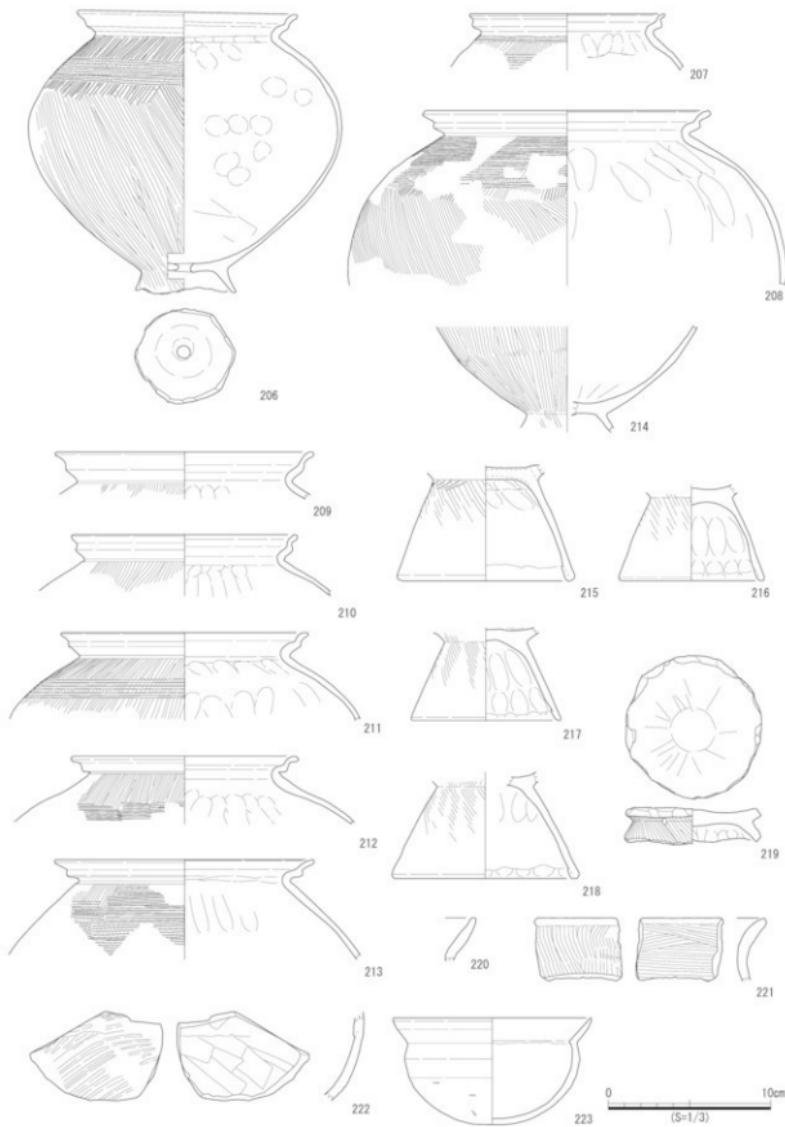


図81 SD17(16~30層)遺物実測図(2)

と比べてハケメが粗く、210・211は体部から口縁部外面に煤が付着している。212・213は体部と口縁部境の屈折角度が狭く（口縁部の屈折が強く）、212は体部外面の横方向のハケ調整が断続的に施される。213は口縁端部上面がわずかに窪み、体部外面の横方向のハケ調整が頸部直下から施される。215～218は台部が残る資料である。いずれも台部外面に連続する斜め方向のハケメが残り、217は逆三角形状に残るが、それ以外はやや乱れている。また、いずれも底部内外面に多量の砂粒が認められる。

215は砂粒を含む粘土を上下から補填している状況が観察できる（写真6）。219はS字型の台部と体部を細かく打ち欠いて円盤状に仕上げたものである。体部内面に煤が付着しているが、打欠き面には付着していない。220は布留型甕である。口縁部がわずかに内湾し、端部に水平面を有する。221は口縁部上方の器壁が厚く、端部は尖り気味である。また、口縁部内外面にハケ調整が施される。222は体部外面にタタキ痕が残る甕であり、粘土の輪積み痕が内外面に認められる。

223は鉢である。底部から体部にかけて丸みを帯び、口縁部は外折し、直線的にのびる。体部外面下方には横から斜め方向のケズリ調整が施され、体部内面と口縁部の境に明瞭な段を有する。

224～231は有段高杯であるが、228、229、231は器台の可能性もある。224・225は口縁部内面に多条沈線文が施され、224は上端と中程にヘラによる単線の連弧文が認められる。226は杯部がわずかに内湾し、端部が尖る。227～229は上下2段の穿孔を3方向に配する。脚根部は227・229が外反し、228は内湾気味である。なお、227は杯底部内面周縁がわずかに窪み、内面の底径は5.2cmである。230は脚高5.0cmの小型高杯である。胎土が緻密で、穿孔を3方向に配する。231は穿孔径が0.8cmと小さく、表面全体が二次的に被熱している。

232は小型器台である。脚部は大きく開き、穿孔を3方向に配する。口縁部はやや内湾し、外面に凹線状の凹みが認められる。

233は手づくね土器である。底径3.0cmで、体部の器壁が厚い。

234・235は弥生時代中期後半に属する壺である。234は台付壺の台部であり、端部がほぼ垂直に屈折し、内外面に強い横ナデ調整が施される。235はなで肩の壺であり、体部から頸部外面に2段の直線文と波状文が施される。

236～238は叩石であり、いずれも楕円礫を素材とする。236は上下面と側面に敲打痕が認められ、右側面は敲打により面が潰されている。237は細身の楕円礫を素材とし、上下端部に敲打痕が認められ、238は上方がやや平坦な楕円礫を素材とし、下端に敲打痕が認められる。なお、236・237は表面が被熱しており、236は被熱した後に敲打が施されている。239・240は砥石であり、いずれも円礫の平坦面を砥面としている。239は細長く削れており、縁辺部に敲打痕が残る。240は砥面が薄く剥離したものである。

241は横斧柄である。握りは直線的で、端部は欠損している。斧台前面は丸みを帯び、斧台後面は中央に稜を有する。斧台後面と装着面の境には、高さ0.5～0.6cmの段を有する。装着面の幅は3.4cmで、装着面は水平ではなく、中央に稜を有する。斧台及び握りに紐掛けのための溝や抉り、圧痕等は認められない。装着面の長さは6.0cm以上、着柄角度は約60°であり、板状鉄斧が装着されたと考

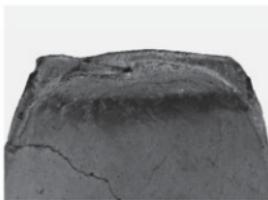


写真6 215接合痕

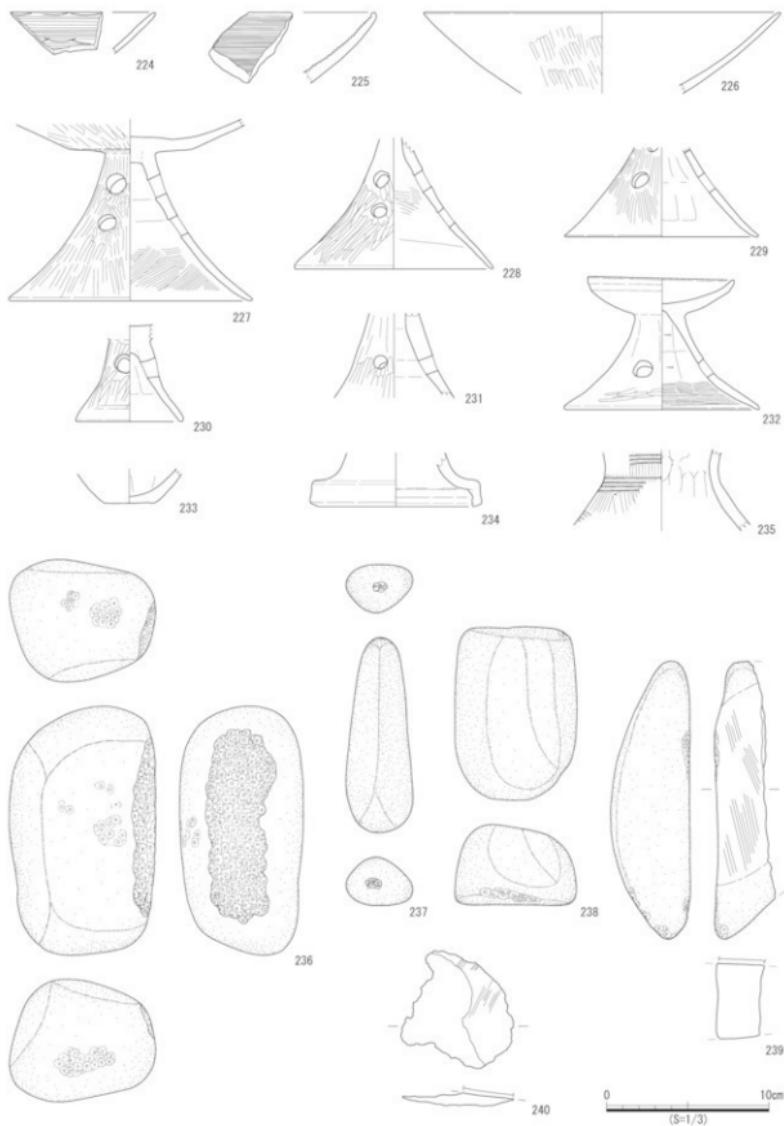


図 82 SD17 (16 ~ 30 層) 遺物実測図 (3)

えられる。242は全体の形状から楔の可能性がある。中央部の厚さは1.7cmで、両側面は尖り気味である。上端は斜めに傾斜しており、中央部分は欠損する。243・244は木錘である。いずれも芯持材の中央に溝が巡る形状で、幹と枝の分岐部分を用いており、全体形がやや歪んでいる。溝の幅は、243が0.8～1.6cm、244が1.1～1.8cmであり、いずれも断面形は三角形状若しくは台形状を呈する。245は箱の側板である。左側面はほぼ垂直に切断され、右側面は尖らせるように2方向から切断されている。表面左側に幅約1cmの断面台形を呈する溝状の窪みが認められ、本来は右側にも同様の窪みがあったと考えられる。なお、裏面には製材時の加工痕が残る。246は円柱状の木製品が半截され、作業台に転用されている。下面是平坦でその周縁は斜めに面取りされている。側面は直線的で、下端が緩やかに外反し、緩方向のヤリガンナ状の工具による加工痕が明瞭に残る。また、中央付近には、作業台として使用した際の痕跡である不定方向の無数の刃物傷が認められる。裏面は半截後に加工が施されておらず、斜め方向の刃物痕がわずかにあり、裏面上方に幅4.3cmの台形状の窪みが認められる。右側面中央には、平行する2条の弧文が複数組み合った線刻がある。実体顕微鏡で観察した結果、断面三角形状を呈する明瞭な線（以下、線Aという。）と、断面皿状を呈する浅い線（以下、線Bという。）が認められた¹⁾。中央付近の2つの弧線が接する箇所はバチ状に開いている（図83－写真A）。また、弧線は線Aと線Bが認められ、線Bにはためらい線がある（図83－写真B）。なお、側面中央付近は部分的に炭化しており、線刻内部まで炭化が認められることから、線刻後に被熱したと言える。247は編み物である。長さ約12cm、幅約11cmの範囲内に残存しており、縦材は幅2～3mm、横材は幅約1mmで、樹種はイネ科タケ亜科である。また、縦材は15本前後、横材は40本前後残存しており、編み方は1本単位で1本超え、1本潜りを繰り返すござ目編みである。縦材は下半が太く、上半が細く二又に分かれている箇所が認められることから、かごなどの立体的な製品の一部と考えられる。248は北部九州型直柄二又鍬である。頭部は丸みを帯び、柄孔上端付近で幅7.4cmを測る。刃部は右側面が欠落しており、刃部幅は8.2cmを測る。柄孔は長さ5.3cm、幅2.6cmで、着柄角度は約40～45°である。刃部先端は、両側縁ともに約2mmの段を有し、左側面は段から下方に向かって直線的に削られ、先端から刃部内面に向かって、緩やかに湾曲する。249は多又鍬の刃である。上端幅3.2cmで下方に向かうにつれて幅を減じ、先端は尖り気味である。三又鍬の刃の可能性がある。250は有抉板である。上面に幅2.0cm、深さ0.7cmの抉りを有する。表裏面にはヤリガンナ状の加工痕が残り、上面の抉り付近には不整形の圧痕が残る。また、表面には上面の抉りから下方に金属製品による細い垂線がのびており、裏面には確認できない。251は垂木の可能性がある。直径5.6cmの芯持



図83 線刻の詳細

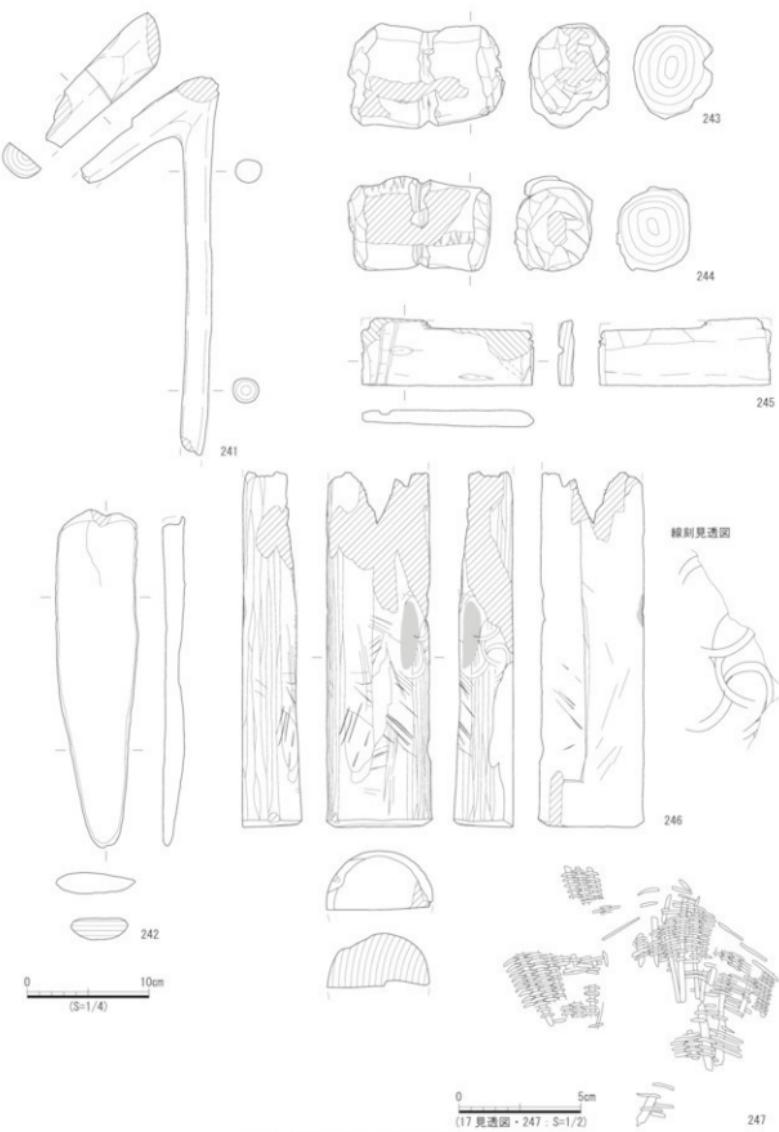


図 84 SD17 (16~30層) 遺物実測図 (4)

材であり、表面に節が残る。下方は一方向に浅い抉りを有し、下端は多方向から斜めに削られている。252は板材である。厚さ3.7cmの板材であり、断面形は表面が丸みを帯び、裏面がほぼ平坦である。表面には縦から斜め方向の加工痕が残り、下端には分割時の痕跡と考えられる深さ2cmの段を有する。何らかの製品を作成する前段階の板材と考えられる。253～256は板である。253は表面に縦方向の加工痕が残り、裏面は製材時の凹凸が残る。断面三角形状で、右側面に縦方向の加工痕が残る。254は厚さ2.7cmで全体的に湾曲しており、先端は表面から斜めに切断されている。表面上方に粗い加工

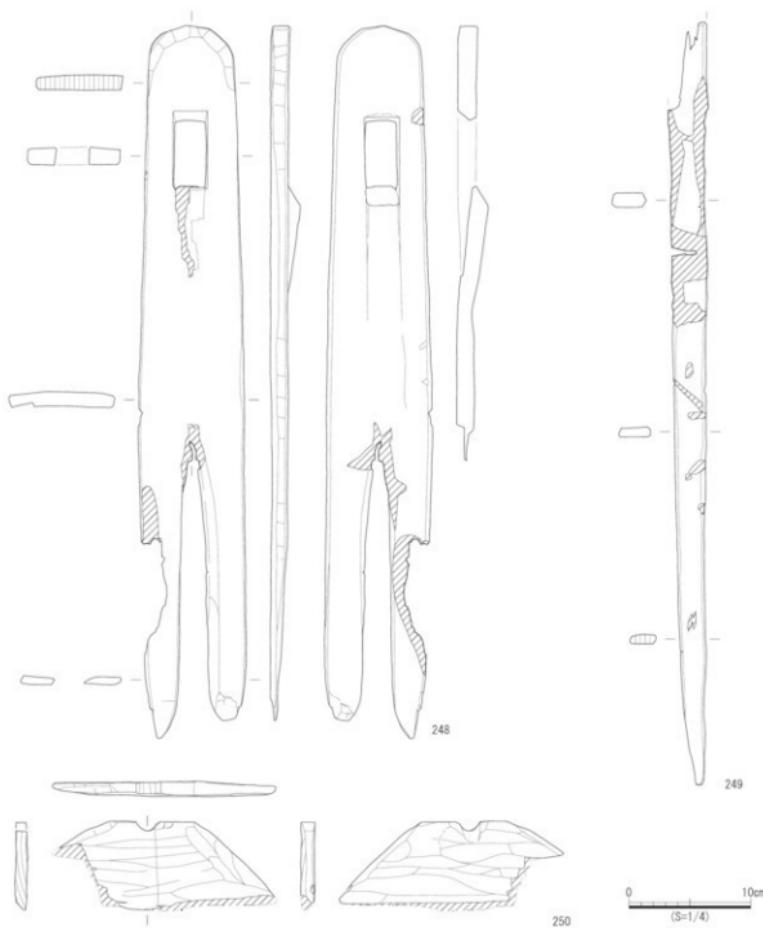


図85 SD17 (16～30層) 遺物実測図(5)

痕が残り、横から斜め方向の刃物傷が認められる。255は全体的に湾曲しており、中央部は断面台形を呈し、左側面は厚さ0.8cm、右側面が厚さ1.6cmを測る。中央から下端に向かって次第に厚みを減じ、下端は欠損している。表面上端と裏面下端に段を有するが、木目に沿って剥落している可能性がある。

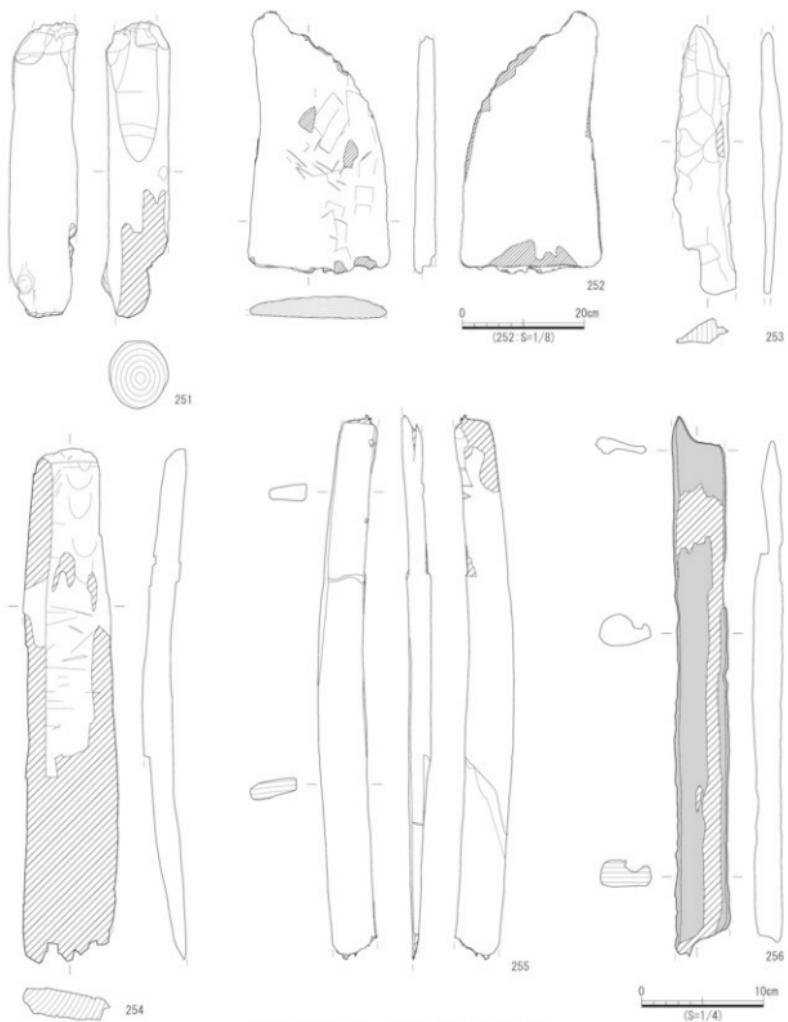


図86 SD17(16~30層)遺物実測図(6)

高い。256は中央の厚さが約2.5cm、上端部の厚さが1cm弱で扁平であり、ほぼ全面が炭化している。257～259は有抉角棒である。257は上端から約9cm下に幅約4cm、深さ約1cmの斜め方向の溝状の窪みを有する。また、表面中央やや上に斜め方向の刃物傷が残る。258は上方に幅約3cm～5cmの溝状の窪みを有するが、人為的なものか腐食によるものかの判断ができない。表面中央に0.2cmの段を有し、その左右側面には台形状の抉りが認められる。左側面の抉りは上端幅1.8cm、下端幅1.3cmであり、金属製品による刃物の食い込みが認められる。表面中央に斜め方向の刃物傷が残る。259は発掘作業時に2破片が3.4cm離れて出土したが、その出土状況から同一個体と判断した。全体的に腐食が著しく、断面形は方形を呈する。上端に長さ1.4cm、厚さ0.7cmの方形枘を有し、基部はわずかに抉れている。260～262は有抉丸棒である。260は上端に長さ2.4cm、厚さ0.9cmの方形枘を有し、枘中央両側面が長さ約0.5cm抉れている。また、方形枘の表面下半は若干窪んでいる。棒部分は全体的に断面楕円形を呈するが、方形枘直下はやや扁平である。なお、方形枘付近がわずかに炭化している。261は上端に幅2.5cm、深さ0.7cmの抉りを有するが、腐食が著しく、詳細は不明である。262は長さ190.3cmであり、上端から約103cm下までは表面にヤリガンナ状の工具による加工痕が認められ、それ以下は樹皮が残存している。上端は3方向から斜めに切断されており、表面上端から約8cm下に幅2.3cm、深さ0.4cmの抉りを有する。下端は4方向から斜めに切断されており、金属製品による食い込みが認められる。また、表面下端から約8cm上に幅3.7cm、深さ0.3cmの抉りが認められ、その側面は樹皮が帯状に剥落している。263・264は丸棒である。263は長さ154.5cmであり、先端は3方向から斜めに切断されており、表面には部分的に樹皮が残存している。下端は欠損しているが、下端上方に幅1.2cmの平坦面を有する。264は上下端部が欠損し、表面に刃物傷がわずかに認められる。265～268は角棒である。265は厚さ4cmの方形材であり、表面上方に幅約5cm、深さ約0.8cmの溝状の窪みがあるものの、腐食による窪みの可能性もある。266は表面に製材時の段があり、斜め方向の刃物傷がわずかに認められる。267は全体的に腐食が著しく、全形は不明である。表面に幅約5cm、深さ1.1cmの斜め方向の溝状の窪みを有する。268は表面に製材時の段が認められる小さな材である。269・270は残材である。269は上端と下端を斜めに切断し、表面は平滑で左側縁は緩やかに湾曲している。270は断面蒲鉾形を呈し、下端はほぼ垂直に切断されている。上端は斜めに加工され、先端は潰れている。

時期 出土遺物の時期から古墳時代前期に掘削され、8～9世紀には浅い窪地となっていたと考えられる。なお、最も多く出土したS字窓の各層の出土点数（口縁部の接合後破片数）は表7のとおりであり、4～15層、16～30層ともにC類が含まれることから、両者の時期差は小さいと考えられる。しかし、16～30層は4～15層と比べてC類の出土数が少ないと、16～30層には古式の特徴を有する柳ヶ坪型壺（195）や杯部内面に多状沈線文が施される有段高杯（224・225）が出土していることなどから、4～15層よりはやや古い時期の堆積といえる。

表7 SD17出土S字窓層位別点数

SD17層位	A類	B類	C類	山陰系	合計
1～3層			1	3	4
4～15層		1	3	53	59
16～30層			3	5	8
合計	1	7	61	2	71

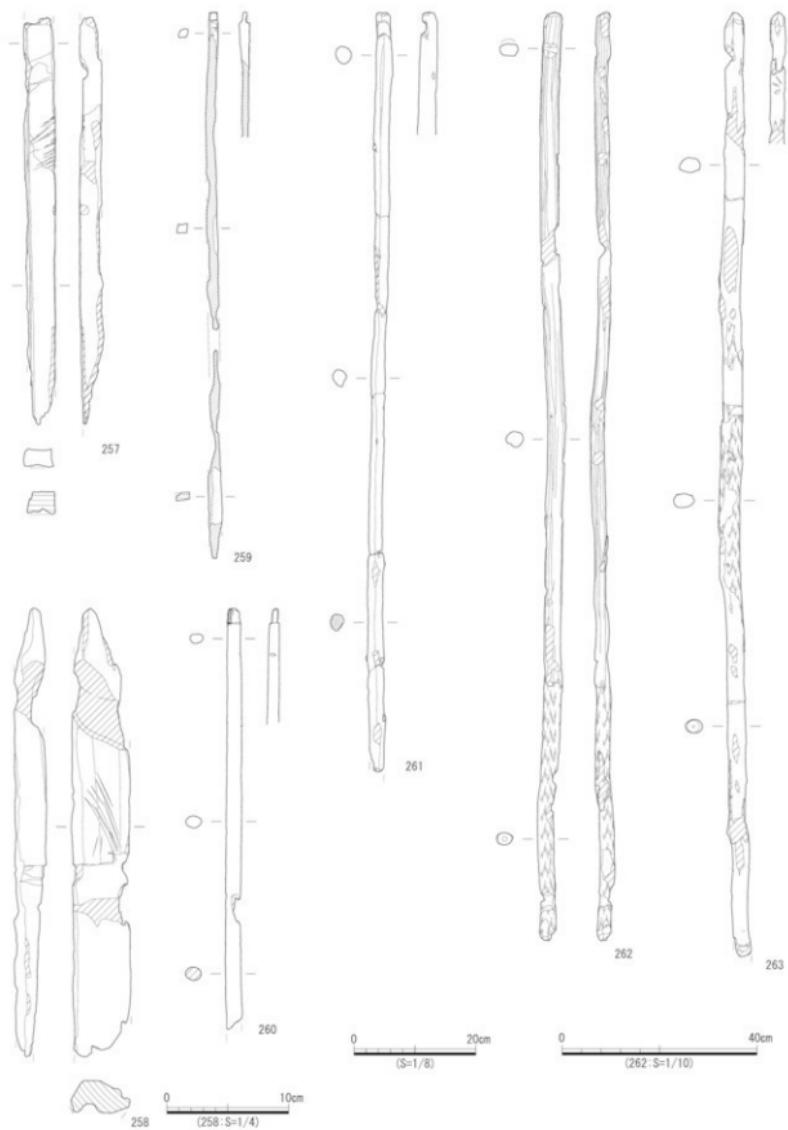


図 87 SD17 (16 ~ 30 層) 遺物実測図 (7)

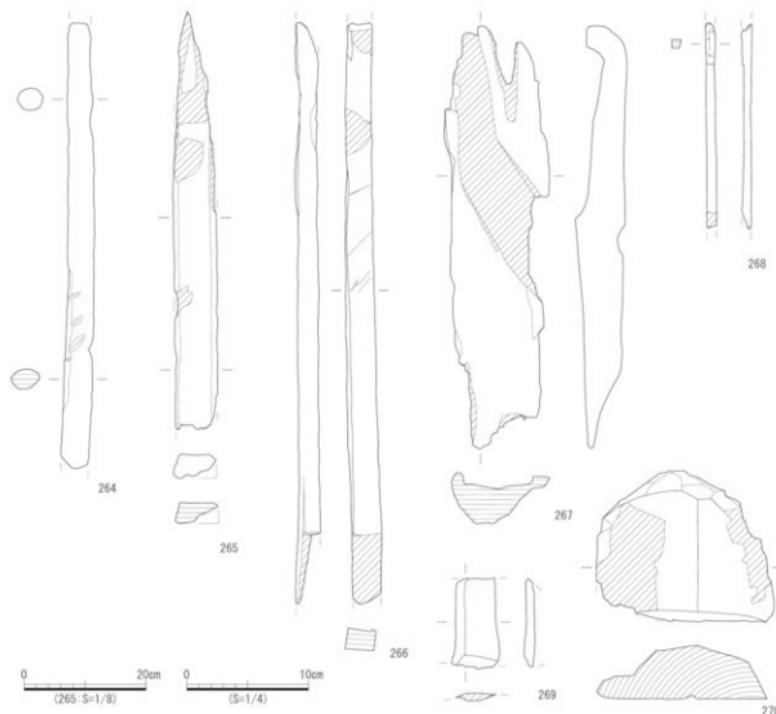


図 88 SD17 (16 ~ 30 層) 遺物実測図 (8)

SD19 (図 89)

検出状況 A地点 AA16 ~ AB16 グリッド、IV a 層上面で検出した。SZ1 盛土下での検出であり、平面形は明瞭であった。なお、図 89 では溝の南東端は収束しているように見えるが、実際は SZ1 の周溝に切られている。

規模・形状 幅 0.40 m、深さ 0.17 m であり、北西から南東方向に直線的に延びている。底面は丸みを帯び、壁面の傾斜は急である。底面標高は北側が高く、南側が低い。なお、本遺構は C 地点の SD23 の延長ライン上に位置する (図 24)。

埋土 2 層に分層した。中央が窪む堆積である

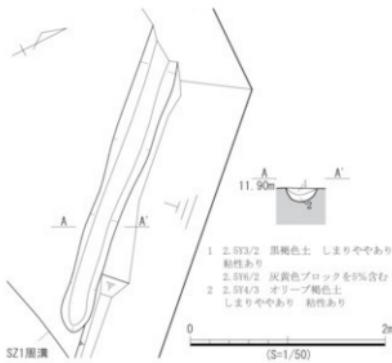


図 89 SD19 遺構図

が、1層中に基盤層であるIV a層のブロック土を含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 SZ1 盛土下での検出であるため、古墳時代前期以前である。

SD20 (図90)

検出状況 C地点 AH16グリッド、IV a層上面で検出した。南側でSK151に切られ、南北端は発掘区外に延びている。平面形は北側が明瞭であったが、南側は遺構検出面に鉄分の沈着が著しく不明瞭であった。

規模・形状 幅0.86m、深さ0.24mであり、北西から南東方向に向かって直線的に延びている。検出面から約0.1m掘削すると中央に埋土が帶状に残り、最終的には2段の掘り込みとなった。底面標高は北側が高く、南側が低い。

埋土 5層に分層した。3～5層は中央が垂む堆積であるが、全体的に基盤層であるIV a層のブロック土を含む。また、2層は粗砂を多く含んでおり、堆積要因は不明である。

遺物出土状況 土師器1点、石器類1点が出土した。しかし、小片であり図示していない。

時期 出土遺物から時期を推定できないが、溝状遺構の方向がSD3やSD17と類似し、本遺構を切るSK151から古墳時代前期の土器片が出土していることから、古墳時代前期と考えられる。

SD21 (図91・92)

検出状況 C地点 AG20グリッド、IV a層上面で検出した。北側でSD22に切られ、南端は発掘区外に延びている。平面形は東辺が明瞭であったが、西辺は不明瞭であった。

規模・形状 幅0.49m、深さ0.26mであり、ほぼ北から南方向に向かって直線的に延びている。断面形は逆台形を呈し、底面は平坦で、底面標高は南側が高く、北側が低い。

埋土 2層に分層した。いずれも基盤層であるIV a層のブロック土を含み、層界の凹凸が認められることから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 繩文土器1点、土師器20点が出土した。いずれも散在して出土し、小片が多い。そのうち2点を図示した。

出土遺物 271は土師器S字甌であり、体部外面に斜め方向のハケ調整が施される。272は繩文土器深鉢であり、口縁部下の突帯が剥離している。

時期 出土遺物の時期は繩文時代晚期と古墳時代前期であるが、多くは小片であるため混入の可能性

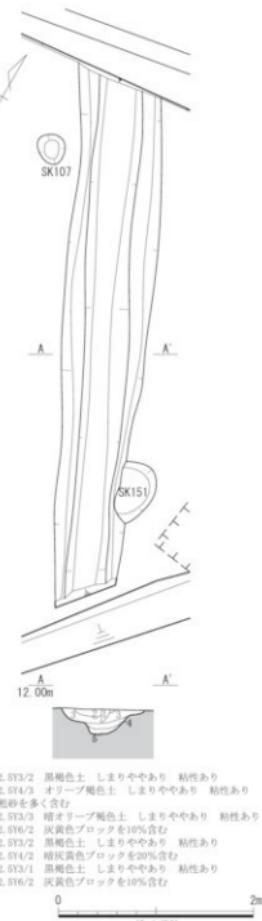


図90 SD20 遺構図

1. 2.073/2 黒褐色土 しまりややあり 粘性あり
 2. 2.074/3 オリーブ褐色土 しまりややあり 粘性あり
粗砂多く含む
 3. 2.073/3 暗オーラーブ褐色土 しまりややあり 粘性あり
灰黄色ブロックを10%含む
 4. 2.073/2 黒褐色土 しまりややあり 粘性あり
2.074/2 細灰黄色ブロックを20%含む
 5. 2.073/1 黑褐色土 しまりややあり 粘性あり
2.076/2 灰黄色ブロックを10%含む
- 0 —————— 2m
(S=1/50)

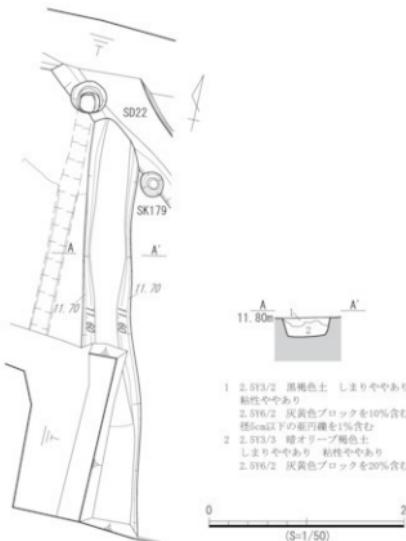


図 91 SD21 遺構図



図 92 SD21 遺物実測図

が否定できない。ただし、古墳時代前期以前の可能性があるSD22に切られるため、本遺構の時期もSD22と同様と考えられる。

SD22・23(図93・94)

検出状況 C地点AF20～BG3グリッド、IV a層上面で検出した。SD22の中央には現在の水田への給水溝が通過しており、SD23はSP23に切られている。SD22の平面形は明瞭であったが、SD23は不明瞭であり、特にその東辺は、精査を繰り返して検出した。

規模・形状 SD22は幅0.94m、深さ0.43m、SD23は幅0.83m、深さ0.22mであり、両者の距離は心々間で2.07mである。いずれも北西から南東方向に向かって平行して直線的に延びており、SD23はその北西側の延長ライン上にA地点のSD19が位置する(図24)。SD22は東壁面の傾斜が急であり、西壁面の傾斜は下方が急で、上方は緩やかである。また、底面はほぼ平坦である。SD23は底面が丸みを帯び、壁面の傾斜も緩やかであるが、南側は底面中央が細長く窪む。

埋土 SD22は7～8層、SD23は2層に分層した。SD22は基盤層であるIV a層のブロック土を多く含み、層界の凹凸も認められる。また、SD23は中央部分に同様のブロック土を含むオリーブ褐色土が堆積しており、南側の底面中央の細長い窪みの埋土も1層の土であった。

遺物出土状況 SD22から土師器27点が出土し、SD23から遺物が出土していない。SD22の遺物は散在して出土し、小片が多い。そのうち2点を図示した。

出土遺物 273・274はS字型である。273は台部外縁に連続する斜め方向のハケメが逆三角形状に残り、274は端部の折り返しが明瞭である。

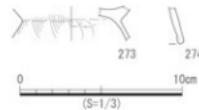


図 93 SD22 遺物実測図

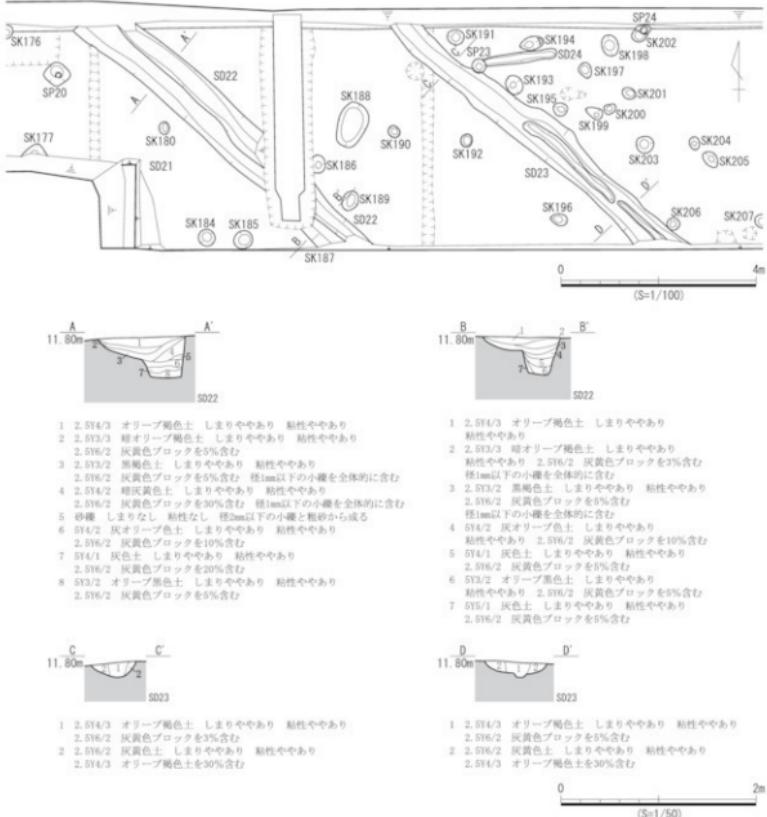


図 94 SD22・23 遺構図

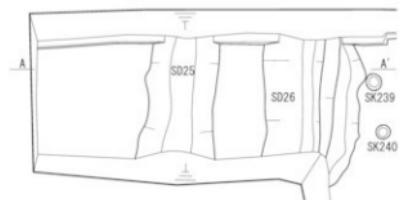
時期 SD23 と SD19 が一連の遺構であるならば、SD19 は古墳時代前期以前の遺構であるため、SD23 も同時期と考えられる。SD22 は小片のみの出土であるため、出土遺物から遺構の時期を推定することは困難であるが、SD23 と平行していることから同時期の可能性がある。

SD25・26 (図 95・96)

検出状況 C 地点 BG7 ~ BG8 グリッド、SD27 埋土上面で検出した。検出当初は SD27 の最上層である可能性を検討したが、土層断面を検討した結果、SD27 の埋土を切るような堆積を確認したため、再掘削をした溝状遺構と判断した。なお、平面形は明瞭であったが、SD26 の東辺は不明瞭で、SD27 の埋土との識別が困難であった。

規模・形状 SD25 は幅 1.44 m、深さ 0.29 m、SD26 は幅 2.10 m、深さ 0.47 m であり、ほぼ北から南

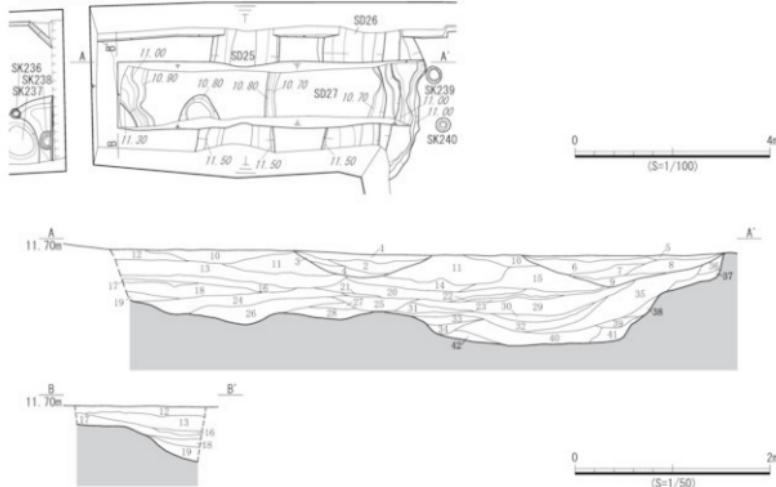
SD25・26 完掘状況



- (SD25埋土)
- 2.5Y3/1 黒褐色シルト しまりなし 粘性なし
粗砂を筋状に多く含む
 - 2.5Y3/3 前オーブル褐色シルト しまりなし
粘性ややあり 粗砂を筋状に含む
 - 2.5Y4/2 暗赤褐色土 しまりややあり 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
 - 2.5Y4/1 黄褐色シルト しまりなし 粘性ややあり
粗砂と礫砂を筋状に含む

- (SD26埋土)
- 2.5Y3/1 黑褐色シルト しまりなし 粘性ややあり
 - 2.5Y3/2 黑褐色シルト しまりなし 粘性ややあり
 - 2.5Y4/2 暗赤褐色土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 2.5Y4/1 黄褐色シルト しまりなし 粘性ややあり
炭化物をわずかに含む
 - 2.5Y4/2 暗赤褐色土 しまりややあり 粘性ややあり
粗砂と礫砂を筋状に含む

SD27 完掘状況



- (SD27埋土)
- 2.5Y3/3 哺オーブル褐色土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 2.5Y4/2 暗赤褐色土 20%含む
 - 5Y4/1 地下水土 しまりややあり 粘性ややあり 繊維を全体的に含む
 - 5Y3/2 オーブル黑色土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 2.5Y6/2 暗赤褐色土 10%含む 細砂を全体的に含む
 - 3Y3/2 オーブル黑色シルト しまりややあり 粘性ややあり
 - 炭化物と深1cm以下の重固繊を1%含む
 - 2.5Y4/1 黄褐色シルト しまりなし 粘性ややあり
 - 粗砂と微砂を筋状に含む
 - 5Y3/2 オーブル黑色シルト しまりややあり 粘性ややあり
 - 5Y3/1 地下水土 しまりややあり 粘性ややあり 全部に微砂を含む
 - 5Y4/1 地下水土 しまりややあり 粘性ややあり 全部に微砂を含む
 - 5Y3/2 オーブル黑色土 しまりややあり 粘性ややあり 炭化物を10%含む
 - 5Y3/2 オーブル黑色土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 5Y3/1 オーブル黑色土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 20 砂礫 3cm以下の重固繊と粗砂から成る 土塊片を多く含む
 - 粗砂
 - 5Y4/1 地下水土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 22 5Y4/1 地下水土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 5Y4/1 地下水土 しまりややあり 粘性ややあり
 - 24 砂礫 5cm以下の重固繊と粗砂から成る 繊維を多く含む
 - 25 砂礫 5cm以下の重固繊と粗砂から成る
 - 26 5Y3/1 黒褐色土 しまりややあり 粘性ややあり 植物遺体を多く含む
 - 土塊片を多く含む
 - 27 粗砂 2.5Y3/1 黒褐色シルトを筋状に含む
 - 28 砂礫 2.5Y3/1 黒褐色シルトを筋状に含む
 - 29 粗砂 2.5Y3/1 黒褐色シルトを筋状にわざかに含む
 - 30 2.5Y3/2 黒褐色シルト しまりややあり 粘性ややあり 植物遺体を多く含む
 - 31 2.5Y3/3 哺オーブル黑色シルト しまりややあり 粘性ややあり 筋1cm以下の重固繊を1%含む
 - 32 2.5Y3/1 黒褐色シルト しまりややあり 粘性ややあり 植物遺体を多く含む
 - 33 砂礫 径4cm以下の重固繊と粗砂から成る
 - 34 2.5Y3/1 黑褐色土 しまりやややあり 粘性ややあり
 - 35 2.5Y4/1 黄褐色シルト しまりやややあり 粘性なし 繊維を筋状に含み植物遺体をわざかに含む
 - 36 2.5Y3/1 オーブル黑色シルト しまりやややあり 粘性ややあり
 - 37 2.5Y3/2 暗赤褐色土 10%含む (埋面崩落土)
 - 37 2.5Y3/2 黑褐色土 しまりやややあり 粘性やややあり 粗砂を筋状に含む
 - 38 2.5Y3/2 暗赤褐色土 しまりやややあり 粘性やややあり
 - 39 2.5Y3/2 黑褐色土 しまりやややあり 粘性やややあり
 - 40 3Y3/2 オーブル黑色シルト しまりなし 粘性やややあり 植物遺体をわざかに含む
 - 41 3Y3/2 オーブル黑色シルト しまりなし 粘性やややあり
 - 2.5Y4/1 黄褐色シルト しまりなし 粘性やややあり 植物遺体をわざかに含む

図 95 SD25～27 遺構図

方向に向かって直線的に延びている。ただし、SD26の東辺の平面形は誤認している可能性がある。SD25は底面が丸みを帯びるが、SD26は尖り気味であり、壁面の傾斜はいずれも緩やかである。

埋土 SD25は4層、SD26は5層に分層した。いずれもシルト主体の自然堆積であり、SD25では粗砂と微砂を筋状に含む流水堆積を確認した。

遺物出土状況 SD25から弥生土器1点、土師器122点、融着物付着土塊1点、SD26から土師器13点が出土した。土器類はいずれも散在して出土し、小片が多い。そのうち3点を図示した。

出土遺物 275は有段高杯である。杯部外面下方に稜を有し、杯部内外面に縦方向のミガキ調整が施される。276は屈折脚高杯である。脚柱部が細長く、内面に粘土の輪積み痕が明瞭に残る。277は融着物付着土塊である。幅2.0cm、高さ2.2cmの範囲に黒色を呈する磁着する融着物が認められ、融着物には長さ5mmと8mmの白色粒が付着している。融着物は固化した土塊に付着しており、土塊の下端部は赤変している。なお、融着物の成分分析の結果、この土塊は鍛冶等に使用されたものである可能性が指摘された（第4章第4節参照）。

時期 出土遺物から、古墳時代前期以降と考えられる。

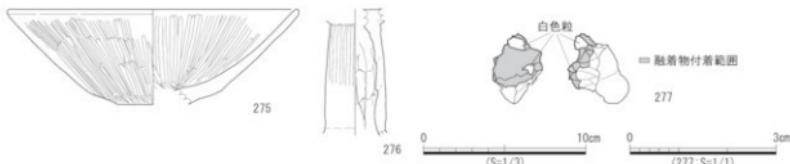


図 96 SD25 遺物実測図

SD27（図95・97・98）

検出状況 C地点BG7～BG8グリッド、IVa層上面で検出した。埋土上面においてSD25とSD26が再掘削されている。平面形は明瞭であったが、SD26との埋土の識別が困難であった。なお、本遺構は発掘区が狭小な場所に位置し、遺構埋土が砂礫主体であり、深く掘削すると発掘区の壁面が崩落する可能性があったため、掘削幅を約1mに限定して調査を行った。

規模・形状 残存幅6.29m、深さ1.00mである。発掘区が狭小であるため溝の方向は定かでないものの、検出した範囲内では北西から南東方向に延び、発掘区付近で南西方向へ屈曲している可能性が指摘できる。東壁面沿いは崩落土が多く、壁面と底面には凹凸が認められ、底面は東側が深い。

埋土 33層に分層した。シルトが主体の埋土であり、微砂や粗砂などが筋状に数条認められる。また、24・33層のように直径5cm以下の亜円礫を含む粗砂が堆積している場合や、26・30・32層のように植物遺体が多く含まれる黒褐色土もあり、流水状態と止水状態が繰り返されていたと考えられる。

遺物出土状況 弥生土器2点、土師器766点、石器類4点、木製品6点、種子2点が出土した。いずれも散在して出土し、小片が多い。土器類は20層と26層付近から多く出土し、磨製石鎌（51）も20層からの出土である。そのうち31点を図示した。なお、種子は取り上げた2点のうち、1点が桃核、1点がトチノキに同定された。

出土遺物 278～305は土師器、306・307は石器・石製品、308は木製品である。また、土師器のうち、278～286は壺、287～298は甕、299は鉢、300～304は高杯、305は器台である。

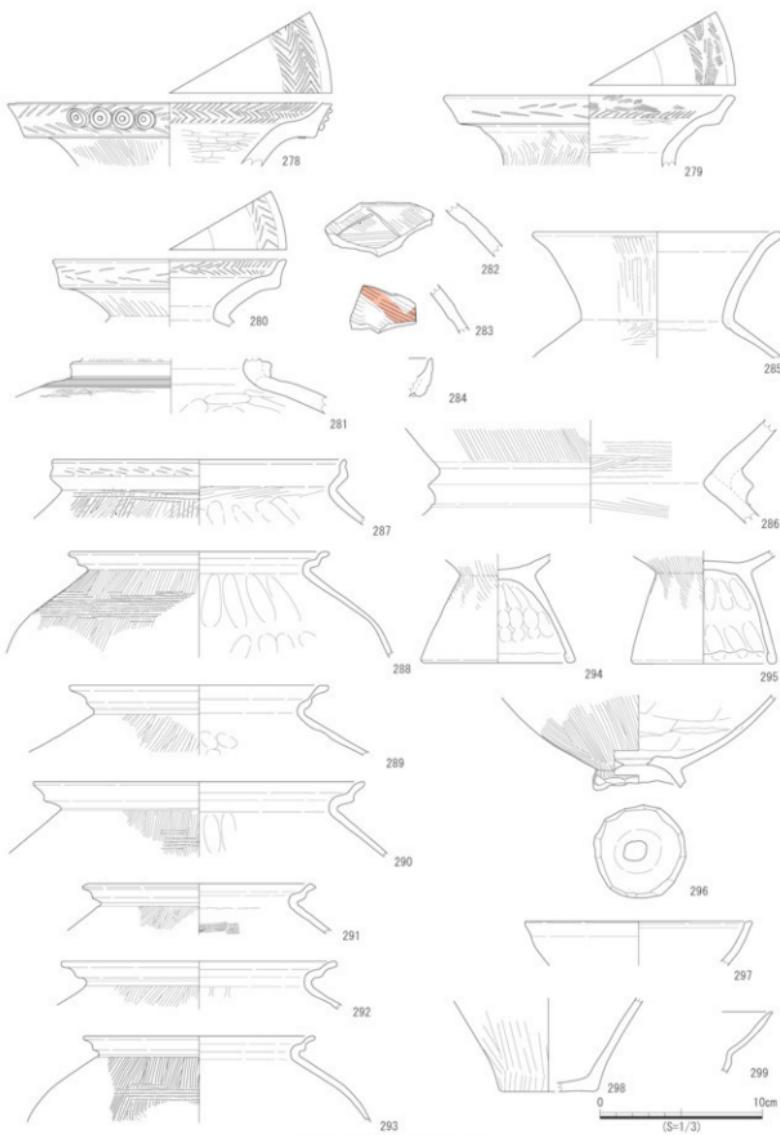


図 97 SD27 遺物実測図 (1)

278～281は柳ヶ坪型壺である。278～280は口縁部内面が内湾し、端部に278・279は水平面を、280は内傾面を有する。また、いずれも口縁部内外面にクシによる羽状文が施され、278は口縁部外面に直径1.2～1.3cmの円形浮文が4つ貼り付けられている。281は体部と頸部の境に突帯を有し、体部外面にクシによる横線文と波状文が施される。282～284はバレス壺である。282は体部外面にヘラによる波線文と横線文が施され、283は赤彩による波線文のみが描かれ、ヘラやクシによる文様は施されていない。284は口縁部破片であり、外面に横線が2条施され、口縁端部は尖る。表面が磨滅しており、赤彩の有無は判断できない。285は畿内系の壺であり、口縁部が大きく外反し、端部を丸く收める。体部から口縁部外面にかけて、丁寧なミガキ調整が施される。286は器壁が厚く、体部と口縁部の境に突帯を有する大型の壺である。胎土中に石英、長石、赤色酸化土粒、黒色粒などを多

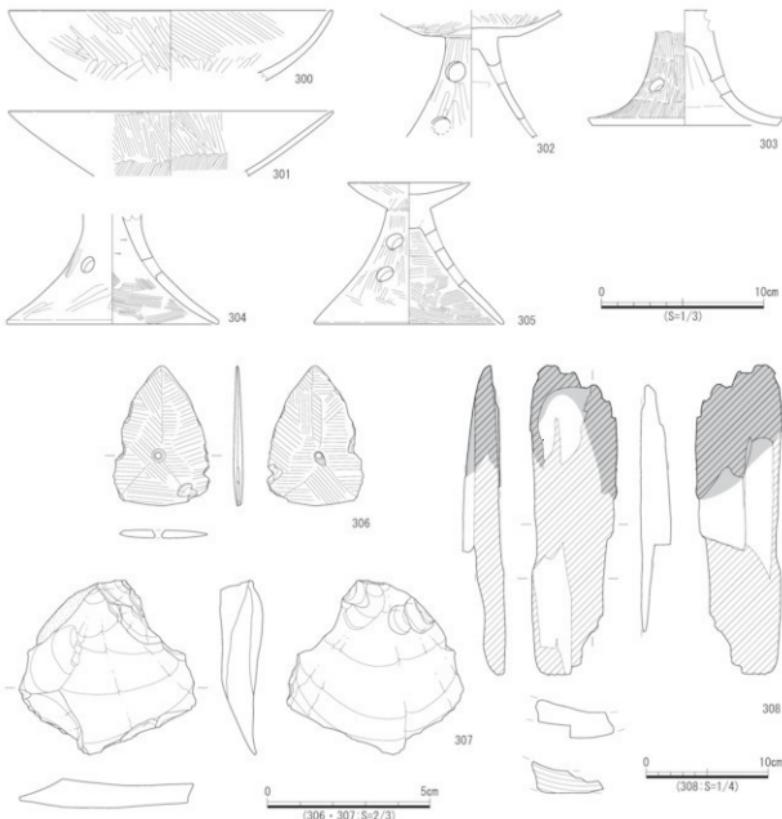


図98 SD27 遺物実測図(2)

く含み、今回の調査で出土した他の土師器とは胎土が異なる。

287～296はS字甕である。287はA類で、口縁部上段がほぼ垂直にのび、外面に押引刺突文が施される。また、体部と口縁部内面の屈折部に、横方向のハケ調整が施される。288～293はC類であり、口縁端部には、288・289が水平面、290が内傾面、291が外傾面を有し、292・293は丸く收める。289・290は面取りが特に顯著であり、面の中央が横ナデ調整によりわずかに窪む。なお、288・290は体部から口縁部外面の煤の付着が著しい。294・295は台部が残る資料である。いずれも台部外面に連続する斜め方向のハケメが逆三角形状に残り、295は底部内外面に多量の砂粒が認められるが、294には見られない。296は底部に直径約1.5cmの穿孔があり、台部を打ち欠いている。体部外面には煤が付着しているが、体部内面と穿孔部及び台部の打欠き面には煤が付着していない。297は布留型甕である。口縁部は内湾し、端部に内傾面を有する。298は平底の底部を有し、体部は内反気味に上方にのびる。

299は鉢である。口縁部は長く、内湾して大きく外側に開き、端部が尖る。器壁は薄く、胎土は緻密である。

300～304は有段高杯であるが、304は器台の可能性もある。杯部の形状は、300が丸みを帯び、301が直線的である。また、いずれも杯部内外面にいわゆる羽状ミガキが施される。302は脚部に上下2段の穿孔を3方向に配する。また、杯底部内面周縁がわずかに窪み、内面の底径は6.3cmである。303・304は穿孔を3方向に配し、脚裾部は303が外反し、304は大きく開く。

305は小型器台である。上下2段の穿孔を3方向に配する脚部は大きく開き、裾部は内湾気味である。杯部は直線的に開き、口縁端部は尖る。

306は磨製石鎌である。薄手で側縁は緩やかな曲線を呈し、基部側に最大幅を有する。基部の平面形は丸みを帯び、その側縁は面を有する。中央には直径0.2cmの両面穿孔の貫通孔がある。307はMFである。上端左側に自然面が残り、左右側縁に微細な剥離痕が認められる。

308は脚付槽である。側面は欠損し、上方の炭化が著しく全形は不明である。下半の残存している範囲は、底部から口縁部にかけて緩やかに湾曲している。裏面には現存幅約3.8cm、高さ1.3cmの平面台形を呈する脚が認められる。

時期 出土遺物から、古墳時代前期以前に掘削されたと考えられる。

注

1) 実体顕微鏡を用いた観察は、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターで行った。

第5節 古代以降の遺構・遺物

古代以降の遺構として、柵1列、土坑1基、土坑列1列、溝2条について報告する。これらの遺構のうち、SD18以外は遺物包含層であるII層掘削中に平面形を確認した遺構や、壁面でII層上面から掘り込みを確認した遺構である。そして、II層は土師器や須恵器、灰釉陶器、中世近世陶磁器を含むことから、これらの遺構の時期は中近世以降として報告する。

SA1（図100）

検出状況 B地点AG3～AF4グリッド、IVa層上面で検出した。しかし、遺物包含層であるII層掘削中にすでにSA1を構成する柱穴の平面形を確認していたため、実際はII層上面からの掘り込みと考えられる。各柱穴の検出時の平面形は、いずれも明瞭に確認できた。

規模・形状 発掘区内においてほぼ直角に曲がり、北東側と南東側は発掘区外に延びる。図100のA-A'の方位はN-8°-Wで、P1～P3間は長さ4.20m、その柱間距離は約2.10mである。

柱穴 4基の柱穴から成る。柱穴の平面形はP1、P2、P4が円形で、P3のみ不定形であり、長軸長0.27m～0.30m、深さ0.27m～0.42mである。また、いずれの柱穴でも底面で円形から梢円形の柱の当たりを確認した。埋土はP1で柱痕跡を確認し、他は基盤層であるIVa層のブロック土を含む人為堆積である。

遺物出土状況 P2から土師器1点が出土したものの、小片であり、図示していない。

時期 II層掘削中に平面形を確認していることから、中近世以降と考えられる。

SK98（図101・102）

検出状況 B地点AG10グリッド、IVa層上面で検出した。発掘区北壁の壁面観察では、本遺構はIc層基底面から掘り込みが認められ、発掘区の西側でII層上面からの掘り込みを確認したSD14を切っている。なお、平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.98m、残存短軸長0.38m、深さ0.04mであり、不整形を呈する。底面はやや凹凸があり、壁面の傾斜は緩やかである。

埋土 単層であり、小礫をわずかに含む。土器片が縦位で出土したことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 弥生土器1点、灰釉陶器1点が出土した。灰釉陶



図99 古代以降の主な遺構位置図

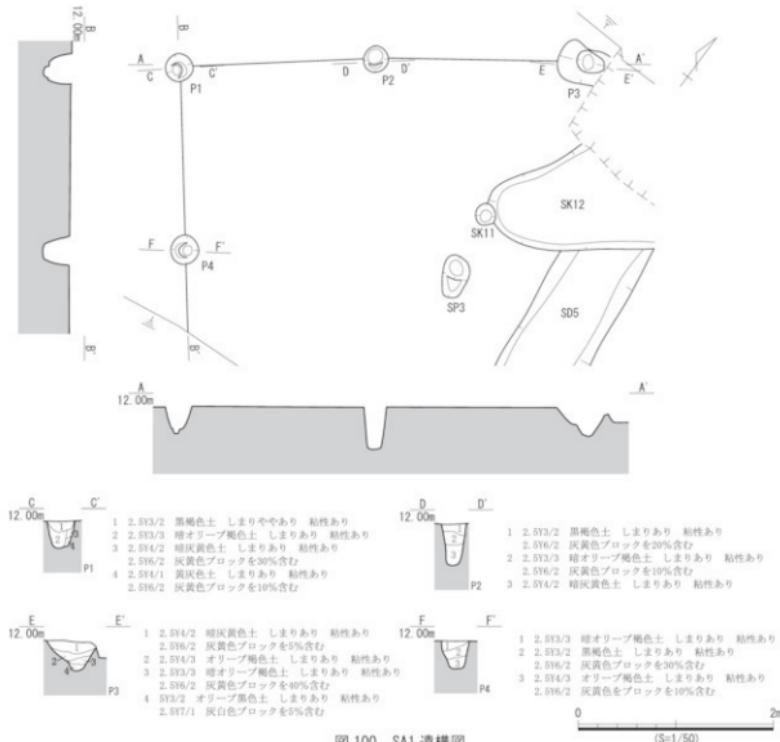


図 100 SA1 遺構図

器片は検出時において縦位で出土した。

そのうち 1 点を図示した。

出土遺物 309は美濃産の灰釉陶器碗を加工した円盤である。周縁部を細かく打ち欠き、下面中央には成形時の突出部が残る。

時期 II層上面から掘削されたSD14より新しいことから、中近世以降と考えられる。

土坑列（図 103～105）

検出状況 C地点AH16～AI16グリッド、IVa層上面で検出した。遺物包含層であるII層掘削時に土坑を認識できなかったが、発掘区南壁にてSK149がII層上面から掘り込まれていたことから、実際はいずれの土坑もII層上面からの掘り込みである可能性が高い。なお、長さ約8.1m、幅約2.0mの

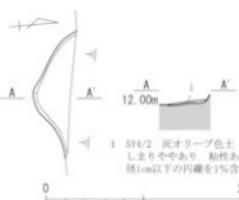


図 101 SK98 遺構図



図 102 SK98 遺物実測図

範囲内に土坑31基を検出したことから、土坑列として報告する。検出時に視認した埋土は、暗灰色土と灰色土に分かれ、前者は北からSK123、SK125、SK128、SK130、SK134、SK136、SK140、SK142、SK144、SK145、SK147が該当し、後者はそれ以外の土坑である。検出時の平面形は、前者は明瞭であり、後者は不明瞭であった。

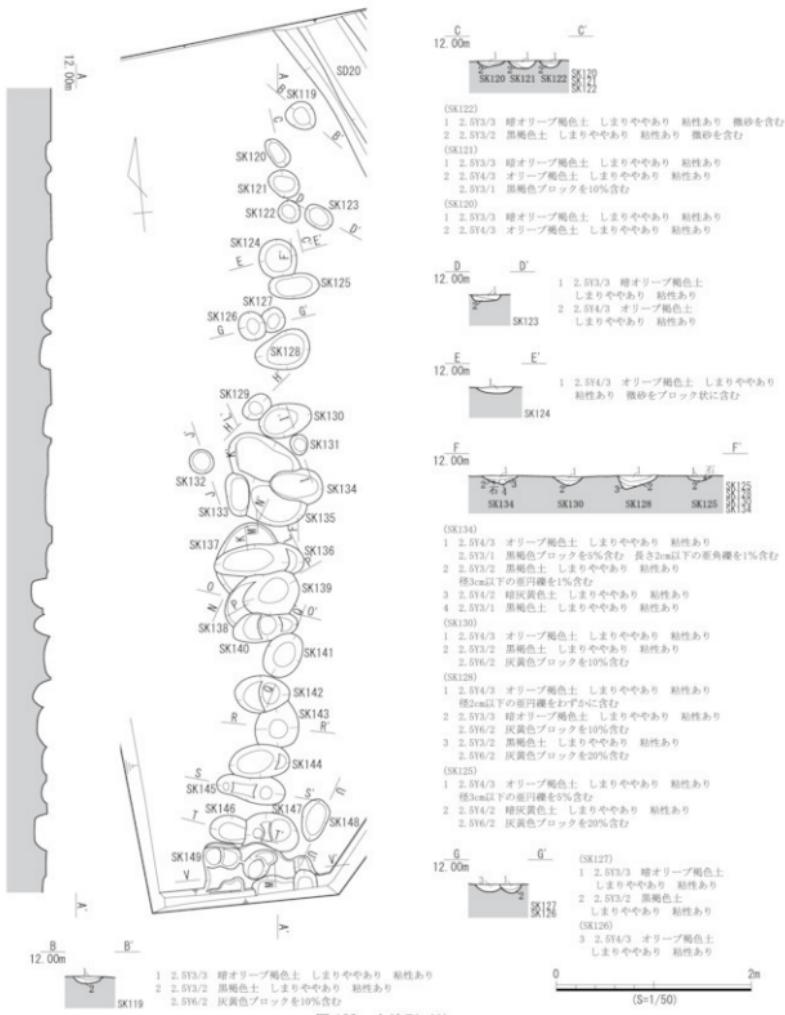


図103 土坑列(1)



図 104 土坑列 (2)

規模・形状 土坑列は長さ約8.1mを検出し、さらに南側へと延びている。各土坑の規模は、長軸長0.20m～1.12m、短軸長0.18m～0.58m、深さ0.04m～0.37mであり、検出時の埋土が暗灰色の土坑は東西に長い楕円形を呈する土坑が多く、他は円形や楕円形、不整形などの形状を呈する。底面は緩やかに窪むものが最も多く、他にSK145のように両端が窪むものや、SK149のように凹凸が著しいものもある。

埋土 多くの土坑が基盤層であるIVa層のブロック土を含む人為堆積であり、SK122やSK149のように微砂を含む土坑

もある。また、SK127、SK128、SK130、SK133、SK134、SK140、SK141、SK143、SK144では、土坑底面に径4cm以下の亜円礫が4～5個まとまって出土した。

遺物出土状況 多くの土坑から土師器の小片が散在して出土した。土師器以外の遺物はSK122から石器類（打製石鎌）1点、SK149から須恵器1点が出土しており、SK122出土の打製石鎌は土坑中央北側の1層中において縦位で出土した。

出土遺物 310は打製石鎌である。有茎長身鎌で、鎌身は肩が張る五角形状を呈し、裾部は外側に開く。311は須恵器壺蓋である。畿内系の須恵器であり、口縁端部に内傾する凹面を有する。

時期 これらの土坑列は、検出時の埋土が暗灰色と灰色土に分かれるものの、狭い範囲に密集して造成されており、一連の遺構群と考えられる。出土遺物の最新時期は古墳時代後期であるが、SK149が遺物包含層であるII層上面から掘削されていることから、中近世以降と考えられる。なお、土坑列の性格は不明である。

SD14（図106・107）

検出状況 B地点AG8～AG9グリッド、IVa層上面で検出した。本遺構は遺物包含層であるII層上面から掘削された東西に延びる溝であり、SK88、SK94、SK95、SK98に切られ、溝の北側は発掘区外に位置する。なお、平面形は明瞭であり、検出面に木の根が多く認められた。

規模・形状 残存幅0.28m、深さ0.23mであり、遺構の輪郭線は凹凸がある。底面は平坦であり、南壁面の傾斜は急である。底面標高は東側が高く、西側が低い。

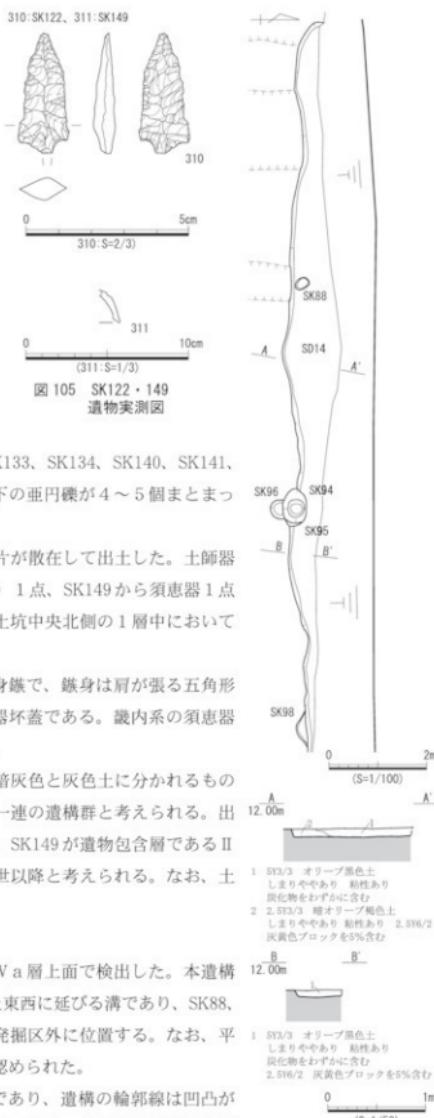


図106 SD14 遺構図

埋土 1～2層に分層した。埋土は、基盤層であるIV a層のブロック土を含む人為堆積である。

遺物出土状況 繩文土器1点、須恵器1点、山茶碗1点が出土した。小片が多く、散在して出土し、そのうち1点を図示した。

出土遺物 312は尾張型山茶碗であり、口縁端部外面に強い回転ナデ調整が施される。

時期 II層上面から掘削された遺構であるため、中近世以降と考えられる。

SD18 (図108・109)

検出状況 A地点AA16～AB16グリッド、IV a層上面で検出した。本遺構はSZ1の盛土や周溝を切っており、溝の大半は発掘区外に位置する。なお、平面形は明瞭であった。

規模・形状 残存幅0.89m、深さ0.25mであり、南北に延びる。底面は平坦であり、壁面の傾斜は急である。底面標高は北側が高く、南側が低い。

埋土 7層に分層した。下層には基盤層であるIV a層をブロック状に含む堆積が認められ、細かく分層ができたことや土層自体がブロック状に入り込むことから、壁面崩落土と考えた。上層は全体的に炭化物を含む。

遺物出土状況 土師器42点、須恵器5点が出土した。小片が多く、散在して出土し、須恵器はいずれも上層から出土した。そのうち1点を図示した。

出土遺物 313は美濃須恵産の壺の口縁部破片であり、薄手で口縁端部がわずかに内湾する。

時期 出土遺物の時期から、古代以降と考えられる。

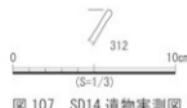


図107 SD14 遺物実測図

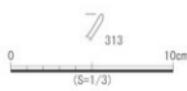
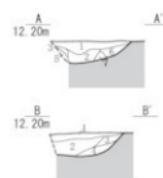
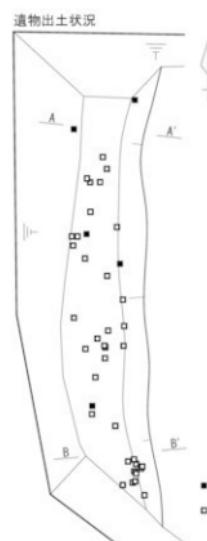
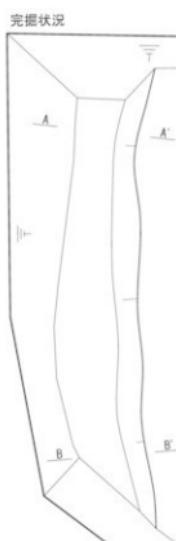


図108 SD18 遺物実測図



1. 2.5%3 オリーブ褐色土 しまりややあり 黏性あり
2. 5%6/2 灰黄色ブロックを1%含む 同化物をわずかに含む
3. 5%3/2 増オリーブ褐色土 しまりややあり 黏性あり
2. 5%3/2 黒褐色土 しまりややあり 黏性あり
2. 5%4/3 オリーブ褐色土 しまりややあり 黏性あり
2. 5%3/3 増オリーブ褐色土 しまりややあり 黏性あり (壁面崩落土)
2. 5%4/3 オリーブ褐色土 しまりややあり 黏性あり (壁面崩落土)
2. 5%4/3 オリーブ褐色土 しまりややあり 黏性あり
2. 5%6/2 灰黄色ブロックを3%含む (壁面崩落土)
6. 2. 5%4/4 オリーブ褐色土 しまりややあり 黏性あり
2. 5%6/2 灰黄色ブロックを5%含む (壁面崩落土)
7. 2. 5%6/2 灰黄色土 しまりややあり 黏性あり
2. 5%4/4 オリーブ褐色ブロックを30%含む (壁面崩落土)

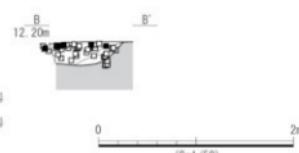


図109 SD18 遺構図

第6節 遺物包含層出土遺物

遺物包含層から出土した遺物として、基本層序のⅠ～Ⅲ層と搅乱等から出土した遺物を対象とし、44点を図示した（図110・111）。

314は弥生土器の壺の頸部破片であり、外面にヘラによる縦線帯と横線帯が施される。315は土師器である。315は緻密な胎土を有する壺の口縁部であり、外面に段を有することから小型の二重口縁壺の可能性がある。316・317はバレス壺である。316はクシによる波線文と横線文が施され、破線文の刺突内に赤色顔料が残る。317は2条の突帯を有する肩部であり、突帯の上方に赤色顔料が塗布される。318は有段高杯であり、杯底部内面周縁がわずかに窪む。319は屈折脚高杯であり、口径が12.0cmと小さい。320～329は須恵器である。320は壺蓋であり、口縁端部が尖る。321～324は有台坏である。321・322は高台端部が外側に張り出し、324は逆台形状を呈する。323は底部内面にヘラによる2条の線が施される。325・326は蓋である。325は326よりも器壁が薄く、いずれも口縁端部が鋭く折り返される。327・328は鉢であり、いずれも口縁部が直立し、端部に平坦面を有する。329は壺であり、体部内面に自然釉が附着し、体部外面に不定方向のヘラケズリ調整が施される。330～332は灰釉陶器碗である。330は高台外面が湾曲し、331・332は逆三角形状の高い高台を有する。333は緑釉陶器である。角高台を有し、高台接地面を含めた残存部位の全面に綠釉が施されている。334～352は中近世陶磁器である。334～338は尾張型の山茶碗である。334～337はいずれも底部内面周縁がわずかに窪み、336は底部中央に穿孔が穿たれている可能性がある。338は口縁端部外面に強い回転ナデ調整が施され、端部に外傾面を有する。339・340は東濃型の山茶碗である。339は底部外面周縁からやや内側に高台が貼り付けられ、340は無高台である。341は尾張型の小皿であり、底径が3.6cmと小さい。342は東濃型の山茶碗と同じ胎土を有する土器で、底部外面に回転糸切り痕が残り、長さ1.1cmと0.9cmの粘土塊が付着している。343～345は古瀬戸である。343・344は壺であり、

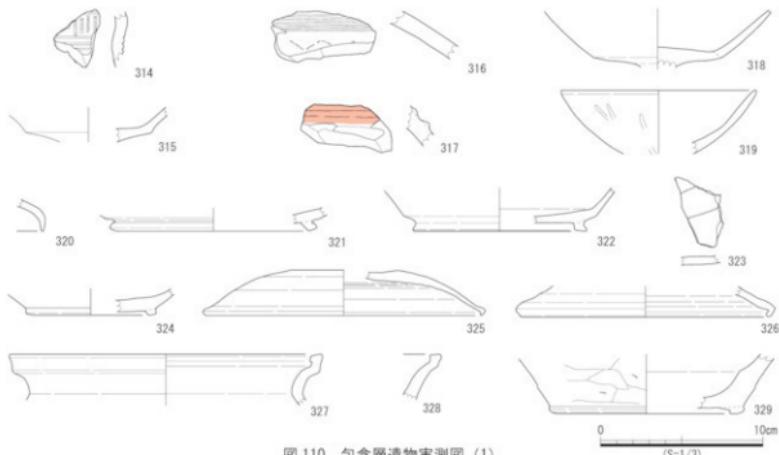


図110 包含層遺物実測図(1)

343は体部外面に斜め方向の1条の沈線文が施され、344は肩部外面にクシによる6条1単位の沈線文が施される。345は卸目付大皿であり、底部内面の釉が拭い取られている。346は瀬戸美濃（大窯）丸皿であり、幕筒底を呈する。347～350は瀬戸美濃（登窯）製品である。347は皿であり、底部外面を除き灰釉が施される。348は丸碗であり、高台が高く、高台周辺を除き灰釉が施される。349は尾呂茶碗であり、高台周辺を除き船釉が施される。350は練鉢であり、口縁端部が外側に折り返される。351・352は中国磁器である。351は白磁皿であり、口縁部が外反する。352は染付皿であり、表面が二次的に被熱している。353・354は土錘であり、353は最大径を中程にもつ紡錘形を呈し、354は細身である。355は軽石製品である。自然面と加工面の判断は難しいものの、上面に長さ2.6cm、幅1.1cmの平滑面が認められる。356は煙管雁首である。雁首中程が欠損しているが、同一個体と判断した。脂返しの湾曲が小さく、火皿補強帯は認められない。357は鉛玉である。表面は白色を呈し、下面にわずかに凹凸が認められる。重さが11.1gであり、鉄砲玉とするならば三匁玉である。

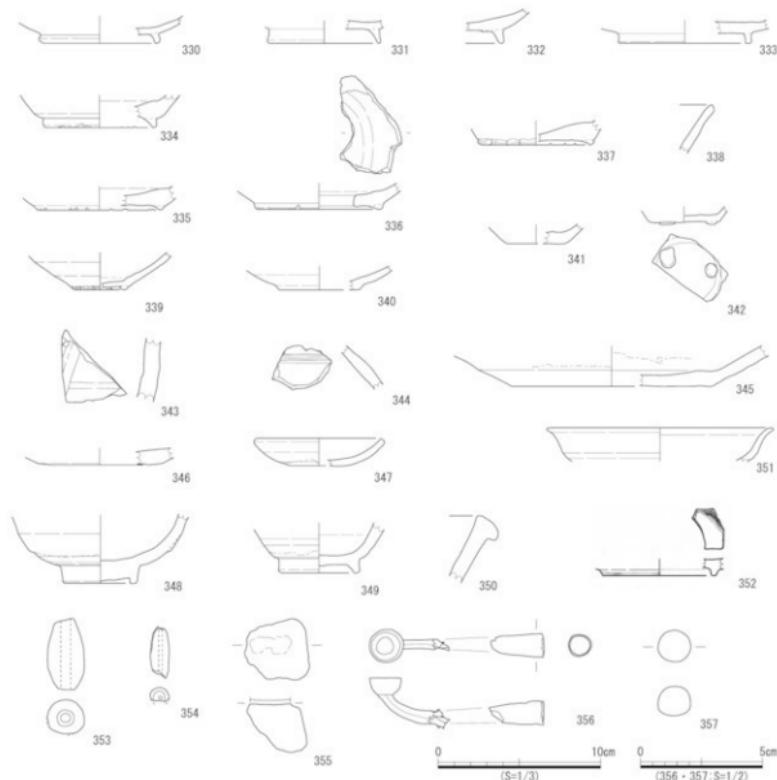


図111 包含層遺物実測図（2）

表8 積穴建物一覧表

地 点 名	遺構番 号	調査 区画	検出面	平面 形状	断面 形状	埋土	規模				切り合 い関係 新>○旧	出土 遺物	時期	釋 説	図版	
							上端 長軸	下端 長軸	長軸 短軸	深さ						
B S11	S256	AG10-11	I e 基	C4	6	—	(4.20)	(0.20)	(6.14)	(1.18)	0.00	SII2, SK100, SK101, SD15	B	古墳前期	25	8
B S12	S256	AG10	IV a 上	C5	6	—	—	—	—	—	0.00	SII1, SK99, SD14, SD15	B	古墳前期以前	27, 28	8

表9 積穴建物付属遺構一覧表

地 点 名	遺構番 号	調査 区画	検出面	平面 形状	断面 形状	埋土	規模				切り合 い関係 新>○旧	出土 遺物	時期	釋 説	図版	
							上端 長軸	下端 長軸	長軸 短軸	深さ						
B S11-P1	S257	AG11	I e 基	A1	A5	C3	0.20	0.19	0.12	0.10	0.04	SII1	B	古墳前期	25	8
B S11-P2	S246	AG10	I e 基	B4	D4	C3	0.85	0.42	0.82	0.20	0.22	SII2-便跡塗2	B	古墳前期	25	8
B S11-便跡塗2	S247	AG10	I e 基	A1	D3	(5.31)	—	(5.28)	0.09	0.09	SII2-便跡塗2, SD15	B	古墳前期以前	25	8	
B S12-P1	S238	AG10	IV a 上	A1	B1	D3	0.20	0.19	0.07	0.06	0.22	SP9	B	古墳前期以前	27	8
B S12-P2	S237	AG10	IV a 上	A2	D2	C3	0.24	0.20	0.13	0.12	0.21	—	B	古墳前期以前	27	8
B S12-P3	S230	AG9	IV a 上	A1	A3	C3	0.21	0.19	0.11	0.10	0.13	—	B	古墳前期以前	27	8
B S12-P4	S267	AG10	IV a 上	B1	D2	C3	0.23	0.22	0.12	0.11	0.30	—	B	古墳前期以前	27	8
B S12-P5	S241	AG10	IV a 上	A1	A2	C5	0.26	0.24	0.12	0.10	0.20	SD15	B	古墳前期以前	27	8
B S12-P6	S236	AG10	IV a 上	B2	A5	D2	0.41	0.34	0.54	0.49	0.12	—	B	古墳前期以前	27	8
B S12-P7	S235	AG10	IV a 上	B3	A4	D6	0.60	0.36	0.35	0.27	0.19	—	B	古墳前期以前	27, 28	8
B S12-P8	S229	AG9	IV a 上	B6	A6	C2	0.40	(0.25)	0.22	(0.16)	0.11	—	B	古墳前期以前	27, 28	8
B S12-便跡塗2	S240	AG10	IV a 上	F4	D5	A1	0.58	0.14	0.56	0.08	0.03	—	B	古墳前期以前	27, 28	8
B S12-便跡塗2	S248	AG10	IV a 上	F4	A4	B2	2.66	0.20	—	0.10	0.07	SII1-P2, SII1-便跡1, SK99	B	古墳前期以前	27, 28	8
												SD15				

表10 挖立柱建物一覧表

地 点 名	遺構番 号	調査 区画	検出面	柱間	規模				主軸 方位	切り合 い関係 新>○旧	柱穴 出土 遺物	時期	釋 説	図版	
					長軸	短軸	方位	深さ							
C SH1	S116	AG17	IV a 上	2	間×2間	2.50	—	2.50	5° E	—	SR2	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH2	S116	AG17	IV a 上	2	間以上×1間	(3.50)	—	3.00	94° W	SB1, SK162	B	古墳前期以前	29, 30	6	
C SH3	S398	SK3-4	IV a 上	2	間×2間	3.10	—	3.10	81° W	—	BLS	B	古墳前期以前	33, 34	6

表11 挖立柱建物付属遺構一覧表

地 点 名	遺構番 号	調査 区画	検出面	平面 形状	断面 形状	埋土	規模				切り合 い関係 新>○旧	出土 遺物	時期	釋 説	図版	
							上端 長軸	下端 長軸	長軸 短軸	深さ						
C SH1-P1	S106	AG11	IV a 上	B2	D5	B4	0.43	0.43	0.34	0.21	0.21	SP2-P2	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH1-P2	S111	AG17	IV a 上	A1	D4	G4	0.38	0.34	0.20	0.24	0.20	—	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH1-P3	S999	AG17	IV a 上	A1	C3	C2	0.40	0.34	0.16	0.18	0.23	—	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH1-P4	S096	AG17	IV a 上	A1	D2	G3	0.36	0.34	0.16	0.15	0.24	—	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH1-P5	S095	AG17	IV a 上	B2	A4	A1	0.40	0.32	0.19	0.15	0.11	—	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH1-P6	S099	AG17	IV a 上	A1	A2	C2	0.33	0.29	0.19	0.14	0.22	—	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH1-P7	S099	AG17	IV a 上	A1	D3	E3	0.35	0.24	0.19	0.18	0.20	—	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH1-P8	S099	AG17	IV a 上	A1	D3	D4	0.44	0.29	0.30	0.18	0.25	—	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH2-P1	S289	AG18	IV a 上	A1	F3	C4	0.44	0.30	0.36	0.26	0.35	SK162	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH2-P2	S105	AG17	IV a 上	A5	D3	D4	0.46	(0.40)	0.32	0.30	0.31	SB1-P1	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH2-P3	S099	AG17	IV a 上	B2	F2	G6	0.42	0.29	0.27	0.20	0.33	—	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH2-P4	S094	AG17	IV a 上	B2	D3	G4	0.46	0.44	0.15	0.27	0.30	—	B	古墳前期以前	29, 30	6
C SH2-P5	S172	BG3	IV a 上	D2	D6	C5	0.48	0.28	0.38	0.27	0.18	—	B	古墳前期以前	33, 34	6
C SH2-P6	S375	BP4-5	IV a 上	F2	G4	A9	0.45	0.45	0.15	0.11	0.34	—	B	古墳前期以前	33, 34	6
C SH2-P7	S378	BP4	IV a 上	D3	D6	G4	(0.45)	0.29	0.21	0.21	0.29	—	B	古墳前期以前	33, 34	6
C SH2-P8	S373	BP3	IV a 上	C1	D3	D4	0.50	0.42	0.34	0.31	0.37	—	B	古墳前期以前	33, 34	6
C SH2-P9	S379	BP4	IV a 上	D2	D3	D2	0.53	0.42	0.39	0.21	0.25	—	B	古墳前期以前	33, 34	6
C SH2-P10	S377	BP3	IV a 上	D2	D4	D3	0.43	0.22	0.36	0.20	0.28	—	B	古墳前期以前	33, 34	6
C SH2-P11	S377	BP3	IV a 上	D4	D5	D3	0.52	0.37	0.27	0.16	0.14	—	B	古墳前期以前	33, 34	6
C SH2-P12	S377	BP4	IV a 上	D1	F2	G4	0.48	0.43	0.27	0.17	0.33	—	B	古墳前期以前	33, 34	6
C SH2-P13	S378	BP4	IV a 上	D2	D5	C3	0.46	0.23	0.37	0.22	0.23	—	B	古墳前期以前	33, 34	6

表12 檻一覧表

地 点 名	遺構番 号	調査 区画	検出面	柱間	規模				主軸 方位	切り合 い関係 新>○旧	柱穴 出土 遺物	時期	釋 説	図版		
					長軸	短軸	方位	深さ								
B SA1	S099	AG3	B 上	A1	D2	G4	0.28	0.28	0.11	0.08	0.27	—	B	中古世以前	100	16
B SA1-P1	S012	AG3	B 上	A1	D2	B3	0.27	0.26	0.15	0.15	0.42	—	B	中古世以前	100	16
B SA1-P2	S013	AF4	B 上	E5	F2	C4	(0.32)	0.36	0.28	0.15	0.29	—	B	中古世以前	100	16
B SA1-P3	S014	AG3	B 上	A1	D2	D3	0.30	0.30	0.15	0.14	0.28	—	B	中古世以前	100	16
B SA1-P4	S011	AG3	B 上	A1	D2	G5	0.53	0.38	0.34	0.26	0.48	—	B	古墳前期以前	35	7
B SA2-P1	S139	AG6	IV a 上	B1	D5	G7	0.50	0.44	0.34	0.27	0.41	—	B	古墳前期以前	35	7
B SA2-P2	S141	AG6	IV a 上	A2	D2	G5	0.53	0.38	0.34	0.26	0.48	—	B	古墳前期以前	35	7

表13 檻付属遺構一覧表

地 点 名	遺構番 号	調査 区画	検出面	平面 形状	断面 形状	埋土	規模				切り合 い関係 新>○旧	出土 遺物	時期	釋 説	図版	
							上端 長軸	下端 長軸	長軸 短軸	深さ						
B SA1-P1	S009	AG3	B 上	A1	D2	G4	0.28	0.28	0.11	0.08	0.27	—	B	中古世以前	100	16
B SA1-P2	S012	AG3	B 上	A1	D2	B3	0.27	0.26	0.15	0.15	0.42	—	B	中古世以前	100	16
B SA1-P3	S013	AF4	B 上	E5	F2	C4	(0.32)	0.36	0.28	0.15	0.29	—	B	中古世以前	100	16
B SA1-P4	S011	AG3	B 上	A1	D2	D3	0.30	0.30	0.15	0.14	0.28	—	B	中古世以前	100	16
B SA2-P1	S139	AG6	IV a 上	B1	D5	G7	0.50	0.44</								

表14 墓一覧表

地 点 名	遺 跡 名	遺 跡 番 号	調 査 区 間	横 出 面	平 面 形 状	断 面 形 状	埋 土	規模				切り合 い関係 >○>日	出土 遺物	時 期	博 國	図版
								上 端	下 端	長 軸	短 軸	深 さ				
A SZ1	SZ15	AB16-17	IV a 上	P2	D6	B25	(4.06)	3.20	(4.09)	1.32	0.94	SK106, SD10>SD19	瓦, S	古墳前葉以前	39, 40	8, 9

表15 烟土一覧表

地 点 名	遺 跡 名	遺 跡 番 号	調 査 区 間	横 出 面	平 面 形 状	断 面 形 状	埋 土	規模				切り合 い関係 >○>日	出土 遺物	時 期	博 國	図版
								上 端	下 端	長 軸	短 軸	深 さ				
B SL1	S202	AG5	IV a 上	B1	F5	B2	0.62	0.60	0.47	0.43	0.06	SK32, SK33>SK29	瓦	古墳前葉以前	44	8

表16 土坑一覧表(1)

地 点 名	遺 跡 名	調 査 区 間	横 出 面	平 面 形 状	断 面 形 状	埋 土	規模				切り合 い関係 >○>日	出土 遺物	時 期	博 國	図版	
							上 端	下 端	長 軸	短 軸	深 さ					
B SK1	S034	AG1	IV a 上	B6	D6	A1	(1.21)	1.18	(1.18)	1.06	0.05					
B SK2	S033	AG1	IV a 上	B2	D2	(B2)	(0.58)	(0.46)	(0.48)	(0.42)	0.16					
B SK3	S031	AG1	IV a 上	B1	D1	C2	0.36	0.33	0.24	0.20	0.12					
B SK4	S007	AG1	IV a 上	B4	D5	A1	2.29	0.90	2.04	0.62	0.15	>SD1, SD3				
B SK5	S002	AF2	IV a 上	F3	F2	D2	0.56	0.32	0.46	0.15	0.14	>SD8				
B SK6	S003	AF2	IV a 上	B5	F6	D2	0.60	(0.34)	0.42	(0.18)	0.14	>SD9, SD3, SD4				
B SK7	S004	AG2	IV a 上	B6	D6	D2	0.94	0.30	0.82	0.17	0.11	>SD8, SD4				
B SK8	S005	AG2	IV a 上	B2	D5	A1	0.49	0.38	0.36	0.22	0.13	>SD8, SD4				
B SK9	S047	AG2	IV a 上	B2	F5	C3	1.10	0.90	0.68	0.70	0.18	>SD3>SD4				
B SK10	S037	AG2	IV a 上	A5	D6	(D6)	(0.22)	0.28	(0.04)	(0.06)	0.27	>SD3>SD4				
B SK11	S015	AG4	II 上	A1	D2	C2	0.24	0.22	0.11	0.12	0.24					
B SK12	S021	AG3-4	IV a 上	B6	D6	A1	(1.06)	1.10	(1.49)	0.92	0.08	SD5				
B SK13	S017	AG4	II 上	A2	A2	D2	0.38	0.31	0.20	0.15	0.25					
B SK14	S019	AG4	II 上	C8	D8	B3	0.73	0.45	0.57	0.35	0.15					
B SK15	S018	AG4	II 上	D1	D1	C2	0.39	0.27	0.17	0.15	0.19					
B SK16	S023	AG5	IV a 上	B5	F3	HD	(0.60)	0.53	0.28	0.17	0.17	SK17>SD6				
B SK17	S022	AG5	IV a 上	D6	D6	A1	0.70	0.64	0.53	0.43	0.12	>SK16, SK19, SD6	BL, T			
B SK18	S048	AG5	IV a 上	A4	D2	D2	0.20	0.09	0.20	0.08	0.10	SK19				
B SK19	S024	AG5	IV a 上	C1	B5	B3	4.90	4.84	3.62	2.80	0.10	SK17>SK18, SK20, SK23, SK26, SK29, SK31, SK34, SK35, SK41, SK42, SP4, SP5, SD6, SD11, SD9	H	古墳前葉以前		
B SK20	S040	AG5	IV a 上	A5	D5	D4	0.91	(0.86)	0.45	0.43	0.15	SK19, SP4	BL, S	古墳前葉以前		
B SK21	S061	AG5	IV a 上	A1	A3	D2	0.30	0.28	0.16	0.14	0.13	SK34		古墳前葉以前		
B SK22	S063	AG5	IV a 上	F1	F1	A1	(0.62)	(0.62)	(0.54)	(0.40)	0.10	SK34		古墳前葉以前		
B SK23	S041	AG5	IV a 上	B4	D5	A1	0.56	0.20	0.50	0.14	0.04	SK19		古墳前葉以前		
B SK24	S050	AG5	IV a 上	A1	F5	D2	0.30	0.30	0.24	0.23	0.07	SK34		古墳前葉以前		
B SK25	S146	AG5	IV a 上	C8	D6	A1	1.70	(1.26)	1.58	(1.12)	0.06	SK28, SK33		古墳前葉以前		
B SK26	S042	AG5	IV a 上	A3	D6	D1	(0.92)	(0.48)	0.74	(0.43)	0.07	SK19, SK29		古墳前葉以前		
B SK27	S199	AG5	IV a 上	E3	F3	B2	0.47	0.28	0.16	0.13	0.17			古墳前葉以前		
B SK28	S145	AG5	IV a 上	B5	D5	A1	(0.57)	0.36	(0.51)	0.28	0.02	SK33>SK25		古墳前葉以前		
B SK29	S043	AG5	IV a 上	A3	A6	B3	(0.48)	(0.30)	0.22	(0.15)	0.15	SL1, SK19>SK26		古墳前葉以前		
B SK30	S210	AG5	IV a 上	A1	D5	A1	0.30	0.28	0.18	0.17	0.05	SK34>SD6		古墳前葉以前		
B SK31	S038	AG5	IV a 上	A1	A5	C2	0.44	0.38	0.23	0.23	0.10	SK19		古墳前葉以前		
B SK32	S201	AG5	IV a 上	A1	F4	D3	0.44	0.42	0.10	0.09	0.07	SK33>SL1		古墳前葉以前		
B SK33	S142	AG5	IV a 上	A2	D6	A1	(1.84)	(1.40)	(1.80)	(1.36)	0.03	SL1, SK25, SK28, SK32, SK38, SP6	H	古墳前葉以前		
B SK34	S025	AG4-5	IV a 上	D1	D6	D2	(3.12)	(3.02)	(2.16)	(2.13)	0.11	SK19>SK21, SK22, SK24, SK36, SD6, SD8	H	古墳前葉以前		
B SK35	S209	AG5	IV a 上	A2	D5	A1	0.50	0.36	0.36	0.26	0.10	SK19		古墳前葉以前		
B SK36	S148	AG5	IV a 上	B2	D5	A1	0.76	0.62	0.55	0.43	0.04			古墳前葉以前		
B SK37	S147	AG5	IV a 上	B2	C5	A1	0.60	0.47	0.30	0.27	0.09			古墳前葉以前		
B SK38	S149	AG5-6	IV a 上	F5	D6	B2	1.95	(1.30)	1.86	(1.22)	0.08	SK33, SK40, SK43>SK39, SD13	BL, S	古墳前葉以前		
B SK39	S200	AG5-6	IV a 上	A1	D5	A1	0.45	0.43	0.31	0.27	0.07	SK30		古墳前葉以前		
B SK40	S144	AG6	IV a 上	A1	D3	C3	0.68	0.67	0.23	0.22	0.30	SD12>SK38, SD13		古墳前葉以前		
B SK41	S206	AG6	IV a 上	A1	D3	A1	0.39	0.33	0.26	0.23	0.05	SK19		古墳前葉以前		
B SK42	S207	AG6	IV a 上	A5	D3	B3	0.31	(0.20)	(0.13)	0.12	0.16	SK19		古墳前葉以前		
B SK43	S143	AG5-6	IV a 上	A4	D6	A1	(1.41)	(0.64)	(1.33)	(0.60)	0.05	>SK8, SD13		古墳前葉以前		
B SK44	S198	AG6	IV a 上	A5	F2	B6	0.49	(0.44)	0.16	0.13	0.40	SD10, SD12>		古墳前葉以前		
B SK45	S195	AG6	IV a 上	A5	A5	C2	(0.52)	0.54	0.30	0.28	0.18			不明		
B SK46	S129	AG6	IV a 上	B3	A4	G4	0.62	0.40	0.31	0.22	0.19			古墳前葉以前		
B SK47	S182	AG6	IV a 上	B1	D5	A1	(0.40)	(0.34)	0.31	0.22	0.04			不明		
B SK48	S135	AG6	IV a 上	D3	D5	D2	0.86	0.53	0.70	0.38	0.05			不明		
B SK49	S194	AG6	IV a 上	A4	D3	C2	0.26	0.13	0.17	0.15	0.15			不明		
B SK50	S136	AG6	IV a 上	A2	D3	B4	0.58	0.41	0.33	0.25	0.30	>SK51		不明		
B SK51	S137	AG6	IV a 上	B5	A4	D2	(0.33)	0.30	0.20	0.15	0.12	SK50		不明		
B SK52	S138	AG6	IV a 上	B2	D5	B4	0.66	0.45	0.44	0.26	0.13			不明		
B SK53	S128	AG6	IV a 上	B5	C5	D5	0.58	(0.34)	(0.24)	0.23	0.31	SD12>		古墳前葉以前		
B SK54	S193	AG6	IV a 上	A5	D6	A1	(1.22)	0.32	(0.18)	0.26	0.06			不明		
B SK55	S192	AG6	IV a 上	A1	D5	C2	0.43	0.42	0.25	0.21	0.14			不明		
B SK56	S184	AG6	IV a 上	A1	A3	C2	0.28	0.26	0.11	0.10	0.13	>SK57		不明		
B SK57	S185	AG6	IV a 上	A5	C2	D3	0.54	(0.38)	0.10	0.09	0.23	SK56		不明		
B SK58	S140	AG6	IV a 上	B3	D6	A1	(0.38)	(0.20)	(0.22)	(0.16)	0.05			不明		

表17 土坑一覧表 (2)

地 点 名	遺構番号	調査 区分	検出面 番号	断面 形状	埋土 状況	基盤				切り合い関係 新>○旧	出土 遺物	時期	博団	図版		
						上端		下端								
						長軸	短軸	長軸	短軸							
B SK09	S186	AG7	IV a 上	A1	F2	C3	0.32	0.32	0.10	0.06	0.14					
B SK60	S191	AG7	IV a 上	A1	D6	A1	0.46	0.43	0.33	0.28	0.09					
B SK61	S189	AG7	IV a 上	A1	D5	A1	0.62	0.56	0.31	0.31	0.11					
B SK62	S188	AG7	IV a 上	A5	A5	C2	0.20	(0.16)	0.10	0.11	0.07	SK63>				
B SK63	S187	AG7	IV a 上	A1	D2	D3	0.24	0.23	0.10	0.12	0.22	>SK62				
B SK64	S196	AG7	IV a 上	F5	A6	C2	0.33	(0.10)	0.20	[0.09]	0.17					
B SK65	S190	AG7	IV a 上	A2	A5	A1	0.49	0.33	0.23	0.21	0.05					
B SK66	S197	AG7	IV a 上	B6	D6	A1	0.60	(0.33)	0.42	[0.29]	0.06					
B SK67	S178	AG8	IV a 上	A1	D5	D2	0.36	0.36	0.21	0.17	0.10	>SK68				
B SK68	S179	AG7-B	IV a 上	A1	D5	A1	0.32	0.29	0.20	0.18	0.08	SK67>				
B SK69	S180	AG7-B	IV a 上	A1	A5	A1	0.31	0.20	0.17	0.18	0.06					
B SK70	S181	AG8	IV a 上	A1	A5	A1	0.28	0.26	0.16	0.14	0.06					
B SK71	S168	AG8	IV a 上	E3	F3	D2	0.38	0.24	0.12	0.08	0.09	SK72>				
B SK72	S167	AG8	IV a 上	A1	A5	A1	0.28	0.26	0.16	0.14	0.05	>SK71				
B SK73	S169	AG8	IV a 上	A1	A5	A1	0.26	0.26	0.17	0.16	0.05					
B SK74	S165	AG8	IV a 上	A1	A2	G4	0.32	0.28	0.14	0.13	0.21	<SK75				
B SK75	S164	AG8	IV a 上	A1	A5	A1	0.21	0.20	0.13	0.13	0.05	>SK74				
B SK76	S166	AG8	IV a 上	A3	A2	C3	0.36	0.20	0.31	0.16	0.26					
B SK77	S163	AG8	IV a 上	A1	D6	A1	0.38	0.36	0.25	0.23	0.07					
B SK78	S162	AG8	IV a 上	A1	D5	A1	0.32	0.32	0.19	0.18	0.06					
B SK79	S171	AG8	IV a 上	B6	D2	D2	0.86	0.63	0.57	0.43	0.11					
B SK80	S170	AG8	IV a 上	A1	D5	A1	0.59	0.46	0.32	0.30	0.11					
B SK81	S177	AG8	IV a 上	A2	A5	A2	0.76	0.59	0.48	0.42	0.09					
B SK82	S172	AG8	IV a 上	A1	A5	A1	0.30	0.29	0.19	0.17	0.08					
B SK83	S173	AG8	IV a 上	A1	D4	C2	0.41	0.36	0.22	0.16	0.12					
B SK84	S176	AG8	IV a 上	A1	A5	A2	0.37	0.32	0.22	0.17	0.10					
B SK85	S174	AG8	IV a 上	A1	A5	A1	0.38	0.32	0.26	0.19	0.11					
B SK86	S175	AG8	IV a 上	B6	D2	C2	0.49	(0.27)	0.38	(0.22)	0.09					
B SK87	S160	AG8	IV a 上	A5	D6	D3	0.26	(0.17)	0.24	[0.10]	0.21					
B SK88	S161	AG8	IV a 上	B2	D4	B2	0.32	0.24	0.24	0.17	0.14	>SD14	H	中云世以降		
B SK89	S153	AG8	IV a 上	A2	A5	A1	0.56	0.41	0.31	0.20	0.07					
B SK90	S158	AG9	IV a 上	D3	A4	C2	0.85	0.56	0.29	0.18	0.16					
B SK91	S155	AG9	IV a 上	A1	D5	D2	0.27	0.35	0.22	0.20	0.11					
B SK92	S156	AG9	IV a 上	A1	D5	C2	0.34	0.30	0.24	0.22	0.10	>SP8		古代中期		
B SK93	S227	AG9	IV a 上	A1	D5	A1	0.59	0.57	0.36	0.34	0.07					
B SK94	S234	AG9	IV a 上	B2	F2	D7	0.70	0.50	0.24	0.20	0.04	SK95>SK96, SD14	H	中云世以降		
B SK95	S233	AG9	IV a 上	A2	A4	C2	0.45	0.35	0.25	0.20	0.14	SK94, SK96, SD14				
B SK96	S232	AG9	IV a 上	A1	D4	C4	0.44	0.38	0.28	0.24	0.17	>SK105, SK95				
B SK97	S244	AG9-10	IV a 上	A1	D3	C4	0.58	0.57	0.36	0.26	0.18	>SP10				
B SK98	S243	AG10	IV a 上	E5	D5	A1	0.98	(0.38)	0.89	0.34	0.03	>SD14	D			
B SK99	S242	AG10	IV a 上	A1	A5	C2	0.78	0.72	0.50	0.40	0.14	>S12-壁際腰2	H	中云世以降	101	
B SK100	S259	AG11	IV a 上	B5	A4	D4	0.92	(0.54)	0.35	0.31	0.24	SI1-P1>SK101, SD15	S	古墳世以前		
B SK101	S268	AG11	IV a 上	A1	D2	A3	0.40	0.39	0.22	0.20	0.02	SI1, SK100	S	古墳世以前	47	
B SK102	S252	AG11	I c 基	EX	D3	A1	0.36	0.23	0.12	0.08	0.08					
B SK103	S272	AG12	IV a 上	B2	D5	A2	0.72	0.56	0.35	0.34	0.61	SD17	H	古墳世以前	49	9
B SK104	S250	AG12	IV a 上	B2	F5	B4	1.28	1.04	0.76	0.60	0.16	>SK105, SP11	H	古墳世以前	51	9
B SK105	S265	AG12	IV a 上	B1	C3	D2	0.33	0.29	0.19	0.16	0.23	SK104	H	古墳世以前		
A SK106	S258	AB16	IV a 上	B6	F8	A1	1.04	1.03	1.71	0.91	0.29	>S21	H, S	古墳世以前	42	9, 10
A SK107	S226	AB16	IV a 上	A1	C2	D3	0.21	0.18	0.15	0.10	0.20					
I SK108	S204- AC17	IV a 上	E5	D6	B2	D2	1.90	2.88	0.70	0.22	0.22	SK112, SK113	H	古墳世以前		
I SK109	S269	AC16	IV a 上	F4	D6	A1	(0.41)	(0.19)	0.22	0.10	0.05					
I SK110	S223	AB17	IV a 上	A1	A5	A1	0.40	0.38	0.24	0.22	0.07					
I SK111	S224	AB17	IV a 上	B5	D6	A1	0.63	(0.14)	0.46	(0.10)	0.07					
I SK112	S221	AC17	IV a 上	A1	A3	C2	0.42	0.40	0.29	0.19	0.26	>SK108, SK113				
I SK113	S222	AC17	IV a 上	B4	D5	A1	1.38	0.34	1.21	0.27	0.06	SK112>SK108				
I SK114	S220	AC17	IV a 上	A1	A5	A1	0.40	0.39	0.28	0.24	0.06					
I SK115	S219	AC17	IV a 上	A5	D6	A1	0.26	(0.21)	0.16	(0.10)	0.32					
I SK116	S216	AC17	IV a 上	A1	A4	A1	0.40	0.39	0.23	0.23	0.19	>SK118				
I SK117	S218	AC17	IV a 上	A5	D6	A1	0.60	(0.18)	0.27	(0.10)	0.05					
I SK118	S217	AC17	IV a 上	F4	D6	B4	(2.00)	(0.80)	1.58	(0.62)	0.35	SK116				
C SK119	S067	AH16	IV a 上	B1	A5	D2	0.31	0.27	0.20	0.14	0.08					
C SK120	S066	AH16	IV a 上	B3	A5	B2	0.34	0.18	0.22	0.12	0.05					
C SK121	S065	AH16	IV a 上	B2	D5	C3	0.36	0.40	0.39	0.30	0.10					
C SK122	S064	AH16	IV a 上	A3	A5	B2	0.23	0.22	0.18	0.12	0.08					
C SK123	S063	AH16	IV a 上	A2	D5	D2	0.30	0.22	0.20	0.16	0.06					
C SK124	S065	AH16	IV a 上	A5	A1	(0.38)	0.38	0.28	0.30	0.06	SK125					
C SK125	S062	AH16	IV a 上	A4	A5	C2	0.52	0.26	0.37	0.20	0.06	>SK124				
C SK126	S062	AH16	IV a 上	A5	A1	0.30	(0.28)	0.16	0.12	0.08	SK127	H, S	中云世以前	103	16	
C SK127	S061	AH16	IV a 上	B1	A4	C2	0.26	0.22	0.14	0.12	0.09	>SK126	H	中云世以前	103	16
C SK128	S081	AH16	IV a 上	B2	D5	C3	0.16	0.40	0.39	0.30	0.10					
C SK129	S083	AH16	IV a 上	A5	D2	0.30	(0.21)	0.12	0.14	0.07	SK130					
C SK130	S080	AH16	IV a 上	B2	A5	B2	0.44	0.34	0.34	0.24	0.09	SK129, SK131	H	中云世以前	103	16
C SK131	S084	AH16	IV a 上	A1	A5	A1	0.20	0.18	0.13	0.12	0.07	SK130				
C SK132	S059	AH16	IV a 上	A1	A5	A1	0.24	0.24	0.18	0.18	0.04					
C SK133	S060	AH16	IV a 上	B3	A5	A1	0.44	0.26	0.32	0.18	0.08	>SK135	H	中云世以前	103	16
C SK134	S079	AH16	IV a 上	B3	F5	E4	0.60	0.38	0.47	0.24	0.09	>SK135	H	中云世以前	103	16
C SK135	S110	AH16	IV a 上	E3	F5	D3	1.04	0.58	0.85	0.40	0.07	SK133, SK134	H, S	中云世以前	103, 104	16

表18 土坑一覧表(3)

地番	地籍番号	新遺構番号	調査番号	検出面	平面形状	断面形状	埋土	裏側				切り合い関係 新○旧	出土遺物	時期	桝因	図版	
								上端	長軸	短軸	下端	長軸	短軸	深さ			
C SK136	5073	A116	IV a 上	B4	B6	C2	0.91	0.35	0.74	0.22	0.10	SK139>SK137, SK138	BS	中近世以前	103	16	
C SK137	5075	A116	IV a 上	F1	G6	A1	(0.12)	0.34	0.10	0.10	0.06	0.04	SK136, SK138	BS	中近世以前	103, 104	16
C SK138	5074	A116	IV a 上	A5	G6	A1	0.80	[0.43]	0.70	[0.32]	0.24	SK136, SK139, SK140	BS	中近世以前	103, 104	16	
C SK139	5055	A116	IV a 上	B2	A5	D2	0.50	0.40	0.31	0.23	0.10	SK136, SK138, SK140	BS	中近世以前	103, 104	16	
C SK140	5072	A116	IV a 上	E3	A5	C2	0.65	0.35	0.49	0.25	0.12	SK139, SK141>SK138	B	中近世以前	103	16	
C SK141	5068	A116	IV a 上	A2	A2	A1	0.50	0.36	0.31	0.20	0.07	SK140	BS	中近世以前	103, 104	16	
C SK142	5071	A116	IV a 上	A2	A4	D4	0.54	0.38	0.35	0.28	0.21	SK143	B	中近世以前	103	16	
C SK143	5076	A116	IV a 上	B5	C3	B2	(0.40)	0.44	0.18	0.20	0.24	SK142, SK144	B	中近世以前	103, 104	16	
C SK144	5070	A116	IV a 上	B3	A5	B2	0.62	0.35	0.48	0.22	0.09	SK143, SK145	BS	中近世以前	103	16	
C SK145	5077	A116	IV a 上	B5	F4	B2	0.70	(0.20)	0.50	0.12	0.09	SK144	B	中近世以前	103, 104	16	
C SK146	5078	A116	IV a 上	A5	A4	D2	(0.36)	0.28	(0.20)	0.16	0.12	SK147	B	中近世以前	103, 104	16	
C SK147	5069	A116	IV a 上	B2	D5	D3	0.59	0.40	0.38	0.22	0.13	SK149>SK146	B	中近世以前	103	16	
C SK148	5057	A116	IV a 上	B3	A5	D2	0.44	0.28	0.33	0.17	0.07	SK149	B	中近世以前	103, 104	16	
C SK149	5056	A116	IV a 上	E5	F6	B2	1.12	(0.44)	1.04	(0.41)	0.06	>SK147	BLP	中近世以前	103, 104	16	
C SK150	5114	AH16	IV a 上	F5	D4	A1	(0.12)	0.20	0.08	0.12	0.10	SP13	B	中近世以前	103	16	
C SK151	5087	AH16	IV a 上	A1	C5	C3	0.70	0.60	0.50	0.44	0.09	>S220					
C SK152	5113	A616	IV a 上	A5	A5	A1	0.40	0.34	0.30	0.24	0.05						
C SK153	5112	A617	IV a 上	A1	A3	C2	0.40	0.36	0.22	0.24	0.24	>SK154	B	古墳前期以前			
C SK154	5101	A616-17	IV a 上	A4	A3	C3	0.90	(0.60)	0.43	0.32	0.24	SK153>	BS	古墳前期以前			
C SK155	5103	A616-17	IV a 上	B1	B6	A1	0.44	0.38	0.36	0.20	0.07						
C SK156	5104	A616	IV a 上	A5	A6	A1	(0.29)	0.30	0.21	0.21	0.06	SK157>	B	古墳前期以前			
C SK157	5102	A616	IV a 上	B2	F2	B2	0.65	0.45	0.43	0.20	0.25	SK156	B	古墳前期以前			
C SK158	5097	A616	IV a 上	A1	A2	D3	0.30	0.28	0.29	0.20	0.33						
C SK159	5108	A617	IV a 上	B5	G6	A1	0.80	(0.52)	0.71	(0.46)	0.06		D	生糞中期	14	6	
C SK160	5109	A617	IV a 上	A1	A5	D2	(0.42)	0.40	0.20	0.28	0.10						
C SK161	5290	A616	IV a 上	A5	A5	D2	0.51	(0.47)	0.39	0.29	0.12						
C SK162	5288	A618	IV a 上	A1	A5	A1	0.29	0.28	0.16	0.14	0.04	>SB2-P1	H	古墳前期以前			
C SK163	5291	A618	IV a 上	F5	A4	A1	(0.60)	0.26	(0.50)	0.13	0.09						
C SK164	5303	A618	IV a 上	B5	A5	A1	0.47	(0.30)	0.30	0.29	0.06						
C SK165	5395	A616	IV a 上	B1	C2	D2	0.29	0.27	0.14	0.12	0.18	SK166>					
C SK166	5302	A618	IV a 上	A1	A5	A1	0.57	0.54	0.35	0.31	0.16	SK165					
C SK167	5394	A618	IV a 上	A1	C3	C2	0.30	0.35	0.17	0.16	0.15						
C SK168	5396	A618	IV a 上	A1	A2	B2	0.18	0.17	0.10	0.10	0.24						
C SK169	5304	A618	IV a 上	A1	A2	D3	0.30	0.28	0.15	0.12	0.21						
C SK170	5305	A619	IV a 上	A2	A2	D3	0.29	0.20	0.15	0.13	0.29						
C SK171	5307	A617-19	IV a 上	A5	A5	A1	(0.30)	0.32	0.18	0.18	0.10						
C SK172	5309	A619	IV a 上	A1	A3	B3	0.37	0.31	0.22	0.18	0.25						
C SK173	5338	A620	IV a 上	A1	A3	C3	0.28	0.26	0.15	0.15	0.15	>SK174					
C SK174	5339	A619-20	IV a 上	B5	A4	D3	(0.50)	0.55	0.31	0.27	0.23	SK173>					
C SK175	5337	A620	IV a 上	E5	D6	D2	0.61	(0.30)	0.45	(0.27)	0.14						
C SK176	5336	AP20	IV a 上	A1	A4	A1	0.30	0.29	0.17	0.14	0.12						
C SK177	5342	A620	IV a 上	C5	D6	B3	0.43	(0.22)	0.11	(0.08)	0.27						
C SK178	5397	AP20	IV a 上	A2	C1	D3	0.29	0.24	0.14	0.06	0.33						
C SK179	5346	A620	IV a 上	A1	A1	G2	0.28	0.26	0.09	0.08	0.32	>S222					
C SK180	5406	A620	IV a 上	H2	I2	D2	0.26	0.21	0.19	0.09	0.22	SK182					
C SK181	5043	BG1	IV a 上	B2	D3	A1	0.47	0.33	0.24	0.16	0.19	S222					
C SK182	5401	BG1-96	IV a 上	D6	B2	I1	0.71	(0.97)	0.57	(0.86)	0.16	SD22>SK180, SP22	H	古墳前期以前			
C SK183	5348	BG1	IV a 上	B2	A5	C2	0.43	0.35	0.26	0.20	0.12	SD22					
C SK184	5349	BG1	IV a 上	A1	A4	C2	0.35	0.34	0.19	0.18	0.15						
C SK185	5350	BG1	IV a 上	A1	D3	D3	0.39	0.36	0.25	0.21	0.28						
C SK186	5313	BG1	IV a 上	B2	D2	D3	0.36	(0.24)	0.14	0.12	0.25						
C SK187	5404	BG1	IV a 上	A2	D2	C3	0.29	0.22	0.21	0.13	0.41	SD22					
C SK188	5314	BG1	IV a 上	B3	A6	A1	0.93	0.60	0.72	0.40	0.67						
C SK189	5312	BG1	IV a 上	H2	D2	D3	0.43	0.32	0.20	0.14	0.39						
C SK190	5315	BG1	IV a 上	A1	A4	B2	0.26	0.23	0.13	0.12	0.10						
C SK191	5319	BP2	IV a 上	A1	A3	E3	0.34	0.31	0.19	0.16	0.15						
C SK192	5318	BP2	IV a 上	A1	D2	C1	0.26	0.24	0.18	0.15	0.26						
C SK193	5321	BP2	IV a 上	C1	C2	C3	0.40	0.35	0.13	0.12	0.23						
C SK194	5322	BP-B2	IV a 上	B3	F3	C2	0.50	0.27	0.42	0.13	0.12						
C SK195	5324	BP2	IV a 上	B1	B2	H3	0.29	0.26	0.16	0.11	0.23						
C SK196	5335	BP2	IV a 上	B2	A3	C3	0.35	0.24	0.18	0.15	0.17						
C SK197	5326	BP2	IV a 上	B2	D3	B2	0.33	0.26	0.16	0.15	0.14						
C SK198	5327	BP-B2	IV a 上	A2	A4	D2	0.44	0.34	0.21	0.21	0.17						
C SK199	5329	BP2	IV a 上	E3	D3	B2	0.36	0.24	0.10	0.08	0.11						
C SK200	5330	BP2	IV a 上	B2	A3	D2	0.25	0.20	0.14	0.09	0.11						
C SK201	5331	BP2	IV a 上	B1	C4	B2	0.23	0.20	0.16	0.13	0.11						
C SK202	5335	BP2	IV a 上	A5	D6	A1	0.29	(0.21)	0.19	(0.10)	0.06	SP24					
C SK203	5334	BP2	IV a 上	A1	A5	B2	0.36	0.35	0.19	0.18	0.11						
C SK204	5333	BP2	IV a 上	A2	D2	D3	0.27	0.21	0.11	0.09	0.26						
C SK205	5362	BP2	IV a 上	B2	C2	C3	0.37	0.25	0.14	0.11	0.24						
C SK206	5334	BP2	IV a 上	A1	D2	C2	0.26	0.25	0.13	0.11	0.24						
C SK207	5363	BP2	IV a 上	A1	A4	A1	0.29	0.28	0.16	0.15	0.12						
C SK208	5361	BP2	IV a 上	A1	D2	C3	0.29	0.26	0.17	0.16	0.35						
C SK209	5360	BP2	IV a 上	A1	A4	B2	0.33	0.32	0.18	0.17	0.13						
C SK210	5359	BP2	IV a 上	A1	D2	D3	0.28	0.25	0.15	0.14	0.28						
C SK211	5364	BP2	IV a 上	A1	D2	E3	0.27	0.24	0.17	0.15	0.26						

表19 土坑一覧表(4)

地點番号	遺構番号	調査区分	検出面	平面形状	断面形状	埋土	規模				切り合い関係 新○旧	出土遺物	時期	釋図	図版		
							上端	下端	長軸	短軸							
C SK212	S246	863	IV a 上	A1	D4	D3	0.37	0.35	0.23	0.22	0.18						
C SK213	S246	863	IV a 上	D5	D3	D4	0.96	0.82	0.52	0.45	0.52						
C SK214	S243	863	IV a 上	A1	D2	D3	0.24	0.23	0.13	0.12	0.20						
C SK215	S255	893	IV a 上	A5	D6	E5	0.28	(0.12)	0.18	0.09	0.22						
C SK216	S257	863-4	IV a 上	A3	A5	D3	0.54	0.35	0.28	0.18	0.20	>SK218>>SK217					
C SK217	S258	863-4	IV a 上	B3	D3	D3	0.42	0.28	0.31	0.22	0.24	>SK216>					
C SK218	S256	863	IV a 上	E2	D6	A1	0.57	0.43	0.48	0.35	0.07	>SK216					
C SK219	S281	863-4	IV a 上	D3	D3	D3	0.83	0.49	0.65	0.26	0.49						
C SK220	S285	864	IV a 上	A1	D2	D3	0.39	0.28	0.19	0.12	0.18						
C SK221	S282	864	IV a 上	A1	A5	A1	0.39	0.29	0.17	0.16	0.05						
C SK222	S286	864	IV a 上	D2	A5	B2	0.58	0.48	0.39	0.35	0.15						
C SK223	S283	864	IV a 上	A1	C2	D3	0.23	0.22	0.10	0.09	0.16						
C SK224	S284	89-954	IV a 上	A2	D3	D2	0.38	0.30	0.25	0.20	0.22						
C SK225	S287	864	IV a 上	A1	A5	D2	0.59	0.52	0.32	0.31	0.17						
C SK226	S290	864	IV a 上	A5	A4	A1	0.31	(0.20)	(0.23)	0.17	0.13	>SK227					
C SK227	S291	864	IV a 上	A1	D2	D3	0.35	0.33	0.11	0.11	0.27	>SK226					
C SK228	S289	864	IV a 上	D2	D3	D3	0.35	0.24	0.16	0.13	0.17						
C SK229	S288	865	IV a 上	D2	D5	D5	0.60	0.41	0.45	0.30	0.15						
C SK230	S301	866	IV a 上	A1	A3	A3	0.41	0.37	0.21	0.19	0.13						
C SK231	S300	866	IV a 上	B1	A5	C2	0.35	0.30	0.20	0.18	0.09						
C SK232	S299	866	IV a 上	A1	D2	D3	0.32	0.30	0.19	0.16	0.27						
C SK233	S298	866	IV a 上	A1	A4	D2	0.49	0.37	0.29	0.19	0.16						
C SK234	S297	866	IV a 上	A1	B2	D2	0.32	0.28	0.15	0.14	0.21						
C SK235	S295	866	IV a 上	D5	A5	D2	(0.69)	0.44	0.80	0.27	0.14	>SP26					
C SK236	S400	866	IV a 上	A1	D2	C3	0.22	0.19	0.11	0.11	0.23	SK237>					
C SK237	S290	866	IV a 上	F1	A5	C2	(1.32)	(1.22)	0.56	0.62	0.13	>SK236, SK238					
C SK238	S299	866	IV a 上	F2	D2	F3	0.37	(0.20)	0.19	0.12	0.27	SK237>					
C SK239	S276	868	IV b 上	A1	A5	C2	0.35	0.31	0.21	0.19	0.09						
C SK240	S277	868	IV b 上	A1	A5	D2	0.30	0.28	0.18	0.18	0.08						
C SK241	S278	868	IV b 上	A1	F6	F2	0.39	0.36	0.29	-	0.06				H, J, S	55	
C SK242	S279	869	IV b 上	A1	A4	C2	0.28	0.26	0.14	0.14	0.12						
C SK243	S280	869	IV b 上	B3	A4	A1	0.49	0.39	0.30	0.17	0.12						
C SK244	S281	B610	IV b 上	A1	A4	A1	0.32	0.32	0.17	0.16	0.13						
C SK245	S284	B610	IV b 上	B5	D6	C2	0.58	(0.27)	0.29	(0.18)	0.19						
C SK246	S231	A69	IV a 上	A1	M5	A1	0.39	0.36	0.22	0.20	0.06						
C SK247	S228	A69	IV a 上	B1	A5	A1	0.37	0.34	0.22	0.19	0.05						

表20 柱穴一覧表

地點番号	遺構番号	調査区分	検出面	平面形状	断面形状	埋土	規模				切り合い関係 新○旧	出土遺物	時期	釋図	図版	
							上端	下端	長軸	短軸						
SF1	S008	A73	II 上	B4	C2	G5	0.60	0.29	0.26	0.11	0.26					
SF2	S010	A63	II 上	C1	F4	G3	0.38	0.34	0.15	0.25	0.22					
SF3	S014	A64	II 上	B3	A3	D3	0.44	0.28	0.15	0.15	0.30					
SF4	S039	A65	IV a 上	A4	F1	G3	0.34	0.05	0.27	0.06	0.30	SK190>SK20				
SF5	S208	A65	IV a 上	A1	C2	G4	0.33	0.32	0.12	0.10	0.23	SK190				
SF6	S205	A65	IV a 上	F1	M6	A3	0.49	(0.13)	0.19	0.04	0.17	SK33				
SF7	S159	A79	IV a 上	A1	C1	G4	0.31	0.27	0.08	0.06	0.28					
SF8	S157	A69	IV a 上	F1	F5	D5	0.73	0.51	0.32	0.18	0.68	SK307				
SF9	S239	A69-18	IV b 上	B6	H4	G4	0.59	(0.39)	0.36	0.26	0.23	SI2-P1>				
SF10	S254	A610	IV a 上	F5	F2	G6	(0.37)	0.34	0.16	0.09	0.23	SK97				
SF11	S266	A612	IV a 上	B1	G3	D3	0.24	0.22	0.12	0.10	0.31	SK104>				
SF12	S058	A610	IV a 上	A2	F2	C4	0.52	0.52	0.37	0.30	0.58					
SF13	S066	A613	IV a 上	A3	F2	G4	0.50	0.33	0.34	0.21	0.31	>SK150				
SF14	S092	A116	IV a 上	A5	F2	D4	(0.23)	0.20	0.16	0.14	0.34					
SF15	S069	A617	IV a 上	A1	B2	G4	0.40	0.49	0.23	0.20	0.30					
SF16	S107	A617	IV a 上	A2	G4	D4	0.31	0.28	0.26	0.20	0.42					
SF17	S287	AF-A618	IV a 上	B1	D5	G4	0.47	0.46	0.20	0.20	0.23					
SF18	S311	AF-A618	IV a 上	C1	G4	D4	0.40	0.28	0.10	0.09	0.49					
SF19	S341	A620	IV a 上	D2	G4	D4	0.46	0.26	0.21	0.17	0.24					
SF20	S343	A620	IV a 上	D1	F2	G4	0.46	0.27	0.22	0.22	0.59					
SF21	S402	A629	IV a 上	A2	F2	G5	0.37	0.24	0.19	0.17	0.53	SD22>				
SF22	S405	B61	IV a 上	A3	G3	G4	0.41	0.35	0.25	0.18	0.19	SK182, SK22>				
SF23	S320	B62	IV a 上	A2	E2	G3	0.30	0.29	0.14	0.14	0.24	>SK23, SK24				
SF24	S052	B62	IV a 上	A3	F1	R2	0.33	0.21	0.11	0.10	0.36	SK262				
SF25	S292	B65	IV a 上	A2	A2	G3	0.29	0.28	0.16	0.13	0.25					
SF26	S293	B66	IV a 上	A2	G3	0.34	0.32	0.23	0.21	0.31	SK235>					
SF27	S296	B66	IV a 上	A2	G3	0.31	0.29	0.18	0.16	0.25						
SF28	S294	B66	IV a 上	B5	D6	0.32	(0.21)	0.16	(0.13)	0.44						
SF29	S283	B616	IV b 上	B1	F2	G4	0.36	0.31	0.20	0.15	0.19					
SF30	S282	B616	IV b 上	A2	F2	G4	0.36	0.34	0.20	0.18	0.27					

表21 溝状造構一覧表

地 點 名	遺構番 号	新遺構 調査 番号	調査 区画	横出面	平面 形状	断面 形状	埋土	渠模				切り合い関係 ○>○	出土 遺物	時期	伴 団	版 図
								上端 長軸	下端 短軸	上端 短軸	下端 長軸					
B SD1	S029	AF1-AG2	IV a.上	F8	A, B	C3	(6.64)	1.16	(6.04)	0.86	0.29	SK4-	H	古墳前期末		
B SD2	S006	AF2-AG2	IV a.上	F8	B9	D9	(7.40)	1.09	(7.40)	1.00	0.14	SK6>SD3	H	古墳前期末	59	10
B SD3	S035	AF1-AG2	IV a.上	F1	D6	B14	(5.32)	(6.36)	(5.32)	(6.24)	0.88	SK4, SK5, SK6, SK7, SK8, SD2	H, S, W	古墳前期	61	11
B SD4	S046	AF-AG2	IV a.上	F5	D6	B3	(5.26)	1.15	(5.26)	0.46	0.24	SK6, SK7, SK8, SK9, SK10, SD3	H	弥生後期	18	3
B SD5	S020	AG4	I e.高	F9	D6	A1	(3.97)	0.86	(3.97)	0.64	0.05	>SK12		中近世以降		
B SD6	S049	AF-AG5	IV a.上	F5	D3	D7	(5.36)	0.94	(5.36)	0.43	0.50	SK16, SK17, SK19, SK30, SK34, SD3, SD7	H, II	弥生中期	20	3
B SD7	S045	AG5	IV a.上	F8	A3	C2	(2.80)	0.27	(2.80)	0.13	0.16	SK19>SD6	H	古墳前期以降		
B SD8	S052	AG5	IV a.上	F5	D6	A1	(1.06)	0.16	(1.04)	0.13	0.02	SK34		古墳前期以降		
B SD9	S044	AG5	IV a.上	F9	A3	C2	(1.36)	0.14	(1.28)	0.07	0.09	SK19		古墳前期以降		
B SD10	S125	AG5-AG7	IV a.上	F5	D6	C5	(6.54)	0.50	(6.54)	0.29	0.12	>SK44, SD11, SD12	H	古墳前期以降	63	11
B SD11	S126	AF5-AG6	IV a.上	F5	D6	C9	(7.14)	0.47	(7.14)	0.34	0.18	SD10>SD12	H	古墳前期以降	63	11
B SD12	S127	AF5-AG6	IV a.上	F5	F2	D7	(5.51)	0.58	(5.51)	0.23	0.45	SD10, SD11>SK40, SK44, SK83, SD13	H	古墳前期以降	63	11
B SD13	S156	AG6	IV a.上	F5	C4	A1	(0.63)	0.18	(0.60)	0.08	0.06	SK38, SK40, SK43, SD12		古墳前期以降		
B SD14	S152	AG8-9	IV a.上	F4	D6	D2	(3.77)	(0.28)	(3.77)	(0.28)	0.23	SK88, SK94, SK95, SK98 >S12-壁際構1, SD15	J, P, Y	中近世以降	106	16
B SD15	S151	AG8-10	IV a.上	F9	A3	C3	(5.39)	0.26	(5.34)	0.11	0.11	S11-壁際構1, S12-P, S12-壁際構2, SD14>SK96, SK100	H	古墳前期以前	65	11
B SD16	S261	AG11-12	IV a.上	F9	A5	D2	(3.94)	0.91	(3.94)	0.29	0.17		H	古代以迄		
B SD17	S122	AG2-AG10	IV a.上	F3	F4	C30	(10.40)	(5.44)	(10.40)	1.32	1.19	>SK103	A, H, N, P, S, W	古墳前期	66~72	12~ 14
A SD18	S214	AA-AB10	IV a.上	F4	D6	D7	(4.34)	(0.89)	(4.34)	(0.60)	0.25	>S21	H, P, T	古代以迄	109	16
A SD19	S271	AA-AB10	IV a.上	F5	A3	C2	(3.06)	0.40	(2.99)	0.15	0.17	S21		古墳前期以前		
C SD20	S088	AG-AB10	IV a.上	F3	F3	C5	(5.40)	0.86	(5.40)	0.20	0.24	SK151>	H, S	古墳前期	90	14
C SD21	S345	AG20	IV a.上	F9	D4	D2	(4.11)	0.49	(4.11)	0.37	0.26	SD22>	H, J	古墳前期以前	91	14
C SD22	S347	AF29-AG1	IV a.上	F5	F5	D7	-	0.94	6.51	0.66	0.43	SK179, SK179>SK181, SK182, SK183, SK187, SP21, SP22, SD21	H	古墳前期以前	94	14
C SD23	S325	BF1-BG3	IV a.上	F5	F5	H2	(6.80)	0.82	(6.80)	0.46	0.22	SP23>		古墳前期以前	94	14
C SD24	S323	BG2	IV a.上	F5	A5	A1	(15.30)	0.23	(14.80)	0.13	0.04	SP23>	H	不明		
C SD25	S273	BG7	IV b.上	F5	A5	D4	-	1.44	2.33	0.50	0.29	>SD27	H, II	古墳前期以前	95	
C SD26	S274	BG8	IV b.上	F5	C2	D5	(2.30)	2.10	(2.30)	0.20	0.47	>SD27	H	古墳前期以前	95	15
C SD27	S275	BG7-8	IV b.上	F4	F6	B33	(6.29)	(1.37)	-	(0.91)	1.00	SD25, SD26	D, H, N, S, W	古墳前期以前	95	15

表22 自然流路一覧表

地 點 名	遺構番 号	新遺構 調査 番号	調査 区画	横出面	平面 形状	断面 形状	埋土	渠模				切り合い関係 ○>○	出土 遺物	時期	伴 団	版 図
								上端 長軸	下端 短軸	上端 短軸	下端 長軸					
C NR1	S285	BG11-13	IV b.上	F9	A5	B10	(7.29)	7.75	(7.29)	0.84	0.49		H, J, S	網文支那	22	4

表23 土器類観察表 (1)

掲載番号	地點	遺物名 (アリ)	層位	種別 器種	口径 底径 高さ (cm)	口縁 残存率 底部 残存率	胎土	焼成	色調 (内面) (外側) (断面)	調整	備考	補 図	図 版
1 C	SK159	1	仰生土器 甕	—	(20. 6)	1. 8/12	焼、径1mm以下の長石、 雲母をわずかに含む	良好	SYR6/6 7. SYR6/4 SYR6/6	体部へ口縁部外横方向のタ マ後横ハケ、体部へ口縁部内面 み不明	口縫端部に刺 突文	15	21
2 C	SK241	1	仰生土器 甕	—	—	—	やや粗、径1mm以下の長 石、石英、チャート、赤 色酸化土粒を多く含む	良好	7. SYR7/6 7. SYR7/4 2. SYA/1	体部外表面斜め条痕、体部内面不 明	—	17	21
3 B	S04	2-3	仰生土器 甕	—	—	1. 0/12	やや粗、径1mm以下の チャートをわずかに含む	普通	7. SYR7/2 7. SYR7/2 10YR7/2	口縫部内外面回転ナデ	口縫端部に刺 突文	19	—
4 B	S06	c	仰生土器 甕	—	(19. 8)	1. 6/12	焼、径1mm以下の長石、 チャート、赤色酸化土粒を 多く含む	良好	7. SYR7/3 7. SYR7/3 7. SYR7/3	体部外表面斜めハケ後横ハケ、口 縫部外表面不明、口縫部内面横ハ ケ、体部内面斜めハケ	口縫端部に刺 突文	21	21
5 C	NRI	f	圓文土器 深鉢	—	(35. 6)	2. 5/12	やや粗、径2mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	良好	2. SYA/2 10YR6/6 10YR6/6	体部外表面ケズリ、口縫部外面 横方向の条痕、体部内面横ナデ	口縫端部に刺 突文	23	21
6 C	NRI	f	圓文土器 深鉢	—	—	1. 0/12	やや粗、径1mm以下の長 石、石英、チャートを多 く含む	良好	7. SYR5/2 10YR6/3 10YR6/2	体部外表面横方向の柔痕、体部内 面横方向の指ナデ	口縫端部に刺 突文	23	21
7 C	NRI	d	圓文土器 深鉢	—	(7. 0)	—	焼、径1mm以下の長石、 チャート、雲母を多く含 む	良好	10YR5/3 10YR6/3 10YR6/3	体部内外面不明	—	23	21
8 C	NRI	d	圓文土器 要容器	—	—	1. 0/12	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多く含 む	良好	2. SY6/2 2. SY6/2 2. SYA/4	体部外表面横方向の柔痕、体部内 面不明	口縫端部に刺 突文	23	21
9 B	SII-P2	b	土器器 S字縫C類	(12. 5) 8. 2 21. 0	5. 0/12 3/4以上	やや粗、径2mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	良好	2. SYT7/3 2. SYT7/3 2. SYT7/3	台部外表面斜 めハケ後横ハケ、口縫部内面 横ナデ、体部内面横ナデ、台部 内面粗面	台部へ口縫部 外面に付着	26	17	
10 C	SII-P1	1	土器器 直	—	—	—	焼、径1mm以下の長石、 チャート、赤色酸化土粒を わずかに含む	良好	7. SYR6/4 10YR7/3 10YR7/3	体部外表面斜 めハケ、体部内面不 明	—	31	—
11 C	SB2-P2	b	土器器 S字縫	—	—	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10YR6/1 10YR6/2 10YR4/1	台部内外面不明	—	31	—
12 C	SB2-P3	4	土器器 S字縫	(10. 5)	—	—	やや粗、径1mm以下の長 石、石英、雲母を多く含 む	普通	2. SYT7/3 2. SYT7/3 2. SYT7/3	台部内外面不明	—	31	—
13 C	SB3-P4	c	土器器 S字縫C類	—	—	1. 0/12	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10YR6/3 10YR6/3 10YR7/3	口縫部内外面横ナデ	—	32	—
14 C	SB3-PB	c	上部器 S字縫C類	—	—	1. 0/12	やや粗、径1mm以下の長 石、チャートを多く含む	普通	10YR8/3 10YR7/3 10YR5/1	口縫部内外面横ナデ	—	32	—
15 C	SB3-PB	c	上部器 S字縫	—	—	1/4以下	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10YR8/2 10YR7/2 10YR6/1	台部内外面不明	—	32	—
16 B	SII-P1	5	土器器 S字縫C類	—	—	1. 0/12	やや粗、径1mm以下の長 石、チャートを多く含む	普通	10YR8/1 10YR8/1 10YR6/1	体部外表面斜 めハケ、口縫部内面 横ナデ、体部内面不 明	—	36	—
17 B	SII-P2	f	土器器 S字縫C類	(17. 6)	1. 2/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャートを多く含む	普通	10YR7/2 10YR7/2 10YR3/1	体部外表面斜 めハケ後横ハケ、口 縫部内外面横ナデ、体部内面 横方向の指ナデ	口縫部外 面に付着	36	—
19 A	SZ1	d	土器器 柳ヶ坪型直	—	—	1. 0/12	焼、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	良好	10YR7/3 10YR7/3	口縫部内外面 粗面江、他は調整不 明	—	41	—
20 A	SZ1	b	土器器 柳ヶ坪型直	(17. 6)	1. 8/12	—	やや粗、径3mm以下の長 石、チャート、赤色酸化 土粒をわずかに含む	普通	7. SYR6/4 7. SYR6/6 7. SYR6/2	口縫部内外面不明	—	41	—
21 A	SZ1	c	土器器 柳ヶ坪型直	—	—	—	焼、径3mm以下の長石、 チャート、赤色酸化土 粒、雲母をわずかに含む	普通	10YR7/3 7. SYR7/6 10YR7/3	体部外表面不 明、体部内面斜めハ ケ	—	41	—
22 A	SZ1	b	土器器 横縫直	—	—	—	焼、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	普通	2. SYR8/2 2. SYR8/2 SYR8/3	体部外表面横 ミガキ、口縫部外 面横ナデ、体部内面 横ナデ	—	41	—
23 A	SZ1	5	土器器 S字縫C類	(11. 9)	3. 0/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、赤色酸化土粒をわ ずかに含む	普通	2. SYR7/3 2. SYR7/3 2. SYR6/1	体部外表面斜 めハケ、口縫部外 面横ナデ、体部内面 横ナデ	—	41	—
24 A	SZ1	b	土器器 S字縫C類	(11. 3)	3. 6/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、赤色酸化 土粒をわずかに含 む	普通	2. SYR8/2 2. SYR8/2 2. SYR8/3	体部外表面斜 めハケ、口縫部外 面横ナデ、体部内面不 明	—	41	—
25 A	SZ1	4	土器器 S字縫C類	(14. 0)	2. 1/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	良好	2. SYT7/2 2. SYT7/2 2. SYT7/1	体部外表面斜 めハケ後横ハケ、口 縫部内外面横ナデ、体部内面 横方向の指ナデ	—	41	—

表24 土器類観察表（2）

高級 番号	地 点	遺構名 アリヤ	層位	種別 器種	口径 底径 最高 基高 (cm)	口縁 残存半 底部 残存率	胎土	焼成 色調 (内面) (外面) (裏面)	調整	備考	排 國	国 版
26 A	SZ1	8	土師器 布留式甌	—	—	1.0/12	やや粗、径1mm以下の長石、石英、チャート、赤色酸化土粒を多く含む	普通 SYR7/6 SYR7/6 10YR8/2	口縁部内外面横ナデ	41	23	
27 A	SZ1	6	土師器 有段高杯	13.0	9.0/12	—	粗、径2mm以下の長石、チャートをわずかに含む	普通 7.5YR8/6 7.5YR8/6 7.5YR7/4	杯部外面横ミガキ	41	17	
28 A	SZ1	b	土師器 有段高杯	—	—	—	粗、径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	普通 SYR8/5 10YR7/4 10YR5/1	脚部外面横ミガキ、杯部内面 不明	41	23	
29 A	SZ1	c	土師器 有段高杯	— (12.8)	— 2/4以上	—	粗、径5mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒、雲母をわずかに含む	良好 7.5YR8/6 7.5YR8/6 7.5YR8/6	脚部外面横ミガキ、脚部内面横 方向のヘラナデ	41	17	
30 A	SK106	6	土師器 横々坪型甌	(15.0)	1.0/12	—	粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む	良好 10YR6/3 10YR6/3 10YR8/2	口縁部内外面横ナデ	43	—	
31 A	SK106	6	土師器 甌	(11.6)	2.3/12	—	粗、径1mm以下のチャート、赤色酸化土粒をわずかに含む	普通 7.5YR7/4 7.5YR6/3 7.5YR7/4	杯部外面横ミガキ、杯部内面不 明	43	22	
32 A	SK106	6	土師器 甌	3.6	—	3/4以上	粗、径1mm以下の長石を わずかに含む	良好 10YR6/2 10YR7/3 10YR7/3	体部外面横～斜めミガキ、体部 内面指ナデ	43	17	
33 A	SK106	6	土師器 S字變B型	(14.6)	2.9/12	—	やや粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母を多 く含む	普通 10YR7/2 10YR5/3 10YR7/2	体部外面斜め～ヶ、口縁部内外 面横ナデ、体部内面指ナデ	43	—	
34 A	SK106	6	土師器 S字變B型	16.2	12/12	—	やや粗、径2mm以下の長石、チャート、雲母を多 く含む	良好 10YK7/3 10YK7/4 10YR7/4	体部外面斜め～ヶ後横ハケ、口 縁部外面横ナデ、脚部内面横 方向のヘラナデ、体部内面指ナ デ	43	17	
35 A	SK106	6	土師器 S字變	—	—	—	やや粗、径2mm以下の長石、チャート、雲母を多 く含む	良好 2.5YR6/2 2.5YR5/4 2.5YR5/2	体部外面斜め～ヶ後横ハケ、口 縁部外面横ナデ後横ハケ、口 縁部内面横ナデ、脚部内面指 ナデ	43	17	
36 A	SK106	a-c	土師器 S字變B型	(15.8)	5.3/12	—	やや粗、径1mm以下の長石、石英、チャート、雲 母を多く含む	普通 10YR8/2 10YR8/2 10YR6/1	体部外面斜め～ヶ後横ハケ、口 縁部内面横ナデ後横ハケ、口 縁部内外面横ナデ、体部内面指 ナデ	43	—	
37 A	SK106	6	土師器 S字變C型	(15.0)	2.8/12	—	やや粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母を多 く含む	普通 2.5YR7/2 2.5YR7/2 2.5YR6/2	体部外面斜め～ヶ後横ハケ、口 縁部内面横ナデ、体部内面指 ナデ	43	—	
38 A	SK106	6	土師器 S字變C型	(12.9)	1.8/12	—	やや粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母を多 く含む	普通 10YR7/2 10YR7/2 10YR5/1	体部外面斜め～ヶ後横ハケ、口 縁部内外面横ナデ、体部内面指 ナデ	43	—	
39 A	SK106	6	土師器 S字變C型	13.8	12/12	—	やや粗、径2mm以下の長石、石英、チャート、雲 母を多く含む	普通 10YR7/2 10YR7/4 10YR6/1	体部外面斜め～ヶ後横ハケ、口 縁部内外面横ナデ、体部内面不 明	43	—	
40 A	SK106	6	土師器 S字變C型	(12.3)	2.5/12	—	やや粗、径1mm以下の長石、石英、チャートを多 く含む	普通 10YR8/1 10YR8/2 10YR5/1	体部外面斜め～ヶ。口縁部外 面指ナデ、体部内面指ナデ	43	—	
41 A	SK106	6	土師器 有段高杯 (又は台器)	—	—	—	粗、径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	普通 7.5YR8/2 7.5YR8/6 7.5YR7/2	脚部外面横ミガキ、脚部内面 上方向へのヘラナデ、脚部内面 下方向へナデ	43	—	
42 A	SK106	6	土師器 有段高杯 (又は台器)	(12.3)	1/4以上	—	粗、径1mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒 をわずかに含む	普通 7.5YR5/2 7.5YR7/2 7.5YR5/2	脚部外面斜めミガキ、脚部内面 上方向へのヘラナデ、下方横 脚孔は1孔1組3方向	43	—	
45 B	SK2	1	土師器 田字甌	(14.8)	6.2/12	—	やや粗、径1mm以下の長石、石英、チャート、雲 母を多く含む	良好 10YR7/2 10YR6/2 10YR7/2	体部外面斜め～ヶ、口縁部内 外指ナデ、体部内面指ナデ	46	17	
46 B	SK2	c	土師器 田字甌	—	9.7	3/4以上	やや粗、径2mm以下の長石、チャート、雲母を多 く含む	良好 10YR7/4 10YR5/2 10YR7/3	脚部外面面横圧印、脚部内面斜 め方向へのヘラナデ、体部内面斜 めハケ、脚部内面横方向へのヘラナデ	46	—	
48 B	SK103	d	土師器 S字甌	—	6.7	3/4以上	やや粗、径1mm以下の長石、石英、チャート、雲 母を多く含む	良好 10YR8/2 10YR8/3 N3/0	台部外面斜め～ヶ、台部内面指 ナデ	体部打ち欠き	50	20
49 B	SK103	b	土師器 S字變B型	—	2.1/12	—	やや粗、径1mm以下の長石、チャートを多く含む	普通 2.5YR6/1 2.5YR6/1 2.5YR4/3	体部外面斜めハケ後横ハケ、口 縁部内外面横ナデ、体部内面指 ナデ	口縁部外面に 保護材	50	—
50 B	SK104	a	土師器 S字甌	—	8.4	—	やや粗、径2mm以下の長石、石英、雲母を多く含 む	普通 2.5YR1/1 2.5YR1/1	台部外面不明、台部内面指ナデ	52	—	
51 B	SK104	a	土師器 S字甌	—	10.1	3/4以上	やや粗、径1mm以下の長石、石英、雲母を多く含 む	普通 2.5YR7/2 2.5YR7/3 2.5YR7/3	台部外面斜め～ヶ、台部内面斜 め～ヶ後横ナデ	52	—	
52 B	SK104	a	土師器 有段高杯	—	1.0/12	—	粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母をわずか に含む。	良好 7.5YR8/4 10YR7/3 10YR7/3	杯部内外面不明	52	—	

表25 土器類觀察表 (3)

通報番号	地點	遺構名	層位	種別 器種	口径 底径 器高 (cm)	口縁 段差半 底部 段差半	胎土	焼成	色調 (内面) (外面) (断面)	調整	備考	排 因	因 版
53 C	SK185	b	土師器 広口壺	—	—	—	施、径2mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	良好	N3/0 7.5V86/6 10V87/3	体部外面糊ミガキ、体部内面糊 鐵文と模倣文	54	—	
54 C	SK237	2	土師器 広口壺	(12.4)	3.0/12	—	施、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	良好	7.5V86/4 7.5V86/4 7.5V86/3	脚部外面斜めハケ、口縁部外側 模ナデ、口縁部内面不明	56	22	
55 B	SP4	d	土師器 有段高杯 (又は器台)	(12.8)	—	1/4以下	施、径1mm以下の長石、 チャート、赤色酸化土粒を多く 含む	普通	7.5V87/2 7.5V87/3 7.5V87/3	脚部外面糊ミガキ、脚部内面上方 方横方向のヘラナデ、下方斜め ハケ	58	23	
56 B	SD2	n	土師器 有段口縁甕	—	1.0/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、赤色酸化土 粒を多く含む	普通	10V88/4 10V88/3 10V82/1	口縁部外側面糊ナデ	60	—	
57 B	SD2	n	土師器 S字甕C類	(14.6)	2.5/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10V77/3 10V77/4 10V78/1	体部外面斜めハケ、口縁部内 面糊ナデ、体部内面指ナデ	60	—	
58 B	SD2	n	土師器 S字甕	—	—	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	2.5V77/2 10V85/3 10V84/1	底部へ焼成後 穿孔(穿孔焼成 2.8cm)、右側 打ち欠き、体部 外側に保付 着	60	22	
59 B	SD2	a	土師器 屈折脚高杯	—	—	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャートを多く含む	普通	10V88/1 10V88/2 10V88/1	脚部外面糊方向のヘラナデ、脚 部内面不明	60	—	
60 B	SD3	e-f	土師器 バレス壺	(17.5)	5.3/12	—	施、径2mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	普通	10V77/2 10V77/2 10V88/1	体部外側へ口縁部内面不明、体 部内面糊方向の糊ナデ	62	17	
61 B	SD3	i	土師器 柳ヶ坪型壺	—	—	—	やや粗、径3mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	良好	10V86/3 10V86/3 10V86/3	体部外側糊ミガキ、体部内面糊 方向の糊ナデ	62	22	
62 B	SD3	i-j	土師器 S字甕B類	—	1.0/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、石英、赤色酸化土粒 を多く含む	普通	10V77/2 10V77/2 10V82/1	口縁部外側面糊ナデ	62	—	
63 B	SD3	c-e	土師器 S字甕B類	(11.4)	3.0/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10V77/2 10V77/2 10V77/2	体部外面斜めハケ、口縁部内 面糊ナデ	62	—	
64 B	SD3	f	土師器 S字甕C類	(10.8)	2.6/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、赤色酸化土 粒、雲母を多く含む	普通	10V88/3 10V88/3 10V88/3	体部外面斜めハケ、体部内面糊 方向の糊ナデ	62	—	
65 B	SD3	c-f	土師器 S字甕C類	(15.8)	3.5/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャートを多く含む	普通	10V77/2 10V77/2 10V77/2	体部外面斜めハケ後縦ハケ、口 縁部外側面糊ナデ、体部内面糊 方向の糊ナデ	62	—	
66 B	SD3	i	土師器 S字甕	(10.6)	—	1/4以下	やや粗、径1mm以下の長 石、石英、チャート、雲 母を多く含む	普通	10V86/3 10V85/1 10V86/3	台部外面斜めハケ、台部内面糊 ナデ	62	—	
67 B	SD3	d-h	土師器 布留式甕	—	1.0/12	—	やや粗、径2mm以下の長 石、チャートを多く含む 土粒、雲母を多く含む	良好	7.5V86/3 7.5V86/3	口縁部外側面糊ナデ	62	—	
68 B	SD3	h	仰生土器 有段高杯	—	1.0/12	—	施、赤色酸化土粒をわず かに含む	普通	5V86/6 5V86/6 5V87/3	口縁部外側面糊ミガキ	62	—	
69 B	SD3	g-i	土師器 有段高杯	—	1.0/12	—	施、径3mm以下の長石、 赤色酸化土粒を多く含む	普通	7.5V86/4 7.5V86/4 7.5V87/3	杯部外側面斜めミガキ	62	23	
70 B	SD3	c-e	土師器 屈折脚高杯	—	—	—	施、径2mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	良好	7.5V86/4 7.5V86/6 7.5V85/3	脚部外側面糊ナデ、脚柱外 面糊方向の糊ナデ	穿孔3方向	62	—
71 B	SD3	i	土師器 屈折脚高杯	(9.8)	—	1/4以上	施、径1mm以下の長石、 チャート、赤色酸化土粒 をわずかに含む	普通	5V85/4 5V85/6 5V85/3	脚柱部外側面糊ナデ、脚柱外 面糊方向の糊ナデ	脚柱部内面に 棘り込み板	62	18
72 B	SD3	i-j	土師器 屈折脚高杯	(13.6)	1.0/12	—	施、径1mm以下の長石、 チャート、赤色酸化土粒をわ ずかに含む	普通	10V77/4 10V86/4 10V85/1	杯部外側面糊方向の糊ナデ、杯 部外側面糊ナデ、杯部内面糊 ナデ	62	—	
73 B	SD3	i-j	土師器 屈折脚高杯	16.1	7.2/12	—	施、径1mm以下の長石、 チャート、赤色酸化土粒 を多く含む	良好	5V77/4 7.5V88/4 7.5V88/3	杯部外側面糊方向の糊ナデ、 杯部外側面糊ナデ、杯部外 面糊方向の糊ナデ	62	17	
74 B	SD3	b-e	土師器 柳ヶ坪型壺	13.9	10.0/12	—	やや粗、径2mm以下の長 石、チャート、赤色酸化 土粒を多く含む	普通	5V86/6 5V86/6 5V86/6	杯部外側面糊ナデ	62	18	
76 B	SD10	a	土師器 高杯	—	—	—	やや粗、径2mm以下の長 石、チャート、赤色酸化 土粒を多く含む	普通	10V77/4 10V78/4 10YRA/1	杯部外側面糊ナデ	64	—	
77 B	SD12	a-c	土師器 柳ヶ坪型壺	—	1.0/12	—	施、径1mm以下の長石、 チャート、赤色酸化土粒 をわずかに含む	不良	2.5V86/6 5V86/4 5V86/6	口縁部外側面糊 ナデ	64	—	

表26 土器類観察表(4)

開拓番号	地点	遺構名 ("")	層位	種別 器種	口径 底径 高さ (cm)	口縁 残存率 底部 残存率 (cm)	胎土	焼成 (内面) (外面) (断面)	色調	調整	備考	採 集 國 固 版
78 B	SD17	b	土師器 S字彫C類	—	17.2 —	7.0/12 —	やや粗。 粗1mm以下の長石。 チャート。 雲母を多く含む	良好	10Y7/3 10Y6/3 10Y4/1	体部外面斜めハケ後横ハケ。口 縁部内外面横ナデ。体部内面不 定方向の横ナデ	体部～口縁部 外側と体部内 面に保付着	73 17
79 B	SD17	a	土師器 S字彫	—	8.7 —	— 3/4以上	やや粗。 粗3mm以下の長石。 チャート。 雲母を多く含む	不良	5Y6/4 5Y6/3 5Y6/4	台部外面不明。台部内面指圧		73 —
80 B	SD17	b	土師器 有段窓杯	—	—	—	粗。 粗1mm以下の長石。 チャート。 赤色酸化土粒。 雲母をわずかに含む	普通	10Y6/4 10Y6/6 7.5Y6/4	杯部内外面不明		73 23
81 B	SD17	b	土師器 有段窓杯	—	(11.0) —	— 1/4以下	粗。 粗2mm以下の長石。 チャートをわずかに含む	普通	7.5Y6/4 10Y6/6 7.5Y6/4	脚部内外面不明		73 —
82 B	SD17	a	頸忠器 無台杯	11.8 6.3 3.4	4.8/12 3/4以上	— —	粗。 粗1mm以下の長石。 チャートをわずかに含む	良好	5Y7/1 5Y7/1 5Y7/1	底部外面回転ヘラケズリ、体部 内外面回転ナデ	底部外面にヘ ラケズリと墨書き 「東」、ロ 縁部内面に施 用行駆	73 21
83 B	SD17	a	頸忠器 蓋	7Y1種 4.2	—	—	粗。 粗1mm以下の長石を わずかに含む	普通	5Y7/1 5Y6/2 5Y7/1	天井部外面回転ヘラケズリ、天 井部内面回転ナデ	つまみ4.2cm	73 23
84 B	SD17	a	頸忠器 蓋	(17.8) —	1.0/12 —	—	粗。 粗1mm以下の長石を わずかに含む	普通	5Y7/1 5Y6/2 5Y7/1	口縁部内外面回転ナデ		73 —
85 B	SD17	a	頸忠器 有台杯	(18.7) (12.1) 4.2	1.0/12 — 1/4以上	— —	粗。 粗1mm以下の長石。 チャートをわずかに含む	良好	5Y7/0 5Y7/0 5Y7/0	底部外面回転ヘラケズリ。体部 内外面回転ナデ		73 23
86 B	SD17	a	頸忠器 有台杯	(18.1) —	1.1/12 —	—	粗。 粗1mm以下の長石。 チャートをわずかに含む	良好	5Y6/1 5Y6/1 5Y6/1	口縁部内外面回転ナデ		73 23
89 B	SD17	1	土師器 広口壺	(12.8) —	2.2/12 —	—	やや粗。 粗2mm以下の長石。 チャート。雲母をわ ずかに含む	普通	10Y7/3 10Y6/2 10Y3/1	頸部外面～口縁部内面横ナデ。 頸部内面指圧		74 —
90 B	SD17	k	土師器 広口壺	(13.7) —	1.5/12 —	—	粗。 粗1mm以下の長石。 石英、チャート、雲母を 多く含む	良好	5Y6/2 7.5Y6/3 2.5Y6/1	頸部外面斜めハケ。口縁部外面 ～頸部内面横ナデ		74 —
91 B	SD17	d	土師器 広口壺	(12.6) —	1.6/12 —	—	やや粗。 粗5mm以下の長石。 石英、チャート。雲 母を多く含む	普通	7.5Y6/2 7.5Y6/2 7.5Y6/2	口縁部内外面横ナデ		74 —
92 B	SD17	1	土師器 広口壺	— —	— —	— —	やや粗。 粗2mm以下の長 石。 チャートをわずかに 含む	普通	10Y7/3 10Y6/2 10Y1/3	体部外面不明。体部内面斜め方 向の横ナデ	体部外面に波 状文と横線文	74 —
93 B	SD17	1	土師器 バレス壺	— —	— —	— —	やや粗。 粗1mm以下の長 石。石英をわ ずかに含む	不良	5Y6/6 5Y6/6 5Y6/6	体部外面不明。体部内面指圧	体部外面に横 線文	74 —
94 B	SD17	e	土師器 バレス壺	— —	— —	— —	粗。 粗1mm以下の長石。 石英をわ ずかに含む	不良	10Y8/1 10Y8/1	体部内外面不明	体部外面に波 線文と横線文, 波線文に沿って赤彩	74 21
95 B	SD17	d	土師器 バレス壺	— —	— —	— —	粗。 粗1mm以下の長石。 石英をわ ずかに含む	不良	10Y8/1 10Y8/1	体部内外面不明	体部外面に波 線文と横線文, 波線文に沿って赤彩	74 21
96 B	SD17	f	土師器 バレス壺	— —	— —	— —	粗。 粗1mm以下の長石。 石英をわ ずかに含む	不良	10Y8/1 10Y8/1 10Y8/1	体部内外面不明	体部外面に波 線文、波線文 に沿って赤彩	74 21
97 B	SD17	1	土師器 バレス壺	— —	— —	— —	粗。 粗1mm以下のチャー トをわずかに含む	良好	10Y8/1 10Y7/2 10Y8/1	体部外面斜めハケ。体部内面横 方向のヘラナデ	体部外面に赤 彩による波線 文	74 21
98 B	SD17	m	土師器 二重口縁壺	(24.0) —	1.0/12 —	—	粗。 粗2mm以下の長石。 チャートを多 く含む	普通	10Y7/3 7.5Y7/3 7.5Y5/1	口縁部外面に 波状文、口縁 部内面に波状 文	口縁部外面に 波状文、口縁 部内面に波状 文	74 22
99 B	SD17	j	土師器 二重口縁壺	(19.0) —	1.2/12 —	—	やや粗。 粗2mm以下の長石。 石英、チャートを多 く含む	普通	10Y6/2 10Y6/2 10Y7/2	口縁部内外面不明		74 —
100 B	SD17	e	土師器 広口壺	(21.6) —	1.0/12 —	—	粗。 粗1mm以下の長石。 石英、雲母を多く含む	普通	2.5Y5/1 10Y6/1 2.5Y5/1	口縁部内外面不明		74 —
101 B	SD17	h	土師器 柳ヶ坪型壺	18.5 31.6	5.7/12 3/4以上	— —	やや粗。 細5mm以下の長 石。赤色酸化土粒、雲 母を多く含む	良好	10Y6/2 10Y7/4 10Y7/4	体部外面横くぎア、頸部外面斜 めハケ。口縁部内外面横ナデ、体 部内面指圧	口縁部内面に 羽状文、体部 外面に横線文 と波線文、口 縁部内面は附 着感が強い	74 18
102 B	SD17	14	土師器 柳ヶ坪型壺	(20.0) —	1.0/12 —	—	粗。 粗1mm以下の長石。 チャート。赤色酸化土粒 を多く含む	良好	7.5Y6/4 7.5Y6/6 7.5Y6/6	頸部外面斜めハケ、頸部内面横 ナデ	口縁部内外面 に羽状文	74 —

表27 土器類観察表 (5)

測定番号	地點	遺構名	層位	種別 器種	口徑 底径 器高 (cm)	口縁 残存半 底部 残存率	胎土	焼成	色調 (内面) (外面) (断面)	調整	備考	特 徴	図 版
103 B	SD17	II	土師器 柳ヶ坪型壺	(19.0) —	2.6/12 —	—	破、径4mm以下の長石、 石英、チャート、赤色酸化土粒 に含む	良好	7.5YR5/3 7.5YR7/4 7.5YR6/4	類部外側斜めハケ、口縁部内 面横ナジ、頸部内面不定方向の ヘラナジ	口縁部内外面 に羽状文	74	22
104 B	SD17	I	土師器 柳ヶ坪型壺	—	—	—	破、径3mm以下の長石、 チャート、赤色酸化土粒 を多く含む	良好	7.5YR6/3 7.5YR6/2 7.5YR6/4	頸部外側斜めハケ、頸部内面横 ミガキ	口縁部内外面 に羽状文	74	—
105 B	SD17	13	土師器 柳ヶ坪型壺	—	—	1.0/12	破、径2mm以下の長石、 石英、チャート、赤色酸化土 粒、雲母をわずかに含む	普通	7.5YR6/6 7.5YR7/6 7.5YR7/6	口縁部内外面横ナジ	口縁部内外面 に羽状文	74	—
106 B	SD17	c-1	土師器 柳ヶ坪型壺	—	—	—	やや粗、径3mm以下の長 石、チャート、赤色酸化土 粒、雲母をわずかに含む	普通	7.5YR7/4 7.5YR7/4 7.5YR7/4	体部外表面不明、体部内面指压	体部外面上 に波状文と横織文	74	—
107 B	SD17	14	土師器 柳ヶ坪型壺	—	—	—	破、径2mm以下の長石、 石英、チャート、赤色酸 化土粒、雲母をわずかに 含む	普通	10YR6/2 10YR6/3 10YR6/2	体部外表面下方横ミガキ、上方斜 めハケ、体部内面横～斜めハケ	体部外面上 に波状文と横織文	75	—
108 B	SD17	n	土師器 柳ヶ坪型壺	—	—	—	破、径2mm以下の長石、 石英、チャート、赤色酸化土 粒、雲母を多く含む	普通	10YR7/3 10YR7/3 10YR6/3	体部外表面横ミガキ、体部内面 不明	体部外面上 に波状文と横織文	75	22
109 B	SD17	k-1	土師器 柳ヶ坪型壺	9.5 —	—	3/4以上	やや粗、径3mm以下の長 石、石英、チャートを多 く含む	普通	7.5YR8/2 7.5YR8/2 7.5YR8/2	体部内外面不明	—	75	—
110 B	SD17	#7-19	土師器 壺	—	—	7.2 3/4以上	やや粗、径2mm以下の長 石、石英、チャート、雲 母を多く含む	普通	10YR5/2 10YR5/2 10YR6/2	体部内外面不明	—	75	—
111 B	SD17	i	土師器 壺	(6.3) —	—	1/4以上	やや粗、径3mm以下の長 石、石英、雲母を多く含 む	普通	7.5YR6/4 7.5YR6/4 7.5YR6/3	体部内外面不明	—	75	—
112 B	SD17	i	土師器 壺	(8.0) —	—	1/4以下	やや粗、径2mm以下の長 石、赤色酸化土粒を多く 含む	普通	10YR7/2 10YR6/2 10YR7/3	体部内面不明	底部外面上 に木葉模	75	—
113 B	SD17	n	土師器 壺	—	—	—	破、径2mm以下の長石、 チャート、雲母をわずかに に含む	普通	10YR6/2 10YR6/2 10YR6/4	体部外表面不明、体部内面斜 め方向の指ナジ	体部外面上 に波状文と横織文	75	22
114 B	SD17	1	土師器 壺	—	—	—	破、径2mm以下の長石、 チャート、雲母をわずかに に含む	普通	10YR6/2 10YR6/4 10YR6/2	体部外表面不明、体部内面斜 め方向の指ナジ	体部外面上 に波状文と横織文	75	22
115 B	SD17	h	土師器 壺	(10.4) —	3.5/12 —	—	やや粗、径3mm以下の長 石、石英、チャート、雲 母を多く含む	普通	10YR8/1 10YR8/1 10YR8/1	口縁部内外面横ナジ	—	75	—
116 B	SD17	c	土師器 壺	—	—	—	破、径1mm以下のチャー ト、赤色酸化土粒をわざ かに含む	普通	5YR6/6 5YR7/6 5YR6/1	杯部内外面不明	—	75	—
117 B	SD17	h	土師器 壺	15.5 6.7 28.4	7.5/12 3/4以上	—	破、径2mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	普通	10YR8/1 10YR8/1 10YR8/1	体部外表面下方横ケリ、体部外 面上方斜めハケ、口縁部内外 面横ナジ、体部内面斜め方向の指 ナジ	—	75	18
118 B	SD17	n	土師器 壺	16.4 7.5 31.7	6.5/12 3/4以上	—	破、径1mm以下の長石、 チャート、雲母をわずかに に含む	良好	7.5YR7/3 7.5YR7/3 10YR3/1	体部内外面不明、口縁部内外 面横ナジ、体部内面上方縱方向の 指ナジ	—	75	18
119 B	SD17	j	土師器 壺	—	—	1.1/12 —	やや粗、径1mm以下の長 石、石英、チャート、雲 母を多く含む	普通	7.5YR6/2 7.5YR5/2 10YR6/2	口縁部外表面横ミガキ、口縁部内 面横ナジ	—	75	—
120 B	SD17	n	土師器 前段口縁壺	—	—	1.0/12	破、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	普通	2.5Y7/2 2.5Y7/2 2.5Y2/1	口縁部内外面横ナジ	口縁部外面上 に波状文	75	23
121 B	SD17	1	土師器 S字型B類	(13.0) —	1.6/12 —	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	良好	10YR7/4 10YR7/4 5Y4/1	体部外側斜めハケ後縫ハケ、 口縁部内外面横ナジ、体部内面横 方向の指ナジ	口縁部外面上 に保付着	76	—
122 B	SD17	j	土師器 S字型B類	(15.0) —	2.0/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャートを多く含む	良好	10YR7/2 10YR6/3 10YR7/2	体部外側斜めハケ、口縁部内外 面横ナジ、体部内面横方向の指 ナジ	体部外面上 に保付着	76	—
123 B	SD17	1	土師器 S字型B類	(16.0) —	1.1/12 —	—	やや粗、径1mm以下の長 石、石英、チャート、雲 母を多く含む	普通	2.5Y7/1 2.5Y7/1 5Y5/1	体部外側斜めハケ後縫方向の ナジ、体部外側斜めハケ後縫 ハケ、口縁部内外面横ナジ、体 部内面横方向の指ナジ、台面内 面縫方向の指ナジ後縫方向の ナジ	台部外面上 に保付着	76	—
124 B	SD17	n	土師器 S字型C類	10.8 7.9 20.3	11.0/12 3/4以上	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャートを多く含む	普通	10YR7/3 2.5Y7/2 10YR6/3	台部外側斜めハケ後縫方向の ナジ、体部外側斜めハケ後縫 ハケ、口縁部内外面横ナジ、体 部内面横方向の指ナジ、台面内 面縫方向の指ナジ後縫方向の ナジ	台部外面上 に保付着	76	19

表28 土器類観察表(6)

発掘番号	地点	遺構名	層位	種別 器種	口径 底径 高さ (cm)	口縁 残存半 底部 残存半	胎土	焼成	色調 (内面) (外面) (断面)	調整	備考	補 國	国 版
125 B	SD17	■	土器器 S字縫C類	11.3 8.0 21.2	10.2/12 2/4以上	やや粗。径1mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	普通	10YR7/2 2.5Y7/2 2.5Y5/1	台面外表面ぬけた。体部外表面 ぬけた後横ハケ。口縁部内外面 横ナダ。体部内面横方向のヘラナダ。台面内面指圧		76	19	
126 B	SD17	■	土器器 S字縫C類	(9.8) —	2.5/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	普通	10YR5/2 10YR4/1 10YR5/2	台面外表面ぬけた。体部外表面 ぬけた後横ハケ。口縁部内外面 横ナダ。体部内面横方向のヘラナダ。台面内面指圧		76	—	
127 B	SD17	■	土器器 S字縫C類	(9.8) 6.7 16.7	2.8/12 3/4以上	やや粗。径3mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	良好	10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2	台面外表面ぬけた。体部外表面 ぬけた後横ハケ。口縁部内外面 横ナダ。体部内面上方指圧、下 方横ナダ。体部内面横方向のヘラナダ。台面内面指圧		76	19	
128 B	SD17	i	土器器 S字縫C類	(10.6) —	1.2/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	普通	10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2	体部外表面ぬけた。口縁部内外 面ナダ。体部内面縱方向の指 ナダ		76	—	
129 B	SD17	e	土器器 S字縫C類	(12.0) —	1.8/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。チャートを多く含む	普通	10YR7/2 10YR7/3 10YR7/2	体部外表面ぬけた。口縁部内外 面ナダ。体部内面縱方向の指 ナダ		76	—	
130 B	SD17	h	土器器 S字縫C類	11.8 —	7.2/12 —	やや粗。径2mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	普通	10YR7/2 10YR7/4 2.5Y7/2	体部外表面ぬけた後横ハケ。口 縁部内外面横ナダ。体部内面横 方向の指ナダ		76	18	
131 B	SD17	14	土器器 S字縫C類	11.8 —	10.0/12 —	やや粗。径2mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	普通	10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2	体部外表面ぬけた。口縁部内外 面ナダ。体部内面縱方向の指 ナダ		76	19	
132 B	SD17	h	土器器 S字縫C類	12.8 —	11.0/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。石英。チャート。雲 母を多く含む	普通	10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2	体部外表面ぬけた。口縁部内外 面ナダ。体部内面縱方向の指 ナダ		76	—	
133 B	SD17	■	土器器 S字縫C類	(12.8) —	3.6/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	良好	10YR7/3 10YR7/2 10YR7/3	体部外表面ぬけた。口縁部内外 面ナダ。体部内面指圧後横方 向へナダ		76	19	
134 B	SD17	g-h	土器器 S字縫C類	(14.0) —	1.3/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	良好	10YR7/2 10YR7/4 10YR7/1	口縁部内外面横ナダ。頸部内面 横ハケ		76	—	
135 B	SD17	i	土器器 S字縫C類	(14.0) —	1.7/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石をわずかに含む	良好	10YR6/4 10YR6/4 10YR6/1	体部外表面ぬけハケ。口縁部内外 面ナダ。体部内面縱方向の指 ナダ		77	—	
136 B	SD17	d-r	土器器 S字縫C類	(14.0) —	3.1/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。石英。チャート。雲 母を多く含む	普通	10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2	体部外表面ぬけた。口縁部内外 面ナダ。体部内面縱方向の指 ナダ		77	—	
137 B	SD17	■	土器器 S字縫C類	(14.1) —	5.0/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	普通	10YR7/2 10YR7/3 10YR7/2	体部外表面ぬけた後横ハケ。口 縁部内外面横ナダ。体部内面指 ナダ		77	22	
138 B	SD17	h	土器器 S字縫C類	(12.0) —	3.5/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	普通	10YR7/2 10YR7/2 10YR7/1	体部外表面ぬけた。口縁部内外 面横ナダ。体部内面指圧横方 向へナダ		77	—	
139 B	SD17	j	土器器 S字縫C類	(12.8) —	1.9/12 —	やや粗。径2mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	普通	10YR7/4 10YR6/2 10YR6/2	体部外表面ぬけた。口縁部内外 面ナダ。体部内面不明		77	—	
140 B	SD17	g-h	土器器 S字縫C類	(12.6) —	1.9/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	普通	2.5Y7/2 2.5Y7/3 2.5Y6/1	体部外表面ぬけた。口縁部内外 面横ナダ。体部内面不明		77	—	
141 B	SD17	1	土器器 S字縫C類	11.4 7.0 18.3	12/12 3/4以上	やや粗。径2mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	普通	10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2	台面外表面ぬけた。体部外表面 ぬけた後横ハケ。口縁部内外面 横ナダ。体部内面指ナダ。台面 部の凹みが差し		77	19	
142 B	SD17	■	土器器 S字縫C類	(13.2) —	3.0/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	普通	10YR7/4 10YR6/6 10YR6/4	体部外表面ぬけた後横ハケ。口 縁部内外面横ナダ。体部内面上 方横ナダ。下方横ケリ		77	19	
143 B	SD17	h	土器器 S字縫C類	(12.8) —	2.0/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	良好	2.5YR6/6 2.5YR6/4 2.5YR7/3	体部外表面ぬけた。口縁部内外 面横ナダ。体部内面縱方向の指 ナダ		77	—	
144 B	SD17	i	土器器 S字縫C類	(13.0) —	3.7/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。石英。チャート。雲 母を多く含む	良好	10YR7/2 10YR6/2 10YR7/2	体部外表面ぬけた後横ハケ。口 縁部内外面横ナダ。体部内面指 圧		77	—	
145 B	SD17	1	土器器 S字縫C類	(13.8) —	2.0/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。石英。チャート。雲 母を多く含む	普通	10YR8/2 10YR8/3 10YR8/1	体部外表面ぬけた後横ハケ。口 縁部内外面横ナダ。体部内面縱 方向の指ナダ		77	—	
146 B	SD17	h	土器器 S字縫C類	(14.0) —	2.4/12 —	やや粗。径3mm以下の長 石。石英。チャート。雲 母を多く含む	普通	10YR7/2 10YR6/2 7.5YR6/4	体部外表面ぬけた後横ハケ。口 縁部内外面横ナダ。体部内面不 明		77	—	
147 B	SD17	i	土器器 S字縫C類	(15.3) —	3.6/12 —	やや粗。径1mm以下の長 石。石英。チャート。雲 母を多く含む	良好	10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2	体部外表面ぬけた後横ハケ。口 縁部内外面横ナダ。体部内面指 圧		77	—	
148 B	SD17	■	土器器 S字縫C類	14.0 —	12/12 —	やや粗。径3mm以下の長 石。チャート。雲母を多 く含む	良好	10YR7/2 10YR7/3 10YR7/2	体部外表面ぬけた後横ハケ。口 縁部内外面横ナダ。体部内面指 圧		77	19	

表29 土器類観察表 (7)

測定番号	地点	遺物名 (アリ)	層位	種別 器種	口径 底径 器高 (cm)	口縁 残存率 底部 残存率	胎土	焼成	色調 (内面) (外面) (断面)	調整	備考	種 固	因 版
149	B	SD17	1	土師器 S字型C類	(16.0) 9.0 2.6 2	4.0/12 3/4以上	やや粗、径1mm以下の長石、雲母を多く含む	良好	10YR6/2 10YR6/2 10YR6/2	台部外面部斜めハケ、体部外面部斜めハケ後縦ハケ、口縁部内面横ナブ、体部内面横方向のヘラナブ	体部～口縫部外側に保付着	77	18
150	B	SD17	1	土師器 S字型C類	(15.2) —	2.0/12 —	やや粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	普通	10YR6/2 10YR6/2 10YR6/2	体部外面部斜めハケ、口縁部内面横ナブ、体部内面相接	体部～口縫部外側に保付着	78	—
151	B	SD17	h	土師器 S字型C類	14.7 —	8.5/12 —	やや粗、径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む	普通	7.0YR6/4 7.0YR6/4 7.5YR5/1	体部外面部斜めハケ、口縫部内外前縦ナブ、体部内面横方向のヘラナブ	—	78	—
152	B	SD17	14	土師器 S字型C類	(15.6) —	2.4/12 —	やや粗、径1mm以下の長石、チャートを多く含む	普通	7.0YR6/4 7.0YR6/4 7.5YR5/1	体部外面部斜めハケ、口縫部内外前縦ナブ、体部内面横方向のヘラナブ	—	78	—
153	B	SD17	p-q	土師器 S字型C類	(16.0) —	1.3/12 —	やや粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	良好	10YR6/2 10YR6/2 10YR6/2 10YR6/2	体部外面部斜めハケ、口縫部内外前縦ナブ、体部内面横方向のヘラナブ	体部～口縫部外側に保付着	78	—
154	B	SD17	k	土師器 S字型C類	(15.6) —	4.1/12 —	やや粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	良好	10YR6/1 10YR6/1 10YR6/1	体部外面部斜めハケ後縦ハケ、口縫部内外前縦ナブ、体部内面横方向の指ナブ	—	78	22
155	B	SD17	1	土師器 S字型C類	15.4 —	6.5/12 —	やや粗、径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	普通	10YR7/3 10YR7/3 10YR7/3	体部外面部斜めハケ、口縫部内外前縦ナブ、体部内面横方向の指ナブ	体部～口縫部外側に保付着	78	19
156	B	SD17	n	土師器 S字型	— —	— —	やや粗、径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	普通	10YR7/3 10YR6/3 10YR6/3	台部～体部外面部斜めハケ、体部内面外側に保付着	体部内面外側に保付着	78	—
157	B	SD17	n	土師器 S字型C類	17.6 —	9.8/12 —	やや粗、径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	不良	10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2	体部外面部斜めハケ、口縫部内外前縦ナブ、体部内面不明	—	78	—
158	B	SD17	j	土師器 S字型C類	(17.7) —	1.5/12 —	やや粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	普通	2.0YR6/2 2.0YR6/2 10YR5/1	体部外面部斜めハケ、口縫部内外前縦ナブ	—	78	—
159	B	SD17	d	土師器 S字型C類	(10.5) —	1.2/12 —	やや粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	普通	7.0YR5/3 7.0YR5/3 10YR6/3	体部外面部斜めハケ、口縫部内外前縦ナブ、体部内面不明	—	78	—
160	B	SD17	n	土師器 S字型C類	(13.0) —	3.0/12 —	やや粗、径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	良好	7.0YR6/4 7.0YR6/4 10YR6/4	体部外面部斜めハケ、口縫部内外前縦ナブ、頸部内面横ハケ、体部内面横方向の指ナブ	—	78	—
161	B	SD17	j	土師器 S字型(山 崩系)	(23.8) —	2.3/12 —	やや粗、径1mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む	普通	2.0YR6/2 2.0YR6/2 10YR5/1	口縫部内外横ナブ	口縫部外側に保付着	78	22
162	B	SD17	n	土師器 S字型(山 崩系)	21.7 —	6.4/12 —	やや粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	良好	10YR6/3 10YR6/3 10YR5/2	体部外面部斜めハケ、口縫部内外横ナブ、体部内面斜め方向の指ナブ	体部外側に保付着	78	22
163	B	SD17	n	土師器 S字型	— —	— —	やや粗、径1mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む	普通	10YR6/2 10YR5/2 10YR6/2	台部～体部外面部斜めハケ、台部内面相接	体部内面外側に保付着	78	—
164	B	SD17	l	土師器 S字型	— —	— —	やや粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	普通	10YR6/2 10YR4/2 10YR4/1	体部外面部斜めハケ、体部内面横方向のヘラナブ	底部に施乳孔(穿孔)跡あり、口縫部外側に保付着	78	22
165	B	SD17	n	土師器 S字型C類	(6.5) —	— 1/4以下	やや粗、径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	良好	10YR7/2 10YR2/1 10YR6/2	台部～体部外面部斜めハケ、体部内面横方向の指ナブ、台部内面相接	体部内面外側に保付着	78	—
166	B	SD17	l	土師器 S字型	7.4 —	— 3/4以上	やや粗、径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	普通	10YR6/2 10YR4/1 10YR6/2	台部～体部外面部斜めハケ	台部～体部外側に保付着	79	—
167	B	SD17	k	土師器 S字型	9.6 —	— 3/4以上	やや粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	普通	2.5YR6/2 2.5YR6/2 2.5YR6/2	台部～体部外面部斜めハケ	体部外側に保付着	79	—
168	B	SD17	n	土師器 S字型	10.2 —	— 3/4以上	やや粗、径1mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	普通	7.0YR6/3 7.0YR6/3 10YR6/2	台部～体部外面部斜めハケ。台部内面と高台端部に保付着	台部内面と高台端部に保付着	79	—
169	B	SD17	i	土師器 S字型	(8.0) —	— 1/4以上	やや粗、径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	不良	7.0YR6/2 7.5YR5/3 7.5YR5/3	台部～体部外面部斜めハケ。台部内面外側に保付着	台部内面外側に保付着	79	—
170	B	SD17	h	土師器 S字型	9.4 —	— 2/4以上	やや粗、径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	良好	10YR6/4 10YR6/2 10YR7/3	台部～体部外面部斜めハケ。台部内面外側に保付着	台部内面外側に保付着	79	—
171	B	SD17	i	土師器 S字型	(8.0) —	— 1/4以下	やや粗、径1mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む	普通	10YR6/2 10YR5/2 10YR6/2	台部～体部外面部斜めハケ。台部内面相接	台部内面に保付着	79	—
172	B	SD17	n	土師器 S字型	— 9.0	— 2/4以上	やや粗、径1mm以下の長石、雲母を多く含む	良好	10YR6/3 10YR7/3 7.5YR6/4	台部～体部外面部斜めハケ。台部内面外側に保付着	台部内面外側に保付着	79	—

表30 土器類観察表(8)

発掘番号	地点	遺構名	層位	種別 埋蔵 状況	口径 底径 高さ (cm)	口縁 残存率	底部 残存率	埴土	焼成	色調 (内面) (外側) (断面)	調整	備考	排 國	国
173	B	SD17	h	土師器 S字彫	—	—	—	やや粗、径1mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む	普通	10YR5/3 10YR6/2 10YR6/3	台面～体部外側斜めハケ、台部内面横ナブ		79	—
174	B	SD17	h	土師器 布留式彫	(10.0)	2.6/12	—	粗、径2mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む	不良	5YR7/4 5YR7/4 5YR7/4	体部～口縁部内外面不明	口縁部内面に沈黙文	79	23
175	B	SD17	j	土師器 布留式彫	10.5	9.0/12	—	やや粗、径5mm以下の長石、チャートを多く含む	良好	5YR6/6 5YR6/6 5YR6/6	体部外表面横～斜め方向のヘラナダ、ロジ部内外面横ナブ、体部内面不定方向のケズリ		79	18
176	B	SD17	l	土師器 台付林	(3.4)	—	1/4以下	やや粗、径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	不良	10YR7/3 10YR7/3 10YR7/2	台部外面不明、台部内面斜め方 向の滑ナブ		79	—
177	B	SD17	l	土師器 台付林	11.2 5.3 8.6	4.0/12 3/4以上	—	粗、径1mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む	良好	5YR6/6 5YR6/6 7.5YR7/3	台部外面～杯部外側斜めミガキ、台部内面横方向のヘラナダ		79	20
178	B	SD17	h	土師器 有設耳杯	(20.9)	1.6/12	—	粗、径5mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む	普通	10YR7/3 7.5YR8/4 10YR7/3	杯部内外面不明		79	—
179	B	SD17	m	土師器 有設耳杯	21.8	7.1/12	—	やや粗、径1mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む	普通	7.5YR7/4 7.5YR7/4 7.5YR7/4	杯部内面斜めミガキ、杯部外面不明		79	20
180	B	SD17	m	土師器 有設耳杯	(19.2)	3.0/12	—	粗、径2mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む	普通	10YR6/4 2.5YR6/6 10YR6/4	杯部内外面斜めミガキ		79	20
181	B	SD17	m	土師器 有設耳杯	—	—	—	粗、径5mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む	普通	7.5YR6/4 7.5YR6/3 10YR6/2	脚部外表面斜めミガキ、脚部内面横方向のヘラナダ		79	—
182	B	SD17	k	土師器 有設耳杯	—	—	—	粗、径4mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む	良好	10YR6/4 2.5YR6/6 10YR6/3	脚部外表面ミガキ、脚部内面下方横～斜めハケ	穿孔は1孔1組3方向、脚部内外反覆付着	79	—
183	B	SD17	k	土師器 有設耳杯	(13.8)	—	1/4以上	粗、径2mm以下の長石、チャートをわずかに含む	普通	2.5YR7/1 2.5YR6/2 2.5YR6/1	脚部外表面ミガキ、脚部内面不 明	穿孔は2孔1組3方向	79	20
184	B	SD17	5	土師器 有設耳杯	—	—	—	粗、径1mm以下の長石、赤色酸化土粒をわずかに含む	普通	7.5YR6/4 10YR7/3 10YR7/3	脚部外表面ミガキ、杯部内外面不 明		79	—
185	B	SD17	m	土師器 有設耳杯	—	—	—	粗、径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	普通	10YR7/2 7.5YR6/3 10YR7/2	脚部外表面ミガキ、脚部内面不 明		79	—
186	B	SD17	l	土師器 有設耳杯	(8.3)	—	1/4以上	粗、径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	良好	7.5YR6/4 7.5YR6/3 7.5YR6/4	脚部外表面横ミガキ、脚部外 表面ミガキ、杯部外表面横ミガ キ、脚柱部内面横方向のヘラ ナダ、脚部内面斜めハケ		79	21
187	B	SD17	12	土師器 崩折高杯	—	—	—	やや粗、径3mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒、雲母を多く含む	不良	10YR7/2 10YR7/3 10YR7/3	脚部外表面不明、脚部内面横方 向のヘラナダ		79	—
188	B	SD17	f-m	土師器 器台	—	—	—	粗、径2mm以下の長石、赤色酸化土粒をわずかに含む	普通	10YR6/6 10YR6/3 10YR6/4	脚部～杯部内外面不 明	穿孔は2孔1組3方向	79	23
189	B	SD17	h	土師器 器台	(6.8)	—	1/4以下	粗、径1mm以下のチャート、赤色酸化土粒をわずかに含む	普通	7.5YR6/3 10YR6/3 10YR6/3	脚部外表面ミガキ、脚部内面不 明	穿孔は1孔1組3方向	79	—
190	B	SD17	i	土師器 バレス彫	—	—	—	やや粗、径3mm以下の長石、チャートを多く含む	普通	10YR7/2 10YR8/3 10YR7/2	体部外表面斜めハケ	体部外表面下方に赤茶	80	21
191	B	SD17	h-i	土師器 二重口縁壺	—	1.2/12	—	粗、径1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む	普通	5YR6/8 5YR6/8 5YR7/4	口縁部外表面横ミガキ、口縁部内 面不 明	口縁部内面に羽状文	80	—
193	B	SD17	n	土師器 二重口縁壺	21.8	9.5/12	—	粗、径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2	体部外表面斜めミガキ、頭部外 表面横～斜めハケ、口縁部外表面～頭部内 面横ミガキ、体部内面横方向のヘラナダ	体部外面上に横 線文と波状文、頭部外 表面に羽状文	80	20
194	B	SD17	n-n	土師器 柳ヶ坪型壺	(19.0)	1.0/12	—	粗、径2mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	良好	7.5YR6/4 7.5YR6/8 2.5Y5/1	頭部外表面横～斜めハケ、口縁部内 面横ミガキ、体部内面横～頭部内 面横ナブ	体部外面上に横 線文と波状文、頭部外 表面に羽状文	80	22
195	B	SD17	p	土師器 柳ヶ坪型壺	(34.0)	2.6/12	—	粗、径3mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む	良好	10YR6/4 7.5YR6/4 7.5YR6/1	頭部外表面横～斜めハケ、口縁部内 面横ミガキ、頭部内面横～頭部内 面横ナブ	口縁部内外面 に羽状文	80	22
196	B	SD17	i	土師器 柳ヶ坪型壺	—	—	—	粗、径3mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒、雲母をわずかに含む	普通	10YR6/3 7.5YR7/4 10YR7/2	体部外表面不 明、体部内面圓压	体部外面上に波 状文と横線文	80	—
197	B	SD17	i	土師器 柳ヶ坪型壺	—	—	—	粗、径3mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒、雲母をわずかに含む	普通	10YR4/1 7.5YR7/4 7.5YR7/1	体部外表面不 明	体部外面上に波 状文と横線文	80	—

表31 土器類觀察表 (9)

地點番号	遺物名 (アリヤ)	層位	種別 器種	口徑 底径 器高 (cm)	口縁 残存率 底部 残存率	胎土	焼成	色調 (内面) (外面) (断面)	調整	備考	排 因	回 版
198 B	SD17	k	土師器 壺	— 4.0 —	— 3/4以上	灰、径5mm以下の長石、 チャート、赤色酸化土を多く含む	普通	2.5V7/2 10YR8/2 10YR8/2	体部外表面不明、体部内面鏡方向 の指ナダ		80	29
199 B	SD17	l	土師器 壺	— (7.0) —	— 1/4以上	灰、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	普通	2.5V2/1 2.5V6/2 2.5V2/1	体部内外面不明		80	—
200 B	SD17	p-q	土師器 桶・坪型壺	— (7.0) —	— 1/4以下	灰、径2mm以下の長石、 雲母をわずかに含む	良好	10YR6/2 7.5V8/4 2.5V7/2	体部外表面ミガキ、体部内面鏡 方向のハケ		80	—
201 B	SD17	p-q	土師器 壺	— 6.4 —	— 3/4以上	灰、径3mm以下の長石、 石英、チャートをわずかに含む	普通	10YR6/2 10YR5/2 10YR6/2	体部外表面ハケ、体部内面不 定向のハケ		80	—
202 B	SD17	l-n	土師器 壺	— (6.7) —	— 1/4以上	やや粗、径2mm以下の長 石、チャートを多く含む	普通	2.5V7/1 10YR7/2 N4/0	体部内外面不明		80	—
203 B	SD17	l	土師器 壺	— — 1.0/12 —	— — —	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、赤色酸化 土をわずかに含む	普通	10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2	口縁部内外面鏡ナダ	口縁部外面に 指跡	80	22
204 B	SD17	o	土師器 壺	(15.5) —	2.8/12	灰、径1mm以下の長 石、チャートをわずかに含む	普通	2.5V7/2 2.5V7/3 2.5V7/2	口縁部内外面鏡ナダ		80	22
205 B	SD17	p-q	土師器 <字變	(8.5) —	1.0/12	やや粗、径5mm以下の長 石、石英、チャート、雲 母を多く含む	普通	2.5V6/3 2.5V5/2 2.5V6/3	体部へ口縁部外表面不明、口縁部 ～体部内面鏡ハケ		80	23
206 B	SD17	i	土師器 S字變B類	13.4 6.2 17.5	7.8/12 3/4以上	やや粗、径1mm以下の長 石、雲母を多く含む	良好	10YR6/3 10YR6/3 10YR7/2	体部外表面ハケ後縦ハケ、口 縁部内外面鏡ナダ、類部内面 上方ナダ、体部内面下方斜 め方向のハラナダ	底部に燒成後 穿孔(穿孔孔 径0.8cm)台部打 ち欠き、台部 へ口縁部外面 と体部内面保 付着	81	20
207 B	SD17	s	土師器 S字變B類	(12.0) —	1.7/12 —	やや粗、径5mm以下の長 石、チャートをわずかに 含む	良好	2.5V6/1 2.5V6/1 2.5V4/1	体部外表面ハケ後縦ハケ、口 縁部内外面鏡ナダ、体部内面鏡 方向の内ナダ	口縁部外面に 保付着	81	—
208 B	SD17	o	土師器 S字變B類	(17.4) —	6.7/12 —	やや粗、径5mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	良好	10YR7/2 10YR7/3 10YR6/1	体部外表面ハケ後縦ハケ、口 縁部内外面鏡ナダ、体部内面鏡 方向の内ナダ	口縁部外面に 保付着	81	—
209 B	SD17	q	土師器 S字變C類	(15.7) —	3.8/12	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	2.5V7/1 2.5V6/2 2.5V4/1	体部外表面ハケ。口縁部内外 面鏡ナダ、体部内面鏡方向の指 ナダ		81	—
210 B	SD17	p	土師器 S字變C類	(13.7) —	2.1/12	やや粗、径1mm以下の長 石、石英、チャート、雲 母を多く含む	普通	2.5V6/1 10YR6/2 10YR5/1	体部外表面ハケ、口縁部内外 面鏡ナダ、体部内面鏡方向的 指ナダ	口縁部外面に 保付着	81	—
211 B	SD17	i	土師器 S字變C類	(15.2) —	4.4/12	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	良好	10YR6/2 10YR6/2 10YR6/2	体部外表面ハケ後縦ハケ、口 縁部内外面鏡ナダ、体部内面鏡 方向の内ナダ		81	22
212 B	SD17	w-n	土師器 S字變C類	(13.6) —	3.0/12	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10YR6/2 10YR6/3 10YR6/2	体部外表面ハケ後縦ハケ、口 縁部内外面鏡ナダ、体部内面鏡 方向の内ナダ	体部へ口縁部 外面に保付着	81	—
213 B	SD17	w-n	土師器 S字變C類	(15.8) —	1.5/12	やや粗、径1mm以下の長 石、チャートを多く含む	普通	10YR4/2 10YR2/1 10YR2/1	体部外表面ハケ後縦ハケ、口 縁部内外面鏡ナダ、類部内面 鏡方向の内ナダ、体部内面鏡方 向の指ナダ	体部へ口縁部 外面に保付着	81	—
214 B	SD17	h	土師器 S字變	— —	— —	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	2.5V5/2 2.5V4/1	体部外表面ハケ。体部内面鏡 方向の内ナダ	体部内外面に 保付着	81	—
215 B	SD17	p	土師器 S字變	(11.0) —	1/4以上	やや粗、径5mm以下の長 石、チャート、赤色酸化 土を多く含む	良好	10YR6/1 10YR6/1 7.5V8/6/1	体部外表面ハケ、台部内面鏡 方向の指ナダ	台部外面に保 付着	81	—
216 B	SD17	a	土師器 S字變	— 9.6 —	— 3/4以上	やや粗、石英、チャート、雲 母を多く含む	普通	2.5V6/1 2.5V5/1 2.5V5/1	台部外表面ハケ、台部内面鏡 方向	台部外面に保 付着	81	—
217 B	SD17	p	土師器 S字變	(9.0) —	— 1/4以上	やや粗、径1mm以下の長 石、石英、チャートを多 く含む	普通	2.5V4/1 2.5V6/2 2.5V4/1	台部へ体部外表面 斜めハケ。台部 内面相压		81	—
218 B	SD17	w-n	土師器 S字變	(11.0) —	— 1/4以下	やや粗、径2mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10YR7/3 10YR6/2 5WRT/1	台部へ体部外表面 斜めハケ。台部内 面相压	台部外面に保 付着	81	—
219 B	SD17	p	土師器 S字變	— —	— —	やや粗、径2mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10YR7/2 10YR8/2 10YR3/1	台部へ体部外表面 斜めハケ。体部内 面鏡方向のハラナダ、台部内 面相压	台部と体部打 ち欠き	81	23
220 B	SD17	s	土師器 布留式變	— —	1.0/12	やや粗、径4mm以下の長 石、チャートを多く含む	普通	10YR7/1 10YR6/2 2.5V3/1	口縁部内外面鏡ナダ		81	—

表32 土器類観察表（10）

高裁番号	地点	遺構名	層位	種別	器種	口径 底径 高さ (cm)	口縁 残存率 底部 残存率	胎土	焼成	色調 (内面) (外面) (断面)	調整	備考	神 国	図 版
221	B	SB17	I-n	土師器	壺	—	1.0/12	やや粗、4mm以下の長石、石英、チャートを多く含む	普通	10YR6/5 10YR6/2 10YR7/3	口縁部外表面黒ハケ、口縁部内面横一輪のハケ	口縁部内面に保付着	81	—
222	B	SB17	p	土師器	扣き壺	—	—	やや粗、5mm以下のチャートをわずかに含む	普通	10YR6/5 7.5YR6/3 7.5YR6/1	体部外斜め方向のタタキ、体部内底斜め方向のヘラナデ	—	81	23
223	B	SB17	k	土師器	鉢	12.2 —	6.0/12	やや粗、5mm以下の長石を多く含む	良好	7.5YR7/4 5YR6/3 5YR7/3	体部外底下方横へ斜め方向のケメリ、上方へ口縁部内外面横ナデ、体部内面引明	—	81	21
224	B	SB17	p-q	土師器	有段高杯	—	1.0/12	やや粗、5mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒を多く含む	普通	7.5YR7/3 10YR7/3 10YR7/3	口縁部内面不明	口縁部内面に道弘文と沈綱文	82	23
225	B	SB17	p-q	土師器	有段高杯	—	1.0/12	やや粗、5mm以下の長石、チャートをわずかに含む	普通	10YR8/2 10YR8/2 10YR8/2	杯部外斜めミガキ	杯部内面に多集沈綱文	82	23
226	B	SB17	b	土師器	有段高杯	(22.0)	1.4/12	やや粗、5mm以下の長石、石英、赤色酸化土粒をわずかに含む	普通	10YR7/2 10YR6/4 10YR6/4	杯部外斜めミガキ、杯部内面不明	—	82	—
227	B	SB17	k	土師器	有段高杯	(14.8)	— 1/4以上	やや粗、5mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む	普通	10YR7/3 10YR6/4 10YR7/3	脚部外表面ミガキ、杯部外斜めミガキ、杯部内面不明、脚部内面下方横方向へヘラナデ、下方斜めハケ	穿孔は2孔1組3方向	82	20
228	B	SB17	o	土師器	有段高杯 (又は器台)	12.2	— 3/4以上	やや粗、5mm以下の長石、石英、チャートを多く含む	普通	7.5YR6/4 7.5YR6/6 7.5YR6/4	脚部外表面ミガキ、脚部内面横一輪のハラナデ	穿孔は2孔1組3方向	82	20
229	B	SB17	p	土師器	有段高杯 (又は器台)	11.8	— 3/4以上	やや粗、5mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む	普通	5YR6/6 5YR6/4 5YR6/4	脚部外表面ミガキ、脚部内面横一輪のハラナデ	穿孔は2孔1組3方向	82	—
230	B	SB17	p	土師器	有段高杯	6.6	— 3/4以上	やや粗、5mm以下の長石、チャートをわずかに含む	良好	7.5YR6/4 10YR6/3 10YR6/3	脚部外斜め～横ミガキ、脚部内底斜め方向のヘラナデ	穿孔は1孔1組3方向	82	20
231	B	SB17	r	土師器	有段高杯 (又は器台)	—	—	やや粗、5mm以下の長石、チャートをわずかに含む	普通	10YR2/1 10YR3/1 10YR5/1	脚部外表面ミガキ、脚部内面横一輪のハラナデ	穿孔は1孔1組3方向	82	—
232	B	SB17	p	土師器	小型器台	9.0 12.0 8.1	8.5/12 3/4以上	やや粗、5mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒、雲母を多く含む	良好	10YR5/4 7.5YR6/4 7.5YR7/3	脚部外表面横ミガキ、杯部内面不明、脚部内外面斜めミガキナデ、脚部内面上方横ケメリ、下方横ミガキ	穿孔は1孔1組3方向	82	20
233	B	SB17	p-q	土師器	手捏ね土器	— 3.0	— 2/4以上	やや粗、5mm以下の長石、チャートをわずかに含む	普通	10YR7/2 10YR6/2 10YR7/2	体部外表面不明、体部内面縦方向の横ナデ	—	82	—
234	B	SB17	k	飴生土器	糞	— (9.6)	1/4以下	やや粗、5mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む	普通	10YR8/1 10YR8/1 10YR8/1	台部外表面不明	—	82	21
235	B	SB17	p	飴生土器	糞	—	—	やや粗、5mm以下の長石、石英、チャートを多く含む	普通	10YR8/1 10YR8/1 10YR8/1	体部外表面黒ハケ、体部内面縦方向の横ナデ	体部外に波状文と模様文	82	21
271	C	SB21	i	土師器	S字彫	—	—	やや粗、5mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	普通	7.5YR7/6 10YR7/3 10YR6/1	台部～体部外表面黒ハケ、体部内面不明、台部内面指圧	—	92	—
272	C	SB21	a-e	調文土器	深鉢	—	1.0/12	やや粗、5mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	良好	7.5YR5/4 7.5YR8/4 7.5YR5/3	口縁部外表面不明	—	92	21
273	C	SB22	d	土師器	S字彫	—	—	やや粗、5mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	普通	2.5YR6/1 2.5YR7/1 2.5YR4/3	台部～体部外表面黒ハケ、台部内面斜め方向の街ナデ	—	93	—
274	B	SB22	d	土師器	S字彫	—	— 1/4以上	やや粗、5mm以下の長石、チャート、雲母を多く含む	普通	10YR7/2 10YR7/1 10YR7/2	台部内外面不明	—	93	—
275	C	SB25	b	土師器	有段高杯	(17.8)	3.0/12	やや粗、5mm以下の長石、赤色酸化土粒をわずかに含む	良好	10YR6/3 10YR6/4 10YR5/2	杯部外表面ミガキ	—	96	23
276	C	SB25	b	土師器	留折唇高杯	—	—	やや粗、5mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒をわずかに含む	普通	10YR7/3 10YR7/4 10YR6/1	脚部外表面ミガキ、脚部内面不明	—	96	—
278	C	SB27	j	土師器	柳ヶ坪型壺	(20.0)	2.3/12	やや粗、5mm以下の長石、チャート、赤色酸化土粒、雲母をわずかに含む	良好	5YR6/6 5YR6/6 5YR6/4	脚部外表面黒ハケ、口縁部外表面横ナデ、脚部内面横ミガキ	口縁部外表面に羽伏文、口縁部外側に円形押文	97	21
279	C	SB27	i	土師器	柳ヶ坪型壺	(18.0)	1.0/12	やや粗、5mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む	良好	7.5YR7/4 7.5YR7/4 7.5YR7/	脚部外表面黒ハケ、口縁部外表面横ナデ、脚部内面横ミガキ	口縁部外表面に羽伏文	97	22
280	C	SB27	h	土師器	柳ヶ坪型壺	(14.0)	3.0/12	やや粗、5mm以下の長石、チャートをわずかに含む	良好	5YR6/6 5YR6/6 5YR6/5	脚部外表面黒ハケ、口縁部外表面横ナデ	口縁部外表面に羽伏文	97	22

表33 土器類観察表 (11)

測定番号	地點	遺構名	層位	種別 器種	口徑 底径 器高 (cm)	口縁 底部 残存率	胎土	焼成	色調 (内面) (外面) (断面)	調整	備考	補 図	図 版
281 C	S227	k-1	土師器 横ヶ坪型壺	—	—	—	黒、径2mm以下の長石、 雲母をわずかに含む	良好	7.5YR6/4 7YR6/5 7.5YR6/6	側部外縁斜めハケ、体部内面横 幅縮文と焼成文	97	22	
282 C	S227	i-n	土師器 バレス壺	—	—	—	黒、径1mm以下の長石、 雲母をわずかに含む	良好	7.5YI7/1 10YR6/3 10YR6/3	体部外縁斜めハケ、体部内面横 幅縮文と焼成文	97	21	
283 C	S227	i-n	土師器 バレス壺	—	—	—	黒、径1mm以下の長石を わずかに含む	良好	10YR6/2 10YR6/2 10YR7/2	体部外縁斜めハケ、体部内面横 幅縮文による葉巻文	97	21	
284 C	S227	i-n	土師器 バレス壺	—	—	1.0/12	黒、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	不良	10YR6/2 10YR6/2 10YR6/2	口縁部外縁不明	97	—	
285 C	S227	i	土師器 壺	(14.9)	4.0/12	—	黒、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	普通	10YR4/1 10YR4/3 7.5YR6/1	体部外縁斜めミガキ、口縁部外 縁横ミガキ、口縁部内面横ナデ	97	22	
286 C	S227	j	土師器 壺	—	—	—	やや粗、径3mm以下の長 石、チャート、赤色酸化 土粒、雲母を多く含む	良好	8Y3/1 10YR2/1 10YR7/4	頸部外縁斜めハケ、頸部～体部 内面横～斜めハケ	97	22	
287 C	S227	i-n	土師器 S字彫A型	(18.0)	1.1/12	—	やや粗、径2mm以下の長 石、石英、チャート、雲 母を多く含む	良好	10YR5/2 10YR6/2 10YR6/3	体部外縁斜めハケ～複縁ハケ、口 縁部外縁横ナデ、頸部～体部 外縁斜めハケ、体部内面横 方向の指ナデ	97	22	
288 C	S227	j	土師器 S字彫C型	(15.8)	3.2/12	—	やや粗、径2mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10YR5/2 10YR4/1 10YR4/1	体部外縁斜めハケ～複縁ハケ、口 縁部外縁横ナデ、体部内面横 方向の指ナデ	97	22	
289 C	S227	2	土師器 S字彫C型	(16.0)	1.5/12	—	やや粗。径1mm以下の長 石、雲母をわずかに含む	良好	10YR7/3 10YR6/2 7.5YR6/1	体部外縁斜めハケ。口縁部内外 縁横ナデ、体部内面指ナデ	97	—	
290 C	S227	i-n	土師器 S字彫C型	(20.2)	1.4/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10YR4/1 10YR2/1 10YR3/1	体部外縁斜めハケ～複縁ハケ、口 縁部外縁横ナデ、体部内面横 方向の指ナデ	97	—	
291 C	S227	b	土師器 S字彫C型	(13.6)	2.2/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、赤色酸化土粒、雲 母を多く含む	普通	2.0YR7/3 2.5YR7/2 2.5YR6/1	体部外縁斜めハケ、口縁部内外 縁横ナデ、体部内面横ハケ	97	—	
292 C	S227	e	土師器 S字彫C型	(16.8)	2.2/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10YR4/1 10YR5/2 10YR5/1	体部外縁斜めハケ～複縁ハケ、口 縁部外縁横ナデ、体部内面指ナデ	97	—	
293 C	S227	j	土師器 S字彫C型	(14.0)	2.0/12	—	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10YR6/1 10YR8/3 10YR6/1	体部外縁斜めハケ～複縁ハケ、口 縁部外縁横ナデ、体部内面横 不明	97	—	
294 C	S227	f-g	土師器 S字彫	(9.0)	—	1/4以上	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10YR6/2 10YR6/2 10YR6/1	台部～体部外縁斜めハケ、台部 内面指ナデ	97	—	
295 C	S227	15	土師器 S字彫	—	—	1/4以上	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、雲母を多 く含む	普通	10YR5/3 10YR6/2 5YR4/2	台部外縁斜めハケ、台部内面横 ナデ	97	—	
296 C	S227	12	土師器 S字彫	—	—	—	やや粗。径1mm以下の長 石、赤色酸化土粒、雲 母を多く含む	普通	10YR6/3 10YR6/2 10YR4/1	台部～体部外縁斜めハケ、体部 内面横方向のヘラナデ	97	29	
297 C	S227	f-g	土師器 希留式壺	—	—	1.0/12	黒、径1mm以下のチャー ト、雲母をわずかに含む	普通	2.5YR5/6 10YR6/2 10YR6/4	口縁部外縁面横ナデ	97	23	
298 C	S227	k-1	弥生土器 壺	(6.0)	—	1/4以下	やや粗、径1mm以下の長 石、チャート、赤色酸化 土粒、雲母を多く含む	良好	10YR7/2 10YR5/2 10YR4/2	体部外縁ハケ、体部内面不明 着	97	—	
299 C	S227	n	土師器 鉢	—	—	1.0/12	黒、径1mm以下のチャー ト、赤色酸化土粒、雲 母をわずかに含む	普通	5YR6/4 5YR5/4 5YR6/4	体部～口縁部外縁不明	97	—	
300 C	S227	i-n	土師器 有段高杯	(19.9)	1.2/12	—	黒、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	良好	7.5YR6/4 7.5YR6/4 7.5YR7/3	杯部外縁斜めミガキ、口縁部 内面横ミガキ	98	23	
301 C	S227	i	土師器 有段高杯	(19.9)	1.2/12	—	黒、径1mm以下の長石、 チャート、赤色酸化土粒 をわずかに含む	良好	10YR7/4 10YR7/3 10YR7/4	杯部外縁斜めミガキ	98	23	
302 C	S227	i-n	土師器 有段高杯	—	—	—	黒、径1mm以下の長石を わずかに含む	良好	10YR5/4 10YR5/4 10YR5/4	脚部外縁面横ミガキ、脚部内面 横ナデ～脚部外縁面横方向の ヘラナデ	98	—	
303 C	S227	i-n	土師器 有段高杯	(11.4)	—	1/4以上	黒、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	普通	10YR7/1 10YR7/2 10YR4/1	脚部外縁面横ミガキ、脚部内面 横ナデ～脚部外縁面横方向の ヘラナデ	98	—	
304 C	S227	i-n	土師器 有段高杯 (又は台器)	(13.0)	—	1/4以上	黒、径1mm以下の長石、 赤色酸化土粒をわずかに 含む	良好	10YR7/3 10YR7/3 10YR7/3	脚部外縁斜めミガキ、脚部内面 横ケツリ、脚部内面横～斜 めハケ	98	23	

表34 土器類観察表 (12)

発掘番号	地点	遺物名	層位	種別	器種	口径 底径 高さ (cm)	口縁 残存率 底部 残存率	底部 形状 基土	機成	色調 (内面) (外側) (断面)	調整	備考	海 国	國 版
305 C	S027	J	土師器 小型器台	(7.4) 11.6 8.7	—	3.6/12 2/4以上	—	直、径1mm以下の長石、 石英、チャートをわずかに含む	良好	10Y7/4 10Y7/4	脚柱部 外側斜めミガキ、杯柱部 外側斜めミガキ、杯部外側斜めミ ガキ、脚部内面横ハケ	單孔12孔1頭3 方向	98	21
309 B	S038	a	灰釉陶器 加工工具	8.6 4.9 厚1.0	—	—	—	直、径1mm以下のチャー トをわずかに含む	良好	2.5Y8/2 2.5Y8/2 2.5Y8/2	底部外側回転ヘラケヅリ、底部 内面回転ナダ	灰釉陶器鏡を 軸用	102	23
311 C	S016	I	灰陶器 环蓋	—	—	1.0/12	—	直、径1mm以下の長石を わずかに含む	普通	10BG5/1 9B4/1 10BG5/1	口縁部内外回転ナダ	—	105	23
312 B	S014	a	山茶碗	—	—	1.0/12	—	直、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	良好	10Y7/2 10Y7/2 10Y7/2	口縁部内外回転ナダ	—	107	—
313 A	S018	I	灰陶器 环	—	—	1.0/12	—	直、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	良好	2.5Y7/1 2.5Y7/1 2.5Y7/1	口縁部内外回転ナダ	—	108	—
314 B	AG7	II	弥生土器 壺	—	—	—	—	やや粗、径1mm以下の長 石、雲母をわずかに含む	普通	10Y7/2 10Y7/4 10Y8/2	体部外側不明、体部内側斜め方 向の擦ナダ	体部外側に崩 突文と沈線文	110	—
315 B	複乱	—	土師器 壺	—	—	—	—	直、径1mm以下のチャー ト、赤色酸化土粒をわず かに含む	普通	3Y8/6 3Y8/6 3Y8/1	杯部内外不明	—	110	—
316 B	AG11	II	土師器 バレス壺	—	—	—	—	直、径1mm以下の長石を わずかに含む	良好	2.5Y7/3 2.5Y7/2 2.5Y7/3	体部内外不明	体部外側に沈 線文、波線文 並記	110	21
317 B	AG11	II	土師器 バレス壺	—	—	—	—	直、径1mm以下の長石、 チャート、雲母をわずかに含む	良好	2.5Y7/3 10Y7/2 2.5Y7/3	体部内外不明	体部外側に沈 線文、赤彩	110	21
318 A	AB16	II	土師器 有設置部	(13.8)	—	1.0/12	—	直、径2mm以下の長石、 チャート、赤色酸化土粒 をわずかに含む	普通	7.5Y7/6 7.5Y8/6 7.5Y8/1	杯部内外不明	—	110	—
319 C	表土 剥剝	I	土師器 屈折脚高杯	(12.0)	—	1.8/12	—	直、径1mm以下のチャー トをわずかに含む	良好	10Y7/3 7.5Y7/4 10Y7/3	杯部外側羅ミガキ、杯部内面不 明	—	110	—
320 B	AG11	II	灰陶器 环蓋	—	—	1.0/12	—	直、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	良好	N5/0 N5/0 N5/0	口縁部内外回転ナダ	—	110	23
321 A	AB16	II	灰陶器 环身	(11.6)	—	—	—	直、径1mm以下の長石を わずかに含む	普通	7.5Y7/1 7.5Y7/1 7.5Y7/1	体部内外回転ナダ	—	110	23
322 C	AG12	II	灰陶器 环身	(10.6)	—	1/4以上	—	直、径1mm以下の長石を わずかに含む	良好	N7/1 N7/1 N7/1	底面回転ヘラケヅリ、体部内 面～底部内面回転ナダ	—	110	23
323 B	表土 剥剝	I c	灰陶器 有台坏	—	—	—	—	直、径1mm以下の長石を わずかに含む	良好	2.5Y7/1 10Y7/1 10Y7/1	底部内面回転ヘラケヅリ、底部 内面回転ナダ	底部内面に攝 刻	110	—
324 A	AB16	II	灰陶器 有台坏	(7.2)	—	1/4以下	—	直、径5mm以下の長石 をわずかに含む	普通	9Y7/1 9Y7/1 9Y7/1	底部外側回転ヘラケヅリ、体部 外側回転ナダ	—	110	23
325 B	AB12	II	灰陶器 盖	(17.5)	—	1.0/12	—	直、径1mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	良好	N7/0 N7/0 N7/0	天井部外側回転ヘラケヅリ、口 縁部外側～天井部内面回転ナダ	—	110	23
326 B	複乱	—	灰陶器 盖	(16.0)	—	1.2/12	—	直、径2mm以下の長石、 チャートをわずかに含む	良好	10Y7/1 10Y7/1 10Y7/1	口縁部内外回転ナダ	—	110	23
327 C	BG4	II	灰陶器 鉢	(19.1)	—	1.8/12	—	直、径1mm以下の長石を わずかに含む	普通	9Y7/1 N7 9Y7/1	口縁部内外回転ナダ	—	110	23
328 B	AG3	II	灰陶器 鉢	—	—	1.0/12	—	直、径1mm以下の赤色酸 化土粒をわずかに含む	普通	10Y7/1 10Y7/1 10Y7/1	口縁部内外回転ナダ	—	110	—
329 B	AG12	II	灰陶器 瓶	(11.0)	—	1/4以下	—	直、径1mm以下のチャー トをわずかに含む	良好	7.5Y4/2 N7/0 N7/0	底部回転ヘラケヅリ、体部外 横～斜め方向ヘラケヅリ、体 部内面回転ナダ	—	110	—
330 B	AG7	II	灰釉陶器 瓶	(7.0)	—	1/4以下	—	直、径1mm以下のチャー トをわずかに含む	良好	2Y8/1 2Y8/1 2Y8/1	体部内外回転ナダ	—	111	—
331 B	AG12	I c	灰釉陶器 瓶	(6.8)	—	1/4以下	—	直、径1mm以下のチャー トをわずかに含む	良好	2.5Y8/1 2.5Y8/1 2.5Y8/1	底部外側回転ヘラケヅリ、底部 内面回転ナダ	—	111	23
332 A	AB16	II	灰釉陶器 瓶	—	—	—	—	直、径1mm以下の長石を わずかに含む	良好	2.5Y8/1 2.5Y8/1 2.5Y8/1	底部外側回転ヘリギリ、体部外 横～斜め方向ヘリギリ	—	111	—
333 B	表土 剥剝	I c	碌釉陶器 瓶	(10.0)	—	1/4以下	—	直、径1mm以下のチャー トをわずかに含む	良好	7.5Y8/2 7.5Y7/2 N8/0	体部内外回転ナダ	全面に碌釉	111	23

表35 土器類観察表 (13)

通数番号	地点	遺物名	層位	種別 器種	口径 底径 器高 (cm)	口縁 残存率 底部 残存率	胎土	焼成	色調 (内面) (外面) (断面)	調整	備考	補 図	図 版
334 B	A66	II	山茶碗	—	(6.5)	— 1/4以上	やや粗。径1mm以下の長石をわずかに含む	良好	5Y6/2 5Y7/1 5Y7/1	体部内外面回転ナデ	高台端部に櫛紋痕	111	—
335 B	AG11	II	山茶碗	—	(7.4)	— 1/4以下	やや粗。径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	良好	7.5Y6/4 7.5Y6/4 7.5Y6/4	底部外面回転系切り、体部内外面回転ナデ	—	111	23
336 B	AG12	II	山茶碗	—	(7.5)	— 1/4以下	粗。径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	普通	5Y7/1 5Y7/1 5Y8/1	底部外面回転系切り、体部内外面回転ナデ	高台端部に櫛紋痕。底部に焼成後穿孔跡	111	—
337 B	A65	II	山茶碗	—	(6.6)	— 1/4以下	粗。径2mm以下の長石、チャートをわずかに含む	良好	5Y7/1 5Y7/1 5Y7/1	底部外面回転系切り、底部内部回転ナデ	高台端部に櫛紋痕	111	23
338 B	複乱	—	山茶碗	—	—	1.0/12	やや粗。径1mm以下の長石、チャートを多く含む	良好	10Y7/1 10Y7/1 10Y7/1	口縁部内外面回転ナデ	—	111	23
339 B	複乱	—	山茶碗	—	(3.0)	— 1/4以上	粗。径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	良好	5Y7/1 5Y7/1 5Y7/1	底部外面回転系切り、体部内外面回転ナデ	高台端部に櫛紋痕	111	23
340 B	AH12	II	山茶碗	—	(5.0)	— 1/4以下	粗。径1mm以下の長石を 2つ方に含む	良好	N7/0 N7/0 N8/0	底部外面回転系切り、体部内外面回転ナデ	—	111	—
341 B	AF3	II	小皿	—	(3.6)	— 1/4以上	粗。径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	良好	5Y7/1 5Y7/1 5Y7/1	底部外面回転系切り、体部内外面回転ナデ	—	111	—
342 B	AH12	I c	小皿?	—	4.0	— 2/4以上	粗。径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	良好	2.5Y7/2 2.5Y8/1 2.5Y7/2	底部外面回転系切り、体部内外面回転ナデ。底部内部静止ナデ	底部外面に粘土塊付着	111	23
343 B	複乱	—	古瀬戸 有耳壺	—	—	—	粗。径1mm以下の長石を 2つ方に含む	良好	2.5Y5/3 2.5Y5/4 2.5Y5/2	体部内外面回転ナデ	全面に灰釉、体部外面に文様あり	111	23
344 B	複乱	—	古瀬戸 有耳壺	—	—	—	粗。径1mm以下の長石を 2つ方に含む	良好	10Y6/2 10Y6/2 2.5Y8/1	体部内外面回転ナデ	体部外面に沈文と灰釉	111	—
345 B	A65	II	古瀬戸 印付大皿	(12.2)	— 1/4以上	粗。径1mm以下のチャートをわずかに含む	良好	2.5Y8/2 2.5Y8/2 2.5Y8/2	底部～体部外面下方回転ヘラケズリ、体部内部回転ナデ	底部外面～体部外面下方を踏き灰釉、底部内部釉の拭い取り	—	111	23
346 B	複乱	—	瀬戸美濃 (大窓) 丸皿	—	(6.0)	— 1/4以下	粗。径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	良好	10Y7/2 10Y6/3 10Y7/1	体部外面回転ヘラケズリ、体部内部面回転ナデ	高台端部に踏き灰釉	111	23
347 A	AB16	II	瀬戸美濃 (登窓) 皿	(8.6)	1.0/12	— 1/4以下	粗。径1mm以下の長石を わずかに含む	良好	5Y7/2 2.5Y8/1 2.5Y8/1	底部～体部外面下方回転ヘラケズリ、体部外面上方～内部回転ナデ	底部～体部外面下方を踏き灰釉	111	—
348 B	複乱	—	瀬戸美濃 (登窓) 灰釉丸皿	—	4.5	— 3/4以上	粗。径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	良好	5Y7/2 2.5Y8/2 2.5Y8/2	底部～体部外面下方回転ヘラケズリ、体部外面上方～体部内部回転ナデ	底部～体部外面下方を踏き灰釉	111	23
349 B	複乱	—	瀬戸美濃 (登窓) 尾呂茶碗	(5.0)	— 1/4以上	— —	粗。径2mm以下の長石、チャートをわずかに含む	良好	5Y4/3 5Y4/3 5Y7/2	底部～体部外面回転ヘラケズリ、体部内部回転ナデ	高台周辺に踏き灰釉	111	—
350 B	複乱	—	瀬戸美濃 (登窓) 縫鉢	—	—	1.0/12	粗。径1mm以下のチャートをわずかに含む	良好	5Y8/2 5Y8/2 5Y8/1	口縁部内外面回転ナデ	全面に灰釉	111	—
351 B	表土 削剝	I c	白磁 皿	(14.0)	— —	— —	粗。径1mm以下の長石を 2つ方に含む	良好	2.5Y8/1 2.5Y8/1 2.5Y8/1	体部内外面回転ナデ	全面に施釉	111	—
352 B	AG7	II	染付 皿	(7.0)	— —	— —	粗。径1mm以下の長石を 2つ方に含む	良好	5Y6/1 5Y6/1 5Y7/2	体部内外面回転ナデ	体部内部に火痕による文様、高台内外面に灰釉による斑剥	111	23
353 B	AG7	II	土製品 土鍤	4.4 2.2	— —	— —	やや粗。径1mm以下の長石、チャートを多く含む	良好	10Y8/2 10Y8/2 10Y7/2	調整不明	穿孔径0.6cm	111	—
354 B	AG7	II	土製品 土鍤	1.2	— —	— —	粗。径1mm以下の石英を 2つ方に含む	良好	10Y8/6 5Y7/4 5Y8/4	調整不明	穿孔径0.2cm	111	—

表36 打製石鏡観察表

測定番号	直横番号	層位	取上番号 主番号	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	基部 形状	側縁 形状	自然面	折損 部位	辨別			
													枝	國版		
310	SK122	1	0229	1	チャート	(3.7)	1.5	0.7	3.0	凸出	有刺	無	風蝕	30°	105	24

表37 磨製石鏡観察表

測定番号	直横番号	層位	取上番号 主番号	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	基部 形状	穿孔		折損 部位	先端角	辨別		
										枝	方法			根	國版	
306	SD27	1	1281	1	斑岩	4.3	2.9	0.3	6.2	平底	0.2	圓面	側縫	76°	98	24

表38 MF観察表

測定番号	直横番号	層位	取上番号 主番号	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	基部 形状	微細な凹凸を有する面		素材形状	辨別	
										位置	位置	根	國版	
87	SD17	1	0724	1	チャート	3.3	2.6	0.7	6.1	2	側・下	側長	73	24
307	SD27	j	1299	3	砂岩	5.3	5.6	1.3	31.5	2	側・下	側長	98	24
	SK38	a	0697	4	チャート	4.0	4.8	1.2	25.2	1	下	側長		

表39 卸石観察表

測定番号	直横番号	層位	取上番号 主番号	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形状	鉄打の位置		被熱	欠損	辨別	
										枝	根			根	國版
43	SK106	6	0968	1	花崗岩	14.9	7.0	5.1	973.0	圓内	上・下・側	無	無	43	24
47	SK106	3	0991	1	花崗岩	20.4	8.4	5.5	1351.9	圓内	下・側	右	無	48	24
190	SD17	c	0883	1	砂岩	15.2	5.0	4.4	582.9	圓内	上・下	無	無	79	24
236	SD17	q	1110	1	流紋岩	16.2	9.0	7.6	1658.9	圓内	上・下・側	右	無	82	24
237	SD17	m	1028	1	砂岩	12.1	4.2	3.0	192.7	圓内	上・下	右	無	82	24
238	SD17	n	1013	1	砂岩	(10.7)	7.5	4.8	564.5	圓内	下	無	右	82	24
SK138	1	0281	1	花崗岩	17.1	7.6	4.5	1003.1	圓内	下	無	無			
SK139	2	0196	1	花崗岩	(13.7)	7.0	4.1	696.7	圓内	下	無	右			
SD17	e	0402	1	花崗岩	(12.0)	6.2	4.8	656.6	圓内	側	無	右			
SD17	h	0520	1	流紋岩	(17.1)	7.6	4.5	765.9	圓内	下	無	右			
SD17	i	0573	1	砂岩	9.5	5.7	4.9	380.3	圓内	下	右	無			
SD17	h	0589	1	砂岩	(14.4)	6.6	5.1	824.1	圓内	下・側	右	右			
SD17	e	0661	29	砂岩	12.7	11.6	1.7	434.0	円	上・下・側	右	無			
SD17	m	1026	1	砂岩	11.7	9.0	4.1	653.0	圓内	下	無	無			
SD17	q	1149	1	流紋岩	10.1	7.8	6.7	1185.9	圓内	下	右	無			

表40 磨石観察表

測定番号	直横番号	層位	取上番号 主番号	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形状	砥面数		砥打痕	被熱	欠損	辨別	
										枝	根			根	國版	
44	SK106	2	0963	1	隕石岩	(8.7)	3.5	3.3	134.0	方	4	無	無	有	43	24
88	SD17	2	0929	1	花崗岩	(15.5)	(18.6)	7.3	3569.5	円	2	無	無	有	73	24
239	SD17	l	0572	1	砂岩	17.2	(3.0)	4.7	424.8	圓内	1	有	無	有	82	24
240	SD17	h~i	0494	1	流紋岩	(7.2)	(6.8)	(0.8)	35.1	不明	1	無	無	有	82	24
SD20	b	0097	14	砂岩	(4.3)	(4.2)	(1.2)	17.7	圓内	1	有	無	有			
SD17	g	0691	10	流紋岩	(5.5)	(4.4)	(0.8)	19.4	不明	1	無	無	有			

表41 軽石製品観察表

測定番号	直横番号	層位	取上番号 主番号	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形状	使用面数		被熱	欠損	辨別		
										枝	根			根	國版	
75	SD3	c	0154	1	輕石	1.5	0.9	0.4	0.6	0.7	0.4	0.2	片面	無	62	24

表42 勾玉観察表

測定番号	直横番号	層位	取上番号 主番号	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形状	抉り幅		穿孔	被熱	辨別	
										枝	根			根	國版

表43 剥片観察表

測定番号	直横番号	層位	取上番号 主番号	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形状	穿孔		被熱	欠損	辨別	
										枝	根			根	國版
SK126	1	0504	1	チャート	4.5	3.0	0.8	12.6	圓形						
SK136	1	0255	2	チャート	1.8	2.0	0.4	1.1	圓形						
NH1	f	1259	1	又文カイト	3.0	2.6	0.6	2.4	圓形						
AH16	II	0182	12	チャート	4.4	4.1	1.0	15.4	圓形						
AH16	II	0182	13	チャート	2.8	2.4	0.7	4.0	圓形						
AH16	II	0182	14	チャート	2.5	2.0	0.5	2.9	圓形						
AH16	II	0185	3	チャート	2.8	2.4	0.8	3.6	圓形						

表44 木製品觀察表

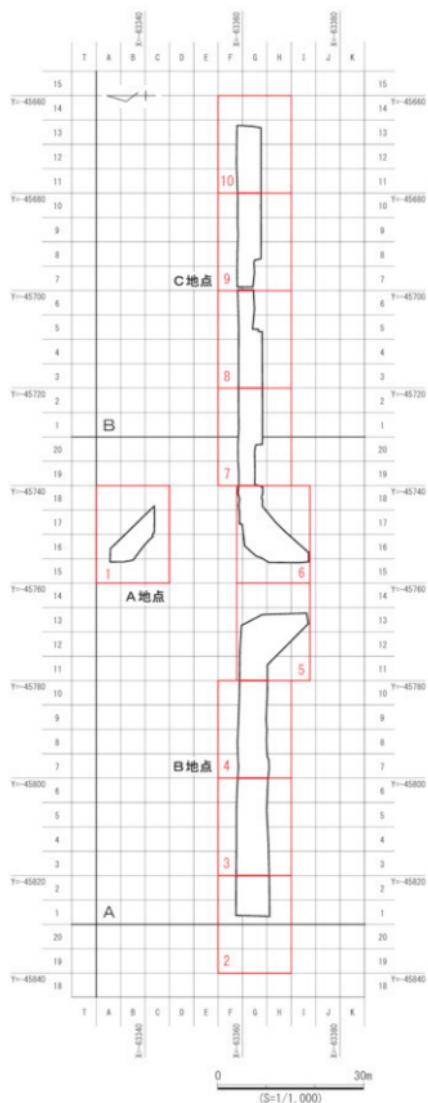
遺物 番号	遺物 番号	別位 番号	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	形態・特徴			木取り	樹種	辨認	図版
18	SP21	3	柱棒	(8.0)	(7.9)	(6.4)	裏面が黒し全体形は不規則。			心持材	ヒノキ科	88	—
241	SD17	p	横手柄	(31.0)	(13.5)	2.0	握り下端、斧台基部、斧台先端欠損。握りと斧台に陥りや往復等は認められない。			心持材	コナラ属	84	25
242	SD17	i	櫛か	27.5	6.7	1.7	上端欠損。左側が三角形状を呈し、下端に丸みを有する。			板目	アカガシ属	84	25
243	SD17	p	木鍬	12.4	8.3	6.5	裏面欠損。両側面に粗い加工痕が残り、中央に溝がある。			心持材	ヤマグワ	84	25
244	SD17	a	木鍬	11.7	7.7	6.1	裏面欠損。両側面に粗い加工痕が残り、中央に溝がある。			心持材	ヤマグワ	84	25
245	SD17	p	鎌	14.1	5.6	1.4	上面欠損。長方形を呈し、表面の側に幅約1cmの溝状の傷みを有する。裏面は、製材時の加工痕がある。			板目	ヒノキ	84	26
246	SD17	e	作業台	(29.0)	8.5	4.8	上部欠損。刃羽の半裁材で、表面にヤリガニナ状の工具による加工痕が残り、裏面は木材特有のままである。表面に不定方向の刀物傷が残り、右側面に深い溝跡が認められる。			道桿目	ヒノキ	84	25
247	SD17	q	籠み物	(12.0)	(11.0)	—	裏面が黒い。1単位で1本組え。1本削りであり、平織りと同様の編み方である。			—	イヌ科 タケイ科	84	—
248	SD17	p	二又鋸	58.5	8.7	1.4	底面の二又鋸、刃部の一部が欠損し、柄孔が割れて変形している。裏面に丸みを帯び、縁は緩やかに幅が広くなる。柄孔は、長さ5.3cm、幅2.6cmである。			板目	コナラ属 アカガシ属	85	25
249	SD17	p	多又鋸	62.5	(3.1)	1.2	上部欠損。上端幅3.2cmである。下方に向かって幅を減じる。			板目	コナラ属 アカガシ属	85	25
250	SD17	p	有換板	(18.4)	(7.3)	1.1	左側面と下部欠損。上面に台形状の抉りがある。左右側面はハサウエーで開く。裏面と裏面ともに機力的にヤリガニナ状の加工痕が残る。表面の上面の裏面から裏面へのびる。			板目	ヒノキ	85	26
251	SD17	q	芯木か	24.2	5.6	4.9	上下欠損。下方に抉りを有し、下端は多方向から斜めに削られている。			心持材	ヤマグワ	86	25
252	SD17	r	板材	43.1	23.3	3.7	側面はいずれも欠損。裏面に加工痕が残り、下端に溝を有する。			板目	ケヤキ	86	26
253	SD17	q	板	21.9	4.6	1.9	上下と裏面欠損。右側面に面を有し、左側面は尖り気味に形成されている。表面に裏面及び裏面欠損。			板目	カラス ダンショウ	86	—
254	SD17	r	板	(41.9)	(7.5)	2.2	裏面に裏面及び裏面欠損。裏面に刃物傷が残り、上端は斜めに削かれている。			道桿目	ヒノキ	86	—
255	SD17	p	板	44.0	4.0	1.4	上下と裏面欠損。全体的に渋曲しており、裏面上端と裏面下端に段を有する。			板目	ヒノキ	86	—
256	SD17	r	板	(44.0)	4.5	2.6	上下欠損。表面面及び裏面は炭化している。			板目	ヒノキ	86	—
257	SD17	o	有抉角錐	66.5	5.1	3.7	上部欠損。断面方形を呈し、裏面に斜め方向の刀物傷が残る。			板目	ヒノキ	87	26
258	SD17	n	有抉角錐	(36.2)	4.8	2.6	上下と裏面欠損。左側面は面を有し、右側面は尖り気味に形成されている。表面に斜め方向の刀物傷が残る。			道桿目	ヒノキ	87	26
259	SD17	p	有抉角錐	(84.4)	2.2	1.2	裏面の大半が欠損しており、上端に方形枘を有する。			心去材	ヒノキ	87	26
260	SD17	p	有抉角錐	69.2	2.5	2.2	F型欠損。裏面に方形枘を有する。			心去材	アカガシ属	87	26
261	SD17	q	有抉角錐	(125.6)	2.7	2.9	上下欠損。上端幅2.5cm、深さ0.7cmの抉りを有する。			心持材	スダジイ	87	26
262	SD17	p	有抉角錐	190.3	3.5	3.2	部分的に欠損。上端に幅3cm、深さ0.4cm、下端に幅3.7cm、深さ0.3cmの抉りを有する。表面はヤリガニナ状の工具で加工された。下半は完全に炭化が残る。			心持材	サカキ	87	26
263	SD17	k	丸錐	154.5	3.6	2.4	下端欠損。先端を斜めに削断。部分的に粗面が残存している。			心持材	スダジイ	87	—
264	SD17	p	丸錐	36.5	2.3	1.6	上下欠損。裏面に斜め方向の刀物傷が認められる。			板目	ヒノキ	88	—
265	SD17	o	角錐	(63.6)	7.0	3.9	上下欠損。断面方形を呈する。			板目	ヒノキ	88	26
266	SD17	r	角錐	(23.7)	1.2	0.8	上下欠損。断面方形の錐で、裏面に製材時の段が認められる。			板目	ヒノキ	88	—
267	SD17	j	角錐	(34.7)	8.7	4.2	全体的に腐食が著しい。裏面に幅約5cmの溝状の傷みが認められる。			板目	ヒノキ	88	26
268	SD17	p	角錐	(16.9)	0.8	0.7	上下欠損。断面台形の錐で、裏面に製材時の段が認められる。			板目	スギ	88	—
269	SD17	r	残材	(7.3)	3.6	(0.8)	左右欠損。上端と下端を斜めに削断し、表面は平滑である。			道桿目	スギ	88	—
270	SD17	s	残材	12.3	(14.4)	4.4	裏面が部分的に欠損。上端に粗い加工痕があり、先端は削れている。			道桿目	クリ	88	26
2608	SD27	j	脚付櫛	(25.4)	(7.1)	(2.4)	裏面(1)はいずれも欠損し、上端は炭化している。裏面に現存櫛約3.8cm、高さ1.3cmの脚を有する。			板目	ヒノキ科	98	26

表45 金属製品觀察表

遺物 番号	遺物 番号	別位 番号	種別	取上番号			材質	辨認	図版		
				主番号	枝番	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)			
356	MG7	B	經營標音	387	1	(5.5)	2.3	(1.9)	鋼	III	24
357	AH16	B	鉄玉	138	1	1.3	1.3	1.2	鉄	III	24

表46 融着付着土塊觀察表

遺物 番号	遺物 番号	別位 番号	種別	取上番号			材質	辨認	図版
				主番号	枝番	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	
277	S025	b	1217	42	(2.9)	(2.0)	(2.5)	96	24



<図113～122の凡例>

- 遺構上端線
- 遺構下端線
- 遺構消滅上端線
- 遺構消滅下端線
- 発掘区法面
トレンチ
- 擾乱
- 計曲線
- 主曲線

<遺構名の表記>

- 赤色
- 発掘区の完掘時に遺構の形状が確認できる遺構名
灰色
- 発掘区の完掘時までに消滅した遺構名

図112 発掘区全域図 割付図

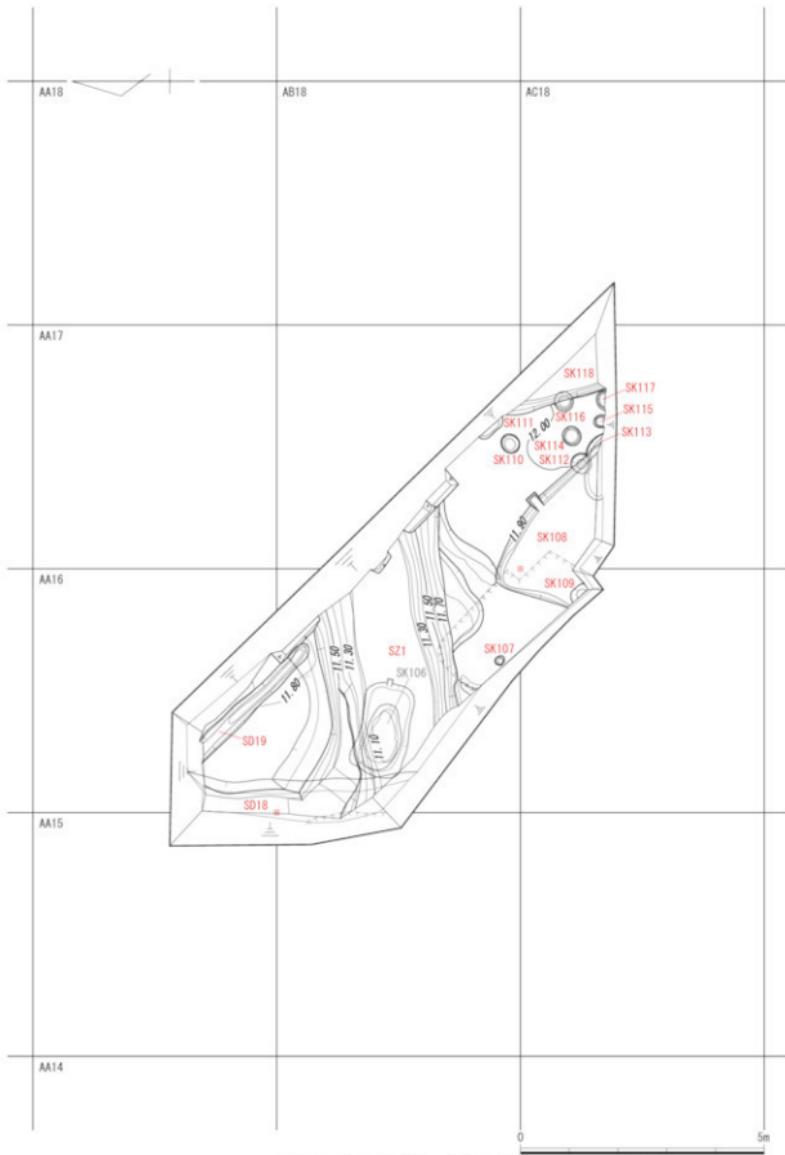


図 113 発掘区全域図 分割図 (1)

(S-1/100)



図 114 発掘区全図 分割図 (2)

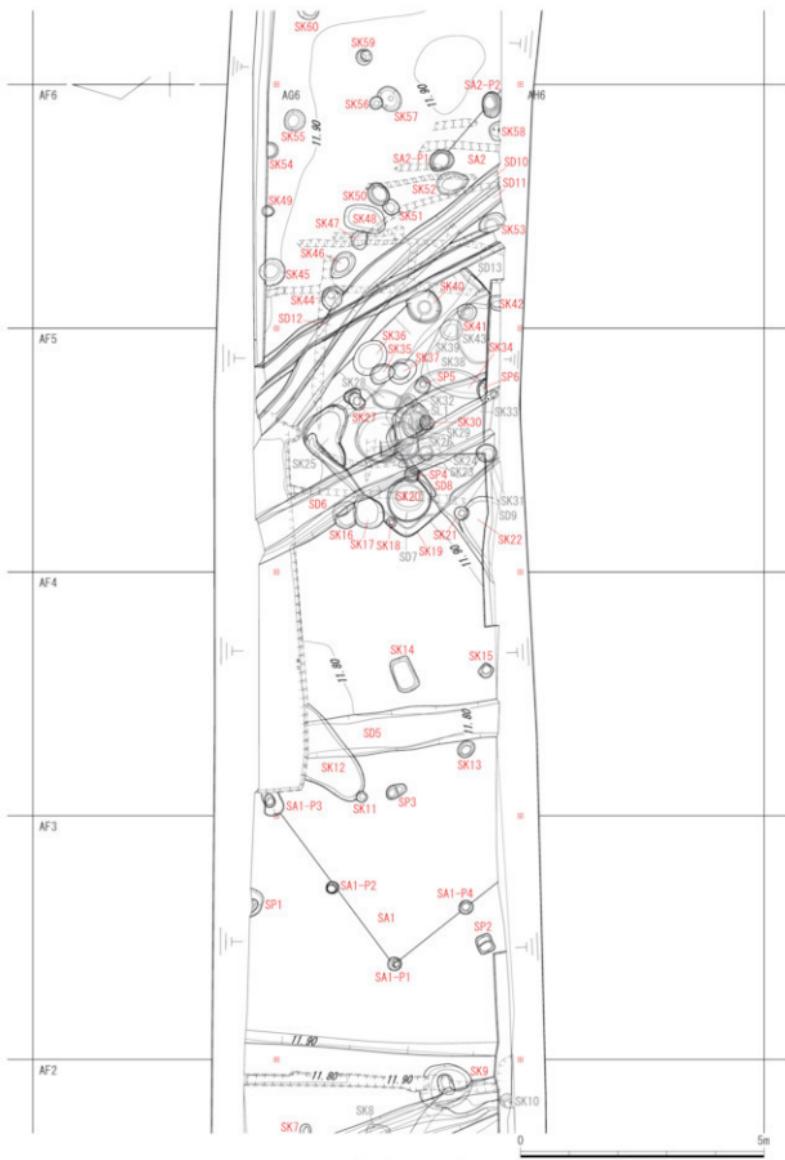


図 115 発掘区全域図 分割図 (3)

(\$=1/100)

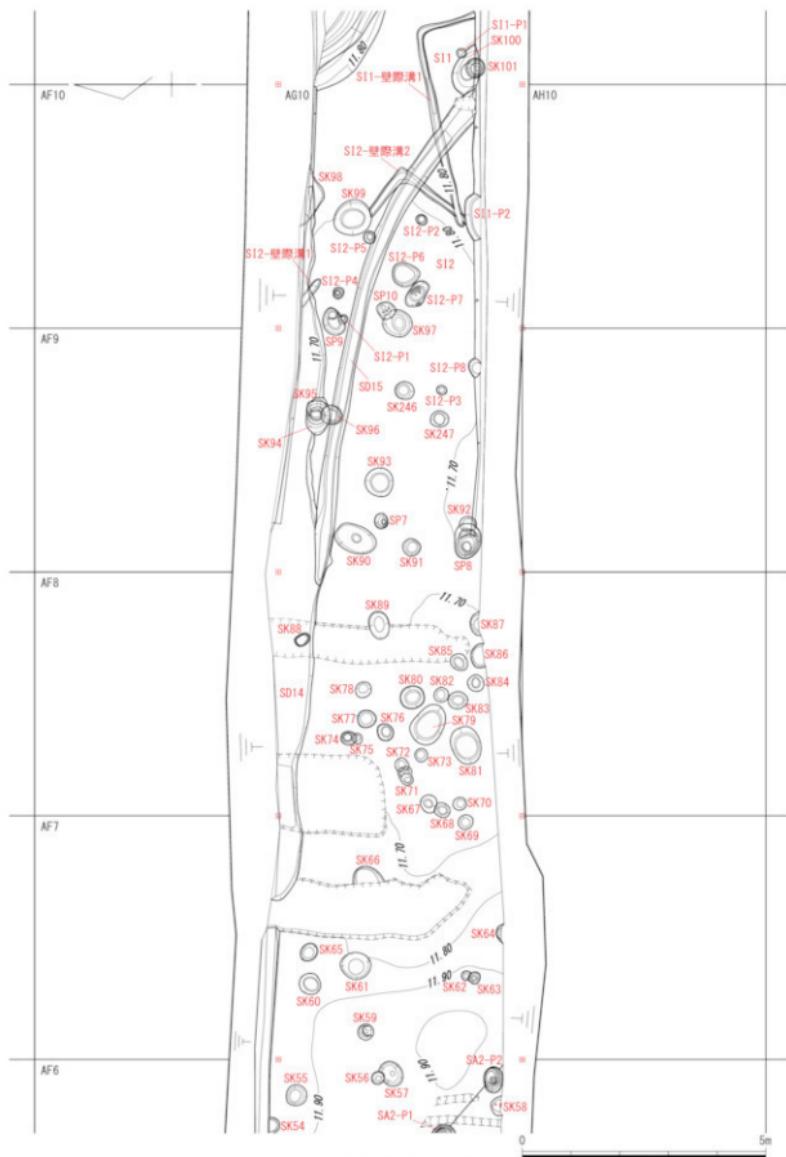


図116 免掘区全域図 分割図(4)

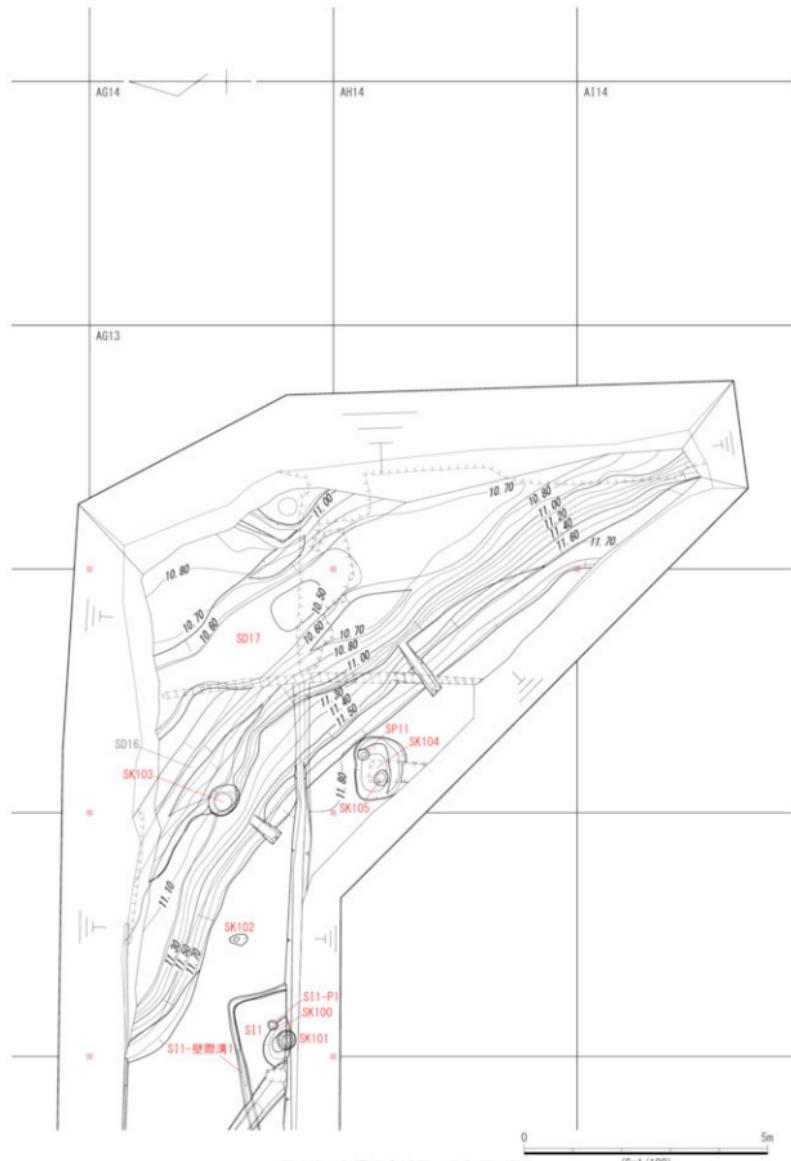


図 117 発掘区全域図 分割図 (5)



図 118 発掘区全域図 分割図 (6)

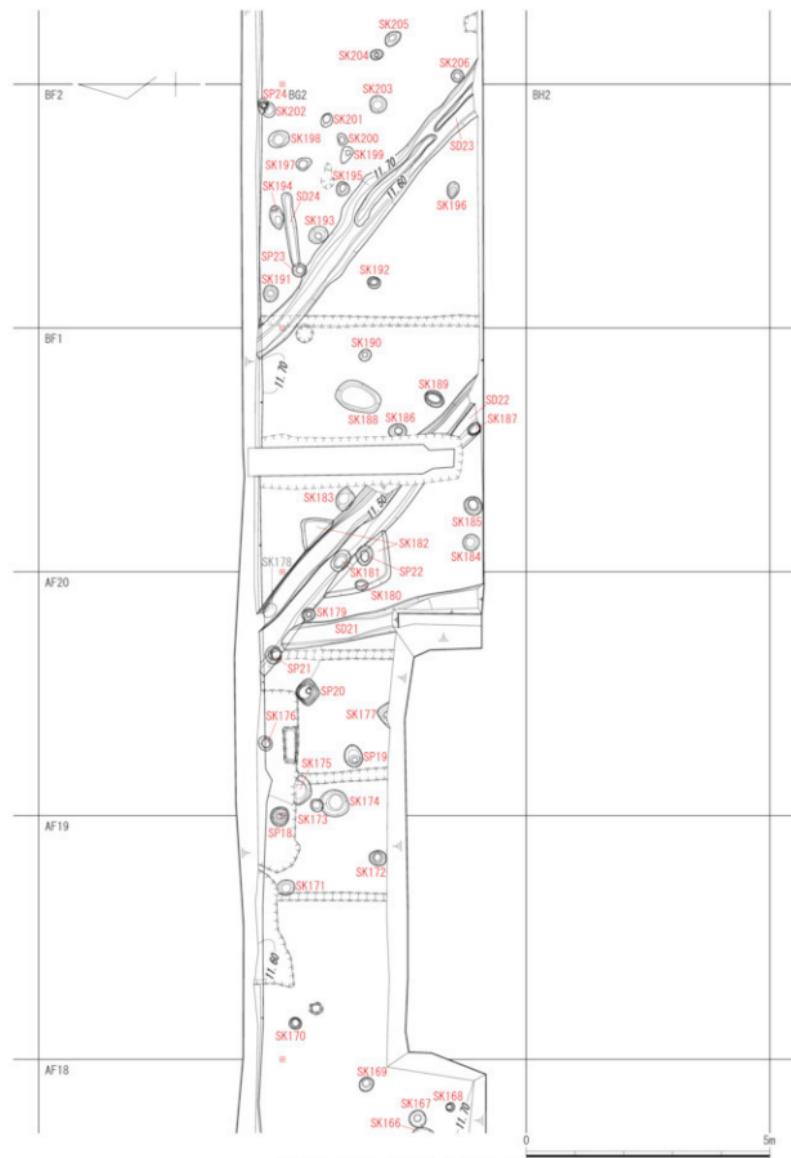


図 119 発掘区全域図 分割図 (7)

(S-1/100)

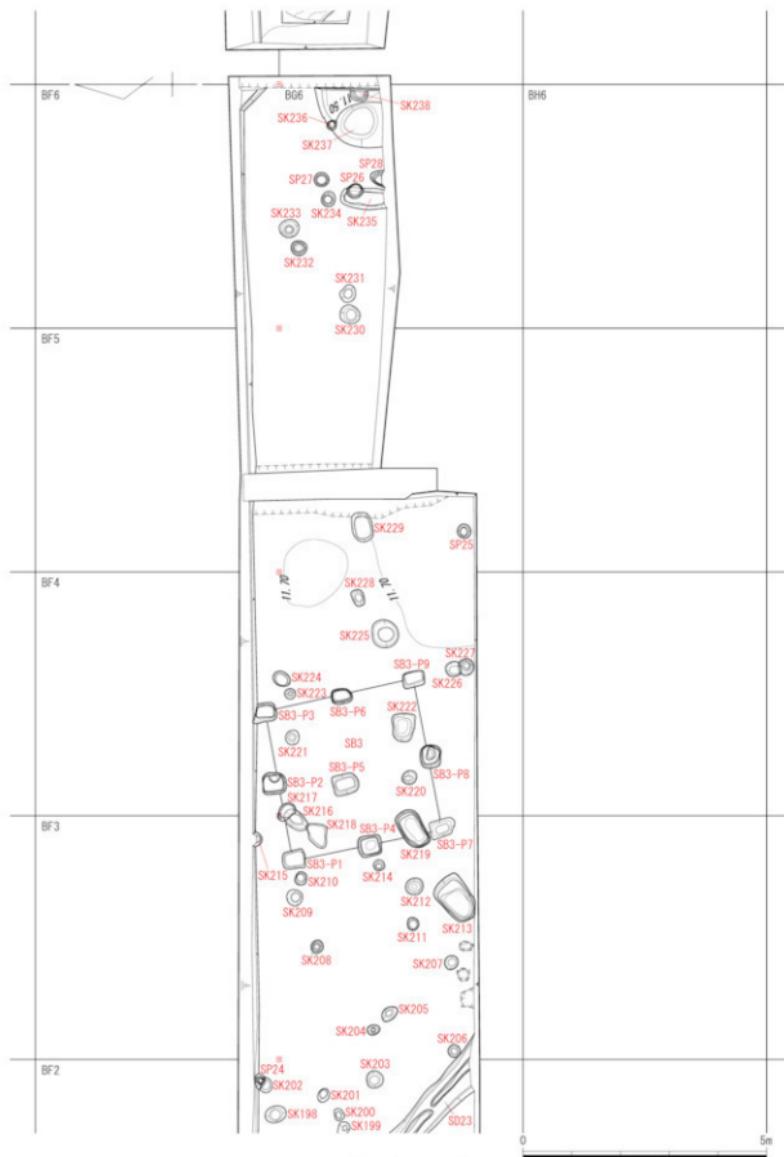


図120 発掘区全域図 分割図(8)

(S=1/100)

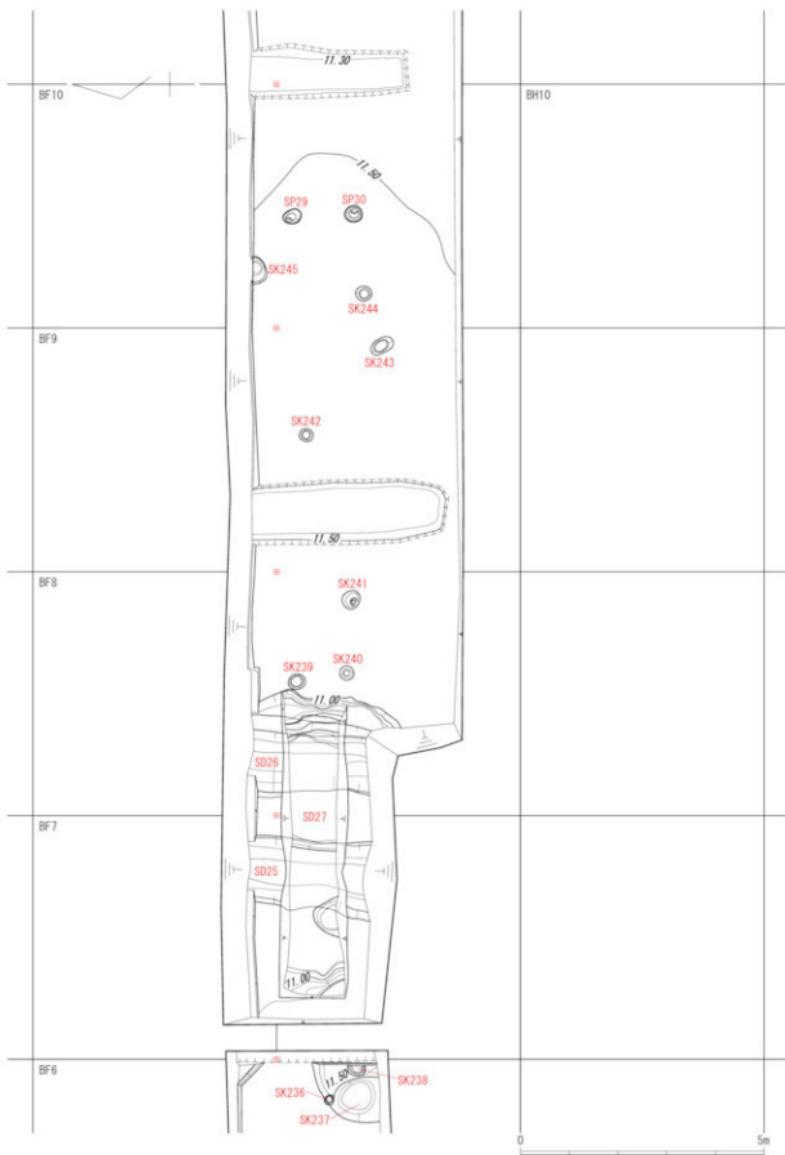


図 121 発掘区全域図 分割図 (9)

(S-1/100)

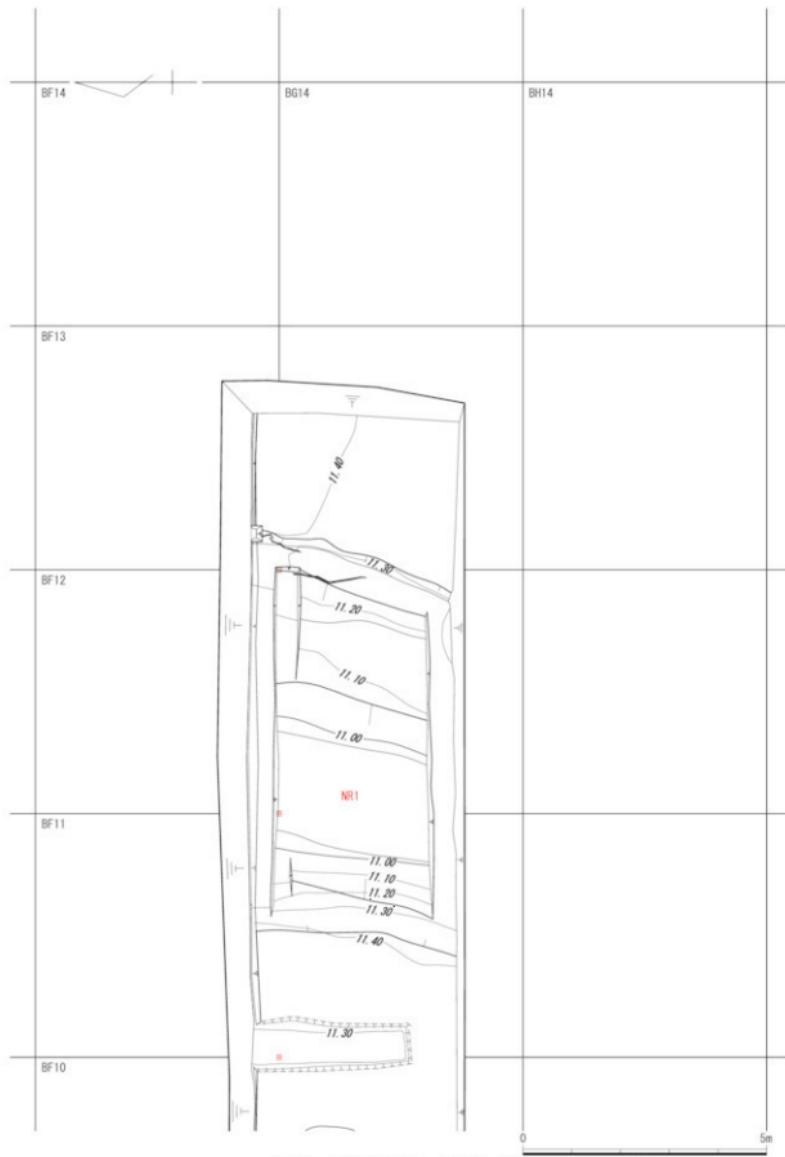


図 122 発掘区全域図 分割図 (10)

(S-1/100)